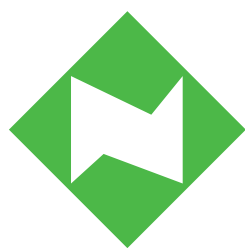


公第6卷 (通算第17卷)



公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成29年4月～平成30年3月

vol.6

平成29年度 日生病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第6巻：平成29年4月～平成30年3月）をお届けします。

平成29年度は、新病院の新設を見据えて平成26年に策定した「**変革4ヶ年計画**」の最終年度として、新病院の新設と移転に向けた準備、およびこれまで行ってきた業務改革の推進に積極的に取り組みました。具体的には、平成29年1月に設置した「**移転・開設準備本部**」で①移転・開設オペレーション、②物品調達・搬送、③患者移送、④申請・登録の4つの部会と21のワーキンググループを中心に、円滑な移転と新病院開院に向けた具体的な準備を加速させたほか、変革取組のために「**病院業務改革推進本部**」の3つの小委員会（①診療、②CS・ES、③収支改善）と5つのプロジェクトチームを中心に、すでに旧病院からでも実施できる取り組みを推進しました。

診療面では、4月に**形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科**の4つの診療科を新設したほか、8月には**眼科**の常勤医体制を再開しました。平成28年以降に新設した腎臓内科、呼吸器外科を含めこれら新設診療科では着実に診療実績を上げています。これらの結果、病院全体では入院患者数、外来患者数、救急搬送件数、手術件数のすべての項目において前年度を上回ることができました。

また、紹介率・逆紹介率の向上や医療従事者を対象とした研修会の実施、医師会・歯科医師会・行政との意見交換、小中学生を対象とした医療体験学習などの取組にも注力した結果、平成30年2月に大阪市西部医療圏では2番目となる「**地域医療支援病院**」の承認を得ることができました。

当院は、平成30年4月30日に元大阪府庁跡地である大阪市西区江之子島に移転し新たなスタートを切りました。新病院では病院名称を「**日本生命病院**」に改め、これまでの診療機能に加えて、地域医療、救急医療、女性医療、高齢社会を支える診療機能（認知症やロコモティブシンドロームなど）、健康長寿社会の実現を目的とした高度予防医療（先制医療）などの診療をいっそう推し進めるために、診療科と診療センターを増やし医療機器と診療設備を充実しています。新病院新設への歩みと新病院の概要につきましては別項にも記載していますので、ご高覧ください。

わたしたちの活動の母体である日本生命済生会は、『**済生利民**』を基本理念として大正13年に設立されています。わたしたちは、設立後90年以上を経た今もなお、『**心ふれあう、あったかサポート**』を合言葉に、予防から治療・在宅まで一貫した最優の医療サービスを提供し、地域と社会から愛され信頼されるよう努力していきます。皆さまには、これからも当院に対しまして倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新病院新設への歩みと新病院の概要

公益財団法人日本生命済生会は大正13年、日本生命によって、生命保険事業の精神である「相互扶助」「共存共栄」の実践の場として、国民の健康増進を図り医療を通じた社会貢献を行うことを目的として設立した。基本理念を「済生利民」と定め、企業の社会貢献のさきがけとして、地域・社会に対して医療を通じた貢献、具体的には健康相談事業、災害救護、巡回診療等、当時としては画期的な事業に取り組んだ。

昭和6年に大阪市西区新町に日生病院を開院して以降、一貫して診療機能の充実を進めるとともに、第二種社会福祉事業としての無料低額診療、巡回無料施設健診等の社会福祉事業を昭和30年代から継続実施している。

昭和57年には大阪市西区立売堀に病院を移転し、その後も医療ニーズ等の変化に対応し、予防医学や訪問看護に力を入れるなど、常に時代の変化ニーズに遅れることなく、環境変化に適応し地域・社会のニーズに応え、事業の変革を図ってきた。

平成24年には、長年続けてきた「予防-治療-在宅を一貫して行う事業」が公益に資するものと認定され、大阪府より公益財団法人への移行認可を受けた。

そして、この度、大阪市西区江之子島の旧大阪府庁跡地に大阪市西区で3代目となる病院を新築し、平成30年4月30日に移転・開設したので、その歩みと概要を簡単に紹介したい。

1. 新病院新設への歩み

(1) 新病院新設への期待

旧病院の築後25年を超えた平成20年前後より、高度医療機器の導入や手術室増設への制約、津波等災害に対する脆弱性、個室等アメニティの患者様ニーズへの対応等、病院建物の老朽化と機能強化に向けた制約が目立ち始めていた。そのため、新病院新設に向けた要望が徐々に高まり、新病院も視野に入れた検討が進められていた。

(2) 新病院新設計画の決定

新病院新設が実現の方向に大きく動いたのは、平成24年秋のことであった。平成20年1月から旧病院の北約300mにある江之子島2丁目の旧大阪府庁跡地で進められていた「江之子島地区まちづくり事業」に日本生命が参画し、そこに新病院を新設される計画が大阪府から承認され、決定した。

事業計画の実現に向けては、近隣の3つの町内会連合会が連名で日生病院に西区で引続き地域医療を提供するよう大阪府知事に嘆願

書を提出される等地域の支援を受け、また、日本生命から病院新設への理解と金銭面を含む支援を受け、昭和6年に開院して以来、大阪市西区で行ってきた診療を継続できることとなった。

(3) 新病院のコンセプトと基本構想の策定

平成25年4月に常勤理事会直轄の新病院新設準備室を新設し、4名の専任者を配置し、新病院関係プロジェクトの事務局機能等、新病院新設に関する業務全般を専管で担当することとなった。

まず、平成25年5月に新病院コンセプトを策定、ついで11月には「新日生病院基本構想」を策定した。新病院コンセプトでは、職員アンケートを実施し、職員の思いを反映し、基本構想にも職員等が求める機能を取り込みながら、取りまとめを行った。

【江之子島まちづくり事業のコンセプト】

(1) 事業の方向性

◇江之子島アート&ライフスタイル

江之子島の歴史と文化を受け継ぎ、次世代に繋ぐ新しい都市文化を創造するまちづくり

(2) 開発基本方針

アートと都心居住スタイルが癒合する「江之子島アート&ライフスタイル」をコンセプトに、新しい都市文化と都市空間を創造するまちづくりを目指す

(3) 事業参画における基本的な取組

① 敷地西側にアートガーデンを整備（公開空地）

② 敷地周囲に回遊歩道を整備

③ 南側集合住宅との接続デッキを設置

④ 計画建物1階に通り抜け通路（コリドー）と商業・アートスペースを設置

＜新病院コンセプト＞

【メインコンセプト】

「済生利民」の精神に基づき、地域・社会に対し、予防・治療・在宅まで一貫した最優の総合的な医療サービスを提供し、地域から愛され、信頼される病院を目指します。

【サブコンセプト】

《最優の医療サービスの提供》予防・治療・在宅まで一貫した質の高いチーム医療を提供するとともに、医療サービスの進化に努め、常に成長するトップレベルの病院を目指します。

《地域との共生》地域の皆様とともに歩み、心豊かで健やかな暮らしをサポートし、笑顔とあいさつが溢れる地域信頼度No.1の病院を目指します。

《安全・安心の提供》患者様から信頼される、最も安全・安心な病院を目指します。

《患者様・職員満足度の向上》「親切・丁寧・優しい・わかりやすい、そして誠実な医療サービスを提供するとともに、職員が誇りをもち、いきいきと働く素晴らしい病院を目指します。

《アートと医療の融合》心と身体の癒しを提供する、ここちよい快適な病院を目指します。

《日本生命が設立する病院としての役割発揮》トップレベルの医療機関として、日本生命と連携し、医療情報の提供・人材の育成等を通じ、地域社会の予防治療の進展に貢献します。

《健全な経営》医療環境・社会の変化に迅速に対応し、効率の良い医療サービスの提供に努めるとともに、収支の安定した健全な病院を目指します。

【スローガン】

みんなで「素晴らしい病院」をつくろう！ ～「心ふれあうあったかサポート」の実現～

平成26年3月の評議員会・理事会では、新病院新設に先立ち、新病院システムへの移行が承認された。新病院システムは病院のインフラとして我が国トップレベルの先進的な内容として整備し、平成26年5月に電子カルテシステムを変更し、その他のシステムは新病院稼働時に導入することとなった。

(4) 業務改革を含めた具体的な検討の推進

新病院の具体的な検討は、平成26年2月からの第1次ワーキンググループ(WG)(～平成27年3月)による各領域の運営検討、それを前提とした建物の基本設計の作成からスタートした。ワーキンググループのメンバーは、領域ごとの担当者が参加し、より良い病院の実現に向け、病院一丸となつての取組を行った。

平成26年4月には、変革4ヵ年計画がスタートし、変革4ヵ年計画は業務変革を中心とした4つの柱を軸に据え、新病院までの着実な進展を図る計画となった。その具体的な運営は、新たに設置した病院業務改革推進本部(本部長：笠山院長)を中心に、新病院に向けた日々の運用から大きな体制変革まで具体的な取組を進めるものであった。

業務改革推進委員会には診療、医療連携、予防と治療の融合、情報システム、効率化・標準化、アートと医療の融合等の8つの小委員会を設置し、検討を推進した。救急診療体制の充実や地域医療支援病院に向けた取組、予防医学センターと診療機能の連携強化など、新病院での運営に向けた変革を着実に推進した。

(5) 建築計画の着実な推進

平成26年11月には、ワーキンググループの検討結果を受け、建物基本設計が完了した。基本設計では、基本的な建物の構造、各室の配置、レイアウト等が決定された。その設計案を実際の建築図面に一旦落とし、確認を進めた実施設計が平成27年3月には完了した。

建物コンセプトは「医療の質の向上を支え、患者様の安心感・快適性の高い病院建物を実現します」とし、効率性・可変性、標準化、共有化・融合、チーム医療、医療安全、快適性、セキュリティを7つの軸とした。具体的な建築の柱は、「100年建築」、「協働・連携」、「安心・快適」とした。

【変革4ヵ年計画(骨子)】

○4つの柱

- ① 業務変革
- ② 患者様の満足度が高く、職員の活力が溢れる病院づくり
- ③ 効率性の高い病院運営の確立と安定した収支基盤の確保
- ④ 日本生命への貢献と連携協業

○数量計画

		H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
病 院	入院患者数(1日平均、名)	290	294	298	300
	病床稼働率	83.0%	84.0%	85.0%	85.7%
	外来患者数(1日平均、名)	930	950	980	1,000
	救急患者数(年間、名)	1,500	1,700	1,850	2,000
予防医学 センター	人間ドック受診者 (年間、名)	10,000	11,000	11,500	12,000

「100年建築」では、免震構造、ゆとりある階高・耐荷重、省エネ等の実現を図り、「協働・連携」として、病院・健診・訪問看護の建物一体化、スタッフエリアの1フロア集約による共同・連携の充実を図った。「安心・快適」の観点では、災害対応の観点から主要診療機能の2階以上配置、インフラ設備の上階配置を行い、ゾーニングシステムによるセキュリティの確保、病室への最短動線を確保しやすい三角形の病棟化等を盛り込んだ。

<建物コンセプト>

医療の質の向上を支え、患者様の安心感・快適性の高い病院建物を実現します。	
医療の質の向上	患者様・職員の安心感・快適性の向上
《効率性・可変性》効率性が高く、ニーズへの対応力・可変性の高い病院を実現します。	
《標準化》外来・病棟等、施設の標準化を推進し、均質かつ高水準の医療を実現します。	
《共有化・融合》オープンスペースで多職種が融合・協働し、医療高度化を円滑に推進する病院を実現します。	
《チーム医療》患者様に対し、関係する専門職がチームとして医療を推進しやすい環境を実現します。	《快適性》患者様が過ごしやすい快適性の高い病院を実現します。
《医療安全》医療安全の確保に必要な環境に配慮した病院を実現します。	《セキュリティ》患者様の安全に配慮したセキュリティの高い病院を実現します。

平成27年4月に建築計画説明会を開催し、近隣住民に新病院に対するご理解を得た上で、平成27年6月、大阪市保健所に対し、設計図面と共に病院開設許可申請書を提出し、翌7月に許可を得た。

平成27年8月に地鎮祭を実施の後、平成27年10月に新病院建設を着工した。

(6) 新病院の具体運営の検討・推進

平成27年4月からの第2次ワーキンググループ（～平成28年3月）で病院運営・医療機器等に関する具体化がすすめられた。

当ワーキングでは、外来、病棟、放射線、中央臨床検査など、主要18部門に区分し運営の骨子を定める運営基本計画書を策定した。また、医療機器についても、その時点で保有する医療機器を洗い出し、新病院への移設、新規購入、買替に分類し、優先順位を付けたうえで、具体的な購入計画を策定した。

また、平成27年5月までに「診療の強化方針」を策定し、理事会・評議員会で報告した。新病院に向けた診療科の新設（呼吸器外科、形成再建外科、腎臓内科、放射線治療科等）、治療の強化内容等、新病院での診療機能強化等の方向性が概ね固まり、医師の招聘等、段階的に強化を進めることとなった。

平成28年7月からは第3次ワーキンググループ（～平成29年3月）を開始した。当ワーキングでは、外来ブロック運営、集中治療室運営、内視鏡フローなど、旧病院の中で改善取組を開始できる個別テーマに絞り込み、実行に移すべき取組を進めた。また、平成28年10月には新病院内に病室モデルルームを設置し、病室運営の検討を進めた。

(7) 移転・開設準備本部の設置と移転取組の推進

平成29年1月に移転・開設準備本部（本部長：笠山院長、本部長代行：三好事務長）を設置、患者移送、物品調達・搬送、移転・開設オペレーション、申請・登録の4部会を中心に移転に向けた本格的な準備に突入した。

平成29年5月には、最終的に新病院の開設日を平成30年4月30日、外来診療開始を5月1日と決定し、患者移送、医療機器の搬送等のスケジュールを策定した。平成29年10月から新病院移転・運営リハーサル of 具体的準備に入り、平成30年2・3月に外来を中心とした運営リハーサルの実施、平成30年2・4月に患者移送リハーサルを実施した。

運営リハーサルでは、模擬外来患者を立て、外来運営や検査の円滑な運営・病棟との連携等についてチェックを行った。また、患者移送リハーサルでは、模擬入院患者を設定し、病室から搬送車に乗り込み、新病院に移送し、新病院の病室に送り届けるまでのチェックを行った。それぞれ課題点は多々出たものの、本番に向けた貴重な訓練となり、また、教訓を得ることができた。

(8) 竣工式、内覧会・記念式典の開催〔役職は開催当時〕

平成29年12月末に新病院が無事竣工を迎え、それに先立ち、12月18日（月）に竣工式を開催し、81 名参列のうえ、無事執り行った。式典には、株式会社日建設計林直樹副会長、株式会社大林組白石達社長ほか 43 名の来賓を迎え、施主 筒井義信日本生命会長から設計監修・監理、施工各社に対し感謝状の贈呈を行った。

平成30年 4 月30日の病院移転に先立ち、4 月 7・8 日には内覧会・懇親会と記念式典を開催した。4 月 7 日の内覧会・懇親会には来賓90名を迎え、野崎理事長、清水博日本生命社長からの御礼挨拶の後、永田 昌敬大阪市西区医師会長、茂松茂人大阪府医師会長、横倉廉幸大阪府議会議員、金田安史大阪大学大学院医学系研究科長からご祝辞を賜った。翌 4 月 8 日の内覧会では、約500名の方にお祝いや激励のお言葉を賜りながら、新病院をご内覧いただいた。

(9) 患者移送、物品搬送、そして開院

平成30年 4 月27日（金）17時の外来終了後、職員全員で一斉に移転モードに切り替え、患者移送、物品搬送の準備に取り掛かった。

患者移送は、数日前から入院患者の搬送ランクを症状の別により 4 分類に分け継続的に状況を把握・整理し、移送担当メンバーと数度に亘る情報の共有化の場を設けながら、患者移送の手順を確認した。4 月 28日（土）午前 8 時から患者移送を開始し、午後11時20分に102名の患者移送が無事に完了した。患者の中には、前日に誕生した新生児や重症患者も含まれ慎重な対応が求められたが、事前リハーサル・準備の成果もあり、患者移送は全般的に粛々と進んだ。

物品搬送は、新規購入物品は 1 月中旬から段階的に新病院に搬入され、3 月中旬からは旧病院の現有物品も段階的に搬入された。ただし、旧病院で稼働中であった医療機器や什器備品の多くは、4 月27日（金）夕刻からの搬送であったが、4 月30日（月・祝）までには、外来での使用物品の多くは使用準備され、翌 5 月 1 日（火）からの外来診療の準備が整った。

平成30年 5 月 1 日（火）7 時30分には新病院を開門し、いよいよ外来の開始となった。当日は予約患者を中心に507名の外来患者が来院された。新たに設置した検査呼出しモニター・患者呼出しモニター等の運用や院内案内の面で若干の混乱はあり、待ち時間が多いケースもあったが、診療面での大きな不具合はなく完了した。

(10) 現在の新病院の状況

新病院稼働後数か月が経ち、現在、順調に診療が行われ、平成30年 7 月以降、外来患者数・紹介患者数・救急車搬送数・新入院患者数等の面で過去最高を記録している。新病院でキャパシティ・機能面で強化した領域でも、手術件数・内視鏡検査件数・リハビリ件数・人間ドック受診者数等の大幅な増加が見られている。

また、診療内容の面でも、心臓血管外科や脳神経外科の領域で患者が徐々に増加し、脳機能センターでの診療も充実してきている。新規導入機器では、ダヴィンチによる手術も泌尿器科・産婦人科で開始され、PET-CT検査も順調に行われている。

今後、新設診療科の認知度の向上、新病院機能の徹底活用や診療科・各部の連携強化により、診療の内容や質をさらに向上していきたいと考えている。

2. 新病院建物の特徴

(1) 建物概要

所在地：大阪市西区江之子島 2 丁目 1 番54号

敷地面積：7,351.74㎡（対旧施設 -6,181㎡）

地域地区：商業地域・防火地域

(2) 建物概要

建築面積：4,156.13㎡

延床面積：38,185.66㎡（対旧施設 +11,467㎡）

主体構造：鉄骨造（免震）

階数：地下1階、地上14階、塔屋2階

工事期間：2015年10月～2017年12月（工期28月）

設計：株式会社大林組

設計監修：日建設計コンストラクションマネジメント株式会社

監理：株式会社日建設計

施工：新日生病院建設共同企業体（大林組+大成建設 JV）

(3) 設備概要

受変電：22kV特高スポットネットワーク受電（TR1.250kVA×3台）

発電機：非常用発電機（ガスタービン）高圧 1,500kVA
常用発電機（マイクロCGS）低圧 31kVA×10台

無停電電源：医療用100kVA、情報用100kVA

通信・信号：ナースコール、インターホン、テレビ共同受信、監視カメラ、入退室管理、電話、LAN

熱源方式：ジェネリンク機、モジュールチラー、マイクロコージェネ

空調方式：空調機、ファンコイル、空冷パッケージエアコン、（放射空調）

給湯設備：ガス給湯ヒーター、ガス連結式瞬間型給湯器、貯湯式電気温水器

消火設備：スプリンクラー、連結送水管、泡消火、窒素ガス消火、フード消火

医療ガス：酸素、笑気、窒素、炭酸ガス、圧縮空気、吸引

エレベータ：一般乗用5台、寝台用1台、人荷用2台、非常用2台、小荷物専用3台

エスカレータ：6台

■津波・水害への建物対応

隣接する港区では最大大阪湾最低潮位（以下OP）+5.3mの津波高が想定されており（平成24年8月内閣府）、新病院でも同等の津波高を想定し、主な医療機能・建物設備・非常用発電機を2階以上に配置した。1階レベルについても周辺地盤の大半より高いOP+4.35mとし、内水氾濫に備えている。

■地震への建物対応

病棟を配置した上層階に揺れが伝わりにくくするため、免震構造を採用した。耐震性能はJSCA（日本建築構造技術者協会）耐震性能グレードの最上位である「特級」とした。

(4) 各フロアの概要

■地下1階

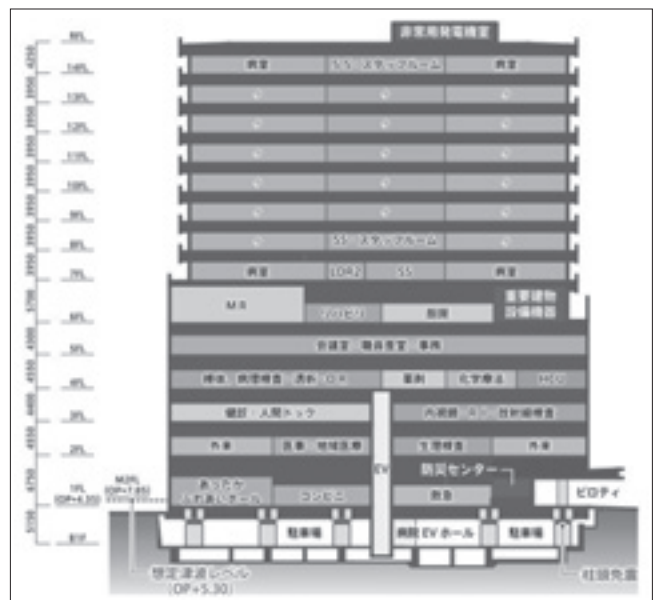
駐車場：駐車可能台数を増加

■1階

救急診療センター：スペースを約4倍に大幅拡大

放射線治療：最新の高精度放射線治療装置を導入

コリドー：患者や地域住民の憩いの場として設置



ニッセイ四季彩ガーデン：回遊性のイングリッシュガーデン
ヒストリーコーナー：当会設立から今日までの歴史を紹介

■ 2階

外来：診察室・採血・生理検査を1フロアに集約

外来診察室を増設

全診察室に番号呼出しモニターを設置

隣接するマンションとの接続デッキを設置



■ 3階

放射線：PET-CT、心臓用アンギオグラフィの増設

3.0テスラMRI、320列CTを増設

汎用アンギオ、マンモグラフィ等の更新

消化器内視鏡センター：ドック用を含め7室に拡大(旧病院3室)

Cアーム型X線TV装置の新設

予防医学センター：スペースを大幅拡充

人間ドックと定期健康診断ゾーンの分離

臨床研究管理室：スペースの拡充



■ 4階

手術室：7室へ拡充(旧病院5室)

ロボット手術システム『ダヴィンチ』を導入

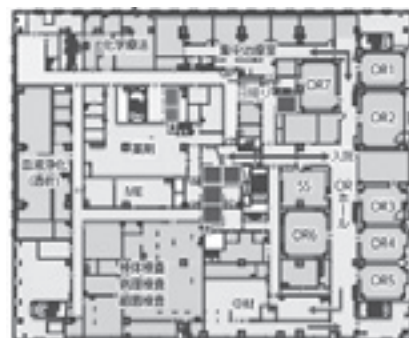
集中治療室：集中治療室8床へ増床

化学療法室：11床へ拡大(旧病院10床)

血液浄化・透析：20床に拡大(旧病院3床)

臨床検査室：検体自動搬送装置を導入

薬剤室：自動輸液払出装置を導入



■ 5階

事務室・医局：医局・事務・看護部管理室を1室に集約

■ 6階

リハビリテーション室：スペースを約2倍に拡大

心臓リハビリ、脳血管リハビリ等を一層拡充

屋外に緑豊かなリハビリ庭園を設置

患者給食厨房：最新の厨房設備による安全な治療食を提供

ベッドセンター：効率的なベッド稼働を支えるセンターを新設



■ 7階

女性病棟：女性専用病棟を新設

妊産婦専用エリア：妊産婦専用エリアを新設

LDR室：開放的で心地よいバーチャルウィンドウを天井に全室設置

■ 8～14階

一般病棟：6種類の病室を準備し、全病室の約50%が個室
無線インターネット環境（Wi-Fi）を完備
セキュリティ強化し、安全・安心な入院環境を整備
病棟中央のスタッフステーションを取り囲むよう病室を
配置し、患者対応の迅速性を確保



3. 新病院の診療機能と医療機器の充実

(1) 新病院に向けた診療機能の強化

当院が所在する大阪市西区は新築マンションが増え大幅に人口が増加している地域であり、高齢化率も大阪府下で1番低く、入院患者の年代別構成を見ても30代～40代の比較的若い患者も多いことが特徴である。

また、ビジネスエリアからも近く、当院を受診される患者の約3割は西区住民だが、4割は大阪市の他区、2割は大阪市外、1割は他府県となっている。

こうした立地条件を踏まえ、新病院では、これまでの診療機能に加え、健康寿命延伸に向けた高度予防医療の充実、地域医療・救急医療、女性医療、高齢社会を支える診療機能等の強化を進めている。

① 健康寿命の延伸に向けた高度予防医療（先制医療）の充実

生命保険会社設立の財団法人による病院として健康寿命の延伸を目指し、診療機能と予防医学センターが一体となって双方向の連携を強化し、高度予防医療（先制医療）を更に推進する。そのため、人間ドックや健康診断をより多く実施できるよう予防医学センターのスペースを1.5倍に拡張し、病院医師も予防医療に参画する体制も整備した。また、仕事帰りの方が受診できるように夕刻診療を始めるなど、人間ドックや健康診断の結果への対応を早くしてもらうことで、疾病の重症化予防に繋げる取組も行っている。

② 地域医療・救急医療の強化

地域の中核病院として平成30年2月に地域医療支援病院の認定を受けるとともに、新病院に向け、平成28年から呼吸器外科、腎臓内科、心臓血管外科、形成再建外科、放射線治療科、リハビリテーション科、脳神経外科、血液浄化センター、脳機能センターを新設し、診療機能を充実している。

新病院では、救急医療のスペースも4倍に拡張し、救急専従医師も3名体制とし、夜間当直体制も充実するなど、救急医療の充実を図っている。

③ 女性医療の強化

産婦人科領域では、女性骨盤底センターを設置し骨盤臓器脱への取組を進めたほか、婦人科領域でのダヴィンチ手術にも積極的に取り組んでいる。また、QOLの向上や整容性ニーズに対応するため、形成再建外科を設置し、乳房再建等のニーズへの対応力も強化している。

7階は産婦人科・乳腺外科を中心とした女性病棟とし、個室を中心とした快適な環境での出産できるよう産科ゾーンを設計するなど、施設面での充実も図っている。

④ 高齢社会を支える診療機能の充実

高齢化が進む中で増加するロコモティブシンドローム等への対応を強化するため、リハビリテーション科の新設を行った。また、高齢者に多い呼吸器疾患に対応するため、呼吸器外科を新設し、肺炎や肺がん等の呼吸器治療への取組も強化している。

平成30年度に新たに立ち上げた脳機能センターでは、認知症の最高レベルの診療を目指している。現在は必ずしも十分な診療ができていない認知症について、予防を含めた専門的な診療を行うことで、高齢者が生き生きとした生活が遅れる社会の実現にも貢献したいと考えている。

(2) 新病院で導入した医療機器

新病院では、約1,500台の医療機器を新規導入・買替を行った。主な機器は下記の通り。

<主な医療機器>

機器名	メーカー	機種	台数
放射線治療システム	バリアン・メディカルシステムズ	True Beam	1
ロボット手術システム	インテュイティブサージカル	da Vinci Xi	1
3.0テスラMRI	シーメンスヘルスケア	MAGNETOM Skyra	1
PET-CT	GEヘルスケア・ジャパン	Discovery IQ.e	1
320列エリア ディテクタCT	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion ONE	2
心臓用アンギオグラフィ装置	フィリップス・ジャパン	Allura Clarity FD10/10	1
汎用アンギオグラフィ装置	フィリップス・ジャパン	Allura Clarity FD20	1
自動検体搬送装置	アイディエス	IDS-CLAS+X-1	1
滅菌機・洗浄機	サクラ精機	一式	1
手術室用FD登載Cアーム	シーメンスヘルスケア	Cios Alpha IV	1
一般撮影装置	富士フイルム／島津製作所	一式	3
治療計画用CT	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion LB	1
自動注射払出機	ユヤマ	YS-APF	1
透視下内視鏡用Cアーム	日立製作所	VersiFlex VISTA	1
手術顕微鏡	ライカ	M530 OHX	1
腹腔鏡装置	オリンパス	VISERA ELITE II	4
マンモグラフィ	富士フイルム	AMULET（トモシンセシス対応）	1
ポータブル撮影装置	富士フイルム	CALNEO AQRO	1
血液分析装置	シスメックス	XN-3000/XN-1000	1
生化学分析装置	日立ハイテクノロジーズ	LABOSPECT008 α	2
1.5テスラMRI	シーメンスヘルスケア	MAGNETOM symphony	1
内視鏡本体・スコープ	富士フイルム	VP-7000他	1
内視鏡本体・スコープ	オリンパス	EVIS LUCERA ELITE他	4
白内障手術装置	日本アルコン	センチュリオンビジョンシステム	1
マンモグラフィ	富士フイルム	AMULET	1
光干渉断層計（OCT）	カールツァイス	シラスhd-oct prus	1
X線TV装置	日立製作所	CUREVISTA	3
免疫染色装置	ロシュ・ダイアグノスティックス	ベンチマークULTRA	1
紫外線治療器	ヤヨイ	UV7002K-TL01	1
採血管準備装置	テクノメディカ	BC-ROBO8001RFID	1
超音波診断装置	キャノンメディカルシステムズ	Aplio i600	3
手術台	ゲティンゲ（マッケ）	MEERA	7

（1,000万円（／1台）以上のみ抜粋）

① 高精度放射線治療装置〈株式会社バリアン・メディカルシステムズ／TrueBeam〉

■目的・目指す医療

- ・高精度照射可能機種の導入
- ・照射精度の向上

■性能・特徴

- ・X線4種と電子線5種を出力し、治療部位に最適なエネルギーを選択可能



② ロボット手術システム支援

〈インテュイティブ・サージカル社／da Vinci Xiサージカルシステム〉

■目的・目指す医療

- ・患者にとってより侵襲の少ない先端手術の提供

■性能・特徴

- ・小さな切開から手術を行うため、傷・出血が少なく、入院期間短縮が可能



- ・ 鉗子が360°動く大きな可動域と手ぶれ補正機能で、複雑な動きを精密に実現

③ 3.0テスラMRI 〈シーメンスヘルスケア株式会社／MAGNETOM Skyra〉

■目的・目指す医療

- ・ 3.0テスラ高磁場コイルによる検査時間の短縮
- ・ 撮像画像のさらなる高画質化

■性能・特徴

- ・ 体幹部における高い静磁場均一性（息止め撮像時間の短縮）
- ・ あらゆるアプリケーションで最大205cmの撮像範囲（FoV）を実現
- ・ 閉塞・圧迫感が少ない70cmボアと3.0MRI最短の173cmガントリ



④ PET-CT 〈GEヘルスケア・ジャパン株式会社／Discovery IQ.e〉

■目的・目指す医療

- ・ がん治療における診断能向上と治療効果の内製化
- ・ 健診における専門ドックの開始
- ・ アミロイドイメージングへの早期着手

■性能・特徴

- ・ デリバリーFDGに適した線減弱係数が高い検出器を採用
- ・ 呼吸同期撮像時間の短縮を実現し、撮影時の患者負担を低減



⑤ 320列CT 〈キャノンメディカルシステムズ株式会社／Aquilion ONE NATURE〉

■目的・目指す医療

- ・ さらなる高画質化と被ばく低減
- ・ CT 3 台体制による効率的な検査対応
- ・ 金属アーチファクト低減機能を有するCTの導入

■性能・特徴

- ・ 頭部や心臓を0.5回転で撮影できる16cm検出器



⑥ 心臓用血管造影装置 〈株式会社フィリップス・ジャパン／AlluraClarity FD10/10〉

■目的・目指す医療

- ・ 被ばく量の低減
- ・ より安全な治療環境の整備

■性能・特徴

- ・ 被ばく低減技術「Clarity」を登載し、従来比75%の被ばく低減が可能
- ・ バイブレーションアームによる複合回転撮影により、被ばく/造影剤を大幅に抑えつつ冠動脈全体の撮影が可能



⑦ 自動検体搬送装置 〈株式会社アイディエス／IDS-CLAS+X-1〉

■目的・目指す医療

- ・ 迅速な判定結果の提供
- ・ 検体の前処理（到着確認、分類、分注等）自動化による要員省力化

■性能・特徴

- ・ ユニットを組み合わせることで、無駄のないスピーディな処理を実施
- ・ 緊急検査時の優先度調整、保管された検体への再検査も自動で対応
- ・ 検体を分注することにより複数の分析装置で並行した同時測定が可能となり検査時間を短縮



目 次

平成29年度日生病院年報の発刊にあたって 院長 笠山 宗正

新病院新設への歩みと新病院の概要

目次

第Ⅰ章 軌跡

1. 日生病院理念と基本方針	13
2. 患者様の権利と義務について	13
3. 施設概要	15
4. 学会認定状況	16
5. 主要医療機器	17
6. 日本生命済生会 組織図	18
7. 会議・委員会	19
8. 平成29年度 業績概要	20
9. 日本生命済生会（日生病院）の沿革	21
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長	24

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	25
1) 一日平均外来患者数	25
2) 一日平均入院患者数	26
3) 患者年齢・診療圏構成	27
4) 病床稼働率	28
5) 救急患者数	29
6) 退院患者医療評価指標	30
①退院患者統計	30
②診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数	31
③診療科別・在院期間別・患者数	32
④疾病統計	33
⑤悪性新生物統計	34
⑥診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	35
7) 手術件数	36
①診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）	36
②診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）	37
2. 医事統計	40
1) 診療科別医療収入	40
2) 医療行為別医療収入	42
①外来	42
②入院	43
3. その他統計	44
1) 病院従業員数	44
2) セカンドオピニオン外来件数	44

第Ⅲ章 部門別概要〈診療科・センター・部（室）〉

循環器内科	45
消化器内科	47
総合内科	49

血液・化学療法内科	52
神経内科	54
腎臓内科	55
消化器・一般外科	57
呼吸器外科	59
乳腺外科	60
心臓血管外科	61
産婦人科	62
小児科	64
神経科・精神科	65
整形外科	68
皮膚科	69
泌尿器科	71
眼科	73
耳鼻咽喉・頭頸部外科	74
形成再建外科	76
放射線診断科	77
放射線治療科	78
麻酔・緩和医療科	79
リハビリテーション科	81
病理診断科	82
救急診療センター	83
がん治療センター	84
女性骨盤底センター	85
糖尿病・内分泌センター	87
消化器内視鏡センター	89
腎臓・透析センター	90
臨床研修部	91
輸血管理室	92
化学療法室	93
リハビリテーション室	94
中央手術管理部	96
中央臨床検査部	97
中央放射線部	100
栄養管理室	101
薬剤部	104
臨床研究管理室	106
医療安全対策室	107
感染対策室	108
あったかサポートセンター	110
日生訪問看護ステーション	118
日生ケアプランセンター	119
看護部	120
ニッセイ予防医学センター	128

第Ⅳ章 諸活動

1. 日本医師会生涯教育講座カリキュラム	130
2. ニッセイ医学セミナー Update	130
3. 1年目研修医オリエンテーション	131
4. 実習生等受け入れ	132
5. 講演会・研修会	133
6. 日生医学賞・日生医学奨励賞	140
7. 地域活動	140
8. ボランティアについて	141
9. 院内行事	142

1. 日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 地域から愛される信頼される、安全・安心な新病院を目指します。
7. 上記6項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者様の権利と義務について

《患者様の権利》

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者様の義務》

日生病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者様に対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供致します。患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 患者様には、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者様には、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者様には、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者様のご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者様には、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないように行動する義務があります。
5. 患者様には、医療費を支払う義務があります。
6. 患者様には、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

平成28年 6 月 制定

3. 施設概要〔旧病院〕

1. 名 称 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院
2. 所 在 地 大阪市西区立売堀 6 - 3 - 8
3. 開設年月日 昭和57年 3 月11日
4. 構 造 病院本館／鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階 （搭屋1階）
病院別館／鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階
予防医学センター・寮／地上5階
5. 設 備 空調設備／セントラル空調方式一部個別方式
熱源設備／ガス吸収式冷温水発生機・空冷ヒートポンプチラー
電気設備／契約電力1,500kw
6. 竣工年月日 昭和57年 2 月 1 日
工事期間／昭和54年12月 6 日～昭和57年 2 月 1 日
7. 許可病床数 350床

〈病院本館〉

7 F	ミニ・コンビニ、カフェ		555㎡
病棟等（主な入院診療科）			
6 F	消化器内科 神経科・精神科 小児科	産婦人科 (LDR、新生児室)	1,979㎡
5 F	血液・化学療法内科 総合内科	循環器内科 神経内科	1,979㎡
4 F	整形外科 眼科 皮膚科 形成再建外科	耳鼻咽喉・頭頸部外科 泌尿器科 内科	2,016㎡
3 F	消化器・一般外科 呼吸器外科 乳腺外科 婦人科 泌尿器科	手術室 人工透析室 結石破砕室	2,900㎡
外来			
2 F	眼科/泌尿器科/皮膚科/形成再建外科/耳鼻咽喉・頭頸部外科 神経科・精神科/麻酔・緩和医療科/糖尿病・内分泌センター/栄養指導室 中央臨床検査部/生理検査室/中央採血室/MRI・RI検査室 医局/診療情報管理室/図書室/情報システム室		3,942㎡
1 F	内科(循環器内科、消化器内科、総合内科、血液・化学療法内科、神経内科、腎臓内科、健診精査内科) 小児科/産婦人科/消化器・一般外科/呼吸器外科/乳腺外科/心臓血管外科 整形外科/リハビリテーション科・室/消化器内視鏡センター/放射線診断科 放射線治療科/臨床研究管理室/医事サービス部/あったかサポートセンター 女性骨盤底センター/がん治療センター/救急診療センター/時間外診療室		3,881㎡
B1 F	リニアック治療室/薬剤部/栄養管理室		4,756㎡
計			22,011㎡

〈病院別館〉

5 F	別館病棟	409㎡
4 F	管理部門・会議室	499㎡
3 F	管理部門	499㎡
2 F	管理部門	777㎡
1 F	講堂・訪問看護・看護部管理室	929㎡
計		3,114㎡

〈予防医学センター〉

2 F	ドック・健診スペース	1,102㎡
1 F	受付・事務	847㎡
計		1,949㎡

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本アレルギー学会専門医教育施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本総合病院精神医学会
一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー
学会 インプラント実施施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修
関連施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本呼吸器外科学会認定修練施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本精神神経学会専門医制度研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー
学会 エキスパンダー実施施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

(平成30年 3月31日現在)



5. 主要医療機器（取得金額1,000万円以上）

品 名	設置部署	数量	品 名	設置部署	数量
超音波内視鏡	消化器内視鏡 セ ン タ ー	1	全身用磁気共鳴装置（MRI） MAGNETOM SYMPHONY	中央放射線部	1
超音波内視鏡観測装置	消化器内視鏡 セ ン タ ー	1	デジタルガンマカメラGMS-7700B	中央放射線部	1
ステレオ定位乳腺バイオペシーシステム	乳 腺 外 科	1	超音波診断装置SSA-370A	中 央 臨 床 検 査 部	1
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌 尿 器 科	1	超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	中 央 臨 床 検 査 部	1
フリードメインOCT RS-3000	眼 科	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	中 央 臨 床 検 査 部	1
前眼部OCT CASIA	眼 科	1	微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中 央 臨 床 検 査 部	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科	1	遠心型血液成分分離装置 スペクトラオプティア	中 央 臨 床 検 査 部	1
X線テレビ装置DBA-300A	中央放射線部	1	ニューマック手術台システム	中央手術室	1
画像読取装置FCR5000	中央放射線部	1	眼科用手術顕微鏡 OPMI CS-XY	中央手術室	1
位置決めX線装置	中央放射線部	1	高圧蒸気滅菌器	中央手術室	1
画像読取装置FCR5000 PLUS	中央放射線部	1	全身麻酔装置	中央手術室	1
16列マルチスライスCT	中央放射線部	1	麻酔ワークステーション （監視モニター）	中央手術室	1
多目的血管連続撮影装置 INNOVA3100	中央放射線部	1	蒸気滅菌器	中央手術室	1
乳房X線撮影装置LORAND M-IV	中央放射線部	1	全身麻酔器 エスティバ5/ST	中央手術室	1
放射線治療システム （リニアアクセラレーター）	中央放射線部	1	トランスマックハッチウェイシステム	中央手術室	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	中央放射線部	1	アルファマック分離手術台	中央手術室	1
320列CT装置 Aquilion ONE	中央放射線部	1	ステラッド100 S 低温プラズマ滅菌器	中央手術室	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部	1	S/5麻酔ワークステーション	中央手術室	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	中央放射線部	1	形成外科用手術顕微鏡 M525 F40	中央手術室	1
経皮の心肺補助装置 PCPS	中央放射線部	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	中央手術室	1
ガンマカメラGCA-7200A	中央放射線部	1			

※但し、新病院移転に伴い導入した医療機器（P.9 参照）は除く

7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	9
安全衛生委員会	藤田 信哉	12
医療安全管理委員会	前田 元	12
医療ガス安全管理委員会	住谷 哲	1
医療機器・ディスポ検討委員会	笠山 宗正	8
医療従事者業務見直しワーキング	笠山 宗正	1
院内感染対策委員会	小瀬戸 昌博	12
栄養・給食委員会	宇津 貴	4
化学療法運営委員会	西田 幸弘	1
教育委員会	立花 功	2
クリティカルパス委員会	福井 辰成	5
研修推進委員会	立花 功	3
研修管理委員会	笠山 宗正	1
サービス・広報委員会	三好 岳	10
情報管理委員会	平林 伸治	2
褥瘡対策委員会	藤原 敏宏	4

委員会名	委員長	開催回数
診療情報提供委員会	高橋 励	0
診療録管理委員会	浅野 彰彦	12
治験審査委員会	東山 眞里	13
TQM推進委員会	毛利 年一	0
DPC・質向上委員会	水野 均	4
当直・救急検討委員会	岸 正司	5
透析機器安全管理委員会	宇津 貴	0
7：1看護体制発展推進委員会	高鳥 郁子	1
日生医学賞顕彰委員会	岡部 太一	1
年報ワーキング	花田 留美	1
病院機能向上委員会	東山 眞里	3
防災管理委員会	有坂 好史	4
放射線安全委員会	前田 宗宏	1
訪問看護運営委員会	高鳥 郁子	1
薬事管理委員会	笠山 宗正	4
輸血療法委員会	川上 学	6
臨床検査適正化委員会	内藤 博昭	4
臨床工学室運営委員会	前田 元	5
倫理委員会	中村 秀次	11

8. 平成29年度 業績概要

総収入	9,669百万円(8,602百万円)*	従業員数	751人
新入院患者数	7,916人	平均在院日数	12.5日
1日平均入院患者数	293人	入院単価	52,194円
病床稼働率	83.7%		
外来延患者数	230,684人	外来単価	13,501円
1日平均外来患者数	934人		
紹介率	69.7%	逆紹介率	89.4%

* () 病院単独

9. 日本生命済生会（日生病院）の沿革

大正13年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	昭和46 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行
14 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	47 4	臨床研修指定病院の認定受ける
昭和5 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	48 2	「日生病院医学雑誌」第一巻第1号を刊行
6 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科）開院	48 3	紀要「地域福祉研究」第一集刊
7 4	看護婦養成所を設立	48 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
7 7	産婦人科、小児科を新設	48 9	病歴図書部を新設
17 1	耳鼻咽喉科を新設	48 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」開発で機械振興会賞を受賞
22 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、整形外科新設）	49 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂（54年発刊）
22 4	インターン制度の開始 （第一期生9名受入れ）	51 1	RI検査室を新設
23 9	健康保険、労災保険病院の指定受ける	53 3	「(新) 病院建築基本構想委員会」設置
24 7	結核病棟を設置（昭和48年8月、閉鎖）	53 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
30 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を開始	54 4	医療事務をコンピュータ化
31 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工（350床へ）	57 4	新病院（現在地）の竣工、開院
31 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	58 3	日本生命と第一回特別委員会（5カ年計画策定）
32 8	総合病院の認可受ける	59 3	全科で午後外来診療を開始
33 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	59 4	社会事業局を福祉事業部に改組
33 10	甲表採用、三基準認可	60 4	病理部を再設置
34 10	神経科新設	62 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を受ける
35 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	63 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合会議からパイオニア賞を受賞
36 6	日本生命済生会労働組合の結成	平成元 2	夕食を午後6時配膳
40 8	各診療科に部長制採用	元 10	専門外来（10科）開始
42 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ拡大、充実	元 11	自動再診受付機を設置
43 8	第一回「社会福祉カウンセリング講座」開講	2 10	学校、創立30周年記念式典
44 4	冲中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	3 4	4週6休制試行開始
45 9	第一回「篤志解剖者慰霊祭」執行	3 10	地域の「健康講座」に講師派遣
		4 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
		5 2	「病院運営会議」を再開

平成5	4	MRIの稼働開始	平成13	7	第一回日生病院病診連携フォーラム開催
5	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得	14	1	開放型病院資格取得
5	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成	15	4	医療安全対策室設置
6	3	内科外来等で予約診療開始	15	4	予防医学センター設置
6	7	創立70周年記念式典、諸行事実施（7～ 11月）、70年史の編纂開始	16	2	内科二次救急指定病院取得
6	10	脳ドック検診開始	17	3	電子カルテシステム稼働
6	10	新看護体系「2：1（A）」の承認	18	4	血液・化学療法内科新設
6	11	無菌治療室設置、使用開始	18	7	DPC導入（入院医療費）
7	2	保温保冷配膳車導入	19	2	土曜日閉院 4週8休制開始
7	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、第一回 表彰式実施	19	3	7対1入院基本料算定開始
7	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞 受賞	19	3	日生看護専門学校閉校
8	5	総合案内・看護相談の試行実施	19	11	がん治療センター、 低侵襲医療センター開設
8	10	「歯科口腔外科」標榜	20	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
9	2	経営改善推進本部・部会の発足	20	7	生活習慣病センター開設
9	3	歯科臨床教育病院の新規指定	20	10	乳腺外科新設
9	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト （医療経済研究機構）に選ばれ、参加 （全国17モデル病院）	21	3	第一回日生病院市民公開講座開催
10	2	「日生病院だより」創刊号発行	21	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
10	5	総合診療科機能発足	22	8	無料乳がん検診開始
10	7・8	DRG／PPS分析結果報告会開催	23	4	消化器内視鏡センター開設
10	11	院外処方箋発行開始	24	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮 体がん根治手術」（産婦人科）が承認さ れる
10	11	薬剤管理指導料全科算定認可	24	4	公益財団法人へ移行
11	3	医療材料院外SPD（物品管理システム） 始動	24	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
11	7	インフラ工事開始 （12年4月：3階新病棟オープン）	24	4	生活習慣病センターから糖尿病センター へ組織名称変更
12	3	日生訪問看護ステーションを開設	24	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次 元画像解析」（眼科）が承認される
12	4	日生ケアプランセンター設置	24	8	320列マルチスライスCT導入
13	4	病院機能評価認定証取得	25	4	新病院新設準備室の新設
13	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示	25	4	予防医学センターで「統合健診システム」 の稼働
13	6	公開学術講演会開催 （講師：北村国立循環器病センター総長）	25	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨 腫固定術」（産婦人科）が承認される
			25	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント 「自然に学ぶ！自然に遊ぶ！健康キッズ」 開催

平成26	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin（済生利民）』」を発刊	平成27	10	新病院着工
26	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設	27	11	食道がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開
26	4	「変革4ヵ年計画」がスタート	28	1	呼吸器外科新設
26	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設	28	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始
26	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定	28	4	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組
26	5	新電子カルテシステムが全面稼働	28	4	内科統括・外科統括職制の新設
26	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成	28	6	日本総合病院精神医学会 施設認定
26	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始	28	7	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設
27	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定	28	7	「入退院支援センター」を あったかサポートセンター内に設置
27	4	中央手術管理部の新設	28	10	日本大腸肛門病学会 施設認定
27	6	胃がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開	28	11	日本消化管学会 施設認定
27	7	新病院開設許可受ける	28	12	新病院上棟式
27	9	休日診療の試験実施 （9月23日、11月23日）	29	3	日本胆道学会 施設認定

（平成29年度沿革）

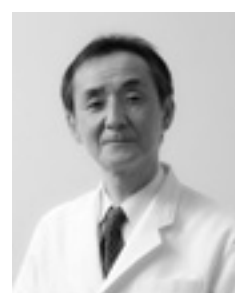
4月1日	形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科を新設
4月1日	日本腎臓学会 施設認定
5月1日	日本婦人科腫瘍学会 施設認定
8月1日	眼科 常勤医体制を再開
12月18日	新病院竣工式
1月1日	日本呼吸器外科学会 施設認定
2月10日	移転開設に向けた各種リハーサルの実施 （2月10日 外来、2月24日 患者移送、3月17日 総合）
2月23日	「地域医療支援病院」として大阪府より承認

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長

設立時の常任理事	小 河 滋 次 郎	大正13年～14年
日本生命済生会 会 長	弘 世 現	昭和35年～平成 3 年
	川 瀬 源 太 郎	平成 3 年～12年
	小 林 幹 司	平成12年～17年
	宇 野 郁 夫	平成17年～28年
	岡 本 罔 衛	平成28年～
日本生命済生会 理 事 長	手 塚 太 郎	大正14年～昭和 7 年
	弘 世 助 太 郎	昭和 7 年～11年
	成 瀬 達	昭和11年～26年
	弘 世 現	昭和26年～35年
	若 林 源 蔵	昭和35年～43年
	浜 田 勝 巳	昭和43年～55年
	浅 井 啓 三	昭和55年～61年
	鳥 井 静 夫	昭和61年～平成 4 年
	弟 子 丸 兆 生	平成 4 年～ 6 年
	平 島 一	平成 6 年～ 8 年
	沼 田 輝 夫	平成 8 年～14年
	小 林 三 紘	平成14年～20年
	野 崎 篤 彦	平成20年～（30年 6 月）
日 生 病 院 院 長	長 雄 勝 馬	昭和 6 年～12年
	清 水 寛 一	昭和12年～21年
	勝 部 育 郎	昭和21年～23年
	新 海 輝 一	昭和23年～46年
	諏 訪 信 吾	昭和46年～49年
	上 野 元 男	昭和49年・51～52年
	乾 久 朗	昭和49年～51年
	中 井 俊 夫	昭和52年～平成 2 年
	山 本 昌 弘	平成 2 年～12年
	佐 藤 文 三	平成12年～16年
	宗 田 滋 夫	平成16年～20年
	寺 川 直 樹	平成20年～25年
	笠 山 宗 正	平成25年～



理事長 野崎 篤彦



院長 笠山 宗正

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	59人 (61)	54人 (61)	57人 (57)	60人 (55)	56人 (55)	58人 (56)	63人 (56)	61人 (53)	65人 (60)	59人 (55)	62人 (57)	63人 (52)	60人 (56)
消化器内科	65 (64)	66 (59)	65 (61)	70 (65)	67 (60)	71 (62)	73 (62)	73 (63)	70 (62)	70 (60)	75 (63)	71 (66)	70 (62)
総合内科	161 (137)	164 (138)	165 (128)	177 (129)	168 (130)	171 (138)	174 (139)	186 (140)	177 (149)	182 (141)	181 (135)	177 (144)	173 (137)
血液・化学療法内科	26 (30)	30 (29)	27 (25)	28 (27)	29 (28)	26 (26)	29 (27)	29 (27)	26 (28)	27 (26)	26 (26)	29 (25)	28 (27)
神経内科	25 (28)	25 (26)	23 (25)	27 (27)	25 (23)	25 (28)	28 (26)	26 (26)	25 (25)	28 (26)	23 (25)	28 (24)	26 (26)
腎臓内科	6 -	7 -	7 -	9 (1)	10 (2)	11 (3)	12 (3)	12 (4)	13 (4)	14 (4)	13 (6)	15 (5)	11 (3)
内 科(計)	342 (320)	348 (313)	343 (296)	371 (304)	355 (298)	362 (313)	379 (313)	386 (313)	376 (328)	382 (312)	380 (312)	383 (316)	367 (311)
消化器・一般外科	16 (13)	17 (13)	15 (14)	16 (14)	14 (13)	16 (16)	17 (16)	15 (14)	14 (14)	15 (13)	14 (14)	16 (15)	15 (14)
呼吸器外科	2 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (2)	1 (1)	3 (1)	2 (1)
乳腺外科	17 (20)	17 (21)	18 (21)	17 (21)	18 (17)	20 (24)	18 (20)	19 (20)	17 (23)	18 (19)	17 (20)	17 (18)	18 (20)
心臓血管外科	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 -	0 -
外 科(計)	35 (34)	35 (35)	35 (36)	35 (37)	34 (31)	38 (41)	38 (37)	36 (35)	33 (38)	35 (34)	33 (35)	36 (34)	35 (36)
産婦人科	82 (90)	87 (95)	81 (89)	84 (92)	82 (88)	81 (89)	88 (90)	91 (90)	89 (91)	86 (85)	90 (83)	94 (82)	86 (88)
小児科	27 (31)	31 (36)	32 (32)	32 (32)	29 (30)	30 (30)	29 (30)	35 (32)	38 (33)	33 (26)	34 (27)	36 (25)	32 (30)
神経科・精神科	58 (64)	59 (67)	54 (58)	63 (63)	58 (59)	57 (62)	61 (63)	61 (66)	57 (62)	63 (61)	59 (54)	59 (60)	59 (62)
整形外科	56 (54)	58 (62)	53 (56)	55 (56)	57 (53)	55 (62)	57 (59)	53 (58)	55 (59)	56 (58)	54 (54)	56 (54)	55 (57)
皮膚科	94 (107)	101 (116)	94 (106)	99 (111)	99 (105)	96 (111)	94 (108)	102 (102)	91 (103)	95 (96)	96 (97)	99 (99)	96 (105)
泌尿器科	44 (46)	41 (43)	46 (41)	50 (46)	43 (40)	47 (52)	52 (49)	45 (45)	49 (47)	45 (45)	43 (42)	48 (45)	46 (45)
眼 科	30 (36)	31 (39)	29 (38)	29 (36)	29 (32)	31 (35)	32 (34)	36 (34)	36 (32)	35 (28)	40 (27)	42 (28)	33 (33)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	45 (53)	47 (54)	45 (49)	39 (46)	41 (43)	40 (50)	42 (45)	41 (47)	44 (48)	40 (43)	43 (45)	46 (46)	43 (47)
形成再建外科	6 -	9 -	9 -	12 -	12 -	13 -	11 -	12 -	14 -	12 -	13 -	12 -	11 -
放射線診断科	10 (18)	5 (17)	6 (17)	5 (16)	5 (20)	5 (19)	5 (15)	4 (15)	4 (14)	4 (16)	4 (20)	5 (20)	5 (17)
放射線治療科	10 -	7 -	13 -	11 -	4 -	9 -	13 -	12 -	9 -	6 -	9 -	5 -	(9) -
麻酔・緩和医療科	21 (19)	25 (18)	22 (20)	21 (19)	22 (21)	21 (21)	22 (20)	21 (20)	21 (18)	19 (20)	20 (20)	21 (21)	21 (20)
リハビリテーション科	4 -	13 -	15 -	18 -	17 -	15 -	14 -	13 -	16 -	15 -	13 -	14 -	14 -
救急診療センター	23 (22)	24 (21)	17 (24)	13 (24)	10 (29)	9 (24)	9 (27)	10 (27)	12 (31)	13 (31)	11 (25)	11 (24)	14 (25)
糖尿病・ 内分泌センター	5 (5)	5 (4)	5 (5)	6 (5)	5 (5)	5 (5)	6 (5)	6 (5)	5 (5)	6 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)
腎臓・透析センター	1 -	1 -	1 -	1 -	1 -	1 -	1 -	1 0	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (0)
その他	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)
合 計	894 (901)	926 (922)	900 (865)	944 (890)	903 (821)	913 (914)	951 (896)	964 (890)	951 (911)	946 (824)	949 (848)	971 (858)	934 (883)

(注) 1. 数値は小数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	28人 (40)	29人 (35)	30人 (36)	31人 (39)	28人 (32)	36人 (26)	27人 (32)	26人 (32)	29人 (30)	32人 (30)	32人 (31)	25人 (34)	29人 (33)
消化器内科	30 (17)	27 (18)	22 (23)	24 (24)	30 (24)	25 (22)	28 (23)	34 (25)	23 (23)	27 (24)	25 (28)	24 (26)	27 (23)
総合内科	56 (44)	45 (44)	38 (49)	41 (45)	49 (41)	46 (49)	42 (46)	44 (52)	43 (49)	45 (50)	55 (49)	49 (43)	46 (46)
血液・化学療法内科	27 (29)	23 (26)	25 (25)	25 (28)	21 (20)	22 (25)	22 (24)	22 (16)	24 (17)	21 (18)	25 (22)	21 (24)	23 (23)
神経内科	15 (14)	13 (13)	13 (17)	16 (16)	15 (16)	16 (18)	14 (14)	19 (13)	13 (14)	10 (11)	14 (15)	14 (16)	15 (15)
腎臓内科	6 (0)	8 (0)	8 (0)	10 (1)	8 (2)	8 (2)	9 (3)	16 (5)	12 (3)	14 (5)	11 (8)	10 (5)	10 (4)
内科(計)	168 (144)	153 (136)	137 (150)	157 (153)	149 (135)	163 (142)	143 (142)	174 (143)	161 (136)	150 (138)	163 (153)	157 (148)	150 (143)
消化器・一般外科	13 (8)	13 (8)	13 (13)	16 (12)	16 (14)	17 (13)	13 (12)	15 (14)	19 (15)	19 (15)	22 (18)	19 (15)	16 (13)
呼吸器外科	2 (3)	2 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (2)	3 (2)	2 (2)	1 (2)	0 (2)	1 (2)	2 (3)	1 (1)	2 (2)
乳腺外科	4 (4)	3 (4)	4 (5)	4 (3)	5 (3)	4 (4)	6 (4)	5 (3)	3 (5)	4 (2)	5 (5)	4 (4)	4 (4)
心臓血管外科	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
外科(計)	18 (15)	19 (14)	19 (19)	23 (16)	23 (19)	24 (19)	21 (18)	21 (19)	22 (22)	25 (19)	26 (26)	25 (20)	22 (19)
産婦人科	34 (37)	30 (30)	34 (36)	38 (35)	37 (37)	31 (32)	32 (36)	32 (30)	37 (31)	28 (35)	31 (37)	35 (39)	33 (34)
小児科	11 (8)	9 (9)	9 (9)	11 (10)	8 (11)	8 (7)	6 (11)	8 (9)	6 (9)	4 (9)	8 (14)	8 (12)	8 (10)
神経科・精神科	7 (10)	10 (9)	13 (8)	12 (10)	10 (11)	13 (10)	9 (11)	5 (11)	9 (8)	9 (10)	12 (14)	10 (12)	10 (10)
整形外科	24 (22)	27 (23)	32 (24)	29 (27)	25 (17)	26 (20)	24 (23)	28 (25)	26 (27)	26 (26)	32 (24)	32 (22)	28 (23)
皮膚科	11 (10)	10 (9)	10 (15)	9 (10)	11 (10)	15 (7)	9 (7)	9 (6)	8 (7)	11 (9)	10 (9)	11 (10)	10 (9)
泌尿器科	(14) (10)	(12) (9)	(11) (10)	(10) (8)	(9) (11)	(8) (9)	(9) (9)	(7) (9)	(7) (7)	(8) (9)	(8) (12)	(12) (12)	(10) (9)
眼科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	10 (14)	6 (15)	8 (14)	8 (15)	6 (19)	5 (16)	8 (8)	6 (9)	5 (9)	4 (12)	4 (7)	5 (8)	6 (12)
形成再建外科	1 -	2 -	2 -	4 -	3 -	2 -	4 -	5 -	5 -	2 -	3 -	3 -	3 -
放射線診断科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
放射線治療科	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
リハビリテーション科	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
救急診療センター	6 (13)	8 (11)	11 (8)	10 (13)	11 (16)	10 (13)	16 (12)	13 (9)	17 (8)	18 (10)	17 (8)	14 (9)	13 (11)
合 計	299 (284)	278 (267)	285 (294)	298 (297)	293 (288)	296 (275)	282 (277)	297 (268)	289 (263)	284 (275)	316 (302)	298 (291)	293 (281)

(注) 1. 数値は小数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

3 患者年齢・診療圏構成

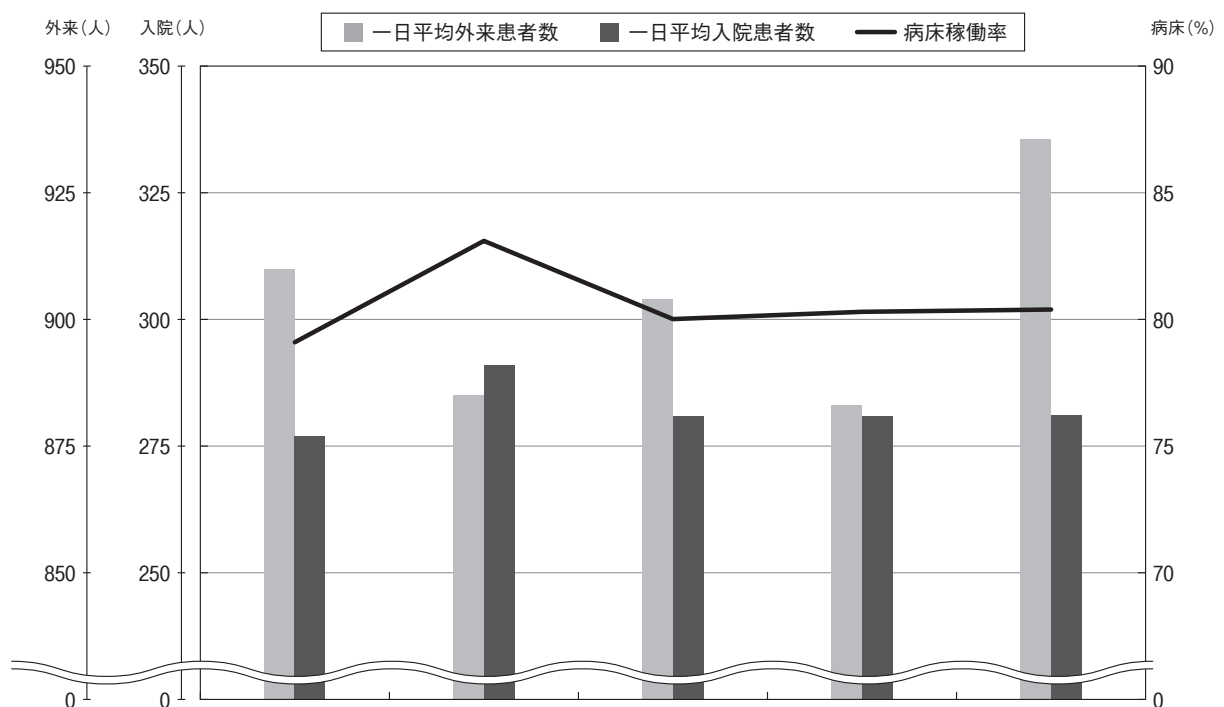
外来			大阪市内訳（主要区）										
年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H25	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	H26	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	H27	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	H28	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
	H29	1,771	55	44	1,672	1,144	216	37	118	50	28	21	58
10～19	H25	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	H26	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	H27	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	H28	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
	H29	600	39	43	518	271	91	44	29	22	9	9	46
20～29	H25	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	H26	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	H27	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	H28	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
	H29	2,293	284	334	1,675	809	181	73	77	139	89	38	269
30～39	H25	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	H26	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	H27	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	H28	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
	H29	4,289	454	640	3,195	1,522	352	156	125	193	183	120	544
40～49	H25	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	H26	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	H27	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
	H28	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
	H29	5,870	689	1,283	3,898	1,417	568	288	181	180	197	149	918
50～59	H25	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	H26	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	H27	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	H28	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
	H29	5,103	772	1,068	3,263	1,025	559	301	196	135	127	107	813
60～69	H25	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	500	263	201	102	75	684
	H26	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	H26	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	H27	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
	H28	5,633	761	1,046	3,826	1,333	618	475	330	194	129	70	677
70～79	H25	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	H26	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	H26	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	203	193	87	66	563
	H27	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
	H28	5,466	553	788	4,125	1,398	826	572	292	207	119	81	630
80～89	H25	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	H26	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	H26	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	H27	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
	H28	2,887	194	328	2,365	891	482	285	109	117	56	56	369
90以上	H25	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	H26	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	H26	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
	H27	485	20	31	434	176	87	43	21	32	22	12	41
	H28	473	25	35	413	184	70	40	13	28	24	13	41
総計	H25	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	H26	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019
	H27	33,295	3,682	5,209	24,404	10,032	3,822	2,340	1,308	1,230	871	622	4,179
	H28	34,434	3,794	5,474	25,166	10,163	4,079	2,410	1,488	1,242	917	646	4,221
	H29	34,385	3,826	5,609	24,905	9,994	3,963	2,271	1,470	1,265	958	664	4,365

入院			大阪市内訳（主要区）										
年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H25	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	H26	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
	H27	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
	H28	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
	H29	374	19	5	350	199	87	1	39	4	6	2	12
10～19	H25	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	H26	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
	H27	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	H28	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
	H29	65	9	4	52	21	13	7	3	2	1	0	5
20～29	H25	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	H26	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	H27	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	H28	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
	H29	454	78	87	289	100	37	16	19	27	18	11	61
30～39	H25	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	H26	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	H27	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	H28	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
	H29	802	87	135	580	257	65	23	22	38	37	37	101
40～49	H25	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	H26	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	H27	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	H28	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
	H29	870	99	189	582	172	82	54	38	32	47	22	135
50～59	H25	584	78	128	378	129	55	55	41	22	16	18	85
	H26	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	H27	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
	H28	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
	H29	567	59	97	411	111	93	46	27	25	21	9	79
60～69	H25	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	H26	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	H27	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
	H28	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
	H29	874	73	132	669	221	121	86	66	31	16	12	116
70～79	H25	1,271	105	234	932	318	191	191	121	41	13	60	169
	H26	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	H27	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
	H28	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
	H29	1,221	73	139	1,009	304	218	161	61	71	28	17	149
80～89	H25	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	H26	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	H27	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
	H28	810	33	72	705								

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
3階	60床	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	46人 77.1%	44人 74.1%	45人 75.7%	49人 82.1%	50人 82.6%	48人 80.8%	45人 74.2%	46人 76.8%	48人 80.4%	46人 76.5%	52人 86.0%	51人 84.3%	48人 79.2%	44人 74.5%
4階(西)	60	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	51 84.7	47 79.1	47 78.8	49 81.5	47 79.0	51 84.5	46 77.0	51 84.9	48 80.7	46 76.9	53 87.9	50 83.4	49 81.5	48 79.2
4階(東)	51	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	45 88.8	41 81.3	42 82.5	43 84.6	43 84.9	44 86.3	43 84.4	45 88.4	43 84.6	44 86.6	49 96.4	46 90.8	44 86.6	42 81.4
5階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	42 95.5	38 87.2	39 89.3	40 90.1	40 89.9	41 94.2	39 88.5	41 92.1	40 91.2	39 89.7	43 97.1	39 88.9	40 91.1	38 86.7
5階(東)	49	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	43 87.5	42 86.0	44 90.0	45 91.7	42 86.2	44 90.1	42 85.1	44 89.9	42 85.2	43 86.8	47 95.3	44 89.1	44 88.6	41 84.4
6階(西)	42	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	39 93.3	39 90.6	38 90.2	38 89.8	38 91.6	37 88.6	38 91.2	40 95.4	37 89.2	40 96.2	42 99.8	36 86.9	39 91.9	37 87.7
6階(東)	27	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	22 82.7	19 70.7	21 77.7	24 88.5	24 90.4	23 83.8	24 88.9	23 85.1	23 87.0	21 78.1	24 88.9	24 89.7	23 84.3	23 83.5
小計	333	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	289 86.7	271 81.4	277 83.2	287 86.3	285 85.6	289 86.7	277 83.1	290 87.0	283 84.9	280 84.0	309 92.7	290 87.2	286 85.7	272 81.8
小児	10	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	6 63.3	6 59.4	6 57.7	8 76.8	5 52.6	6 62.0	4 42.6	6 56.0	5 49.7	2 20.0	5 53.2	6 57.7	5 54.3	6 58.5
未熟児	7	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	4 54.3	1 20.3	2 28.6	3 40.1	3 40.6	1 21.0	1 18.0	2 27.1	1 18.0	2 30.4	2 27.6	2 31.3	2 29.8	3 47.9
計	350	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	299 85.4	278 79.5	285 81.4	298 85.1	293 83.7	296 84.7	282 80.6	297 84.9	289 82.5	284 81.1	316 90.3	298 85.3	293 83.7	282 80.4

[医事サービス部]



	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
一日平均外来患者数	910	885	904	883	934
一日平均入院患者数	277	291	281	281	282
病床稼働率	79.1	83.1	80.0	80.3	80.4

5 救急患者数

	人 数													(内、入 院 数)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計
循環器内科	36 (13)	25 (7)	37 (13)	29 (12)	32 (12)	36 (9)	28 (7)	27 (13)	40 (19)	33 (10)	48 (19)	42 (12)	413 (146)	22 (7)	16 (3)	26 (8)	17 (7)	20 (6)	21 (4)	23 (4)	19 (11)	32 (17)	25 (9)	29 (15)	25 (7)	275 (98)
消化器内科	42 (12)	36 (7)	43 (5)	46 (12)	43 (9)	40 (10)	38 (10)	46 (11)	35 (10)	55 (17)	44 (13)	37 (13)	505 (129)	34 (9)	29 (6)	36 (5)	41 (10)	40 (7)	32 (5)	34 (8)	41 (11)	29 (10)	47 (13)	34 (12)	31 (12)	428 (108)
総合内科	73 (24)	68 (14)	67 (12)	75 (19)	83 (15)	62 (15)	79 (14)	53 (8)	67 (14)	95 (27)	79 (25)	60 (18)	861 (205)	49 (17)	49 (13)	38 (7)	52 (19)	60 (12)	46 (11)	54 (9)	32 (6)	48 (8)	60 (17)	50 (21)	36 (13)	574 (153)
血液・化学療法内科	20 (5)	16 (3)	24 (3)	27 (6)	10 (2)	19 (7)	16 (1)	17 (5)	15 (7)	23 (9)	16 (3)	17 (6)	220 (57)	15 (5)	9 (1)	17 (3)	17 (5)	7 (1)	16 (5)	13 (1)	13 (5)	13 (6)	16 (9)	9 (2)	13 (5)	158 (48)
神経内科	7 (0)	8 (1)	11 (4)	12 (2)	11 (5)	9 (2)	11 (4)	16 (2)	10 (4)	13 (5)	10 (1)	13 (6)	131 (36)	1 (0)	6 (1)	6 (2)	9 (1)	6 (2)	7 (2)	9 (3)	12 (2)	8 (2)	10 (4)	7 (1)	9 (5)	90 (25)
腎臓内科	4 (0)	3 (1)	6 (0)	2 (0)	6 (0)	4 (0)	9 (3)	5 (3)	3 (0)	12 (1)	5 (4)	9 (4)	68 (16)	2 (0)	2 (1)	5 (0)	2 (0)	5 (0)	4 (0)	8 (3)	3 (2)	2 (0)	5 (0)	3 (2)	7 (3)	48 (7)
内科 (計)	182 (54)	156 (33)	188 (37)	191 (51)	185 (43)	170 (43)	181 (39)	164 (42)	170 (54)	231 (69)	202 (65)	178 (59)	2,198 (589)	123 (38)	111 (25)	128 (25)	138 (42)	138 (28)	126 (27)	141 (28)	120 (37)	132 (43)	163 (52)	132 (53)	121 (45)	1,573 (443)
消化器・一般外科	9 (3)	16 (4)	12 (3)	9 (3)	9 (2)	10 (1)	10 (3)	14 (5)	17 (2)	7 (2)	7 (1)	8 (2)	128 (31)	6 (2)	7 (2)	8 (2)	7 (3)	4 (1)	2 (1)	5 (2)	7 (4)	12 (2)	5 (2)	5 (1)	3 (1)	71 (23)
呼吸器外科	3 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (2)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (2)
乳腺外科	3 (0)	4 (0)	6 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (3)	2 (0)	4 (1)	3 (3)	1 (0)	2 (0)	47 (7)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (3)	2 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	25 (6)
外科 (計)	15 (4)	21 (4)	19 (3)	16 (3)	16 (2)	16 (2)	15 (6)	16 (5)	21 (3)	11 (5)	8 (1)	11 (2)	185 (40)	9 (3)	11 (2)	12 (2)	11 (3)	8 (1)	5 (2)	9 (5)	9 (4)	13 (3)	8 (4)	5 (1)	5 (1)	105 (31)
産婦人科	188 (4)	189 (1)	180 (3)	187 (5)	208 (7)	179 (1)	198 (4)	150 (4)	130 (1)	120 (0)	130 (2)	155 (2)	2,014 (34)	34 (4)	30 (1)	36 (3)	41 (1)	37 (6)	38 (1)	39 (2)	36 (4)	38 (1)	32 (0)	35 (2)	44 (1)	440 (26)
小児科	26 (0)	26 (0)	42 (0)	35 (0)	29 (1)	26 (0)	19 (0)	26 (0)	18 (0)	10 (0)	20 (0)	23 (0)	300 (1)	23 (0)	24 (0)	37 (0)	32 (0)	25 (1)	26 (0)	19 (0)	26 (0)	18 (0)	9 (0)	20 (0)	23 (0)	282 (1)
神経科・精神科	16 (1)	14 (1)	13 (0)	9 (0)	7 (1)	6 (0)	6 (0)	7 (1)	13 (3)	5 (0)	11 (1)	11 (1)	118 (9)	5 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (1)	2 (0)	3 (0)	4 (1)	31 (3)
整形外科	25 (9)	41 (12)	20 (10)	22 (8)	19 (7)	16 (6)	21 (5)	15 (8)	23 (6)	24 (4)	19 (10)	9 (6)	254 (91)	10 (6)	18 (9)	10 (5)	11 (5)	13 (6)	5 (3)	10 (3)	12 (7)	13 (4)	14 (2)	7 (4)	5 (3)	128 (57)
皮膚科	22 (0)	34 (0)	15 (0)	18 (1)	34 (1)	31 (1)	23 (0)	30 (0)	14 (0)	27 (2)	23 (3)	22 (1)	293 (9)	14 (0)	22 (0)	11 (0)	11 (0)	23 (1)	20 (0)	17 (0)	18 (0)	10 (0)	22 (2)	17 (2)	18 (1)	203 (6)
泌尿器科	53 (2)	58 (3)	24 (2)	76 (1)	23 (2)	50 (2)	23 (4)	20 (1)	15 (3)	21 (3)	16 (1)	20 (5)	399 (29)	8 (2)	9 (3)	3 (2)	5 (1)	2 (1)	7 (1)	6 (3)	3 (0)	4 (1)	7 (1)	2 (0)	6 (4)	62 (19)
眼科	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	
耳鼻咽喉・頭頸部外科	16 (2)	17 (6)	15 (6)	17 (4)	8 (2)	8 (1)	16 (4)	8 (4)	14 (1)	10 (4)	4 (1)	8 (2)	141 (37)	11 (2)	6 (3)	10 (4)	9 (2)	4 (1)	6 (1)	8 (3)	4 (4)	9 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	79 (24)
形成再建外科	1 (0)	3 (1)	1 (0)	7 (0)	17 (0)	7 (0)	7 (0)	8 (1)	7 (0)	9 (0)	9 (1)	2 (0)	78 (3)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (2)
放射線診断科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
放射線治療科	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
麻酔・緩和医療科	6 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	21 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	5 (0)
救急診療センター	178 (117)	213 (147)	199 (148)	223 (168)	214 (147)	163 (118)	156 (122)	174 (117)	221 (161)	239 (148)	186 (123)	196 (165)	2,362 (1,681)	55 (44)	53 (47)	70 (61)	64 (55)	54 (42)	53 (44)	66 (59)	58 (49)	70 (56)	59 (46)	49 (41)	60 (57)	711 (601)
合 計	728 (193)	781 (208)	720 (210)	802 (241)	764 (213)	673 (174)	665 (184)	619 (183)	646 (232)	711 (237)	630 (208)	633 (243)	8,372 (2,526)	295 (99)	289 (91)	323 (103)	326 (109)	308 (88)	288 (79)	316 (103)	289 (106)	311 (110)	323 (110)	275 (104)	290 (114)	3,633 (1,216)

(注) 各欄下段の () の数値は救急車で搬送された患者数

[医事サービス部、当直・救急検討委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成29年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10 (2013年版) 準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(一財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成29年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

	算定式	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)	平成28年度 (2016.4 -2017.3)	平成29年度 (2017.4 -2018.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	280	283	278	278	273	277	291	284	281	293
病床稼働率(%)	$\frac{1\text{日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0	79.1	83.1	81.1	80.3	83.7
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	12.3	12.6	12.1	12.8	12.6	12.5
実退院患者数(人)		6,486	6,740	7,283	7,119	7,396	7,490	7,435	8,119	8,244	7,573	7,963
転科数		140	176	206	164	209	208	192	241	278	870	791
総退院患者数		6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698	7,627	8,360	8,522	8,443	8,754
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2	13.5	13.2	12.3	13.6	13.6
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3	2.8	2.8	2.4	2.8	3.2
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1	2.4	2.5	2.3	2.4	2.8
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1	9.3	6.2	7.5	5.7	5.5
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	0.05	0.02	-	-
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2	16.6	15.7	16.8	19.4	19.1
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3	41.5	39.8	40.1	41.6	37.9
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2	47.3	40.6	43.0	49.1	49.8

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数

診療科		平均在院 日数	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計	7,963	648	606	664	683	657	677	670	699	730	623	592	714	252	12	12
	男	3,521	285	282	286	299	282	295	282	307	331	280	274	318	165	9	5
	女	4,442	363	324	378	384	375	382	388	392	399	343	318	396	87	3	7
循環器内科	計	795	62	56	73	66	57	82	58	71	68	70	67	65	15	-	2
	男	474	41	31	47	39	36	41	28	47	42	46	43	33	7	-	-
	女	321	21	25	26	27	21	41	30	24	26	24	24	32	8	-	2
消化器内科	計	829	67	57	60	68	67	79	64	82	80	72	58	75	41	-	-
	男	497	37	36	31	39	40	45	41	51	50	47	36	44	31	-	-
	女	332	30	21	29	29	27	34	23	31	30	25	22	31	10	-	-
総合内科	計	991	96	85	79	77	85	86	77	81	84	74	77	90	83	2	5
	男	531	52	44	33	38	50	51	34	43	50	41	43	52	56	2	4
	女	460	44	41	46	39	35	35	43	38	34	33	34	38	27	-	1
血液・化学療法内科	計	324	27	29	21	31	24	20	29	24	34	28	26	31	43	5	4
	男	211	18	18	15	22	18	14	18	14	23	15	16	20	34	4	1
	女	113	9	11	6	9	6	6	11	10	11	13	10	11	9	1	3
神経内科	計	146	15	14	14	14	8	14	6	14	16	7	10	14	6	-	-
	男	68	4	9	7	5	5	8	2	4	7	4	5	8	2	-	-
	女	78	11	5	7	9	3	6	4	10	9	3	5	6	4	-	-
腎臓内科	計	177	11	10	13	12	18	17	15	16	17	17	14	17	2	-	-
	男	110	6	9	10	9	11	11	10	8	8	9	11	8	2	-	-
	女	67	5	1	3	3	7	6	5	8	9	8	3	9	-	-	-
消化器・一般外科	計	377	32	28	34	35	35	31	36	28	37	25	30	26	19	1	-
	男	226	24	17	18	24	16	19	17	16	23	13	22	17	13	1	-
	女	151	8	11	16	11	19	12	19	12	14	12	8	9	6	-	-
呼吸器外科	計	51	2	5	3	5	4	8	5	5	2	3	5	4	-	-	-
	男	34	1	3	3	4	2	5	3	5	1	1	4	2	-	-	-
	女	17	1	2	-	1	2	3	2	-	1	2	1	2	-	-	-
乳腺外科	計	147	14	9	12	12	20	11	14	18	7	11	10	9	4	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	147	14	9	12	12	20	11	14	18	7	11	10	9	4	-	-
産婦人科	計	1,550	120	117	125	143	137	122	139	129	142	120	123	133	8	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,550	120	117	125	143	137	122	139	129	142	120	123	133	8	-	-
小児科	計	414	50	33	45	44	38	31	27	36	29	22	24	35	-	-	-
	男	220	18	17	23	26	23	15	19	24	11	11	12	21	-	-	-
	女	194	32	16	22	18	15	16	8	12	18	11	12	14	-	-	-
神経科・精神科	計	83	4	5	9	10	7	7	10	5	5	3	8	10	-	-	-
	男	23	2	2	2	3	1	2	5	-	-	2	2	2	-	-	-
	女	60	2	3	7	7	6	5	5	5	5	1	6	8	-	-	-
整形外科	計	374	30	29	34	38	29	32	27	29	41	26	22	37	1	-	-
	男	147	12	14	17	11	10	9	9	8	20	14	8	15	1	-	-
	女	227	18	15	17	27	19	23	18	21	21	12	14	22	-	-	-
皮膚科	計	271	26	23	24	21	20	35	18	22	15	24	18	25	-	-	-
	男	145	14	14	10	13	9	16	12	11	9	13	13	11	-	-	-
	女	126	12	9	14	8	11	19	6	11	6	11	5	14	-	-	-
泌尿器科	計	354	31	28	31	25	28	27	34	24	32	31	26	37	11	-	-
	男	284	24	24	27	18	23	21	29	20	25	23	19	31	9	-	-
	女	70	7	4	4	7	5	6	5	4	7	8	7	6	2	-	-
眼科	計	110	-	-	-	-	-	5	23	22	14	13	14	19	-	-	-
	男	45	-	-	-	-	-	3	12	13	5	5	2	5	-	-	-
	女	65	-	-	-	-	-	2	11	9	9	8	12	14	-	-	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	252	27	26	28	19	19	21	22	25	22	13	12	18	1	-	1
	男	128	13	18	11	12	10	11	12	8	9	5	7	12	1	-	-
	女	124	14	8	17	7	9	10	10	17	13	8	5	6	-	-	1
形成再建外科	計	150	2	11	9	15	12	11	14	19	25	10	10	12	-	-	-
	男	87	1	5	4	11	5	5	7	13	17	5	6	8	-	-	-
	女	63	1	6	5	4	7	6	7	6	8	5	4	4	-	-	-
麻酔・緩和医療科	計	7	1	1	1	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	男	4	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	女	3	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急診療センター	計	561	31	40	49	48	47	38	52	49	59	54	37	57	18	4	-
	男	287	17	21	28	25	22	19	24	22	30	26	24	29	9	2	-
	女	274	14	19	21	23	25	19	28	27	29	28	13	28	9	2	-

[診療情報管理室]

③ 診療科別・在院期間別・患者数

診療科	総数	1～ 8日	9～ 15日	16～ 22日	23～ 31日	32～ 61日	62～ 91日	3～ 6月	6月～ 1年	1～ 2年	2年～	平均 在院日数
総数	計	7,963	4,538	1,554	640	453	552	134	89	3	-	13.5
	男	3,521	1,858	698	350	238	266	68	41	2	-	14.3
	女	4,442	2,680	856	290	215	286	66	48	1	-	13
循環器内科	計	795	471	116	59	53	69	19	8	-	-	13.7
	男	474	317	51	35	24	31	12	4	-	-	12.3
	女	321	154	65	24	29	38	7	4	-	-	15.7
消化器内科	計	829	435	209	89	40	40	8	8	-	-	12
	男	497	257	128	59	24	19	6	4	-	-	11.6
	女	332	178	81	30	16	21	2	4	-	-	12.7
総合内科	計	991	367	274	141	81	88	27	12	1	-	17.1
	男	531	182	135	85	51	55	17	5	1	-	18.2
	女	460	185	139	56	30	33	10	7	-	-	15.9
血液・化学療法内科	計	324	57	64	44	58	81	13	6	1	-	27
	男	211	33	43	26	43	54	7	4	1	-	27.9
	女	113	24	21	18	15	27	6	2	-	-	25.5
神経内科	計	146	18	25	23	19	34	14	12	1	-	38.8
	男	68	11	15	14	8	12	4	4	-	-	30.3
	女	78	7	10	9	11	22	10	8	1	-	46.3
腎臓内科	計	177	55	56	25	8	22	4	7	-	-	21.3
	男	110	36	39	17	5	9	2	2	-	-	17
	女	67	19	17	8	3	13	2	5	-	-	28.5
消化器・一般外科	計	377	203	60	40	28	36	4	6	-	-	15.7
	男	226	113	38	21	21	25	4	4	-	-	17.5
	女	151	90	22	19	7	11	-	2	-	-	12.9
呼吸器外科	計	51	16	27	4	3	1	-	-	-	-	11.1
	男	34	11	17	2	3	1	-	-	-	-	11.7
	女	17	5	10	2	-	-	-	-	-	-	9.8
乳腺外科	計	147	89	33	13	6	4	1	1	-	-	10.4
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	147	89	33	13	6	4	1	1	-	-	10.4
産婦人科	計	1,550	1,238	266	21	11	9	3	2	-	-	7.6
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,550	1,238	266	21	11	9	3	2	-	-	7.6
小児科	計	414	332	62	16	3	-	1	-	-	-	7.2
	男	220	178	32	9	-	-	1	-	-	-	7.2
	女	194	154	30	7	3	-	-	-	-	-	7.2
神経科・精神科	計	83	5	10	14	22	12	8	12	-	-	45.2
	男	23	1	2	2	9	4	1	4	-	-	49.3
	女	60	4	8	12	13	8	7	8	-	-	43.7
整形外科	計	374	81	39	56	70	105	16	7	-	-	27.2
	男	147	38	25	27	23	25	5	4	-	-	23.8
	女	227	43	14	29	47	80	11	3	-	-	29.4
皮膚科	計	271	102	106	31	19	7	2	4	-	-	13.9
	男	145	55	55	17	9	6	1	2	-	-	14.3
	女	126	47	51	14	10	1	1	2	-	-	13.4
泌尿器科	計	354	224	75	23	9	18	4	1	-	-	10.2
	男	284	191	56	14	6	13	3	1	-	-	9.5
	女	70	33	19	9	3	5	1	-	-	-	13.4
眼科	計	110	110	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1
	男	45	45	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	女	65	65	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	252	182	53	6	6	3	1	1	-	-	8.4
	男	128	87	29	5	2	3	1	1	-	-	9.4
	女	124	95	24	1	4	-	-	-	-	-	7.3
形成再建外科	計	150	111	26	9	1	2	1	-	-	-	7.1
	男	87	64	14	7	1	-	1	-	-	-	7.1
	女	63	47	12	2	-	2	-	-	-	-	7.1
麻酔・緩和医療科	計	7	6	-	-	1	-	-	-	-	-	7.1
	男	4	3	-	-	1	-	-	-	-	-	9.5
	女	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	4
救急診療センター	計	561	436	53	26	15	21	8	2	-	-	7.6
	男	287	236	19	10	8	9	3	2	-	-	6.8
	女	274	200	34	16	7	12	5	-	-	-	8.5

[診療情報管理室]

④ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数

コード	国際分類大項目分類	総 数	循環器内科	消化器内科	総合内科	血液化学療法内科	神経内科	腎臓内科	消化器一般外科	呼吸器外科	乳腺外科	産婦人科	小児科	神経科精神科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	形成再建外科	麻酔緩和医療科	救急診療センター
	総数	計7,963 男女3,521 4,442	795 474 321	829 497 332	991 531 460	324 211 113	146 68 78	177 110 67	377 226 151	51 34 17	147 - 147	1,550 - 1,550	414 220 194	83 23 60	374 147 227	271 145 126	354 284 70	110 45 65	252 128 124	150 87 63	7 4 3	561 287 274
I	感染症及び寄生虫症	計302 男女153 149	6 5 1	34 11 23	46 23 23	8 6 2	3 2 1	- - -	2 2 -	2 1 1	1 - 1	4 - 4	63 30 33	- - -	1 1 -	106 58 48	2 1 1	- - -	3 2 1	- - -	- - -	21 11 10
II	新生物（悪性新生物）	計2,009 男女863 1,146	2 1 1	333 233 100	182 128 54	240 160 80	- 1 -	2 1 1	172 106 66	30 16 14	116 - 116	628 - 628	- - -	- - -	- 7 1	8 139 29	168 - -	- 28 9	37 41 42	83 2 2	4 1 3	4 1 3
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計81 男女27 54	2 - 2	6 2 4	12 4 8	38 14 24	- - -	2 - 2	- - -	- - -	3 - 3	4 - 4	5 4 1	- - -	- - -	5 2 3	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	4 1 3
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	計327 男女168 159	14 8 6	5 1 4	236 128 108	2 2 -	5 2 3	18 11 7	- - -	- - -	- - -	5 - 5	13 6 7	- - -	- - -	1 1 -	2 1 1	- - -	4 - 4	1 - 1	- - -	21 8 13
V	精神及び行動の障害	計330 男女175 155	- 1 -	2 1 7	14 7 7	- 2 3	5 - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	75 19 56	- - -	- - -	1 - 1	- - -	1 1 -	- - -	- - -	231 145 86
VI	神経系の疾患	計111 男女73 38	16 15 1	1 - 1	5 2 3	1 1 -	48 29 19	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	5 4 1	2 - 2	- - -	- - -	- 19 6	25 19 -	- 1 -	1 2 5	7 2 5
VII	眼及び付属器の疾患	計130 男女57 73	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	110 45 65	- - -	19 12 7	- - -	- - -
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計109 男女25 84	5 4 1	- - -	3 2 1	- - -	8 - 8	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	2 2 -	2 - 2	- - -	- - -	- - -	- - -	74 14 60	1 - 1	- - -	14 3 11
IX	循環器系の疾患	計765 男女444 321	647 382 265	9 5 4	39 22 17	3 1 18	36 18 4	9 5 2	3 1 2	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 1 2	5 3 2	- - -	- - -	- - -	2 2 -	- 4 7	11 4 7
X	呼吸器系の疾患	計711 男女387 324	19 10 9	10 8 2	283 143 140	17 14 3	11 5 6	4 1 3	17 1 2	- 15 -	- - -	1 - 1	180 97 83	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	92 54 38	- - -	- - -	75 39 36
XI	消化器系の疾患	計670 男女374 306	7 3 4	393 217 176	36 19 17	4 1 -	4 2 3	2 2 -	185 107 78	- - -	- - -	9 - 9	2 - 2	- - -	- - -	- - -	1 1 -	- - -	8 3 5	2 - 2	- - -	27 17 10
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	計188 男女105 83	1 - 1	2 1 1	12 6 6	2 1 1	- 2 -	2 - -	1 - 1	- - -	3 - 3	1 - 1	1 - 1	- - -	- 72 57	129 - -	- - -	- - -	1 1 -	26 20 6	- - -	7 2 5
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	計295 男女126 169	6 2 4	2 2 -	35 14 21	2 2 5	6 1 3	7 4 -	- - -	- - -	- - -	- - -	7 3 4	- - -	198 82 116	5 2 3	- - -	- - -	- 1 1	2 - -	- - -	25 13 12
XIV	腎尿路生殖生殖器系の疾患	計838 男女242 596	10 6 4	4 3 1	36 12 24	3 3 -	7 2 5	113 73 40	4 3 1	- - -	12 - 12	446 - 446	8 5 3	- - -	- - 1	1 157 37	- 120 -	- - 1	1 - -	- - -	- - -	36 15 21
XV	妊娠、分娩及び産じょく	計442 男女- 442	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	442 - 442	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVI	周産期に発生した病態	計112 男女61 51	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	112 61 51	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	計21 男女11 10	- - -	1 - 1	3 - 3	- - -	- 3 4	7 1 -	1 - -	- - -	- - -	- - -	5 3 2	- - -	- - -	- 1 -	1 - -	- 2 -	2 - -	- - -	- - -	1 1 -
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計141 男女61 80	17 8 9	6 4 2	34 14 20	1 1 -	10 4 6	4 2 2	1 1 -	1 12 2	2 - 2	15 9 6	1 - 1	- - -	- 1 1	2 1 1	- 1 -	3 3 -	3 3 -	2 1 1	26 9 17	
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	計269 男女102 167	3 2 1	4 2 2	14 6 8	2 2 -	3 2 1	7 6 1	5 4 1	1 1 -	- - 7	7 - -	- - -	- - -	150 52 98	10 - 10	1 1 -	- 1 -	1 7 3	10 - -	- 16 35	51
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計102 男女67 35	40 28 12	17 7 10	1 1 -	1 - 1	- - -	- - 1	- - 1	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	21 11 10	- - -	19 19 -	- - -	- 1 -	- - -	- - -	- - -

[診療情報管理室]

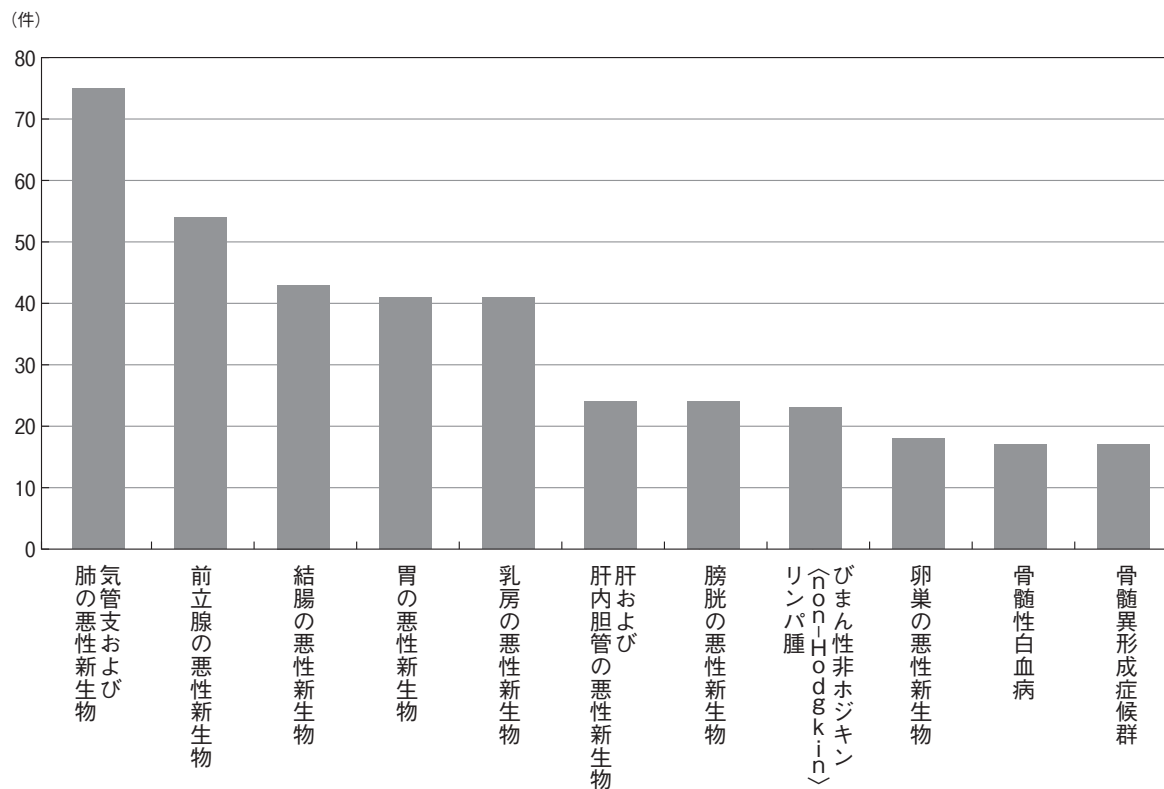
⑤ 悪性新生物統計

	算定式	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)	平成28年度 (2016.4 -2017.3)	平成29年度 (2017.4 -2018.3)
悪性新生物： 比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7	16.0	14.5	14.6	16.2	16.4
悪性新生物： 新発患者数		503	548	553	465	445	423	403	447	519	547

○ H29.4～H30.3—初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

疾患名	件 数	在院日数計	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	75	1536	20
前立腺の悪性新生物	54	443	8
結腸の悪性新生物	43	934	22
胃の悪性新生物	41	721	18
乳房の悪性新生物	41	600	15
肝および肝内胆管の悪性新生物	24	423	18
膀胱の悪性新生物	24	291	12
びまん性非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫	23	945	41
卵巣の悪性新生物	18	234	13
骨髄性白血病	17	576	34
骨髄異形成症候群	17	408	41

[診療情報管理室]



⑥ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼 科 患者数	退 院 患者数	粗死亡率 (%)	精死亡率 (%)	剖検率 (%)
総数	死亡 剖検	252 (12)	22 (2)	22 (3)	15 (-)	28 (1)	22 (3)	19 (-)	18 (1)	18 (2)	21 (-)	17 (-)	31 (-)	19 (-)	21 (2)	7,963 -	252 3.2	221 2.8	12 4.8
循環器内科	死亡 剖検	15 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (-)	795 -	15 1.9	11 1.4	- -
消化器内科	死亡 剖検	41 (-)	2 (-)	3 (-)	2 (-)	5 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	6 (-)	6 (-)	1 (-)	6 (-)	2 (-)	2 (-)	829 -	41 4.9	36 4.3	- -
総合内科	死亡 剖検	83 (2)	10 (1)	9 (1)	6 (-)	8 (-)	4 (-)	3 (-)	5 (-)	4 (-)	7 (-)	7 (-)	11 (-)	9 (-)	6 (-)	991 -	83 8.4	78 7.9	2 2.4
血液・ 化学療法内科	死亡 剖検	43 (5)	3 (-)	5 (1)	2 (-)	8 (-)	7 (2)	3 (-)	2 (-)	3 (2)	2 (-)	2 (-)	4 (-)	2 (-)	3 (1)	324 -	43 13.3	38 11.7	5 11.6
神経内科	死亡 剖検	6 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	146 -	6 4.1	5 3.4	- -
腎臓内科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	177 -	2 1.1	2 1.1	- -
消化器・ 一般外科	死亡 剖検	19 (1)	2 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	2 (1)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	2 (1)	377 -	19 5	17 4.5	1 5.3
呼吸器外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	51 -	- -	- -	- -
乳腺外科	死亡 剖検	4 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	147 -	4 2.7	2 1.4	- -
心臓血管外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- -	- -	- -	- -
産婦人科	死亡 剖検	8 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	1,550 -	8 0.5	7 0.5	- -
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	414 -	- -	- -	- -
神経科・ 精神科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	83 -	- -	- -	- -
整形外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	374 -	1 0.3	1 0.3	- -
皮膚科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	271 -	- -	- -	- -
泌尿器科	死亡 剖検	11 (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	3 (-)	354 -	11 3.1	11 3.1	- -
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	110 -	- -	- -	- -
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	252 -	1 0.4	1 0.4	- -
形成再建外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	150 -	- -	- -	- -
麻酔・ 緩和医療科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	7 -	- -	- -	- -
救急診療 センター	死亡 剖検	18 (4)	1 (1)	1 (1)	- (-)	3 (1)	3 (-)	2 (-)	2 (1)	- (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	561 -	18 3.2	12 2.1	4 22.2

(注) 1. 粗死亡率 $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

[診療情報管理室]

2. 精死亡率 $\frac{\text{入院48時間以後死亡数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

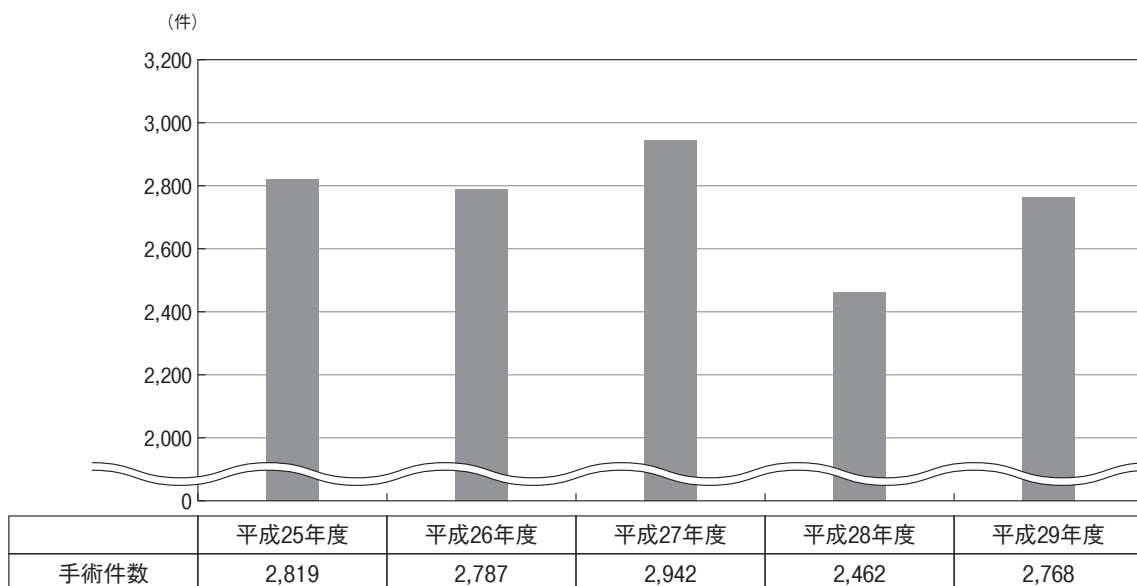
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	29年度 合計	28年度 合計
循環器内科 (全麻)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	21 (1)
消化器・一般外科 (全麻)	23 (21)	21 (16)	21 (18)	28 (27)	31 (25)	27 (25)	24 (22)	27 (23)	25 (21)	19 (17)	26 (24)	20 (19)	292 (258)	261 (221)
呼吸器外科 (全麻)	2 (2)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	5 (5)	7 (7)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	5 (5)	2 (2)	43 (43)	49 (48)
乳腺外科 (全麻)	4 (2)	5 (4)	4 (3)	6 (2)	8 (7)	4 (4)	8 (7)	7 (4)	4 (3)	4 (2)	4 (4)	4 (4)	62 (46)	71 (47)
産婦人科 (全麻)	76 (65)	79 (63)	90 (69)	84 (65)	98 (74)	80 (64)	92 (76)	89 (73)	100 (81)	76 (60)	80 (58)	100 (79)	1,044 (827)	1,086 (860)
整形外科 (全麻)	26 (16)	32 (23)	39 (32)	32 (24)	28 (24)	28 (21)	29 (22)	36 (28)	28 (22)	35 (28)	30 (24)	27 (19)	370 (283)	252 (161)
皮膚科 (全麻)	13 (0)	13 (0)	12 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)	13 (0)	17 (0)	14 (0)	14 (0)	10 (0)	12 (0)	163 (0)	244 (0)
泌尿器科 (全麻)	14 (3)	25 (3)	18 (5)	16 (3)	19 (5)	13 (7)	22 (6)	26 (7)	26 (5)	24 (9)	24 (13)	29 (9)	256 (75)	219 (68)
眼 科 (全麻)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0)	6 (0)	22 (0)	22 (0)	15 (0)	14 (0)	14 (0)	21 (0)	114 (0)	- (-)
耳鼻咽喉・頭頸部外科 (全麻)	14 (11)	18 (15)	23 (16)	5 (5)	13 (11)	9 (7)	10 (10)	10 (8)	15 (7)	9 (6)	12 (7)	13 (8)	151 (111)	252 (165)
形成再建外科 (全麻)	16 (0)	19 (2)	18 (3)	21 (4)	21 (4)	28 (3)	25 (6)	30 (4)	28 (4)	19 (1)	22 (1)	22 (2)	269 (34)	- (-)
麻酔・緩和医療科 (全麻)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)
合 計 (全麻)	188 (120)	216 (129)	229 (149)	210 (133)	241 (155)	215 (138)	250 (154)	267 (150)	257 (145)	218 (126)	227 (136)	250 (142)	2,768 (1,677)	2,462 (1,571)

中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[中央手術室]



② 診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）

循環器内科

総件数	176
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	120
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	12
経皮的冠動脈形成術(その他)	11
四肢の血管拡張術・血栓除去術	9
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	8
食道狭窄拡張術(拡張用バルーン)	2
体外ペースメーカーリング術	2
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	2

消化器内科

総件数	350
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	120
内視鏡的胆道ステント留置術	37
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	30
内視鏡的消化管止血術	29
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm以上)	19
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術(ENBD)	15
内視鏡的乳頭切開術(胆道碎石術を伴う)	12
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	11
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍粘膜下層)	11
小腸結腸内視鏡的止血術	10
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	10

血液・化学療法内科

総件数	14
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(自家移植)	4
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	3
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	3
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)(自家移植)	3
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	1

消化器・一般外科

総件数	278
腹腔鏡下胆嚢摘出術	65
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	30
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	18
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	16
腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)	10
腹腔鏡下結腸切除術(小範囲切除、結腸半側切除)	7
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)	7
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	6
肝切除術(亜区域切除)	5
人工肛門閉鎖術(腸管切除を伴う)	5
腹腔鏡下胃腸吻合術	5

呼吸器外科

総件数	43
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超える)	14
胸腔鏡下肺切除術 (肺嚢胞手術(楔状部分切除))	11
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	6
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	2
胸腔鏡下肺切除術(その他)	2

乳腺外科

総件数	70
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	15
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術	13
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	10
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	8
乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わない))	6
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm以上)	6
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	6

産婦人科

総件数	1099
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	210
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	199
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	147
膀胱脱手術(メッシュ使用)	55
子宮頸部(腔部)切除術	50
子宮内膜ポリープ切除術	47
流産手術(妊娠11週まで)	46
子宮内膜掻爬術	35
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	34
帝王切開術(緊急帝王切開)	33
卵管全摘除術(両側)(腹腔鏡)	26
帝王切開術(選択帝王切開)	24
子宮悪性腫瘍手術	20

整形外科

総件数	405
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (後方椎体固定)	59
人工関節置換術(膝)	51
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓切除)	37
人工骨頭挿入術(股)	31
骨折観血の手術(大腿)	25
骨折観血の手術(前腕)	19
人工関節置換術(股)	18
椎間板摘出術(後方摘出術)	14
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	13
骨折観血の手術(上腕)	12

皮膚科

総件数	3
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	3

泌尿器科

総件数	200
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	29
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道の手術)(その他)	21
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道の手術)(電解質溶液利用)	21
経尿道の尿管ステント留置術	17
経尿道の前立腺手術(電解質溶液利用)	16
経尿道の尿路結石除去術(レーザー)	14
経皮的腎(腎盂)瘻造設術	9
腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	8
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	8

眼科

総件数	112
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他)	105
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	2
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(縫着レンズ挿入)	1
硝子体切除術	1
網膜光凝固術(通常)	1
結膜結石除去術(少数)	1
後発白内障手術	1

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	169
口蓋扁桃手術(摘出)	69
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	24
声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡)	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	7
鼓膜切開術	5
鼓膜形成手術	5
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)	5
扁桃周囲膿瘍切開術	4
副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術(副甲状腺摘出術)	4

形成再建外科

総件数	102
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	19
眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	16
眼瞼下垂症手術(その他)	15
皮膚皮下粘膜下血管腫摘出術(露出部、長径3cm未満)	4
皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術(25cm ² 未満)	4
分層植皮術(100cm ² 以上200cm ² 未満)	3
全層植皮術(25cm ² 以上100cm ² 未満)	3
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術(軀幹)	3

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	15,230	44,879	60,108	13,001	48,270	61,271	15,041	47,157	62,198	14,207	48,250	62,457	14,855	39,931	54,786	14,900	50,128	65,028	15,154	49,971	65,126
消化器内科	28,210	39,043	67,253	25,302	33,226	58,528	27,337	29,371	56,709	28,927	33,552	62,479	35,854	37,811	73,666	30,006	32,906	62,912	31,058	38,201	69,259
総合内科	42,932	58,715	101,646	42,781	49,081	91,862	46,360	42,133	88,493	47,423	48,061	95,484	52,839	56,458	109,296	51,406	54,023	105,430	55,720	54,079	109,799
血液・ 化学療法内科	24,518	46,008	70,525	25,967	40,127	66,094	25,330	41,717	67,046	24,407	41,395	65,802	26,852	33,234	60,086	24,354	39,653	64,007	28,207	40,694	68,901
神経内科	3,500	12,885	16,386	3,178	11,855	15,033	3,540	13,391	16,930	3,796	16,029	19,825	4,061	13,873	17,934	3,570	14,453	18,024	4,211	12,406	16,616
腎臓内科	1,533	6,595	8,127	1,799	10,199	11,998	1,961	10,161	12,122	2,388	11,919	14,307	2,798	10,378	13,176	2,910	11,085	13,995	3,216	11,854	15,070
内科(計)	115,922	208,125	324,047	112,029	192,757	304,786	119,570	183,929	303,499	121,148	199,207	320,355	137,259	191,685	328,944	127,147	202,250	329,396	137,567	207,204	344,771
消化器・ 一般外科	8,578	26,866	35,444	9,085	23,750	32,835	9,308	24,649	33,957	8,655	35,322	43,976	9,334	33,425	42,758	7,804	29,905	37,709	8,936	30,693	39,628
呼吸器外科	365	4,371	4,736	382	5,261	5,643	358	5,295	5,653	489	6,322	6,811	452	6,068	6,520	664	11,793	12,458	601	7,361	7,962
乳腺外科	13,177	6,847	20,024	15,245	6,797	22,042	14,871	8,489	23,360	13,845	7,352	21,197	15,772	9,710	25,482	17,338	6,603	23,942	16,305	10,912	27,217
心臓血管外科	38	0	38	21	0	21	41	0	41	25	0	25	14	5	19	21	0	21	78	0	78
外科(計)	22,158	38,083	60,242	24,733	35,808	60,540	24,578	38,433	63,011	23,014	48,995	72,009	25,572	49,207	74,779	25,828	48,302	74,129	25,919	48,966	74,885
産婦人科	19,451	76,091	95,543	22,587	73,588	96,176	21,466	82,794	104,260	21,241	87,161	108,403	24,043	90,794	114,837	21,609	76,045	97,653	25,137	81,662	106,799
小児科	4,979	13,473	18,452	5,576	11,129	16,705	5,855	11,608	17,463	5,488	15,201	20,689	6,530	11,853	18,383	6,220	11,467	17,687	6,449	7,616	14,065
神経科・ 精神科	5,767	5,891	11,658	5,848	7,677	13,526	6,202	9,571	15,772	6,268	8,804	15,072	6,674	7,357	14,031	5,813	9,807	15,620	6,428	7,296	13,723
整形外科	8,350	37,719	46,069	9,707	50,457	60,163	8,059	58,961	67,020	7,371	55,091	62,462	9,176	47,936	57,112	8,455	46,823	55,278	8,896	47,547	56,444
皮膚科	26,429	10,744	37,173	30,469	10,841	41,309	28,084	9,872	37,956	27,028	9,890	36,918	33,530	12,053	45,583	29,759	15,478	45,237	30,832	10,037	40,869
泌尿器科	13,529	17,666	31,196	11,074	18,787	29,861	13,231	17,873	31,104	13,239	14,700	27,938	13,406	13,558	26,963	12,748	15,888	28,636	15,430	13,853	29,283
眼科	3,117	89	3,207	3,218	25	3,243	3,516	28	3,543	2,948	41	2,989	3,186	50	3,237	3,550	1,326	4,876	3,748	5,224	8,972
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	6,614	14,571	21,185	6,319	12,148	18,467	7,216	16,851	24,067	5,077	10,032	15,109	6,099	10,045	16,144	6,020	7,447	13,466	5,626	11,063	16,690
形成再建外科	1,128	902	2,030	1,077	3,419	4,496	989	3,357	4,346	1,500	6,837	8,337	1,217	4,807	6,024	1,451	3,573	5,025	1,427	6,464	7,891
放射線診断科	2,612	2,000	4,612	2,401	441	2,842	3,422	0	3,422	2,378	0	2,378	2,700	0	2,700	2,937	0	2,937	2,453	0	2,453
放射線治療科	3,447	892	4,339	2,573	648	3,221	3,955	2,098	6,053	2,685	1,624	4,309	802	1,218	2,021	2,764	1,492	4,256	2,994	2,364	5,359
麻酔・ 緩和医療科	278	1,360	1,638	310	1,398	1,707	246	1,585	1,831	231	1,191	1,421	308	1,829	2,137	201	1,449	1,650	226	1,823	2,049
リハビリ テーション科	253	1,924	2,177	489	5,205	5,693	752	8,177	8,929	850	7,619	8,469	860	8,480	9,340	646	8,151	8,796	588	7,842	8,430
救急診療 センター	5,087	8,962	14,048	5,594	9,934	15,529	4,164	13,991	18,155	3,499	15,791	19,291	3,102	13,865	16,967	2,454	11,929	14,383	1,990	17,682	19,671
糖尿病・ 内分泌センター	336	-	336	321	-	321	352	-	352	332	-	332	338	-	338	309	-	309	335	-	335
腎臓・透析 センター	457	-	457	426	-	426	335	-	335	432	-	432	479	-	479	504	-	504	347	-	347
その他	37	-	37	29	-	29	24	-	24	10	-	10	10	-	10	23	-	23	30	-	30
計	239,951	438,493	678,444	244,780	434,262	679,042	252,016	459,127	711,143	244,738	482,184	726,922	275,291	464,738	740,029	258,436	461,427	719,863	276,423	476,644	753,067
百分率	35%	65%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	34%	66%	100%	37%	63%	100%	36%	64%	100%	37%	63%	100%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
14,006	46,885	60,891	16,564	49,047	65,611	13,510	51,672	65,182	13,720	48,710	62,430	15,769	38,774	54,543	175,958	563,674	739,632	790,444	▲ 50,812
26,513	40,252	66,765	23,438	30,209	53,647	26,693	35,407	62,100	35,697	30,600	66,298	39,837	31,646	71,483	358,873	412,227	771,099	630,674	140,425
53,683	52,084	105,768	54,048	49,135	103,183	53,577	51,119	104,697	50,058	59,276	109,335	55,066	57,524	112,589	605,894	631,687	1,237,582	1,203,842	33,740
29,260	37,134	66,394	26,527	46,627	73,154	24,749	38,324	63,073	23,757	39,077	62,834	25,878	36,009	61,887	309,805	479,998	789,803	792,356	▲ 2,553
2,942	17,240	20,182	3,801	12,170	15,971	4,034	9,565	13,599	2,717	11,456	14,173	4,753	15,669	20,423	44,103	160,993	205,096	224,996	▲ 19,900
3,117	17,672	20,789	3,427	14,096	17,523	3,816	16,063	19,879	3,238	14,722	17,960	4,170	15,233	19,402	34,374	149,976	184,349	63,503	120,846
129,522	211,267	340,789	127,805	201,284	329,090	126,378	202,151	328,529	129,188	203,842	333,031	145,473	194,854	340,327	1,529,006	2,398,555	3,927,562	3,705,816	221,745
8,069	30,366	38,435	9,234	33,880	43,114	8,131	33,095	41,225	7,952	38,283	46,236	6,989	38,674	45,664	102,074	378,908	480,981	397,149	83,832
551	5,808	6,359	581	3,486	4,067	592	3,555	4,147	381	6,693	7,074	820	4,016	4,837	6,236	70,029	76,265	81,958	▲ 5,693
13,210	8,752	21,961	13,426	5,316	18,741	14,651	6,648	21,300	14,024	6,604	20,628	14,014	6,794	20,808	175,877	90,823	266,700	282,589	▲ 15,889
63	0	63	99	0	99	32	0	32	134	0	134	161	0	161	728	5	733	0	733
21,892	44,926	66,818	23,340	42,681	66,021	23,406	43,298	66,704	22,491	51,580	74,072	21,985	49,485	71,470	284,187	539,760	823,947	761,696	62,251
25,256	83,091	108,347	22,259	95,548	117,807	22,801	74,413	97,214	21,817	74,850	96,667	26,431	93,070	119,501	274,099	989,107	1,263,206	1,318,332	▲ 55,126
6,329	11,019	17,349	7,259	9,633	16,892	6,274	5,954	12,228	7,271	9,727	16,998	8,115	12,146	20,261	76,345	130,826	207,171	206,199	973
7,084	4,055	11,140	6,318	7,355	13,673	5,811	6,394	12,205	5,770	8,276	14,046	6,467	8,427	14,894	74,450	90,911	165,361	176,916	▲ 11,554
7,647	57,791	65,437	8,748	45,775	54,523	8,097	53,906	62,003	7,868	50,108	57,977	8,178	49,402	57,580	100,552	601,517	702,069	515,572	186,497
32,028	9,824	41,852	30,348	10,233	40,581	32,965	12,081	45,046	26,971	9,189	36,160	33,501	12,081	45,582	361,943	132,324	494,267	440,126	54,141
12,804	12,336	25,140	14,235	11,845	26,080	13,076	15,329	28,405	11,842	15,446	27,287	15,085	22,168	37,253	159,698	189,449	349,148	340,370	8,778
3,892	5,200	9,093	4,857	3,067	7,925	3,978	3,108	7,086	4,270	3,429	7,699	5,090	4,436	9,527	45,371	26,024	71,395	45,345	26,050
5,559	8,335	13,894	5,954	7,608	13,562	5,192	6,035	11,227	5,546	6,464	12,009	6,443	8,480	14,923	71,665	119,080	190,745	293,165	▲ 102,420
1,304	7,396	8,700	1,358	8,400	9,759	1,200	2,846	4,046	1,646	3,851	5,497	1,318	4,092	5,409	15,615	55,944	71,559	-	-
2,136	2	2,138	2,344	0	2,344	2,286	0	2,286	2,409	0	2,409	3,043	0	3,043	31,122	2,442	33,564	86,065	▲ 52,501
3,265	1,984	5,249	2,705	1,017	3,722	1,976	394	2,370	2,747	553	3,300	1,227	1,279	2,506	31,141	15,563	46,704	-	-
215	1,423	1,638	252	2,072	2,324	201	1,035	1,236	202	1,320	1,522	191	1,520	1,712	2,859	18,006	20,865	18,609	2,256
474	7,898	8,372	561	8,330	8,891	354	7,585	7,939	294	8,461	8,755	303	8,897	9,201	6,422	88,569	94,991	-	-
2,294	13,813	16,107	3,187	19,528	22,716	3,287	20,041	23,327	2,656	17,041	19,697	3,013	17,350	20,363	40,327	179,928	220,254	230,663	▲ 10,409
328	-	328	303	-	303	326	-	326	292	-	292	314	-	314	3,888	-	3,888	4,063	▲ 175
506	-	506	485	-	485	251	-	251	454	-	454	207	-	207	4,884	-	4,884	1,644	3,239
23	-	23	23	-	23	16	-	16	19	-	19	19	-	19	263	-	263	418	▲ 155
262,557	480,362	742,919	262,341	474,378	736,720	257,875	454,568	712,443	253,753	464,138	717,892	286,403	487,689	774,092	3,114,564	5,578,012	8,692,576	8,144,998	547,578
35%	65%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	37%	63%	100%	36%	64%	100%		

[医事サービス部]

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差 額
初診料	3,878	4,324	4,534	4,354	4,761	3,987	4,082	3,541	4,283	4,340	4,042	4,569	50,694	57,515	▲ 6,821
再診料	10,504	10,828	11,570	11,008	11,448	11,196	11,531	11,366	11,776	11,167	10,625	11,983	135,004	124,756	10,248
指導料	25,131	26,357	26,971	24,075	28,319	26,949	25,622	29,010	26,592	27,208	27,106	28,805	322,145	279,512	42,633
処方料	15,003	12,855	9,905	15,184	20,579	16,098	17,557	12,026	11,879	10,499	22,224	26,511	190,319	148,079	42,240
注射料	53,155	55,039	53,261	52,735	65,958	57,096	67,836	65,527	63,463	65,939	57,958	65,475	723,442	721,218	2,224
処置料	3,006	3,165	3,145	3,156	3,174	3,087	3,312	3,674	3,277	3,081	3,282	3,799	39,157	38,335	822
手術料	6,726	6,037	7,715	6,279	5,030	4,410	6,712	4,359	5,154	5,654	4,324	5,149	67,549	52,549	15,000
検体検査料	74,232	76,875	80,489	77,475	83,167	82,206	84,099	80,281	81,257	79,969	74,484	85,673	960,207	896,865	63,342
画像検査料	30,160	30,123	33,767	31,481	34,445	33,841	33,872	31,581	33,205	31,683	30,737	34,843	389,739	351,594	38,145
リハビリ その他	13,769	13,262	15,018	13,728	12,213	13,557	14,314	14,219	13,968	12,643	12,716	12,520	161,928	163,083	▲ 1,155
自費	4,388	5,914	5,640	5,263	6,196	6,009	7,485	6,974	7,488	5,691	6,256	7,076	74,381	79,240	▲ 4,859
計	239,951	244,780	252,016	244,738	275,291	258,436	276,423	262,557	262,341	257,875	253,753	286,403	3,114,564	2,912,746	201,818

[医事サービス部]

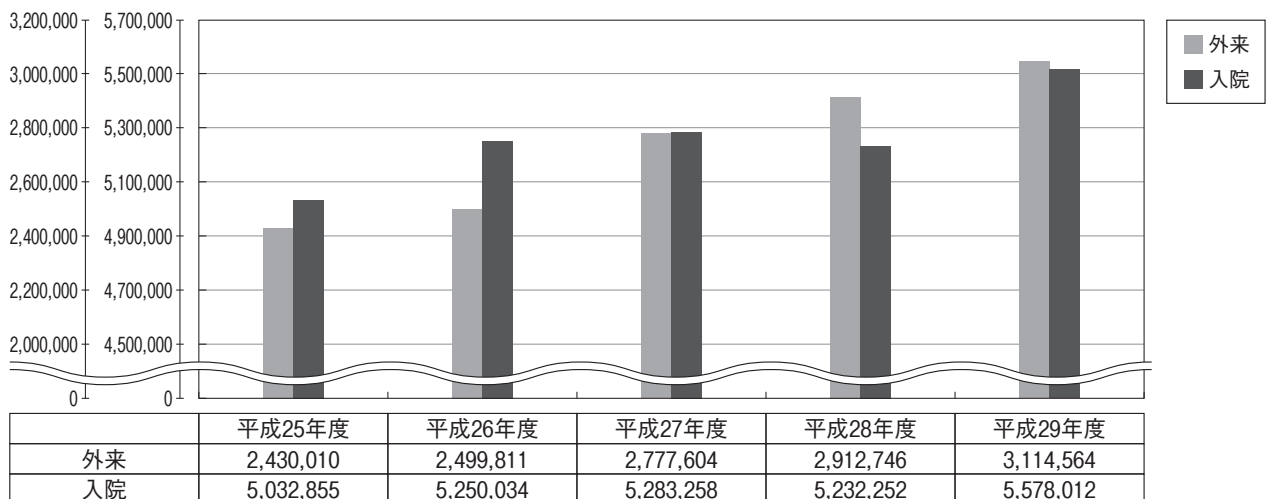
② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累 計	対前年 差 額
診察料	500	554	450	529	474	385	526	499	567	467	340	425	5,716	5,577	139
指導料	5,116	5,930	5,896	5,735	5,512	5,293	5,292	5,246	5,330	5,086	4,792	5,362	64,589	63,657	932
処方料	4,766	4,411	3,977	5,064	4,006	4,074	4,449	4,218	5,076	4,763	5,136	5,650	55,589	51,114	4,475
注射料	5,627	3,927	3,850	4,377	4,896	5,651	6,062	7,111	6,787	5,053	6,291	4,586	64,217	68,077	▲ 3,860
処置料	2,252	2,698	1,870	2,743	1,822	3,171	2,485	2,665	3,284	2,784	3,542	3,682	32,998	16,698	16,300
手術料	92,972	105,550	118,882	112,819	109,941	104,253	123,313	125,304	113,414	109,758	108,005	111,054	1,335,264	1,178,118	157,146
検体検査料	7,668	6,792	6,880	6,803	7,893	8,132	8,846	8,887	7,989	8,022	8,121	8,030	94,062	89,981	4,081
画像検査料	1,271	1,109	1,065	1,132	1,196	974	1,419	1,379	1,311	1,476	1,308	1,295	14,934	12,867	2,067
リハビリ その他	8,940	8,420	11,510	10,063	10,545	10,449	10,832	10,491	10,082	8,547	9,235	10,344	119,459	115,664	3,795
入院料	47,963	41,264	40,831	44,201	39,408	45,496	48,175	45,842	46,551	45,023	47,699	47,822	540,273	518,359	21,914
DPC	223,251	218,728	227,575	244,438	237,335	230,886	226,741	226,793	230,634	223,535	226,459	246,046	2,762,421	2,625,311	137,110
食事療養費	14,168	13,883	13,877	15,022	14,645	14,557	14,051	14,570	14,663	14,145	14,316	15,024	172,922	166,341	6,581
自費	24,000	20,997	22,464	29,257	27,067	28,107	24,453	27,357	28,691	25,908	28,896	28,370	315,568	320,489	▲ 4,921
計	438,493	434,262	459,127	482,184	464,738	461,427	476,644	480,362	474,378	454,568	464,138	487,689	5,578,012	5,232,252	345,760

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



3. その他統計

1 病院従業員数（平成29年4月1日時点）

			職員		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート	
			男	女					
医 師	29年度	80	64	16	8	12	3	46	
	28年度	68	57	11	11	11	2	47	
薬 剤 師	29年度	12	5	7				4	
	28年度	12	5	7				3	
放射線技師	29年度	15	9	6					
	28年度	13	9	4					
臨床検査技師	29年度	23	11	12				2	
	28年度	23	10	13				5	
理学療法士	29年度	10	9	1					
	28年度	10	8	2					
作業療法士	29年度	1	1						
	28年度	1		1					
管理栄養士	29年度	1		1				2	
	28年度	1		1				2	
ケースワーカー	29年度	3		3				1	
	28年度	3		3				1	
視能訓練士・眼鏡士	29年度	2		2			2	3	
	28年度	2		2				4	
臨床心理士	29年度							1	
	28年度							1	
臨床工学技士	29年度	5	2	3					
	28年度	4	1	3					
看護師	29年度	297	8	289				20	
	28年度	291	7	284				17	
准看護師	29年度							8	
	28年度							7	
看護助手	29年度							10	
	28年度							8	
事務員	29年度	47	29	18				23	
	28年度	40	24	16				23	
一般技能労務職	29年度	1	1				1	3	
	28年度	1	1				1	3	
小 計		29年度	497	139	358	8	12	4	125
		28年度	469	122	347	11	11	3	121
ニッセイ予防医学センター	医 師	29年度	5	4	1			1	1
		28年度	4	3	1			2	1
	放射線技師	29年度	4	2	2				14
		28年度	5	2	3				12
	臨床検査技師	29年度	5		5				12
		28年度	5		5				11
	臨床心理士	29年度							2
		28年度							2
	看 護 師	29年度	6		6				7
		28年度	6		6				7
	事 務 員	29年度	11	5	6				22
		28年度	10	5	5				21
	一般技能労務職	29年度	1	1					
		28年度	1	1					
小 計		29年度	32	12	20			1	58
		28年度	31	11	20			2	54
訪問看護	看護師	29年度	7	1	6				6
		28年度	7		7				6
小 計		29年度	7	1	6				6
		28年度	7		7				6
総 計		29年度	537	153	384	8	12	5	189
		28年度	508	134	374	11	11	5	181

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

消化器内科 2 件、消化器・一般外科 1 件、乳腺外科 1 件、産婦人科 4 件、泌尿器科 1 件、

耳鼻咽喉・頭頸部外科 1 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部 長：岡部太一
担当部長：中川 厚
副 部 長：谷川 淳、徳岡孝仁
副 医 長：吉川秀人
専 攻 医：長谷川仁美

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

冠動脈造影検査についても近年は年間400件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も150件前後で推移（うち緊急症例17例）、大きな合併症なく良好な成績を上げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても積極的に対応している。

待機的なPCI例については可能な限り、シンチ検査や運動負荷シンチ検査にて虚血評価を実施の上、カテーテル治療を実施している。

本年度はこれまでの中川担当部長に加えて、4月より大阪医科大学循環器内科より谷川副部長が赴任、日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医の2人体制でより時間的制約が少なくなり、より緊急時についても積極的な治療を時間制限が少なく実施出来ることが可能となった。

また糖尿病患者や高齢患者の増加に伴い閉塞性動脈硬化症も増加しており、当院にても経皮的血管形成術（PTA）の件数は増加傾向にあり、伴い更なる増加が見込まれる。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋焼灼術については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学循環器内科の協力のもと当院にてアブレーション治療を可能な体制を構築しているが、本年度は対象症例が無く実施していないが、今後も適時臨時で対応していく予定である。

徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）についても平成27年6月よりより感染面を考慮、手術に適した環下において手術室にて上級医師の指導の下、吉川副医長にて植込み手術を実施している。

また平成28年9月より心臓リハビリテーションを当院でも開始、急性心筋梗塞後のみならず、冠動脈インターベンションや冠動脈バイパス術後を含めた冠動脈疾患全般に対して運動療法や患者教育、カウンセリングを包括的行う心臓リハビリテーションが運動耐応能を改善するとともに、二次予防に有用であることが十分なエビデンスとともに確立、心不全に対する心臓リハビリテーションも運動療法が運動耐応能を改善、再

入院率の低下や長期生命予後の改善に有効、多面的効果を有することから、リハビリテーション科との連携で心疾患入院患者（心不全・心筋梗塞・狭心症・下肢閉塞性動脈硬化症）を対象に心臓リハビリテーション実施、年間の件数3,173件と前年の291件より著増している。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、常勤の循環器専門医3名の指導のもと循環器一般診療・内科一般疾患に対しても幅広く診療を行っている。

循環器疾患以外にもそれに付随した関連疾患の診療も他科と協力しながら行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜日全日、水曜・木曜・金曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜・水曜・木曜 午後）
- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（適時）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
- ・ホルター心電図検査（月～木曜 午前）
- ・CPX：心肺運動負荷試験（適時）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

3) 検査実績

心臓カテーテル検査件数：558件

PCI（冠動脈インターベンション治療）：192件（内、緊急17件）

PTA（経皮的動脈形成術）：22件

ペースメーカー治療（新規/交換）：2/1件

ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：0件

冠動脈CT：395件

心臓超音波検査：3,550件

経食道心臓超音波検査：17件

トレッドミル負荷心電図：206件

負荷心筋シンチ：137件
 安静心筋シンチ：9件
 ホルター心電図検査：275件
 CPX検査：8件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医 4名
 日本内科学会総合内科専門医 1名
 循環器専門医 3名
 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医 2名

5. 業績

論文・著書

1. Muratsu J, Koseki M, Masuda D, Yasuga Y, Tomoyama S, Ataka K, Yagi Y, Nakagawa A, Hamada H, Fujita S, Hattori H, Ohama T, Nishida M, Hiraoka H, Matsuzawa Y, Yamashita S: Accelerated Atherogenicity in Tangier Disease, A case accompanied by extensive atherosclerotic lesions, Leriche syndrome and bleeding tendency, and review of the literature. J Atheroscler Thromb. Published online, 25, 2018年.

学会発表

1. 谷川 淳, 石坂信和: Aspiration Thrombectomy- still an attractive procedure for selected patients, 第26回日本心血管インターベンション治療学会学術集会シンポジウム, 2017年7月, 京都.
2. 谷川 淳, 共同演者長: 谷川仁美, 吉川秀人, 徳岡孝仁, 中川厚, 岡部太一: 治療戦略に悩んだLMT分岐部病変の一例, 第29回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2017年10月, 大阪.
3. 山川明希子, 長谷川仁美, 吉川秀人, 徳岡孝仁, 谷川 淳, 中川厚, 岡部太一: 瘤状化病変を伴う左冠動脈主幹部を認めた狭心症の一例, 第124回日本循環器学会地方会, 2017年11月, 大阪.
4. 竹内聡礼, 徳岡孝仁, 長谷川仁美, 吉川秀人, 谷川 淳, 中川厚, 岡部太一: ST上昇型急性心筋梗塞に対してステントを使用せず治療し得た超高齢女性の一例, 第219回日本内科学会近畿地方会, 2018年3月, 大阪.

研究会発表

1. 吉川秀人: 造影剤を最小限で行ったCDFIガイドPCIの一例, JMN循環器懇話会, 2017年5月, 大阪.
2. 谷川 淳: Recent occlusion case showing the usefulness of staged procedure using rotational atherectomy, K-imaging, 2017年6月, 韓国, ソウル.
3. 中川 厚: PCI患者における抗血栓療法と出血性合併症の予防, 循環器Seminar, 2017年10月, 大阪.
4. 谷川 淳: 珍しい冠動脈瘤の診断とその経過, 共に診る循環器疾患 ずっと支える. もっと役立つ., 2017年10月, 大阪.
5. 岡部太一: フレイル高齢者心疾患の管理, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
6. 長谷川仁美: 冠動脈主幹部に冠動脈瘤?を認めた症例について, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
7. 岡部太一: 胸部大動脈瘤の2例, JMN循環器懇話会, 2017年11月, 大阪.
8. 吉川秀人: 早発冠動脈疾患の一例, 大阪西部Hyperlipidemia Symposium, 2018年2月, 大阪.
9. 谷川 淳: 急性冠症候群初期診断で気をつけたいこと, あわぎ脳卒中フォーラム, 2018年2月, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
2診	岡部	谷川			岡部 ※①	岡部	谷川	吉川	岡部	
3診	中川	徳岡	岡部		中川/ 長谷川 ※②	吉川	濱田	中川	徳岡	中川
6診										交代
7診										長谷川仁

※①1・3・5週は初診 ※②中川は1・4・5週初診、長谷川は2・3週の初診のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス 心臓カテーテル
午後				部長回診 カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
頸動脈エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
ホルター心電図	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予			
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
トレッドミル		○ 診				○ 診		○ 診		
心臓カテーテル検査	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診		○ 診		○ 診	
負荷心筋シンチ									○ 診	

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	13,965 ※	13,433	13,744	13,827	14,750
入院	11,229 ※	11,420	12,924	12,044	10,706

※H25.4～循環器内科・神経内科から神経内科を分離新設

表5 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症および慢性虚血性心疾患	388	6
心不全	101	29
心臓および血管の挿入物および移植片の存在	40	4
アテローム<じゅく>粥状>硬化（症）	29	16
急性心筋梗塞	21	23
心房細動および粗動	20	20
睡眠障害	13	2
その他の不整脈	13	15
静脈炎および血栓（性）静脈炎	13	24
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	13	22

スタッフ 部長：有坂好史
 担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長）
 副 部長：村本 理、田中敏雄
 医 長：河田奈都子、八木洋輔
 副 医 長：北田隆起
 兼 任：中村秀次（ニッセイ予防医学センター長）

1. 診療内容

消化器癌の早期発見・適切な治療、患者さんにやさしい医療・全人的な医療をモットーとして、平成28年9月より内科外科の合同カンファレンスを開始し、外科・放射線科との連携のもと早期診断・最新の治療に努めている。上部内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。超音波内視鏡検査も開始し、膵腫瘍を中心として超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。大腸内視鏡検査においてもNBI拡大内視鏡、ピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の粘膜下剥離術（ESD）も積極的に実施している。また、平成28年度より大腸のESD治療も開始した。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1、Gemcitabine、nab-PTXを中心とした化学療法を行い、進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行っている。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル、テノホビル、TAF投与を行い、C型慢性肝炎に対してIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては、肝癌の早期発見または発癌抑制も踏まえて、きめ細かな外来治療を実施している。分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法を行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、肝動注療法も適宜併用し、また局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては分子標的治療薬を積極的に導入し、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医	4名
日本内科学会総合内科専門医	3名
日本内科学会認定指導医	3名
日本消化器病学会認定専門医	7名
日本消化器病学会認定指導医	3名
日本消化器内視鏡学会認定専門医	6名
日本消化器内視鏡学会認定指導医	3名
日本肝臓学会認定肝臓専門医	4名
日本肝臓学会認定指導医	1名
日本胆道学会認定指導医	1名
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名
日本超音波医学会専門医	1名
日本がん治療認定医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Nakagawa T, Masuda A, Toyama H, Shiomi H, Zen Y, Sofue K, Takenaka M, Kobayashi T, Yagi Y, Yamanaka K, Yoshida M, Arisaka Y, Okabe Y, Kutsumi H, Fukumoto T, Ku Y, Azuma T: Smoking status and the incidence of pancreatic cancer concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasm, *Pancreas* 2017, 46:582-588, 2017年.
2. Otake Y, Fukuoka H, Yamamoto M, Arisaka Y, Konishi J, Yoshida K, Matsumoto R, Bando H, Suda K, Nishizawa H, Iguchi G, Yamada S, Ogawa W, Takahashi Y.: Cross-sectional prevalence of pancreatic cystic lesion in patients with acromegaly, a single-center experience, *Pituitary*, 20: 509-514, 2017年.
3. Yagi Y, Masuda A, Zen Y, Shiomi H, Toyama H, Sofue K, Takenaka M, Kobayashi T, Nakagawa T, Yamanaka K, Ikegawa T, Hoshi N, Yoshida M, Arisaka Y, Okabe Y, Kutsumi H, Fukumoto T, Ku Y, Azuma T.: Pancreatic inflammation and atrophy are not associated with pancreatic cancer concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasm, *Pancreatology* 2018, 18:54-60, 2018年.
4. Nagano H, Obi S, Hatano E, Kaneko S, Kanai F, Omata M, Tsuji A, Itamoto T, Yamamoto K, Tanaka M, Kubo S, Hirata K, Nakamura H, Tomimaru Y, Yamanaka T, Kojima S, Monden M: Multicenter, randomized, controlled trial of S-1 monotherapy versus S-1 and interferon- α combination therapy for hepatocellular carcinoma with extrahepatic metastases, *Hepatol Res*, 48(9): 717-726, 2018年.
5. Masuda A, Fujita T, Murakami M, Yamazaki Y, Kobayashi M, Terao S, Sanuki T, Okada A, Adachi M, Shiomi H, Arisaka Y, Kutsumi H, Umegaki E, Azuma T: Influence of hiatal hernia and male sex on the relationship between alcohol intake and occurrence of Barrett's esophagus., *PLOS ONE* 2018 Feb, e0192951, 2018年.
6. 北田隆起, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次: 直腸癌術後14年後に人工肛門より出血を来した、虚血性腸炎の診断に至った1例, *日生病院医学雑誌*, 45: 49-53, 2017年.
7. 家本孝雄, 有坂好史, 竹中 完, 増田充弘, 塩見英之, 岡部純弘, 外山博近, 全 陽: 特異な画像所見を呈し術前診断に苦慮したPancreatobiliary-type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasmの1例, *膵臓* 2017, 32:727-735, 2017年.

8. 酒井 新, 竹中 完, 池田篤紀, 小林 隆, 塩見英之, 増田充弘, 有坂好史, 岡部純弘, 原 重雄, 全 陽, 東 健: 通常型膵管癌との鑑別が困難であった膵神経内分泌癌の1例, 膵臓 2017, 32:892-835, 2017年.
9. 八木洋輔, 有坂好史, 酒井 新, 小林 隆, 竹中 完, 塩見英之, 増田充弘, 岡部純弘: 内視鏡的乳頭切除術に伴う出血に対する内視鏡的止血法の検討, 胆道 2017, 31:787-792, 2017年.
10. 有坂好史, 田中敏雄, 北田隆起, 八木洋輔, 河田奈都子, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次: 特集ERCPのエキスパートを目指して, 「トラブルシューティング」バスケット嵌頓への対処, 消化器内視鏡 2017, 29:931-936, 2017年.
11. 有坂好史: 消化器内視鏡－私の流儀. 画像で考える胆管深部挿管の実践理論, 消化器内視鏡 2017, 29:1070-1073, 2017年.

学会発表

1. 北田隆起, 村本 理, 河田奈都子, 中村秀次: C型肝硬変患者における経口DAA療法によるSVR前後のGlycated albumin/HbA1c ratioの変化, 第53回肝臓学会総会, 2017年6月, 広島.
2. 北田隆起, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 有坂好史, 湯川雅彦, 中村秀次, 加藤るり: 黒色便を契機に発見され, 急速な進行を来したびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例, 第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 2017年6月, 神戸.
3. 田中敏雄, 有坂好史, 中村秀次, 湯川雅彦, 村本 理, 河田奈都子, 北田隆起: 食道胃接合部癌の1例, 第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 2017年6月, 神戸.
4. 八木洋輔, 田中敏雄, 有坂好史, 中村秀次, 湯川雅彦, 村本 理, 河田奈都子, 北田隆起: EUS-FNAにて診断し得た結核性リンパ節炎の1例, 第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 2017年6月, 神戸.
5. 田中敏雄, 北田隆起, 八木洋輔, 河田奈都子, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次, 有坂好史: EUS-FNAにて診断し得た類上皮型Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の一例, 第107回日本消化器病学会近畿支部例会, 2017年9月, 大阪.
6. 小林 隆, 那賀川峻, 有坂好史, 田中俊多, 中野遼太, 山田恭孝, 藤垣誠治, 池川卓哉, 江崎 健, 家本孝雄, 酒井 新, 増田充弘, 塩見英之, 東 健: O-78「切除企図肝門部胆管癌に対する術前胆道ドレナージの検討」, 第53回日本胆道学会学術集会, 2017年9月, 山形.
7. 八木洋輔, 増田充弘, 田中俊多, 中野遼太, 吉田竜太郎, 山田恭孝, 池川卓哉, 藤垣誠治, 江崎 健, 家本孝雄, 那賀川峻, 小林 隆, 酒井 新, 塩見英之, 外山博近, 全 陽, 有坂好史, 東健: IPMN由来浸潤癌および併存膵癌におけるEUS背景膵所見の有用性, JDDW2017FUKUOKA 第94回日本消化器内視鏡学会総会, 2017年10月, 福岡.
8. 八木洋輔, 有坂好史, 北田隆起, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次, 水野 均, 城光寺 龍: 興味深い病理結果を呈した胆嚢ポリープの1例, 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 2017年11月, 京都.
9. 北田隆起, 八木洋輔, 河田奈都子, 村本 理, 有坂好史, 中村秀次: ウイルス性急性肝炎と鑑別を要したラニナミビルによる薬剤性肝障害の1例, 第42回日本肝臓学会西部会, 2017年11月, 福岡.
10. 榎本平之, 中村秀次, 井上美奈子, 宮本優帆, 石井紀子, 中野智景, 由利幸久, 長谷川国大, 高田 亮, 楊和典, 石井昭生, 高嶋智之, 坂井良行, 会澤信弘, 池田直人, 西村貴士, 西川浩樹, 岩田恵典, 飯島尋子, 西口修平: 肝癌由来増殖因子 (HDGF) によるmicroRNA変動の検討, 第42回日本肝臓学会西部会, 2017年11月, 福岡.
11. 有坂好史: 膵嚢胞性病変のUp to date－検診における膵嚢胞の取り扱い－, 日本保険医学会関西支部学術講演会, 2018年2月, 中之島.
12. 北田隆起, 有坂好史, 八木洋輔, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次, 小関萬里, 城光寺 龍: 肝外突出型の限局性結節性過形成の1例, 第108回日本消化器病学会近畿支部例会, 2018年3月, 京都.

研究会発表

1. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新治療とこれからの病診連携, 港区医師会学術講演会, 2017年4月, 大阪.
2. 中村秀次: 肝硬変の合併症マネジメント, 第80回西宮地域医療連携セミナー西宮市医師会学術講演会, 2017年6月, 西宮.
3. 有坂好史: 偶然発見された胆膵疾患の取り扱い, ニッセイ医学セミナーUpdate, 2017年6月, 大阪.
4. 北田隆起: ウルソデオキシコール酸服用にて改善を認めた肝サルコイドーシスの1例, 第17回OLD-CC, 2017年6月, 大阪.
5. 有坂好史: 膵嚢胞とIPMN, あわぎフォーラム, 2017年7月, 大阪.
6. 有坂好史: 一般診療における膵癌のリスクファクター, 実地医科における消化器疾患を考える会, 2017年7月, 大阪.

7. 村本 理: B型慢性肝疾患 ～発癌抑制に向けて今できること～, 西部大阪肝疾患地域連携会, 2017年9月, 大阪.
8. 村本 理: 新しいB型肝炎治療薬『TAF』への期待, 第4回あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 2017年10月, 大阪.
9. 中村秀次: C型肝炎治療の現況と今後～病診連携をふまえて～, 第4回あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 2017年10月, 大阪.
10. 中村秀次: 肝硬変の合併症の治療～栄養療法も含めて～, 西部大阪肝疾患地域連携会 市民公開講座～肝臓病を知る～, 2017年11月, 大阪.
11. 北田隆起: 肝外突出型肝腫瘍の症例について, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
12. 田中敏雄: 慢性便秘診療ガイドラインと今後の便秘治療, あわぎ合同消化器病診連携会, 2017年12月, 大阪.
13. 田中敏雄: GERDの診断と治療, 第14回Keihanshin腹部救急研究会, 2018年2月, 大阪.
14. 北田隆起: 黄疸の1例, 第14回Keihanshin腹部救急研究会, 2018年2月, 大阪.
15. 中村秀次: 潰瘍性大腸炎の治療変遷, 西成区保険薬局部会研修会, 2018年2月, 大阪.
16. 田中敏雄: 内視鏡治療について, 大塚製薬 社内講演会, 2018年3月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
6診	北田		村本	北田※②	八木	村本	中村	中村	村本	
7診	有坂	八木※①	田中敏		中村		湯川		田中敏	
10診									有坂	

※①2・4週の初診のみ ※②1・3・5週の初診のみ

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ	胃カメラ
午後		16:30 カンファレンス		17:00 カンファレンス 抄読会	16:30 カンファレンス

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃	●		●		●		●		●	
内視鏡 大腸		○診		○診		○診				○診

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	14,165	14,044	14,908	15,255	17,192
入院	7,924	10,098	6,268	8,423	9,712

表 5 H29.4～H30.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	100	3
肝および肝内胆管の悪性新生物	74	19
胆石症	61	13
胃の悪性新生物	49	11
腸の憩室性疾患	39	6
腸のその他の疾患	31	3
結腸の悪性新生物	28	13
麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	25	14
膵の悪性新生物	24	18
急性膵炎	24	18

スタッフ 部長：立花 功（副院長、内科統括）
 担当部長：小瀬戸昌博（中央臨床検査部長）
 住谷 哲（糖尿病・内分泌センター長代行、ニッセイ予防医学センター
 予防医療部担当部長）
 三木俊治
 副 部 長：田村慶朗
 医 長：宇都佳彦
 副 医 長：二宮隆介
 専 攻 医：大畔健太、石川那智、魚田晃史
 兼 任：佐藤文三（名誉院長）、笠山宗正（院長）

1. 診療内容

総合内科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患・呼吸器疾患を対象に診療を行なっている。その内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトアシッドや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、SLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、（生物学的製剤の使用を含む）慢性関節リウマチ治療、そして肺がんの診断・（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含む）薬物療法・放射線治療・緩和治療、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなどの診断・治療である。

平成29年4月より、宮武明彦医師による気管支喘息専門外来を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

内科外来1、7、10～13診察室で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は48、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医3名、常勤医3名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：中央放射線部（水曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来延べ患者数は平成24年度以降増加を続けており、特に平成29年度は42,845人と平成28年度33,616人から9,229人増加した。これは宮武医師による気管支喘息専門外来の寄与が大きい。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延べ患者数も平成24年度以降増加を続けていたが、平成29年度は16,802人と平成28年度17,016人から214人減少した。

3) 検査実績

気管支鏡検査は全例検査入院で施行している。検査数は平成28年度103件、平成29年度103件と横ばいであった。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	11名
日本内科学会認定指導医	7名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本内分泌学会専門医・指導医	4名
日本糖尿病学会専門医・指導医	2名
日本リウマチ学会専門医	1名
日本アレルギー学会専門医	2名
日本アレルギー学会指導医	1名
日本呼吸器学会専門医	2名
日本呼吸器学会指導医	1名
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医	1名
日本高血圧学会指導医	1名
日本人間ドック学会専門医・指導医	2名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	1名

5. 業績

論文・著書

- Edahiro Y, Nishina S, Ishikawa N, Tamura Y, Utsu Y, Ishii S, Kogetsu A, Okuro K, Suzuki M, Koseto M, Sumitani S, Sato B, Kasayama S, Tachibana I: Non-hyperinflated lungs in patients with COPD and type 2 diabetes, J Diab Rel Dis, 2:108-112, 2017年.
- Suzuki S, Furuya A, Tanahashi Y, Azuma H, Bando Y, Kasayama S, Koga M: Glycemic control indicator levels at diagnosis of neonatal diabetes mellitus: Comparison with other types of insulin-dependent diabetes mellitus, Pediatr Diabetes, 18:767-771, 2017年.
- Koga M, Inada S, Nakao T, Kawamori R, Kasayama S: The glycated albumin (GA) to HbA1c ratio reflects shorter glycemic control status more than GA, analysis of patients with fulminant type 1 diabetes. J Clin Lab Anal, 31:p1-p6, 2017年.
- 田中庸弘, 田村慶朗, 石井誠剛, 大畔健太, 仁科周平, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 笠山宗正, 立花 功: 肝障害によりゲフィニチブが薬剤熱によりエロニチブが使用できなかったが、アフエニチブにより治療できた非小細胞性肺癌の症例, 日生医誌, 45:84-88, 2017年.
- 笠山宗正: 内科診療に役立つステロイド療法のエッセンス,

学会発表

1. 大畔健太, 住谷 哲, 宇都佳彦, 魚田晃史, 石川那智, 古結敦士, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正, 横井一範, 東山眞里: 角層下膿疱症 (Sneddon-Wilkinson症候群) に合併したTSH/ACTH分泌低下症の一例, 第90回日本内分泌学会学術総会, 2017年4月, 京都.
2. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 東山眞里: ステロイド外用剤による続発性副腎皮質機能低下症患者におけるカテコラミン分泌障害, 第90回日本内分泌学会学術総会, 2017年4月, 京都.
3. 稲田慎也, 中尾大成, 河盛隆造, 笠山宗正, 古賀正史: グリコアルブミン (GA) /HbA1c比はGAに比しより短期の血糖を反映する - 劇症1型糖尿病症例を用いた検討 -, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
4. 笠山宗正, 住谷 哲, 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 立花 功, 佐藤文三: 2型糖尿病の初回治療薬としてのメトホルミンの長期有効性に関連する因子の検討, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
5. 住谷 哲, 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 石川那智, 西山祐輝, 立花 功, 笠山宗正: 高齢2型糖尿病患者におけるグリコアルブミン (GA) /HbA1c比に与える糖尿病治療薬の影響, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
6. 鈴木 滋, 古谷曜子, 棚橋祐典, 東 寛, 番度行弘, 笠山宗正, 古賀正史: 新生児糖尿病の初診時の血糖コントロール指標: 他のインスリン依存性糖尿病との比較, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
7. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 西山祐輝, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 糖尿病性多発神経障害 (DPN) 重症度は左室拡張能低下の独立した関連因子である, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
8. 倉本訓子, 福田志穂美, 若原達哉, 玉川雄一, 内野高裕, 天野精子, 池田久美, 吉田隆則, 水口洋一, 小瀬戸昌博, 川上 学, 住谷 哲, 笠山宗正, 青木義政, 石橋みどり, 古賀正史: 血漿グリコアルブミンが偽低値を呈した原発性マクログロブリン血症の1例, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
9. 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 石川那智, 西山祐輝, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 後期高齢2型糖尿病患者におけるメトホルミンの使用実態, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
10. 住谷 哲, 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 石川那智, 西山祐輝, 立花 功, 笠山宗正: 高齢2型糖尿病患者におけるグリコアルブミン (GA) /HbA1c比に与える糖尿病治療薬の影響, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
11. 岡安 唯, 藤田信哉, 赤羽 誉, 細野研二, 北原 紘, 小瀬戸昌博, 三谷和男: 漢方治療の併用が有効であったと考えられたCogan症候群の一例, 第68回日本東洋医学会学術総会, 2017年6月, 名古屋.
12. 大畔健太, 二宮隆介, 田村慶朗, 魚田晃史, 石川那智, 宇都佳彦, 三木俊治, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 佐藤文三, 笠山宗正, 立花 功: 胸部レントゲンでの横隔膜挙上から気管分岐部を閉塞する中枢気道内腫瘍を診断し得た1例, 第89回日本呼吸器学会近畿地方会, 2017年7月, 大阪.
13. 笠山宗正: 2型糖尿病の心血管疾患の克服に向けて - residual riskを考える, 平成29年日本保険医学会関西支部学術講演会, 2017年9月, 大阪.
14. 笠山宗正: 教育講演: 内科診療に役立つステロイド療法のエッセンス, 第31回日本臨床内科医学会, 2017年10月, 大阪.
15. 立花 功, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 田村慶朗: 2型糖尿病合併COPDでは, 胸部X線での肺過膨張を示さない, 第41回大阪府医師会医学会総会, 2017年11月, 大阪.
16. 加藤更紗, 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 立花 功, 笠山宗正, 川上 学, 福井辰成, 住谷 哲: 副腎皮質機能低下症に加えてアドレナリン分泌低下を認めた副腎原発悪性リンパ腫

の1例, 第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 2017年11月, 大阪.

17. 魚田晃史, 角南ちえ子, 出口暁子, 大畔健太, 宇都佳彦, 立花功, 笠山宗正, 青木保典, 住谷 哲: メトホルミン投与後に著明な体重減少を認めた統合失調症合併2型糖尿病患者の1例, 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 2017年11月, 大阪.
18. 大畔健太, 宇都佳彦, 石川那智, 魚田晃史, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲, 小関萬里: 従来のスクリーニング基準を満たさなかったインスリンノーマの1例, 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 2017年11月, 大阪.
19. 石川那智, 魚田晃史, 大畔健太, 二宮隆介, 宇都佳彦, 田村慶朗, 三木俊治, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 立花 功: 難治性中耳炎発症後に発熱を筋炎を認めANCA関連血管炎性中耳炎と診断した1例, 第218回日本内科学会近畿地方会, 2017年12月, 大阪.
20. 齋藤洋一, 押野 悟, 後藤雄子, 大月道夫, 向井康祐, 木下 学, 笠山宗正: シンポジウム: アクロメガリーの治療と長期予後. 先端巨大症の術後長期成績, 第28回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2018年2月, 浜松.
21. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 生田武蔵, 立花 功, 住谷 哲, 笠山宗正: ACTH単独欠損症の臨床的特徴と血清コルチゾール値との関連, 第28回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2018年2月, 浜松.

研究会発表

1. 宮武明彦: 吸入指導の実際, あわぎ気管支喘息 医・薬連携勉強会, 2017年4月, 大阪.
2. 宮武明彦: 喘息開業医としての26年, あわぎ気管支喘息病・診連携懇話会, 2017年6月, 大阪.
3. 宮武明彦: 喘息患者に対する吸入指導について, あわぎ喘息治療薬 医・薬連携勉強会, 2017年6月, 大阪.
4. 加藤更紗, 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 佐藤文三, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正: 人間ドックの腹部超音波検査で両側副腎腫大を指摘された男性の1例, 第11回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス (OEMCC), 2017年6月, 大阪.
5. 住谷 哲: 認知症と糖尿病治療 - 早期治療介入の重要性 - 糖尿病専門医の立場から, あわぎ認知症病診連携懇話会, 2017年6月, 大阪.
6. 笠山宗正: 健康長寿のための『ホルモン学』, 市民講座第7回 もっと知りたい下垂体の病期のこと, 2017年8月, 大阪.
7. 立花 功: COPDと糖尿病, あわぎ呼吸器病診連携懇話会, 2017年9月, 大阪.
8. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 生田武蔵, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲: 糖尿病性多発神経障害 (DPN) 重症度 (馬場試案 2013) は左室拡張能低下の独立した関連因子である, 平成29年度糖尿病性神経障害を考える会学術講演会, 2017年9月, 東京.
9. 二宮隆介: 当院における気管支喘息患者の呼気NOの臨床的検討, あわぎ呼吸器病診連携セミナー, 2017年10月, 大阪.
10. 高島大幸, 小瀬戸昌博, 石川那智, 大畔健太, 魚田晃史, 二宮隆介, 宇都佳彦, 田村慶朗, 三木俊治, 立花 功, 辻 成佳, 東山眞理: 尋常性乾癬を合併した関節リウマチと鑑別を要した関節症性乾癬の1例, 第57回OID Conference, 2017年10月, 大阪.
11. 小瀬戸昌博, 宮武明彦: 気管支喘息治療 - 吸入治療・吸入指導 -, 第57回OID Conference, 2017年10月, 大阪.
12. 小瀬戸昌博: 日常診療におけるステロイド内服薬の使い方, 第4回泉州耳鼻咽喉科地域医療研究会, 2017年10月, 大阪.
13. 石川那智: 原因不明の発熱をくり返し紹介された症例について, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
14. 住谷 哲: 糖尿病治療薬の併用療法について, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
15. 小瀬戸昌博: 関節リウマチの日常診療について, 第1回あわぎリウマチセミナー, 2018年1月, 大阪.
16. 立花 功: 肺がん - 早く見つけて治療 -, 第5回ニッセイ市民健康セミナー, 2018年2月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診						宮武		宮武	宮武	宮武
2診			宮武	宮武						
7診				小中						
10診	住谷	住谷 ※①			小瀬戸	小瀬戸	宇都	田村		
11診	宇都	石川	三木	大畔	立花	河面	三木	魚田	住谷	二宮
12診	小瀬戸	小瀬戸	佐藤文	佐藤文	佐藤文	佐藤文	立花		小瀬戸	
13診	立花	立花	田村	二宮 ※②	笠山		笠山	笠山		佐藤文
14診	三木	三木	生田	三木	魚田	三木	石川	三木	村上	三木
15診					宮武					
2階							住谷	住谷		

※① 1・3・5週は初診 ※② 14：30から ※③ 2・4週は初診

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○ 診				

○：当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成29年度
外来	27,590	28,967	30,388	32,268	42,845
入院	12,352	15,203	15,224	15,679	16,802

表 5 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
2 型糖尿病	157	11
気管支および肺の悪性新生物	151	18
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	123	17
その他の間質性肺疾患	36	24
その他の慢性閉塞性肺疾患	25	21
喘息	21	15
心不全	18	22
下垂体疾患 （下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など）	14	4
アルドステロン症	14	5
1 型糖尿病	13	15
その他の副腎障害	13	8

スタッフ 部長：川上 学
副 部長：加藤るり、中江吉希
常勤嘱託：竹本雅子

1. 診療内容

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。白血球減少が高度な場合には無菌室での管理を行い、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植を行っている。その他、悪性リンパ腫を疑われ、生検の結果上皮性と判明した原発不明癌などの悪性腫瘍に対しての化学療法も行い、腫瘍内科としての診療も並行して行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

主として外来13診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺・生検・輸血などの診療も外来化学療法室や中央処置室において行われた。

2) 病棟体制 (表2)

部長含め4名の常勤医(4月以降は3名)にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、中央処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

外来患者数はのべ6,862名(前年度比+240)であった。

外来化学療法数は、625件(前年度比-237)であった。

2) 入院診療実績 (表3,4)

入院延べ数8,435(前年度比+107)であった。疾患の内訳を表4に示す。

自家末梢血幹細胞移植を4件行った。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 3名

日本内科学会認定内科医 1名

日本血液学会専門医 4名

5. 業績

論文・著書

1. 中江吉希: Multiple Myeloma Presenting with Autoimmune Autonomic Ganglionopathy, Internal Medicine, 56(24): 3347-3351, 2017年.

学会発表

1. 川上 学, 加藤るり, 竹本雅子, 中江吉希: 単一施設における急性白血病に対する化学療法後の血流感染, 第79回日本血液学会学術集会, 2017年10月, 東京.
2. 飛田哲志, 加藤るり, 竹本雅子, 中江吉希, 川上 学: 消化管アミロイドーシスによるイレウスを伴う多発性骨髄腫にカルフィルゾミブが有効であった症例, 第108回近畿血液学地方会, 2017年11月, 大阪.
3. 加藤更紗, 竹本雅子, 加藤るり, 川上 学: 慢性骨髄性白血病診断時にリステリア髄膜炎を併発した1例, 日本内科学会第218回近畿地方会, 2017年12月, 神戸.

研究会発表

1. 川上 学, 竹本雅子, 中江吉希, 加藤るり: 頭痛と意識消失を繰り返した多発性骨髄腫, 第2回なにわ血液腫瘍セミナー, 2017年10月, 大阪.
2. 中江吉希: 血小板減少を来した症例について, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
3. 中江吉希: AML化学療法後寛解例に対するWT1ペプチド免疫療法第II相臨床試験, 中之島血液フォーラム, 2017年12月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
8診	加藤	竹本	竹本		川上	川上	加藤		中江	川上
10診			川上	川上						

表 2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週 1 回)
・抄読会	(月 2 回)
・血液標本検討会	(適 宜)
・内科合同カンファレンス	(月 1 回)
・内科・地域合同症例検討会	(年 1 回)

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	6,355	6,830	7,239	6,622	6,862
入院	9,843	9,791	9,931	8,328	8,435

表 4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
悪性リンパ腫	91	28
骨髄性白血病	45	29
骨髄異形成症候群	43	22
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	34	31
紫斑病およびその他の出血性病態	16	19
その他の無形成性貧血	11	16
リンパ性白血病	8	28
リンパ組織、造血組織および関連組織の性状不詳または不明のその他の新生物	8	32
悪性免疫増殖性疾患	5	31
単球性白血病	4	38

神 経 内 科

スタッフ 部 長：浅野彰彦

副部長：仁科拓也、佐藤智彦

兼 任：森 悦朗（特任顧問）

1. 診療内容

神経内科部門は平成25年4月より循環器・神経内科から分離独立し医師二名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営している。またH29年より前東北大学神経内科教授の森悦郎先生に特任顧問に就任いただき認知症分野の充実も図っております。

めまいや痺れといった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応してきたが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も神経内科医師が対応できるように分担している。当科の佐藤医師は救急診療センターも兼務となっており、救急要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

特に曜日・時間帯による担当医は決めていないが、三名の医師が互いをカバーする仕組みと、治療方針などについては三名の合議によってチームとして対応している。

3) 検査スケジュール

神経内科医師が単独で担当する予約検査は特に定めていないが、神経伝導検査・針筋電図など必要な検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ四年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加し、平均在院日数はほぼ横ばいで延べ入院患者数も増加している。

3) 検査実績

CT・MRI・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医 1名

日本内科学会総合内科専門医 1名

日本神経学会専門医 1名

日本循環器学会専門医 1名

5. 業績

論文・著書

1. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦: 高アンモニア血症による意識障害を来した菌血症の一例, 日生医誌, 45:2017年.

研究会発表

1. 仁科拓也, 佐藤智彦, 浅野彰彦: Atypical parkinsonismに対するrotigotineの使用経験, 第11回パーキンソン秒運動疾患コンgres, 2017年10月, 東京.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
5診	佐藤智彦	仁科	浅野	仁科	仁科	佐藤智彦	浅野	佐藤智彦	浅野	浅野
8診	佐藤	仁科		仁科	仁科	佐藤智彦	浅野	森 脳機能 障害外来	浅野	浅野

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	6,180※	6,053	6,641	6,313	6,342
入院	5,010※	5,879	5,055	5,353	5,294

※H25.4～ 神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設

表3 H29.4～H30.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
脳梗塞	29	39
パーキンソン（Parkinson）病	11	34
一過性脳虚血発作および関連症候群	10	15
てんかん	8	37
前庭機能障害	8	30
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	8	51
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	6	77
脊髄性筋萎縮症および関連症候群	4	16
基底核のその他の変性疾患	3	65
心不全	3	37
尿路系のその他の障害	3	23
浮腫、他に分類されないもの	3	31

スタッフ 部 長：宇津 貴

副院長：藤野佳彦

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの慢性腎疾患から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象にしている。特に、糖尿病性腎臓病に関しては、早期腎症から末期腎不全まで、インスリン導入などの血糖管理を含めた総合的な治療を行っている。

末期腎不全に対しては適切な時期に透析療法（血液透析、腹膜透析療法など）への導入を行うとともに、慢性透析療法による血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医	2 名
日本内科学会総合内科専門医	1 名
日本腎臓学会専門医・指導医	1 名
日本糖尿病学会専門医	1 名
日本高血圧学会専門医・指導医	1 名
日本透析医学会専門医・指導医	1 名

5. 業績

論文・著書

1. Uzu T: Salt and hypertension in diabetes., Diabetology International, 8:154-159, 2017年.
2. Koide H, Hira D, Tsujimoto M, Katsube Y, Minegaki T, Uzu T, Ikeda Y, Morita SY, Nishiguchi K, Terada T.: Previous Dosage of Allopurinol Is a Strong Determinant of Febuxostat Efficacy, Biol Pharm Bull, 40(5):681-686, 2017年.
3. Ono S, Kume S, Yasuda-Yamahara M, Yamahara K, Takeda N, Chin-Kanasaki M, Araki H, Sekine O, Yokoi H, Mukoyama M, Uzu T, Araki SI, Maegawa H.: O-linked β -N-acetylglucosamine modification of proteins is essential for foot process maturation and survival in podocytes., Nephrol Dial Transplant, 32(9):1477-1487, 2017年.
4. Tanaka Y, Kume S, Maeda S, Osawa N, Takeda N, Chin-Kanasaki M, Isshiki K, Ugi S, Oshima I, Uzu T, Maegawa H, Araki SI.: Overexpression of acetyl CoA carboxylase β exacerbates podocyte injury in the kidney

of streptozotocin-induced diabetic mice., Biochem Biophys Res Commun, 495(1):1115-1121, 2018年.

5. 磯野哲一郎, 國津侑貴, 増田恭子, 平 大樹, 荒木久澄, 荒木信一, 宇津 貴, 寺田智祐: 滋賀県全域で5年にわたり展開されたCKDシールのアウトカム評価, 医療薬学, 43:601-609, 2017年.
6. 一色啓二, 八田告, 磯野元秀, 牧石徹也, 永作大輔, 新宮良介, 鹿野 勉, 渋谷和之, 富田耕彬, 西尾利二, 金崎雅美, 荒木信一, 宇津 貴, びわこ臨床透析カンファレンス共同研究グループ: 慢性血液透析患者におけるヘモグロビン変動と予後の関係 びわこ臨床透析カンファレンス共同研究, 日本透析医学会雑誌, 50:465-472, 2017年.
7. 宇津 貴: 糖尿病合併CKD患者の血圧管理, 月刊糖尿病, 9: Page53-59, 2017年.
8. 宇津 貴: 合併症治療のエビデンスと今後の展望 血圧管理による合併症予防, 最新医学別冊糖尿病合併症, 271-277, 2017年.
9. 金崎雅美, 宇津 貴: 疾患・病態別にみた医薬品の禁忌, 腎疾患(透析を含む薬事), 59:1648-16, 2017年.
10. 宇津 貴, 國津侑貴, 磯野哲一郎, 寺田智祐: 循環器系・泌尿器系・生殖器系の病気とくすり 泌尿器系・生殖器系疾患慢性腎臓病, 薬局, 68:1168-1183, 2017年.
11. 宇津 貴: 超高齢社会における腎症抑制戦略, 腎・高血圧の最新治療, 6:101-104, 2017年.
12. 宇津 貴: 合併症のリスク因子 その指標を考える 合併症を考えた高血圧診療, 糖尿病合併症, 31:32-35, 2017年.
13. 宇津 貴: 治療抵抗性高血圧に対する新たな展開 デバイス治療の現状と将来展望, 日生病院医学雑誌, 45:1-7, 2017年.
14. 宇津 貴: 合併症を考えた高血圧診療, 最新医学別冊糖尿病合併症, 271-277, 2017年.
15. 宇津 貴: 慢性腎臓病 病気と薬2017, 薬局(増刊号), 68:1168-1174, 2017年.
16. 宇津 貴: 慢性腎臓病 病気と薬, 薬局 増刊号, 69(4):592-592, 2018年.
17. 宇津 貴: 糖尿病性腎症を抑制するために, 西宮市医師会雑誌, 23:14-17, 2018年.
18. 宇津 貴: 糖尿病の検査値20 早わかりポイントノート 尿中アルブミン, 糖尿病ケア, 15:34-35, 2018年.
19. 宇津 貴: 糖尿病の検査値20 早わかりポイントノート 尿たんぱく, 糖尿病ケア, 15:32-33, 2018年.

学会発表

1. 宇津 貴: 外来患者における食塩摂取の評価と体液管理, 日本腎臓学会学術総会, 2017年5月, 仙台.
2. 宇津 貴: 糖尿病患者における最適な降圧治療とは? 新しい血糖降下薬の血圧と腎に対する影響, 日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年5月, 名古屋.
3. 菅原 翔, 久米真司, 武田尚子, 金崎雅美, 荒木久澄, 柳田素子, 宇津 貴, 荒木信一, 前川 聡: 近位尿細管における蛋白質O-GlcNAc修飾の生理的役割の解明, 日本腎臓学会学術総会, 2017年5月, 仙台.
4. 清水芳樹, 霍田裕明, 高木彩乃, 武田尚子, 久米真司, 金崎雅美, 荒木久澄, 荒木信一, 宇津 貴, 前川 聡: 微小変化型ネ

フローゼ症候群加療中に発見された緩徐進行Ⅰ型糖尿病の1例, 日本糖尿病学会近畿地方会, 2017年11月, 大阪.

5. 沖 達也(滋賀医科大学医学部附属病院医師臨床教育センター), 今村孔美, 高木彩乃, 武田尚子, 久米真司, 金崎雅美, 荒木久澄, 荒木信一, 宇津 貴, 前川 聡:糖尿病性腎症の経過中に腎不全急性増悪と乳酸アシドーシスを合併した1症例, 日本糖尿病学会近畿地方会, 2017年11月, 大阪.

研究会発表

1. 宇津 貴:糖尿病性腎症を抑制するために, 生活習慣病フォーラムin西宮, 2017年4月, 西宮.
2. 宇津 貴:CKD治療・対策の実際～連携診療も含めて～, 第14回伏見CKD医療連携の会, 2017年4月, 京都.
3. 宇津 貴:糖尿病患者の腎臓のみかた, なにわドクターズネットワーク, 2017年4月, 大阪.
4. 宇津 貴:糖尿病患者の腎臓をまもるために, 滋賀県北部糖尿病治療懇話会, 2017年6月, 長浜.
5. 宇津 貴:糖尿病から腎臓をまもるために, 腎と糖の会in泉州, 2017年6月, 泉佐野.
6. 宇津 貴:糖尿病合併高血圧診療のポイントとピットフォール, 大阪市中央区東医師会女医会, 2017年7月, 大阪.
7. 宇津 貴:糖尿病から腎臓をまもるために, 糖尿病性腎症を考える会, 2017年8月, 大阪.
8. 藤野佳彦, 宇津 貴:2症例から学んだ低ナトリウム血症の治療, 西大阪ADPKD研究会, 2017年8月, 大阪.
9. 宇津 貴:腎臓と呼吸器の深い関係, あわぎ呼吸器病診療連携懇話会, 2017年9月, 大阪.
10. 宇津 貴:糖尿病患者の腎臓のみかた, 東成医師会生涯教育講演会, 2017年9月, 大阪.
11. 宇津 貴:地域で考えるCKD医療連携, CKD医療連携カンファレンス, 2017年9月, 大阪.
12. 宇津 貴:発熱・たんばく尿で紹介された症例, 第10回あわぎクリニカルカンファレンス, 2017年11月, 大阪.
13. 宇津 貴:糖尿病患者から腎臓をまもるために～今とこれから～, 合併症予防を見据えた糖尿病治療を考える会, 2017年11月, 東京.
14. 宇津 貴:虚血と糖尿病性腎臓病, 第13回血管病態リサーチセミナー, 2017年12月, 東京.
15. 藤野佳彦, 宇津 貴:閉塞性腎不全に伴う著名な低ナトリウム血症とpost obstructive diuresisの治療経験, 第5回ソルトクラブ, 2018年2月, 大阪.
16. 高森啓成, 藤野佳彦, 宇津 貴:甲状腺機能低下症の治療に伴い寛解した乳び尿の1例, 2018年3月, 大阪.
17. 宇津 貴:糖尿病から腎臓をまもるために, 最新の糖尿病治療を考えるin尼崎, 2018年3月, 尼崎.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	宇津		宇津		藤野		藤野			
2診										宇津
7診								宇津		

表2 年度別外来・入院延べ患者数

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡			○ 診				○ 診			

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成28年度	平成29年度
外来	675	2,681
入院	1,072	3,620

※H28.7 腎臓内科を新設

表4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検目的	41	-
透析導入	23	-
慢性腎不全	48	24
2型糖尿病	18	12
反復性および持続性血尿	13	8
慢性腎炎症候群	10	6
急性腎不全	7	32
のう(嚢)胞性腎疾患	7	3
ネフローゼ症候群	6	35
心臓および血管のプロステシス, 挿入物および移植片の合併症	5	4

スタッフ 主任部長：水野 均（心臓血管外科部長代行）

副 部 長：生島裕文、山下晋也

医 長：原 譲次

兼 任：小関萬里（特任顧問、外科統括）

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。上部消化管（生島、原）、下部消化管（水野、山下）、肝胆脾（小関）の消化器外科のすべての領域の疾患に対応している。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患や鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、消化器癌化学療法にも積極的に取り組んでおり、皮下埋め込み型中心静脈リザーバーを用いた外来化学療法や終末期の栄養療法を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は表3の通りである。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者数は表3の通りである。

手術症例（重複例を含む）は320例で、そのうち全身麻酔が286例であった。鏡視下手術は211例であり、全身麻酔症例の73.8%が鏡視下手術であった。

主な悪性腫瘍切除手術は、食道癌4例（3例が鏡視下手術）、胃癌、GIST19例（内15例が腹腔鏡手術）、結腸癌37例（内33例が腹腔鏡手術）、下部胆管癌、膵腫瘍11例、肝癌、肝転移11例であった。

主な良性疾患手術は胆嚢摘出術が81例（内71例が腹腔鏡手術）、ヘルニア手術（単径、大腿、腹壁瘢痕、閉鎖孔）50例（内39例が腹腔鏡手術）、虫垂切除24例（全例腹腔鏡手術）であった。良性疾患の手術では、患者さんの希望などにより細径鉗子を用いた手術や、単孔式手術を取り入れ、より低侵

襲の手術を行っている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医	5名
日本外科学会指導医	1名
日本消化器外科学会専門医	2名
日本消化器外科学会指導医	2名
日本消化器病学会専門医	3名
日本大腸肛門病学会専門医	1名
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	3名
日本内視鏡外科学会技術認定医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Yamashita S, Tanemura M, Sawada G, Moon J, Shimizu Y, Yamaguchi T, Kuwai T, Urata Y, Kuraoka K, Hatanaka N, Yamashita Y, Taniyama K: Impact of endoscopic stent insertion on detection of viable circulating tumor cells from obstructive colorectal cancer, *Oncology Letters*, 15: 400-406, 2018年.
2. 小関萬里: 膵臓がんとかん予防について, *日生病院医学雑誌*, 45: 97-98, 2017年.
3. 水野 均: 大腸癌の手術と化学療法, *日生病院医学雑誌*, 45: 98, 2017年.
4. 生島裕文: 胃癌に対する最新治療, *日生病院医学雑誌*, 45: 99, 2017年.

学会発表

1. 小川淳宏, 森田俊治, 山本堪介, 内藤 敦, 水野 均, 吉岡慎一, 松村多恵, 太田勝也, 鈴木 玲, 松田 宙, 畑 泰司, 西村潤一, 水島恒和, 土岐祐一郎, 森 正樹: 左側閉塞性大腸癌におけるイレウス管および大腸ステントによるbridging to surgery療法の手術短期成績への影響(多施設共同研究), 第117回日本外科学会学術集会, 2017年4月, 横浜.
2. 森田俊治, 小川淳宏, 山本堪介, 内藤 敦, 水野 均, 吉岡慎一, 松村多恵, 太田勝也, 鈴木 玲, 松田 宙, 畑 泰司, 西村潤一, 水島恒和, 土岐祐一郎, 森 正樹: 右側閉塞性大腸癌におけるイレウス管および大腸ステントによるbridging to surgery療法の意義に関する検討(多施設共同研究), 第117回日本外科学会学術集会, 2017年4月, 横浜.
3. 山下晋也, 種村匡弘, 清水洋祐, 桑井寿雄, 浦田泰生, 山下芳典, 谷山清己: 大腸癌イレウスに対するステント留置の功罪—ステント留置に伴う微小循環がん細胞の遊出は予後に影響するのか?—, 第117回日本外科学会定期学術集会, 2017年4月, 横浜.
4. 内藤 敦, 森田俊治, 山本堪介, 小川淳宏, 水野 均, 吉岡慎一, 松村多恵, 太田勝也, 鈴木 玲, 松田 宙, 畑 泰司, 西村潤一, 水島恒和, 土岐祐一郎, 森 正樹: 閉塞性大腸癌治療方

針の現状(多施設共同コホート研究), 第117回日本外科学会学術集会集会, 2017年4月, 横浜.

5. 山本堪介, 川崎誠康, 今川敦夫, 亀山雅男, 森田俊治, 小川淳宏, 内藤 敦, 水野 均, 吉岡慎一, 松村多恵, 太田勝也, 鈴木玲, 松田 宙, 畑 泰司, 西村潤一, 水島恒和, 土岐祐一郎, 森正樹:閉塞性大腸癌の大腸ステントまたはイレウス管による術前腸管ドレナージ治療の短期成績), 第117回日本外科学会学術集会集会, 2017年4月, 横浜.
6. 山下晋也, 原 讓次, 南有紀子, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里:虫垂憩室炎に対する腹腔鏡下手術, 第72回消化器外科学会総会, 2017年7月, 金沢.
7. 山下晋也, 原 讓次, 南有紀子, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里:交叉性融合性腎変位(L型)を併存した直腸癌の1切除例, 第15回日本消化器外科学会大会, 2017年10月, 福岡.
8. 生島裕文, 水野 均, 小関萬里:食道癌術後乳び瘻に対し, 開腹経食道裂孔的胸管結紮術を施行した1例, 第79回日本臨床外科学会総会, 2017年11月, 東京.
9. 山下晋也, 原 讓次, 南有紀子, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里:横行結腸癌術後に発生した上腸間膜動脈症候群の1例, 第72回日本大腸病学会学術集会, 2017年11月, 福岡.

研究会発表

1. 水野 均:大腸癌に対する腹腔鏡手術, あわぎ消化器外科病診連携懇話会, 2017年8月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	水野	水野	手術	手術	手術	手術			手術	手術
2診	生島	生島	交代	交代	山下	山下		回診	小関	小関
3診	小関					検査	原	交代		

表 2 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝 術後回診	早朝 術後回診	早朝 術後回診		早朝 術後回診
午後				部長回診、 術前術後 症例検討	消化器外科・ 消化器内科合同 カンファレンス

表 3 外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	4,729	4,327	3,776	3,446	3,764
入院	5,869	5,639	4,106	4,778	5,902

表 4 H29.4～H30.3 入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
胆石症	58	8
結腸の悪性新生物	50	18
そけい(峯径)ヘルニア	38	6
急性虫垂炎	37	6
直腸の悪性新生物	24	21
胃の悪性新生物	22	18
小腸の悪性新生物	21	7
食道の悪性新生物	10	52
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	10	21
脾の悪性新生物	8	33

呼吸器外科

スタッフ 部長：前田 元（特任副院長）

副部長：桂 浩

1. 診療内容

平成28年1月より1名体制で呼吸器外科診療を開始し、手術時は大阪大学から応援医師を派遣してもらっていたが、平成29年4月より常勤医2名となり、常時手術が可能となった。

対象疾患としては肺癌が最も多く、総合内科で診断および病期判定を行った後に紹介されるケースがほとんどである。その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、肺真菌症、縦隔腫瘍、膿胸などである。胸腔鏡下手術を主体に行っている。

病棟回診やカンファレンスは消化器外科と合同で行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会指導医・専門医 2名

日本呼吸器外科学会指導医・専門医 2名

日本胸部外科学会指導医 1名

日本呼吸器学会専門医 1名

5. 業績

論文・著書

- Inoue M: Collagen gel droplet-embedded culture drug sensitivity test for adjuvant chemotherapy after complete resection of non-small cell lung cancer., Surg Today, doi:10.1007/s00595-017-1594-7, 2017年.
- Ose N: Results of treatment for thymic neuroendocrine tumours: multicentre clinicopathological study., Interact CardioVasc Thorac Surg, doi:10.1093/icvts/ivx265, 2017年.
- Nojiri T: Long-term impact of postoperative complications on cancer recurrence following lung cancer surgery., Ann Surg Oncol, 24:1135-42, 2017年.

学会発表

- 大瀬尚子, 前田 元, 井上匡美, 森井英一, 新谷 康, 松井浩史, 多田弘人, 徳永俊照, 木村賢二, 坂巻 靖, 竹内幸康, 福原謙二郎, 桂 浩, 岩崎輝明, 奥村明之進: 胸腺原発神経内分泌腫瘍外科治療に関する他施設共同研究と臨床病理学的特徴, 日本外科学会定期学術集会(117), 2017年4月, 横浜.
- 桂 浩: CO₂送気下胸腔鏡下手術を行った多発性髄外造血巣の1例, 日本呼吸器外科学会総会(34), 2017年5月, 福岡.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
2診							前田元			
3診		前田元			桂					

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術		手術		
午後	手術		手術	病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	45	303	467
入院	133	680	578

※H28.1 呼吸器外科を新設

表4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	27	11
気胸	9	9
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	13
その他の非結核性抗酸菌による感染症	2	9
その他	7	14

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
常勤嘱託：中内千曉

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同時再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール (表1)

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

2) 入院診療実績 (表3、4)

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会専門医	1名
日本乳癌学会認定医	1名
がん治療認定医	2名
日本消化器外科学会認定医	1名
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	
マンモグラフィ読影認定医	2名
日本外科学会専門医	2名

5. 業績

学会発表

- 西田幸弘, 吉留克英, 岩本充彦, 松並展輝, 森本 卓, 山口正秀, 中内千曉, 重里昌子, 下登志朗, 安野佳奈, 森島宏隆, 小田直文: 化学療法開始時に内臓転移のあるHER2陰性進行再発乳癌に対するエリブリンの有効性(多施設共同後方観察研究), 第25回日本乳癌学会学術総会, 2017年7月, 福岡.
- 中内千曉, 西田幸弘: 原発乳癌組織でのサイトケラチン19陰性率と組織学的特徴についての検討, 第25回日本乳癌学会学術総会, 2017年7月, 福岡.

- Nakauchi C, Tazawa S, Takada M, Chang YC, Ju YW, Feng W, Ng Y: Predictive marker for hormone-receptor positive HER2 negative patients, Which do you use for your patients in the clinical management in selecting adjuvant therapy, multigene tests or IHC4?, 3rd World Congress on Controversies in Breast Cancer, 2017年10月, 東京.

研究会発表

- 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー, ニッセイ医療セミナー 日本生命保険相互会社 岡山支社, 2017年9月, 岡山.
- 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー, ニッセイ医療セミナー 日本生命保険相互会社 岡山支社, 2017年9月, 津山.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	手術	手術	西田	西田 (検診)	中内	中内 (検査・手術)	中内	中内	西田	西田 (検診)

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術				
午後	手術		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	回診 検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	4,766	4,222	4,737	4,978	4,371
入院	2,094	1,781	1,834	1,374	1,541

表4 H29.4～H30.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	98	11
乳房腫瘍	10	3
乳房の画像診断における異常所見	10	2
その他の部位の続発性悪性新生物	7	23
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	5	5
乳房の良性新生物	5	3
無顆粒球症	2	8
蜂巣炎(蜂窩織炎)	2	21

心 臓 血 管 外 科

スタッフ 部長代行：水野 均（消化器・一般外科主任部長）

1. 診療内容

平成29年4月より「心臓血管外科外来」を開設し、診療を開始した。大阪大学医学部附属病院の心臓血管外科医師が外来診療をし、心臓血管外科疾患についての手術適応の評価、患者様への説明、術式の提示をした。手術適応症例については大阪大学医学部附属病院や近隣の関連病院への紹介搬送し、術後の外来通院などを施行している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診			渡辺							

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成29年度
外来	81
入院	0

※H29.4 心臓血管外科を新設

産 婦 人 科

スタッフ 部長：藤田征巳（副院長） ※平成30年4月～ 部長：橋本奈美子
 担当部長：佐伯典厚
 副 部 長：尾崎公章
 医 長：吉見佳奈、細井文子、高山敬範、八田幸治、矢野悠子、尾上昌世
 副 医 長：沈 嬌
 常勤嘱託：増田公美（～9月）
 兼 任：船渡孝郎（中央手術管理部長、女性骨盤底センター長、
 地域医療総合窓口あったかセンター長、ニッセイ予防医学センター顧問）

1. 診療内容

婦人科は、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の半数以上を占めている。

婦人科悪性腫瘍についても、後腹膜リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、術後放射線治療を行っている。

骨盤底疾患についても力を入れており、従来の膣壁形成術に加え、メッシュを利用した修復術（TVM）や腹腔鏡下仙骨膣固定術、尿失禁に対してはTOT/TVT手術を行っている。

周産期においては、自然分娩を基本としている。また助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガなどを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

当科は主治医（受け持ち医）制を引いている。

3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

H29年度

・分娩数：395件

・総手術総数：1,165件

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 282件

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 208件

腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 169件

腹腔鏡下卵管切除術 27 件

子宮鏡下手術

子宮内膜ポリープ切除術 48件

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 45件

開腹手術

帝王切開術 58件

腹式子宮悪性腫瘍手術 19件

開腹単純子宮全摘術 17件

腹式子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌） 16件

骨盤臓器脱

膀胱脱手術（メッシュ使用） 57件

子宮脱手術（膣壁形成手術及び子宮全摘術）

（膣式、腹式） 15件

腹腔鏡下仙骨膣固定術 11件

膣閉鎖 11件

その他骨盤臓器脱手術 11件

腹圧性尿失禁

中部尿道スリング手術（TOT手術） 5件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 5名

日本内視鏡外科学会技術認定医 2名

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 2名

日本産科婦人科学会専門医 11名

日本性感染症学会専門医 1名

母体保護法指定医 6名

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 2名

麻酔標榜医 1名

5. 業績

論文・著書

- Shen J, Iwamiya T, Wakimoto T, Taguchi T, Oyama T, Komoto Y, Takemura M: Two cases of deep vein thrombosis that developed during pregnancy., Journal of women's Health & Safety Research JWHSR1 (1), 18-21, 2017年.
- Shen J, Masuda K, Oneue M, Yano Y, Hatta K, Takayama T, Yoshimi K, Hosoi A, Ozaki K, Saeki N, Hunato T, Fujita M: A case of difficult to diagnose cystic adenomyoma treated with laparoscopic surgery, Clinical Obstetrics, Gynecology and Reproductive Medicine, 1-3, 2017年.
- 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 大網原発Solitary fibrous tumor (SFT) に対して腹腔鏡手術を施行した1例, 日生病院医学雑誌, 45:54-59, 2017年.
- 森本義春, 幸池明希子, 藤田征巳, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 水野里志, 福田愛作: 特集 生殖医療ー知っておきたい最新トピックス 5. ミトコンドリア移植, 産科と婦人科, 85:31-36, 2018年.

学会発表

1. 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術で診断した大網発生parasitic myomaの1例, 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 2017年4月, 広島.
2. 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 藤田征巳: 当院での麻酔下修復を要したメッシュ関連合併症の検討, 第19回日本女性骨盤底医学会, 2017年7月, 福井.
3. 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術を施行した大網原発Solitary fibrous tumor(SFT)の1例, 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2017年7月, 熊本.
4. 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 船渡孝郎: 当院での麻酔下修復を要したメッシュ関連合併症の検討, 第19回日本女性骨盤底医学会, 2017年7月, 福井.
5. 八田幸治1, 2, 田中雄介1, 2, 尾上昌世1, 2, 増田公美1, 2, 矢野悠子1, 2, 高山敬範1, 2, 吉見佳奈1, 2, 尾崎公章1, 2, 大塚博文1, 2, 佐伯典厚2, 藤田征巳2, 船渡孝郎1: 当院におけるLSC (Laparoscopic Sacral Colpopexy)の治療成績-子宮摘出方法(TLHとLSH)の手術成績の比較-, 第19回日本女性骨盤底医学会 発表, 2017年7月, 福井.
6. Shen J, Masuta K, Hatta K, Takayama T, Yoshimi K, Hosoi A, Ozaki K, Saeki N, Funato T, Fujita M: A case operated with laparoscopy for cystic adenomyosis, which was difficult to get the definitive diagnosis before operation, 18th APAGE Annual Congress, 2017年9月, 岡山.
7. 尾崎公章, 沈 嬌, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 細井文子, 吉見佳奈, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵巣線維腫に対して腹腔鏡下腫瘍核出術を行った1例, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
8. 吉見佳奈, 沈 嬌, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 細井文子, 尾崎公章, 藤田征巳, 船渡孝郎, 佐伯典厚: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術の術式選択~TLMかLAMか?~, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 口演, 2017年9月, 岡山.
9. 高山敬範, 沈 嬌, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 細井文子, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 「回収式自己血輸血を施行した症例の検討」(一般口演), 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
10. 矢野悠子: 卵巣内膜性嚢胞の対する付属摘出術後に偶発的にserous tubal intraepithelial carcinoma(STIC)が発見された1例, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
11. 沈 嬌, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 細井文子, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 術前診断困難であった嚢胞性腺筋症に対し腹腔鏡下手術を実施した1例, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
12. 高山敬範, 沈 嬌, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 細井文子, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 「高度癒着症例に対する腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)」(一般演題 口演), 第30回日本内視鏡外科学会総会, 2017年12月, 京都.

研究会発表

1. 尾上昌世: 子宮内膜症・子宮腺筋症の診断と治療, 持田製薬より依頼, 2017年5月, 大阪.
2. 高山敬範: 子宮腺筋症治療について-手術療法を中心に-, 第1回エンドメトリオーシスフォーラム, 2017年12月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田征	藤田征	佐伯	佐伯	藤田征	藤田征	船渡	船渡	佐伯	佐伯
2診	尾上	尾上	矢野	矢野	吉見	吉見	奥野	奥野	尾崎	尾崎
3診	沈	沈	八田	八田	高山	高山			細井	細井
4診					尾崎					
	手術	手術	手術	手術	手術		手術	手術	手術	回診

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会		周産期カンファレンス		
午後				術前カンファレンス	部長回診 画像カンファ

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予				○ 紹・予

○: 当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	21,069	21,883	23,187	21,677	21,241
入院	11,909	12,532	13,381	12,624	12,143

表 5 H29.4~H30.3入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	384	8
単胎自然分娩	222	7
子宮内膜症	129	7
卵巣の良性新生物	118	7
女性性器脱	110	11
女性性器のポリープ	57	3
受胎のその他の異常生成物	50	2
子宮頸(部)の異形成	49	3
卵巣の悪性新生物	48	12
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	35	10

小 児 科

スタッフ 部長：赤木幹弘
副 部長：石川依子（～7月）
医 員：田中篤志（6月～）、藤田真祐子

1. 診療内容

当科では感染症や気管支喘息等を中心とした急性期・慢性期の一般小児科診療と院内出生児の診療を行っている。各医師の専門性から、小児神経・代謝疾患、小児内分泌疾患、アレルギー疾患を中心に診療してきた。

平成29年度は赤木部長、石川副部長と新しく加わった藤田医員の三人体制で始まったが、6月に田中医員が加わり7月に石川副部長が退職して新たな三人体制で一般小児科診療と新生児の診療を行った。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

平成29年8月以降の外来診療スケジュールを表1に示した。

2) 病棟体制

病床数は一般病棟9床、新生児病棟5床である。小児科カンファレンスを週1回、産婦人科との周産期カンファレンスを週1回行っている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

外来患者数は7,434人と前年度から502人増であった。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

入院患者数は2,935人と前年度から618人減であった。この表にはでていないが、川崎病（9症例）、IgA血管炎、腸管出血性大腸菌感染症O157、腎炎、ネフローゼ症候群等の診療実績がある。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医 3名
日本小児神経学会専門医 1名
日本感染症学会専門医・指導医 1名
I C D 2名

5. 業績

学会発表

- 近藤秀仁，赤木幹弘，澁谷与扶子，仲岡佐智子，富永康仁，青天目信，酒井規夫，大藺恵一：MTND3遺伝子変異（m.T10158C）を認めたMELAS/Leigh overlap症候群の1例，第63回日本小児神経学会近畿地方会，2018年3月，大阪。

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤木	藤田真 (乳幼児 健診)	赤木	池原 (予防 注射)	池原		赤木	池原 (アレルギー)	赤木	田中篤 (1ヶ月 健診)
2診	藤田真		田中篤		赤木		藤田真	赤木 (神経 内分泌 代謝)	田中篤	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	8,902	8,008	8,656	7,434	7,936
入院	780	1,787	3,261	3,553	2,935

表3 H29.4～H30.3－小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
肺炎	61	7
急性細気管支炎	50	7
喘息	20	7
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	19	6
急性鼻咽頭炎[かぜ]〈感冒〉	14	7
急性気管支炎	14	6
喘息発作重積状態	12	10
部位不明のウイルス感染症	11	6
不明熱	9	7
感染症と推定される下痢および胃腸炎	7	5
全身性結合組織疾患	7	18

表4 H29.4～H30.3－新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	24	6
周産期に特異的なその他の感染症	18	6
新生児の呼吸窮〈促〉迫	13	7
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	10	4
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	8	12
出産時仮死	5	3
新生児吸引症候群	5	7
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	4	12
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	3	8
頭皮の出産損傷	3	15
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	3	5

スタッフ 部長：高橋 励
 医長：青木保典
 兼任：森 悦朗（特任顧問）

1. 診療内容

平成29年度は、翌年度早々の移転を控えて、新病院での二本柱とすべき「認知症」、「産業精神医学」分野の充実したスタートを切るための準備年度と位置づけた。

「認知症」については従前より検査と鑑別診断を充実させ、懇話会や市民セミナーの主催・医師会セミナーでの講演等を積極的に行い、西部地区の診療所との紹介・逆紹介を増やしてきたが、症候学の充実が課題であった。

認知症疾患医療センター準備室の新設に伴い、本邦を代表する神経内科医/認知症専門医/神経精神医学者である森悦郎先生が着任され、神経心理学を専攻する心理士（引田）も着任し神経心理学バッテリーが本格化したことで極めて高い診断精度での紹介診療、および診断の難しい症例の診療について指導を受けることが可能になった。

「産業精神医学」では、高橋は平成28年度から始まったストレスチェックの結果を労務管理に応用する新しいデータ解析法を研究会などで提案し始めている。緩和ケア業務については引き続き、各病院主催の研修会の精神・心理部門への協力の他、心理士（丸山）が院内緩和ケア業務に定期的に参加している。

有床総合病院精神科の一般的な機能である外来診療、入院診療、院内他科との連携は概ね従来通りである。

当科の一般外来では(1)うつ病・パニック障害などうつ病圏、(2)全般的不安障害など神経症圏、(3)適応障害などストレス関連疾患の、院外の診療所や院内他科からの紹介例が従来多かった。また専門外来は一般診療の枠内で時間を確保して行っており(4)「慢性疲労（症候群）」（高橋）では、市井の精神科で対応が難しいとされる慢性疲労・一部の慢性疼痛など心身症（身体表現性障害）は、総合病院・大学病院などからの紹介も受けてきた。(1)～(4)では当科が伝統的に大切にしてきた、旧来の社会構造に基づく人格特性の把握・心理教育という枠組みが有意義であった。

しかし最近では社会構造のダイナミックな変化を反映してか、認知症以外にも(5)高齢者の身体疾患に伴う精神的問題（老年精神医学）のケースと、(6)より若年で一見適応障害にみえて発達障害が潜在するケースが増加しており、上記の枠組みは十分に有効でなく、よりわかりやすい一般的・大衆的な枠組みが必要である。

入院診療は一般医療法に基づき、他科との混合病棟形式で行っているためADLが概ね自立し行動制限の必要が無いとの制限があるものの、昨今数少ない都市部

総合病院の有床精神科として機能している。

入院患者においても外来と同様に(5)(6)の増加がみられる。このうち(5)の入院、および身体科からの転科入院は、院内他科との連携を主に担当している関係で青木が多く取り扱っている。

院内他科との連携は、(4)(5)のように心身の問題を一元的に特定できない症例の併診の他、他科入院患者が従来合併する精神疾患・新たに発症したせん妄や適応障害などへの対応（すなわちコンサルテーション・リエゾン＝サービス、CLS）、さらに緩和ケアでの相談・直接診療等の業務も多い。

2. 診療体制

常勤は2名（高橋励（部長）、青木保典）で、木藤友実子は複数日の外来診療を担当している。

1) 外来診療スケジュール（表1）

2診での完全予約制で、必要に応じて3診としている。さらに診療の質向上のため心理士によるカウンセリングを行う症例もある。その他に、脳機能センターとして森先生・引田心理士による診療・認知機能検査を週半日行うため最大4～5診察室が必要になる。

院外からの初診患者様の予約は、診療情報が集約されるよう、あったかサポートセンター経由の紹介を前提にお願いし、診療効率性を上げている。

2) 検査体制（表2）

当科独自の検査として心理検査、脳波検査などがある。

まず心理検査では、一般分野では引き続き重症度（うつ状態など）の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を行っている。認知症分野では、1.スクリーニング（認知症が疑われる症例の発見）から2.病態推定（例えばアルツハイマー病と脳血管認知症の鑑別）のための診断補助検査へと進んでいたが、本年より3.本格的な神経心理学バッテリー施行体制を導入し、本邦トップレベルの診療が可能になった。

次に脳波検査は、従来通りてんかん診療、他科連携での症候性・器質性の病態推定に有用である。認知症分野では、難しい初期診断補助法として青木が独自に開発した脳波分析手法が昨年度より用いられている。

認知症の画像診断では、従来脳血流SPECTが頻用

されていたが、今年は頭部MRI定量的計算法を導入した。

この他、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている（鑑別診断としてのバルスオキシメトリーの援用、多重注意機能を測定するソフトウェアの開発など）。

3) 病棟体制

非常勤医を除き、外来診療担当医が入院加療をも受け持つ。2名の入院担当医が概ね10人前後の入院加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務

現在は青木が中心になり、緩和ケア業務はCLS中に含めて行っている。心理士による「無菌室化学療法カウンセリング」も続けている。

5) 心理士業務体制

一般カウンセリング、一般検査、緩和ケア業務に加えて、脳機能センターの業務に専従する心理士（引田）が新たに着任し、認知機能検査、特に神経心理学的検査が可能になった。

6) 診療と密接にかかわる教育体制

①大阪大学医学部学生の臨床実習を続けている。これは実際の業務（外来診療・専門外来診療・入院診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査）についての実習・講義を常勤医・非常勤医・心理士の5名が各自の専門分野により分担した。

②当院における精神科前期研修には、従来最終レポート作成の過程にかかわり、やや手薄ともいえるが、本来この過程は研修協力病院（水間病院・藍野病院）で行われるのが建前であるためである。さらに学会による以下の施設認定を受けているが、新専門医制度の整備が遅れていることなどから、実習は開始されていない。

③日本精神神経学会認定の精神科専門医を目指す医師のための、同学会専門医研修認定施設（大阪大学、やまと精神医療センターへの協力型施設として機能する予定）

④神経精神医学サブスペシャリティの取得を目指す上級精神科医師のための、日本総合病院精神医学会特定研修施設

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

平成26年7月の部員変更に伴い外来患者が一旦減少した後、患者数は反跳し、以後はほぼ横ばいであるが、認知症の紹介例数は増加している。

2) 入院診療実績（表3、4）

常時入院数は平均入院日数の短期化もあり伸び悩む傾向にある。総合病院精神科入院病床が著減し貴重な現在、潜在的な社会的ニーズに応えるため、診療所とのさらなる連携強化による入院患者数増加をはかりたい。

4. 認定医・専門医など

精神神経学会専門医・指導医	1名
日本総合病院精神医学会特定指導医	1名
精神保健指定医	1名
日本医師会認定産業医	1名

5. 業績

論文・著書

1. 青木保典, 数井裕光, 田中稔久, 石井良平, 畑真弘, 鐘本英輝, 武者利光, 松崎晴康, 今城 郁, 吉山顕次, 岩瀬真生:脳波NPV解析を用いた特発性正常圧水頭症における髄液シャント手術の効果予測, 日本薬物脳波学会雑誌, 17:15-22, 2017年.

研究会発表

1. 木藤友実子:「認知症早期治療における薬剤選択」, 大阪市認知症多職種連携懇話会, 2017年4月, 大阪.
2. 高橋 励:座長, 第2回大阪精神医学研究会, 2017年4月, 大阪.
3. 高橋 励:「精神科患者背景からみた処方傾向について」, 阿波座エキスパート=ミーティング, 2017年4月, 大阪.
4. 木藤友実子:「糖尿病と認知症 精神科医の立場から」, あわぎ認知症病診連携懇話会, 2017年6月, 大阪.
5. 高橋 励:講義と演習「せん妄」・「コミュニケーション」, 八尾市立病院緩和ケア研修会, 2017年6月, 大阪.
6. 高橋 励:「ストレスチェックにおける反応カテゴリーと事例化の関係 数量化理論を用いた解析法の提案」, 病院精神科医・産業医メンタルケア研究会, 2017年6月, 大阪.
7. 高橋 励:「抗精神病薬による増強療法の有効性にかかる複数の作用点:前頭ネットワーク, 行動, 多様性」, 明治製菓社内研修会, 2017年6月, 大阪.
8. 高橋 励:「抗うつ薬増強療法の作用点からみた, 新規抗うつ薬の適用可能性」, ファイザー製薬社内研修会, 2017年7月, 大阪.
9. 高橋 励:講義と演習「せん妄」・「コミュニケーション」, 市立池田病院緩和ケア研修会, 2017年10月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	高橋		木藤	森 (物忘れ 外来)	高橋		江川		高橋	高橋
2診	青木		臨時医	佐竹	木藤	木藤	木藤		青木	
3診							青木	青木		

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波				○診		○診		○診		○診
心理テスト	○診	○診	○診	○診			○診	○診	○診	○診

○：当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	15,618	15,008	15,568	15,073	14,573
入院	6,661	5,267	4,072	3,749	3,600

表 4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	51	47
その他の不安障害	7	30
身体表現性障害	7	39
解離性[転換性]障害	4	54
統合失調症	2	105
自律神経系の障害	2	48
前庭機能障害	2	42

整 形 外 科

スタッフ 部 長：毛利年一
副部長：行方雅人
副医長：高橋和孝、平井幸雄

1. 診療内容

当科は、関節外科、脊椎外科、骨折外傷を3本柱として診療を行ってきた。

関節外科では膝および股関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存療法を行ってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性に優れたセラミックやクロスリンクポリエチレンなどを使用して患者様の負担を減らすよう最小侵襲手術を行っている。

脊椎外科では下肢痛で歩行が困難になっている腰部脊柱管狭窄症患者に対する開窓術や椎体間固定術を主に行っている。

外傷では高齢者の骨折が増加しており、骨粗鬆症治療とともにできるだけ早期の手術を心がけている。また、ロコモティブシンドロームが世間に認知されつつあり、この領域の診療は今後も必要不可欠で力を入れていくべき分野だと考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携し、早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。手術患者に対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後早期から集中して運動療法を行ってきた。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医4名が担当し診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はほぼ前年度並みであった。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術件数の大幅な増加に伴って、入院患者数は増加した。

4. 専門医・指導医など

日本整形外科学会認定リウマチ医 1名
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医 1名
日本整形外科学会認定整形外科専門医 1名

5. 業績

論文・著書

1. 平井幸雄, 平尾 眞, 蛭名耕介, 田邊 誠, 吉川秀樹: 人工足関節置換術後に外反母趾矯正が必要となった関節リウマチの1例, 整形外科, 68:42-45, 2017年.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1 診	行方	手術	毛利		交代	手術	行方	行方 (特診 脊椎 外来)	毛利	毛利 (特診 脊椎 外来)
2 診	高橋和		平井				高橋和		平井	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			術前カンファ		
午後				部長回診	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	14,359	12,257	12,548	13,965	13,696
入院	9,009	10,255	9,379	8,533	10,070

表4 H29.4～H30.3 小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脊柱障害	119	26
大腿骨骨折	50	42
膝関節症[膝の関節症]	46	33
前腕の骨折	24	7
整形外科的経過観察ケア	21	4
肩および上腕の骨折	20	15
下腿の骨折、足首を含む	19	36
股関節症[股関節部の関節症]	14	27
腰椎および骨盤の骨折	12	35
骨え(壊)死	5	17
手首および手の骨折	5	3

スタッフ 部長：東山真里（副院長）
副院長：西本知子
専攻医：横井一範、高田洋子

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月10日に「皮膚の日の催し」として患者対象の学習会を皮膚科医師/形成外科医師と看護師で開催。じんま疹の診断・治療、傷の対処法などにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置（UVA、UVB、ナローバンドUVB）、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は15名で再診は延べ500名余り。(1) 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト 3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリンA）4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスチキヌマブ、セクキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。入院、外来とも可能。乾癬に関する臨床治験や臨床研究も実施。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。【エキシマ治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。【皮膚外科手術】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診療。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午前・午後）、全予約制（初診原則としてあったかサポート経由以外は予約不可）。アトピー外来は木・金（午前）。外来患者数97名/日

手術：水曜午前は局所麻酔

2) 病棟体制

病棟担当医は常勤医 3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は23名/月、入院のべ患者数は3799名、1日平均10名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、水痘、じんま疹、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

平成29年度の外来延べ患者数23,831名、1日平均97名。紹介患者数 50名/月。年間手術件数240件

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 2名

5. 業績

論文・著書

- 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: Hperkeratotic Ccpillary-venous Malformationの1例, 皮膚臨床, 59:400-401, 2017年.
- 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山真里, (総合内科)古結敦史, 小瀬戸昌博: 顔面に紫斑を生じた血管炎, 皮膚病診療, 39:271-274, 2017年.
- 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: 潰瘍性大腸炎に伴う壊疽性膿皮症に顆粒球吸着療法が奏効した1例, 皮膚の科学, 16:150-154, 2017年.

- 伊藤寿啓, 安部正敏, 島田辰彦, 菅井順一, 東山眞里, 根本 治, 乾癬外用治療実態調査研究会, 尋常性乾癬治療に対する乾癬外用治療実態調査研究会:尋常性乾癬治療に対するカルシポトリオール/ベタメタゾンジブロン酸エステル配合外用療法の治療実態調査, 日臨皮会誌:555-563, 2017年.

学会発表

- 東山眞里:乾癬性関節炎ー乾癬の皮膚症状と鑑別すべき皮膚疾患(診療科連携による脊椎関節炎のマネージメント), 第61回日本リウマチ学会総会シンポジウム, 2017年4月, 福岡.
- 横井一範, 青山礼華, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里:塩酸エペリゾンによるアナフィラキシーの1例, 第461回日本皮膚科学会大阪地方会, 2017年5月, 大阪.
- 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里, 細野研二, 赤羽(同 耳鼻咽喉科), 辻成佳(国立病院機構 大阪南医療センター 整形外科):掌蹠膿疱症82例および骨関節炎に対する扁桃摘出術の効果についての検討, 第116回日本皮膚科学会総会, 2017年6月, 仙台.
- 高田洋子, 林 美沙, 片山一朗(大阪大学):脊椎炎型関節症性乾癬にアダリムマブ投与中に化膿性脊椎炎を生じた1例, 第32回日本乾癬学会学術大会, 2017年9月, 東京.
- 東山眞里:アドヒアランス向上のための外用療法の工夫日本乾癬学会, シンポジウム:達人に学ぶ頑固な乾癬の治療工夫, 第32回日本乾癬学会学術大会, 2017年9月, 東京.
- 東山眞里, 川田 暁, 片山一朗, 松田洋昌, 室田浩之, 岡本祐之, 山崎文和, 鶴田大輔, 森脇真一, 庄田裕紀子, 辻成佳, 樽谷勝仁:アダリムマブ投与下の心血管イベント危険因子の変動(乾癬ー乾癬性関節炎比較), 多施設共同前向き観察研究(第3報), 第32回日本乾癬学会学術大会, 2017年9月, 東京.
- 横井一範, 高田洋子, 西本知子, 東山眞里:右手示指に生じたBowen病の1例, 第463回日本皮膚科学会大阪地方会, 2017年9月, 大阪.
- 東山眞里:皮膚疾患特に乾癬治療におけるエキシマライトの活用, 日本皮膚科学会東京支部総会ランチョンセミナー, 2017年11月, 東京.

研究会発表

- 伊藤寿啓, 安部正敏, 島田辰彦, 菅井順一, 東山眞里, 根本 治:乾癬外用治療実態調査研究会, 尋常性乾癬治療に対する患者自覚症状・外用療法治療実態調査, 第33回日本臨床総会, 2017年4月, 神戸.
- 東山眞里:皮疹は語るー皮膚は内臓の鏡, 第5回播磨臨床セミナー, 2017年4月, 神戸.
- 東山眞里, 高橋英俊:ハンズオンセミナー乾癬性関節炎, 日本臨床皮膚科医会総会, 2017年4月, 神戸.
- 東山眞里:乾癬の外用療法ーアドヒアランスの向上のために, 大阪乾癬 ワークショップ, 2017年5月, 大阪.
- 東山眞里:乾癬の外用療法ーアドヒアランスの向上のために, 京都乾癬 ワークショップ, 2017年5月, 京都.
- 東山眞里:当科における重症型乾癬の治療経験ーイクセキズマブへの期待, North Osaka Psoriasis Forum, 2017年6月, 大阪.
- 東山眞里:かゆみを伴う皮膚疾患の診断と治療, 西区医師会第1回学術講演会, 2017年6月, 大阪.
- 東山眞里:乾癬治療のKeyー他科連携・病診連携の重要性, 東大阪医療連携スクラム会, 2017年6月, 大阪.
- 東山眞里:分子標的薬による皮膚障害, ブリッジカンファレンス, 2017年6月, 大阪.
- 高田洋子, 横井一範, 西本知子, 東山眞里:原発性胆汁性肝硬変に合併した汎発性環状肉芽腫の1例, 第110回近畿集談会, 2017年7月, 大阪.
- 東山眞里:当科における重症乾癬の治療経験ープロダルマブへの期待QOLの向上をめざした乾癬治療, ルミセフ発売1周年記念講演会, 2017年8月, 大阪.
- 横井一範, 高田洋子, 西本知子, 東山眞里:紙巻きタバコによる熱傷が原因と考えられる右手示指Bowen病の1例, 第222回大阪症例検討会, 2017年9月, 大阪.
- 浅田秀夫(奈良県立医科大学)東山眞里:ウィルスと薬疹, 大

阪皮膚科医会例会, 2017年9月, 大阪.

- 東山眞里:膠原病・乾癬診療における他科連携の重要性, 第57回O. I. D conference, 2017年10月, 大阪.
- 東山眞里:抗リウマチ薬使用中に発症した帯状疱疹の診断と治療, RA EXPERT MEERING, 2017年10月, 大阪.
- 東山眞里:複雑化する乾癬ピラミッド計画ー新しい治療への期待, 第168回滋賀県皮膚科医会学術講演会, 2017年11月, 大津.
- 東山眞里:複雑化するピラミッドからの治療選択, 第2回北摂皮膚科女医会, 2017年11月, 豊中.
- 東山眞里:QOL向上のためにー乾癬治療の新展開と患者会の役割, ルミセフ発売1周年記念講演in徳島, 2017年12月, 徳島.
- 横井一範・高田洋子・西本知子・東山眞里:ヒドロキシクロロキンが有効であった脱毛を伴った頭部円板状エリテマトーデスの1例, 第16回大阪北西部地区皮膚科症例検討会, 2018年3月, 大阪.
- 高田洋子・横井一範・高田洋子・西本知子・東山眞里・小瀬戸昌博:抗リン脂質抗体症候群を合併したSLE患者に併発した好酸球性筋膜炎の1例, 第466回片山一朗教授退官記念大阪地方会, 2018年3月, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	甲斐		乾癬 外来2 東山		アレルギー 外来 西本		溝口		西本	
2診	東山	検査		乾癬 外来 東山	東山	検査 光線 テスト 生検	乾癬 外来 西本	乾癬 外来 東山/ 高田	アトピー 外来 横井	
3診	横井		高田	乾癬 外来2 横井	林		横井	高田	高田	
外来 処置	高田		乾癬 外来 東山		局麻手術 平野・ 横井					

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○: 当院診察が必要

表3 外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	27,548	26,570	26,005	25,726	23,831
入院	3,576	3,226	3,821	3,296	3,799

表4 H29.4~H30.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹[帯状ヘルペス]	84	9
蜂巣炎(蜂窩織炎)	48	15
乾せん(癬)	24	19
水痘[鶏痘]	9	9
じんま(蕁麻疹)疹	9	9
類天疱瘡	8	38
アトピー性皮膚炎	7	12
丹毒	6	12
摂取物質による皮膚炎	6	16
その他の紅斑性病態	6	16
有害作用、他に分類されないもの	6	5

スタッフ 部長：福井辰成

医長：湊のり子、金光俊行

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行った。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室（火・木曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ11,422人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,481人であった。

3) 治療実績

経直腸的前立腺生検術は84例に対して行った。去勢抵抗性前立腺癌に対しては2014年より認可されたエンザルタミドやアピラテロンを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を納め、また患者数も着実に増加している。また去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対し塩化ラジウム（Ra-223）を用いた治療を行った。

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術50例、尿路変向1例（自排尿型代用膀胱形成術0例・回腸導管造設術1例）に対して行った。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再発し

やすい癌に対してBCG膀胱内注入療法を施行した。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。

前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的な前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）20例を行った。特に腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主にを行い、場合により恥骨後式前立腺被膜下摘除術を行っている。

腹腔鏡下手術は腎、副腎、腎盂尿管疾患、前立腺癌その他12例に行った。根治的腎全摘除術2例、腎部分切除術1例、副腎摘除術2例、腎尿管全摘除術3例、前立腺全摘除術1例、尿管管切除術1例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して体外衝撃波碎石術（ESWL）を31例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を6例に、経尿道的尿管碎石術を20例に行った。その内13例に対しレーザーを用いて治療を行った。

慢性腎不全症例に対して血液透析を行った。23例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医	3名
日本泌尿器科学会指導医	3名
日本がん治療認定医機構認定医	2名
日本医師会認定産業医	2名

5. 業績

研究会発表

1. 湊のり子、金光俊行、福井辰成：日生病院におけるRadium-223の初期治療経験、2017年11月、大阪。

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	福井	福井	黒田	回診	交代	手術	福井	特殊検査	藤田昌※	福井
2診	湊	特殊検査	金光	特殊検査			湊	湊	金光	手術

※2・4週は福井

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○診		○診				○診		○診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	12,201	12,114	11,518	11,007	11,422
入院	3,759	3,751	3,462	3,467	3,481

表4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	86	11
膀胱の悪性新生物	50	13
腎結石および尿管結石	40	4
前立腺肥大（症）	29	7
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	28	4
疾病および病態の疑いに対する 医学的観察および評価	19	2
急性腎盂腎炎	10	10
尿管の悪性新生物	7	22
腎盂を除く腎の悪性新生物	6	16
下部尿路結石	6	10
過長包皮、包茎およびかん〈嵌〉頓包茎	6	3

眼科

スタッフ 部長代行：東山真里（副院長、皮膚科部長）（～7月）、谷井啓一（8月～）

専攻医：吉岡茉依子（1月～）

1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。

平成28年度は、大阪大学眼科教室からの非常勤医師による外来診療のみであったが、平成29年8月に谷井が赴任し、常勤医体制を再開した。

最新の設備を用いた質の高い医療の提供と、患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また、病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で診療を行っている。

ほとんどの科を網羅する日生病院の一診療科として、全身状態のよくない症例や、眼科単科では対応困難な症例の眼科治療も他科と連携しながら行っており、さらにニッセイ予防医学センターとも協力し、眼底検診による疾患の早期発見・予防に努めている。また、眼科疾患の難病認定申請に関する検査および臨床調査個人票の発行や、身体障害者手帳申請に関する検査および診断書・意見書の発行、視覚障害者スポーツに関するサポートも行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医	1名
日本網膜硝子体学会・眼科PDT研究会	
光線力学療法認定医	1名
視覚障害者用補装具適合判定医師	1名
ICD	1名
臨床研修指導医	1名
日本医師会認定産業医	1名

日本医師会認定健康スポーツ医	1名
日本体育協会認定スポーツドクター	1名
日本障がい者スポーツ協会認定障がい者スポーツ医	1名

5. 業績

研究会発表

- 谷井啓一：糖尿病網膜症の診断、治療と予防、あわぎ糖尿病セミナー、2017年10月、大阪。

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	駒井	手術	中江玲		谷井		駒井		谷井	
2診	河嶋	特殊検査	吉岡	特殊検査	渡邊	特殊検査	吉岡	特殊検査	的場	特殊検査
3診	前野		満岡		吉岡		春藤		吉岡	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影	○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予	

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	13,947	13,766	14,122	8,146	8,217
入院	2,416	1,513	1,213	0	231 [※]

※H29.8～眼科常勤医体制の再開

表4 H29.8～H30.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	106	2
視神経炎	2	4
水晶体のその他の障害	1	3
硝子体の障害	1	2

スタッフ 主任部長：藤田信哉
部長代行：赤羽 誉（～7月）
副 部 長：細野研二

1. 診療内容

急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療（手術、放射線治療、抗がん剤治療）を行い、最近では耳科領域の手術では、従来からの慢性中耳炎に対する手術に加え、メニエル病に対する内リンパ嚢開放術にも取り組んでいる。頭頸部がん診療では、抗EGFRモノクローナル抗体（セツキシマブ）を放射線治療や抗がん剤治療に併用することで、従来では治療が困難な症例に対しても積極的に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am
（火：手術日のため初診のみ）
専門診療：頭頸部腫瘍外来（木pm：赤羽）（～7月）
補聴器外来（第1・3・5木pm、金pm：細野）
めまい外来（水pm：藤田）
各医師の専門性も重視し、初診の段階から疾患群に応じて、より適した医師が診療担当する方針としている。

2) 病棟体制

病床数10（4東主病棟、3西副病棟）を基本に入院診療を行った。
外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。重症例については、複数の医師で、または上級医の指導の下、治療を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

- ・めまい・平衡機能検査：月・火・水曜日午後
- ・ABR検査：適宜
- ・補聴器適合検査：木・金曜日午後（補聴器外来）
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：外来診療の一貫で施行
- ・嚥下造影検査：放射線科との調整で適宜施行

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

一般診療が減少している中で、めまい診療、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）診療、補聴器相談、その他の重症疾患の対応が増えた結果、外来診療に要する時間は増加傾向である。積極的に診療所からの紹介患者の受入、また逆紹介も行

うことで、地域医療支援の観点からも西区基幹病院としての役割を果たしていると思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術例を主に、急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、鼻出血、めまい、急性感音難聴、顔面麻痺、頭頸部癌の放射線治療や抗がん剤治療などを行った。

3) 検査実績

めまい検査
頸部超音波検査
鼻咽頭内視鏡検査
嚥下造影検査

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科学会専門医	3名
日耳鼻認定補聴器相談医	2名
補聴器適合検査認定医	1名
頭頸部がん暫定指導医	1名
日本東洋医学会漢方認定医	1名
身体障害者福祉法指定医	2名

（聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害）

5. 業績

論文・著書

- 藤田信哉：めまいと気象－メニエル病について－, Equilibrium Res, 76:1-7, 2017年.
- 藤田信哉, 岡本倫朋, 山中敏彰, 松村八千代, 北原 紘：地域医療支援病院耳鼻咽喉科におけるめまい症例の臨床的検討, Equilibrium Res, 76:261-269, 2017年.
- 藤田信哉, 山中敏彰, 成尾一彦, 北原 紘：強低音による急性感音難聴の検討, 耳鼻臨床, 110:587-592, 2017年.

学会発表

- 細野研二, 赤羽 誉, 大山寛毅, 岡安 唯, 金澤成典, 藤田信哉：保存的治療にて治癒した咽頭・食道壁内膿瘍の1例, 第118回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2017年5月, 広島.
- 藤田信哉, 山中敏彰, 松村八千代, 北原 紘, 成尾一彦：小児めまい症例の診断について, 第12回日本小児耳鼻咽喉科学会総会, 2017年6月, 宇都宮.
- 岡安 唯, 藤田信哉, 赤羽 誉, 細野研二, 北原 紘, 小瀬戸昌博, 三谷和男：漢方治療の併用が有効であったと考えられたCogan症候群の一例, 第68回日本東洋医学会学術総会, 2017年6月, 名古屋.
- 山中敏彰, 松村八千代, 伊藤妙子, 大山寛毅, 大塚進太郎, 山下哲範, 岡本英之, 藤田信哉, 北原 紘：椎骨脳底動脈循環不全(VBI)の病態と眼振, 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会, 2017年7月, 下関.
- 細野研二, 赤羽 誉, 金澤成典, 岡安 唯, 大山寛毅, 藤田信

哉:当科における液状化検体細胞診(LBC)導入後の穿刺吸引細胞診に関する検討, 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会, 2017年7月, 下関.

- 赤羽 譽, 細野研二, 金澤成典, 岡安 唯, 藤田信哉:オスラー病の鼻出血症状に対する超音波凝固装置の使用経験, 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会, 2017年7月, 下関.
- 山中敏彰, 大山寛毅, 阪上雅治, 山下哲範, 西村忠己, 松村八千代, 成尾一彦, 藤田信哉, 北原 紘:真珠腫手術における神経再生誘導チューブを用いた鼓索神経再建症例, 第27回日本耳科学会総会, 2017年11月, 横浜.
- 藤田信哉, 山中敏彰, 北原 紘:頭位性めまいを主訴とした椎骨脳底動脈循環不全の2症例, 第27回日本耳科学会総会, 2017年11月, 横浜.
- 成尾一彦, 堀中昭良, 藤田信哉, 北原 紘:当科における突発性難聴の臨床的検討, 第27回日本耳科学会総会, 2017年11月, 横浜.
- 松村八千代, 山中敏彰, 村井孝行, 大山寛毅, 伊藤妙子, 藤田信哉, 北原 紘:めまい平衡リハビリテーションの効果と治療期間の検討, 第76回日本めまい平衡医学会総会, 2017年11月, 軽井沢.

研究会発表

- 伊藤妙子, 乾 洋史, 藤田信哉, 和田佳郎, 山中敏彰, 北原 紘:当科における内リンパ水腫推定検査の陽性率に関する検討, 第35回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会, 2017年8月, 大阪.
- 成尾一彦, 阪上 剛, 堀中昭良, 藤田信哉, 尾崎大輔, 北原 紘:当科における突発性難聴症例の検討, 第343回日耳鼻大阪地方連合会, 2017年12月, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田信		松村		藤田信	藤田信 (めまい)	細野	細野	藤田信	
2診		手術		手術	松村			補聴器 外来 細野	小泉 (補聴器)	細野
3診	細野						赤羽	赤羽	細野	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
聴力検査 平衡機能検査 味覚検査	○ 診		○ 診		○ 診		○ 診		○ 診	
聴性脳幹反応		○ 診		○ 診						

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	13,924	13,417	13,327	11,618	10,579
入院	4,835	5,533	4,603	4,436	2,278

表4 H29.4~H30.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
前庭機能障害	57	8
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	26	6
慢性副鼻腔炎	24	7
睡眠障害	19	4
急性扁桃炎	14	6
その他の難聴	12	7
扁桃周囲膿瘍	11	6
声帯および喉頭の疾患、他に分類されないもの	9	7
顔面神経障害	6	9
唾液腺疾患	6	5

形成再建外科

スタッフ 部長代行：藤原敏宏
副 医 長：大島 遥

1. 診療内容

形成再建外科では体表の外傷や腫瘍、変形、異常を取り扱っている。また治らない傷や目立つ傷あと、眼瞼下垂、がんの切除およびその修復（頭頸部再建や乳房再建など）の治療も行う。疾患の根治のみでなく、整容性に配慮した治療を心がけている。

外傷については全身を対象に対応しており、特に露出部である顔面や四肢を多く治療している。擦過創、挫滅創、裂創、剥脱創、咬創、熱傷、凍傷など幅広い外傷に対応している。顔面骨折も変形や機能障害の程度に応じて手術をしている。皮膚、皮下腫瘍については理学所見を中心にエコー、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせる複合的に病態を診断し、皮膚科と合同カンファレンスを行い、治療計画を立てている。また、切除した腫瘍については同カンファレンスにて病理診断の検討会を行っている。眼瞼疾患については眼瞼下垂を中心に、睫毛内反症や眼瞼外反、兎眼などの治療を行っている。余剰皮膚切除や挙筋前転術、筋膜や骨膜弁による吊上げ術など幅広く対応している。顔面神経においては静的再建やボトックスによる痙攣の治療を主に行っている。乳房再建では人工物や自家組織（広背筋皮弁、腹直筋皮弁、腹部穿通枝皮弁など）を用いた再建方法の中から患者に合った治療方法を選択している。褥瘡については皮膚科と合同で治療を行っており、入院患者の褥瘡治療は形成外科及び皮膚科、多職種を含めた褥瘡対策チームで対応している。糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの難治性創傷は他科と連携の上治療を行っている。その他にも副耳、耳瘻孔、多合指（趾）症、ケロイド、腋臭症、ワキ多汗症、陥入爪の治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療は原則1診体制。初診、再診共に1診体制で対応している。月、火曜日は大島が担当。水、金は藤原が担当。乳房再建、頭頸部再建は藤原が担当している。また緊急の外傷も随時引き受けて対応している。

2) 病棟体制

病棟は藤原、大島がそれぞれ主治医を担当。また他科との共観患者についてもそれぞれが共観医として担当している。

3) 手術スケジュール

主には月曜日午後、金曜日午後に局所麻酔の手術を行い、木曜日午前に全身麻酔の手術を行っている。必要に応じて月曜日午前、金曜日午前にも手術を行っている。頭頸部再建は火曜日に、乳房再建は木曜日に行っている。手術は全て中央手術室で行って

いるが、外傷や緊急性のある小手術に対しては外来処置室にて対応している。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表2）
- 2) 入院診療実績（表2、3）

4. 認定医・専門医など

日本形成外科学会専門医 2名
日本創傷外科学会専門医 1名
日本形成外科学会認定皮膚腫瘍外科指導専門医 1名
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師 1名

5. 業績

学会発表

1. 藤原敏宏, 河合建一郎, 石瀬久子, 藤田和敏, 曾東洋平, 西本聡, 垣淵正男: 伸展刺激を付加した末梢神経が創傷治癒に及ぼす影響, 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2017年7月, 岐阜県.

研究会発表

1. 大島 遥, 藤原敏宏, 東山真里: 慢性の熱刺激によって発症したと思われる後爪郭のBowen病, 第46回大阪形成外科医会, 2017年9月, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	大島		大島		藤原				藤原	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成29年度
外来	2,742
入院	1,097

※H29.4 形成再建外科を新設

表3 H29.4～H30.3 入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
皮膚のその他の良性新生物	20	3
眼瞼のその他の障害	18	5
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	17	5
皮膚のその他の悪性新生物	14	9
悪性リンパ腫	7	6
皮膚の上皮内癌	7	8
皮膚および皮下組織の毛包のう〈囊〉胞	7	3
蜂巣炎（蜂窩織炎）	6	6
血管腫およびリンパ管腫、全ての部位	5	2
頭蓋骨および顔面骨の骨折	4	8

放 射 線 診 断 科

スタッフ 部 長：前田宗宏
副部長：小林美登利、牧 大介
兼 任：内藤博昭（特任顧問）

1. 診療内容・体制

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（骨、脳血流、心筋、甲状腺、副腎、換気・血流、腎など）を行っている。2017年4月から小林医師が加わって常勤の放射線科医が4名となり、大阪大学ならびに大阪市立大学の放射線科専門医（非常勤）の支援も得て、質の高い画像診断とIVRを実践している。

2. 診療実績

- 1) 画像診断 CT 13,108例、MRI 5,508例、単純X線 28,859例、マンモグラフィ 1,384例、消化管造影（DICを含む）78例
- 2) 血管系IVR 55例
動注・塞栓術（肝癌、腎血管筋脂肪腫）36例、止血術（腹腔内）2例、子宮動脈塞栓術5例、副腎静脈サンプリング4例、透析シャントPTA5例、上大静脈ステント2例、選択的動注内カルシウム注入試験1例
- 3) 非血管系IVR 36例
経皮的生検14例、経皮的腫瘍ドレナージ14例、経皮的肝胆道ドレナージ8例
- 4) RI検査 729例

3. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 4名
日本IVR学会専門医 1名

4. 業績

論文・著書

1. Nakao Y, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S: Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease, Heart, published online January 13, 1118-1124, 2017年.
2. 内藤博昭: Special Lecture. History of Cardiac CT－心臓CTの日本史, INNERVISION(32・11), 別冊付録: p.8-9, 2017年.
3. 内藤博昭, 栗林幸夫: 虚血性心疾患の画像診断マルチモダリティ－私ならこう使う－緒言－シンポジウム座長より, 臨床放射線, 63(3): 249-251, 2018年.

学会発表

1. 前田宗宏, 牧 大介, 内藤博昭, 他: 十二指腸静脈瘤破裂に対して効果塞栓術で止血した1例, 第46回日本IVR学会総会, 2017年5月, 岡山.
2. 牧 大介, 前田宗宏, 内藤博昭: 後天性子宮AVMの2症例, 第46回日本IVR学会総会, 2017年5月, 岡山.

研究会発表

1. 前田宗宏, 牧 大介, 小林美登利, 他: 肝右葉ドーム下の膿瘍穿刺・ドレナージに関して, 第3回日本穿刺ドレナージ研究会, 2017年6月, 大阪.
2. 牧 大介, 前田宗宏, 内藤博昭: 医源性腎筋内血腫の一例, 第63回関西Interventional Radiology研究会, 2017年6月, 大阪.
3. 内藤博昭: CTによる冠動脈硬化症と心筋性状の診断, 第46回CT画像研究会, 2017年6月, 大阪.
4. 内藤博昭: Special Lecture. History of Cardiac CT－心臓CTの日本史, SOMATOM Symposium 2017, 2017年8月, 東京.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
IVR		前田牧						前田牧		前田牧

※放射線診断は毎日実施

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
リニアック		○ 診			○ 診	○ 診			○ 診 (10:30-)	○ 診
腹部エコー	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	

●: 紹介状・予約が必要 ★: 紹介状のみにて検査可 ○: 当院診察が必要

表3 年度別外来延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
放射線診断科	4,902	3,922	4,586	4,244	1,268*
(放射線治療科)	—	—	—	—	2,208*

※H29.4 放射線科から放射線診断科に改組、放射線治療科 新設

放 射 線 治 療 科

スタッフ 部長代行：丸岡真太郎

1. 診療内容

平成29年4月より「放射線治療科」を新設し、診療を開始した。

がん治療の三本柱の1つである放射線により各種がんに対する放射線治療を行っており、根治目的の放射線治療だけでなく、がんによる各種症状を和らげるための緩和的照射も行っている。平成30年5月より新リニアック装置TrueBeamに機器更新を行い、体幹部定位照射をはじめとした高精度放射線治療を行う。

主な対象疾患は下記の通り

頭頸部腫瘍、消化器腫瘍（食道癌、膵臓癌、肝臓癌等）、泌尿器科腫瘍（前立腺癌、膀胱癌等）、婦人科腫瘍（子宮頸癌、卵巣癌等）などの悪性腫瘍に対する放射線治療、頭蓋内腫瘍、肺腫瘍、肝腫瘍に対する定位放射線治療ケロイド等の良性疾患に対する放射線治療

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診		丸岡			丸岡	丸岡			丸岡	虎谷

※放射線診断は毎日実施

表2 年度別外来延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
放射線診断科	4,902	3,922	4,586	4,244	1,268*
(放射線治療科)	—	—	—	—	2,208*

※H29.4 放射線科から放射線診断科に改組、放射線治療科 新設

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

部位別治療件数

・総計：152件	
造血器・リンパ	29件
婦人科	4件
脳脊髄	9件
頭頸部	5件
乳腺	25件
食道	2件
肝胆膵	4件
泌尿器	25件
骨転移	36件
肺縦隔	13件

4. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科専門医	1名
日本医学放射線学会放射線治療専門医	1名

スタッフ 部 長：花田留美
副 部 長：玉井 裕
医 長：鈴木史子
医 員：藤原優子（6月～）

1. 診療内容

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、予定手術においては、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では問診・検査結果の評価・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い、当該患者さんと手術に適した麻酔法を選択する。そして、麻酔法およびその合併症について患者さんに理解・承諾していただき、信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

術前に問題点をしっかり把握することで、リスク軽減を目指し、できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。まず、術前問題点を早期に把握するため麻酔科管理症例については全例入院センターにてスクリーニングを兼ねて麻酔科術前問診票を記入いただき、術前問題点があれば各科に連絡し、早期に手術認定看護師の介入、他科へ紹介依頼をお願いしている。術前禁煙指導を始め、術後の肺合併症などのリスクを減らすための呼吸器内科での治療や呼吸器リハビリ、栄養科への術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部への入院前の内服薬の把握などを依頼し、周術期合併症のリスク軽減につとめている。また、気づかれていない眼圧上昇による視力低下の可能性、歯周病による歯牙損傷や肺炎のリスク回避のため眼科、歯科への対応も行っている。

術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行う。

ペインクリニック外来は週3日おこなっており、整形外科とも連携し、ブロック依頼などに対応している。急性痛のみならず、癌性疼痛管理にも携わり、当院で治療中の患者の緩和医療にも積極的に取り組んでいる。当院での治療患者に限定しているが、外来通院での麻酔の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としている。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、入院中は緩和ケアチーム依頼患者に主治医と連携しながら直接介入で対

応し、主に身体症状の軽減に携わっている。

教育の面では、平成16年より研修医制度がスタートしているが、当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育している。彼らの初期研修中に到達すべき行動目標としての「医療人として必要な基本姿勢や態度」を指導することはもとより、経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて確実に身につけさせるように指導している。ICLS講習会にも参加してもらっている。一般病院でこそできることを積極的に指導し、研修終了時に目標に到達できていることはもとより、他院に行っても自信を持って活動できるように教育を続けていきたいと考えている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体制はとっていない。外来日以外は手術室にて麻酔業務に従事している。

3. 診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成29年度は総手術件数2,598件、うち麻酔科管理手術件数1,677件となった。また、平成28年4月より整形外科の脊椎専門開設に伴う腹臥位手術や呼吸器外科の分離肺換気などの特殊な麻酔症例数の割合も増加している。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、最近90歳を越える超高齢患者のみならず、腎臓内科造設患者数増加に伴い、合併症の多い透析患者などの重症例の全身麻酔管理など専門性を要する麻酔科医のニーズが高まっており、マンパワーが依然として不足している。

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医 1人
日本麻酔科学会専門医 4人
麻酔科標榜医 4人

5. 業績

論文・著書

1. SuzukiF, TakeuchiM, TachibanaK, IsakaK, InataK, Kinouchi K.:Life-Sustaining Treatment Status at the Time of Death in a Japanese Pediatric Intensive Care Unit, Am J Hosp Palliat Care, 35(5):767-771, 2017年.

学会発表

1. 鈴木史子, 玉井 裕, 小山佐知子, 福本 亮, 花田留美:体位保持困難な大腿骨病的骨折患者に対して脊髄くも膜腔麻酔後に硬膜外カテーテル留置を行った1例, 第22回日本緩和医療学会学術大会, 2017年6月, 横浜.
2. 小山佐知子, 鈴木史子, 玉井 裕, 花田留美:卵巣癌寛解後の多彩な症状を精神疾患と診断したが脳転移であった2症例, 第22回日本緩和医療学会学術大会, 2017年6月, 横浜.

研究会発表

1. 玉井 裕:メサドン投与中に骨折手術を要した1症例, 疼痛勉強会, 2017年9月, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	戸崎 (術前)	戸崎 (術前)	玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	鈴木 (ペイン)	鈴木 (術前)	藤原優 (術前)	藤原優 (術前)	花田 (ペイン)	花田 (術前)
2診			藤原優 (術前)	藤原優 (術前)	玉井 (術前)	玉井 (術前)			鈴木 (術前)	鈴木 (術前)

表 2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	5,640	5,342	4,393	4,849	5,268
入院	224	241	0	38	50

リハビリテーション科

スタッフ 部長：平林伸治

1. 診療内容

平成29年4月より平林が赴任してリハビリテーション医療（診療とリハビリテーション練習）を専門に開始した。

リハビリテーション練習を提供する疾患は以下の様で、外来診察に際して最初に目標・ゴールを示している。

- 1) 急性期疾患で入院された方の回復を促進するリハビリテーション。
- 2) 慢性疾患の急性増悪で入院された方に在宅生活につなげるリハビリテーション。
- 3) 回復期・維持期の方は、在宅で行うリハビリテーションが中心のため、当院で行うことは指導やリハビリテーションができていないかの確認である。実際の練習指導は在宅チームや介護保険によるチームに連携し繋いでいる。

リハビリテーションの目的やゴールは障害の全部が元通りに戻ることではなく、地域や在宅で適応して生活できるように調整していくことであり、そのために相談や援助を患者様と一緒にする診療科である。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表2）
- 2) 入院診療実績（表2）

4. 認定医・専門医など

日本リハビリテーション医学会専門医・指導医	1名
日本超音波医学会専門医・指導医（運動器）	1名
日本整形外科学会専門医	1名
日本職業災害学会社会医学系専門医	1名

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	平林		平林		平林		平林		平林	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成29年度
外来	3,459
入院	0

※H29.4 リハビリテーション科 新設

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺 龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定を行っているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 2名（大阪大学より）

臨床検査技師（中央臨床検査部兼任）：4名（細胞検査士3名）

検査助手：1名

事務職員（中央臨床検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：4,634件

細胞診断：6,509件

術中迅速診断：93件

病理解剖：11件（内科系10件、剖検率5.3%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
H25	3,806	9,618 (2,688)	123	19
H26	3,986	10,245 (2,929)	90	14
H27	4,067	10,795 (3,490)	127	16
H28	4,128	8,584 (1,746)	111	14
H29	4,634	6,509 (0)	93	12

平成29年度はCPCの開催は19回行われ、内容は下記の如くであった。

- 第269回 4月4日：多発性骨髄腫(血液内科)
- 第270回 4月14日：特発性肺線維症(総合内科)
- 第271回 4月25日：肺癌(総合内科)
- 第272回 5月26日：原発性マクログロブリン血症(血液内科)
- 第273回 5月26日：ホジキンリンパ腫(血液内科)
- 第274回 6月30日：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(血液内科)
- 第275回 7月14日：胸腺扁平上皮癌(総合内科)
- 第276回 7月28日：気管支肺炎(総合内科)
- 第277回 7月28日：肺混合型小細胞癌(総合内科)
- 第278回 8月31日：上行結腸癌(消化器外科)
- 第279回 9月29日：気管支肺炎(救急診療科)
- 第280回 9月29日：類上皮型血管肉腫(救急診療科)
- 第281回 10月24日：肺扁平上皮癌(総合内科)
- 第282回 10月27日：胃癌(血液内科)
- 第283回 11月28日：肺扁平上皮癌(総合内科)
- 第284回 12月1日：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(血液内科)
- 第285回 12月28日：食道癌(消化器外科)
- 第286回 2月9日：B細胞性前リンパ球性白血病(血液内科)
- 第287回 3月9日：骨髄異形成症候群(血液内科)

4. 業績

学会発表

- 1. 大嶽雄也, 水口洋一, 角田道久, 城光寺 龍:液状化細胞診(LBC)標本を用いた免疫染色が診断に有用であった男性乳癌の1例, 第58回日本臨床細胞学会秋季大会, 2017年5月, 大阪.

研究会発表

- 1. 城光寺 龍:大阪肺癌病理の夕べ, 2017年9月, 大阪.

救 急 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：岸 正司

副センター長：中川 厚、毛利年一

部長 補 佐：新部里美

医 員：生田武蔵

専 攻 医：村上輝明

〈兼任〉

宇都佳彦（総合内科）、佐藤智彦（神経内科）、生島裕文（消化器・一般外科）、行方雅人（整形外科）

専攻医：長谷川仁美（循環器内科）、大畔健太、魚田晃史、石川那智（以上総合内科）、

横井一範、高田洋子（以上皮膚科）

久留明子、河合洋子、中村由佳、景山志帆、松本綾香、濱野真由子、木村祐貴、上村優子、

川上奈緒美、佐々木理恵（以上看護部）

足立充司（薬剤部）、古川浩司（中央臨床検査部）、長澤浩造（中央放射線部）、

出口暁子（栄養管理室）、重谷政憲（総務人事）、宮本浩樹（診療情報管理室）

〈初期研修医1年目〉

井口智詠、木村優香、高島大幸、高森啓成、三毛麻子、山川明希子、竹内聡礼

1. 診療内容

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された

患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医	1名
日本循環器学会専門医	1名
日本心血管インターベンション治療学会専門医	1名
日本内科学会認定内科医	2名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	1名

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
生田/岸	生田/岸	村上/岸	村上/岸	生田/岸	生田/岸	村上/岸	村上/岸	生田/岸	生田/岸

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	3,525	4,139	4,106	6,182	3,339
入院	946	2,331	3,756	3,939	4,597

※H26.4 救急診療科から救急診療センターへ

がん治療センター

スタッフ センター長：川上 学 部長：谷口史朗（予防医学センター）

部長補佐：小山佐知子（看護部）

花田留美、玉井 裕、鈴木史子（以上麻酔・緩和医療科）、田中敏雄（消化器内科）、

立花 功、田村慶朗、二宮隆介（以上総合内科）、高橋 励（神経科・精神科）、

水野 均（消化器・一般外科）、前田 元（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、

赤羽 誉（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、前田宗宏（放射線診断科）、高島周志（予防医学センター）、

大島千春、佐々木直美、里井景子、阪井理恵、水越 梓、村上弘子、松田智子（以上看護部）、

宮 麻紀子（薬剤部）、大西 龍（中央臨床検査部）、新谷泰正（中央放射線部）、

田中 孝（リハビリテーション室）、本家裕子（あったかサポートセンター）、

丸山加奈（神経科・精神科）、出口暁子（栄養管理室）、上村慶子（予防医学センター）、

岩本愛佑美（医事サービス部）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【具体的内容】

1) がんに関する集学的治療の充実

- ①多診療科・多職種が参加するカンサー・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表参照）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。また、免疫チェックポイント阻害剤使用後に発生する免疫関連副作用などに関して情報共有を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

③免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン

リツキシマブや抗がん剤、免疫抑制剤などを使用した際に、B型肝炎ウイルス（HBV）再活性化に伴って発症するB型肝炎の早期発見・早期治療を目的として院内のガイドラインを作成し、電子カルテ初画面に掲載した。

2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修

- ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

- ②がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」については、日生病院では開催しなかったが、他施設で開催された研修会への参加を推進した。

3) がん治療に関する相談対応、情報提供

①がん患者指導管理料1の算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、194件に対して行った。

②がん患者指導管理料2の算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を90件に対して行った。

③がん相談

がん治療に関する相談1,814件受けた。

4) がん登録の推進

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表 キンサー・ボード

開催月	当番診療科	参加人数
平成29年		
4月	泌尿器科	29人
5月	麻酔・緩和医療科	30名
6月	耳鼻咽喉・頭頸部外科	31名
7月	消化器内科	23名
8月	呼吸器外科・総合内科	30名
9月	消化器・一般外科	33名
10月	放射線診断科	32名
11月	血液・化学療法内科	27名
12月	総合内科	30名
平成30年		
1月	産婦人科	26名
2月	乳腺外科	30名
3月	リハビリテーション科	26名

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：船渡孝郎 ※平成30年4月～センター長：橋本奈美子
尾崎公章、吉見佳奈、細井文子、高山敬範、八田幸治、矢野悠子、尾上昌世、増田公美、
沈 嬌（以上産婦人科）、福井辰成、湊のり子（泌尿器科）、横田ひろみ、吉村恵利子、
榎賀祐美（以上看護師）、鍋本美穂（以上助産師）、古久保有希子（薬剤部）、
藤田育子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、藤岡栄悟、
安達幸恵（以上リハビリテーション室）、出口暁子（栄養管理室）、津野百合香（医事サービス部）

1. 診療内容

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、女性の平均寿命は86歳と先進諸国の中でも上位に位置している。それに伴い様々な疾患も増加しつつある。婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の約半数が罹患すると言われ、米国では女性の11%が手術を受けている。

骨盤内臓器脱は直接的死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。罹患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多いとされている。

当センターは、その疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

1) 治療部門

<外科的治療>

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC手術）、TVM手術、腔式子宮全摘術、マッコール術（腔式または腹腔鏡下）、腔壁形成術、会陰形成術、マンチェスター術、ル・フォー腔閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術、TVT手術）

●TVM手術について

現在、日本ではTVMが適性かつ安全に施行されるために「骨盤臓器脱に対する経膈メッシュ手術施行に関する指針」が定められており、この中では学会の主催する講習会の受講が必須条件とされている。当院では4名がすでに受講済み。

●LSC手術について

平成28年度診療報酬改定により、4月よりLSC手術が保険診療可能となった。当院は平成25年5月に全国で2番目にLSCの先進医療を取得し、現在は施設基準を満たしているため、保険診療で手術を行っている。

【平成29年度 入院手術件数】

TVM	57件
LSC	11件
VT、腔壁形成などNTR	15件
腔閉鎖	11件
その他	11件
TOT	5件
合計	110件

<保存的治療>

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【平成29年度 栄養指導件数】

合計80件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	4	2	9	9	11	6
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	6	8	9	7	3	6

【平成29年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導件数】 合計109件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	7	6	9	16	3	8
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	12	8	12	9	10	9

2) 広報（サービス）部門

総合受付、健康管理センターでのパンフレット配布

2. 業績

論文・著書

1. 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:大網原発Solitary fibrous tumor (SFT) に対して腹腔鏡手術を施行した1例, 日生病院医学雑誌, 45:54-59, 2017年.
2. 森本義晴#1幸池明希子#1藤田雅巳#2佐伯典厚#2船渡孝郎#3水野里志#3福田愛作#3 #1 HORCグランフロント大阪クリニック #2 日生病院 #3 IVF大阪クリニック:特集 生殖医療-知っておきたい最新トピックス 5. ミトコンドリア移植, 産科と婦人科, VOL. 85N0. 3:271-276, 2018年.

学会発表

1. 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:腹腔鏡下手術で診断しえた大網発生parasitic myomaの1例, 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 2017年4月, 広島.
2. 八田幸治1, 2, 田中雄介1, 2, 尾上昌世1, 2, 増田公美1, 2, 矢野悠子1, 2, 高山敬範1, 2, 吉見佳奈1, 2, 尾崎公章1, 2, 大塚博文1, 2, 佐伯典厚2, 藤田征巳2, 船渡孝郎1:当院におけるLSC (Laparoscopic Sacral Colpopexy) の治療成績-子宮摘出方法 (TLHとLSH) の手術成績の比較-, 第19回日本女性骨盤底医学会 発表, 2017年7月, 福井.
3. 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 船渡孝郎:当院での麻酔下修復を要したメッシュ関連合併症の検討, 第19回日本女性骨盤底医学会, 2017年7月, 福井.
4. 尾崎公章, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:腹腔鏡下手術を施行した大網原発Solitary fibrous tumor (SFT) の1例, 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,

2017年7月, 熊本.

5. 吉見佳奈, 沈 嬌, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 細井文子, 尾崎公章, 藤田征巳, 船渡孝郎, 佐伯典厚:腹腔鏡下子宮筋腫核出術の術式選択~TLMかLAMか?~, 第57回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会 口演, 2017年9月, 岡山.
6. 高山敬範, 沈 嬌, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 細井文子, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:「回収式自己血輸血を施行した症例の検討」(一般口演), 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
7. 沈 嬌, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 細井文子, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:術前診断困難であった嚢胞性腺筋症に対し腹腔鏡下手術を実施した1例, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
8. 尾崎公章, 沈 嬌, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 細井文子, 吉見佳奈, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:卵巣線維腫に対して腹腔鏡下腫瘍核出術を行った1例, 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2017年9月, 岡山.
9. 高山敬範, 沈 嬌, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 細井文子, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳:「高度癒着症例に対する腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH)」(一般演題 口演), 第30回日本内視鏡外科学会総会, 2017年12月, 京都.

研究会発表

1. 船渡孝郎:輝く女性のための健康セミナー, 日本生命 大阪本社, 2017年5月, 大阪.
2. 船渡孝郎:女性の人生設計を応援する心と体の健康セミナー, 日本生命 布施支社, 2018年1月, 大阪.

スタッフ センター長代行：住谷 哲

部 長 補 佐：角南ちえ子（看護部）、麦田盛穂（リハビリテーション室）

中川 厚（循環器内科）、宇都佳彦、大畔健太、魚田晃史（以上総合内科）、生田武蔵（救急診療センター）、宇津 貴（腎臓内科）、福井辰成（泌尿器科）、大島 遥（形成再建外科）、細野研二（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、

高山由美子、石井泉美、金藤奈緒子、秋山りか、中村綾乃、松本佳代子、鶴田知里、片岡郁子（以上看護部）、古久保有希子（薬剤部）、倉本訓子、徳山由佳（中央臨床検査部）、

出口暁子（栄養管理室）、中尾信一（総合企画部）、木下奈美（医事サービス部）

1. 診療内容

平成26年度より引き続き院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病・内分泌センターのもとで活動を継続している。

2. 診療体制

糖尿病・内分泌センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種のスタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診療スケジュール

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病ふれあい教室）を週4日実施した。またDMT（Diabetes Management Team）回診を毎週水曜午後に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成29年度に当センターを受診した患者数は延べ1,507名（前年度は1,436名）であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した（糖尿病合併症管理）。

平成29年度における実施件数は98件（前年度は119件）であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成29年度における実施件数は312件（前年度は332件）であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

宇都佳彦、魚田晃史、加藤更紗（総合内科）、角南ちえ子、高山由美子（看護部）、野村浩英、古久保有希子（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史、安達幸恵（リハビリテーション室）、水口洋一、倉本訓子、玉川雄一、渡辺温子、中辻果林（中央臨床検査部）、出口暁子、松村寿美、坂本彩弥（栄養管理室）

糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ660名（前年度は583名）であった。

3) 活動

①ニッセイ糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、血糖測定・HbA1c測定、血管年齢測定、医療相談などを実施した。

〈日時〉平成29年11月17日（金）11：30～13：30

〈場所〉日生病院外来玄関ホール

〈内容〉

- ・血糖測定・HbA1c測定
- ・血管年齢測定
- ・服薬相談
- ・筋肉量・握力測定
- ・栄養相談
- ・医師相談 など

②公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

『平成29年度第1回ニッセイ市民健康セミナー』

〈日時〉平成29年6月24日（土）14：00～16：00

〈場所〉日生病院 別館講堂

〈内容〉

第1部

講演1：

「糖尿病・腎臓病を予防して生き生き健康長寿」
（腎臓内科部長 宇津 貴）

講演 2 :

「腎臓の働きとくすりの調節」

(薬剤部 古久保有希子)

第2部『アマチュア落語』3席

桂文喬主宰落語研究会のみなさん

『ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー』

〈日時〉平成30年2月2日(金)12:00~14:00

〈場所〉日生病院別館講堂

〈内容〉

第1部

ヘルシー弁当の試食会「ヘルシー中華弁当を試食してみよう」

第2部

講演1

「この時期に気をつけたいこと」

(糖尿病・内分泌センター部長補佐 角南ちえ子)

講演2

「糖尿病の最近の話題」

(糖尿病・内分泌センター長代行 住谷 哲)

講演3

「低カロリー甘味料について」

(サラヤ株式会社)

③糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

『第44回錦会総会』

〈日時〉平成29年11月10日(木)12:00~15:00

〈場所〉日生病院別館講堂

〈内容〉

第1部

糖尿病宅配食の試食会

『ヘルシー和風弁当の試食』

第2部

講演:糖尿病・内分泌センター長代行 住谷 哲

4. 業績

論文・著書

1. 住谷 哲:糖尿病薬・インスリン治療ー知りたい,基本と使い分け:ビグアナイド薬,増刊レジデントノート,19:1919-1925,2017年.
2. 田中庸弘,田村慶朗,石井誠剛,大畔健太,仁科周平,宇都佳彦,小瀬戸昌博,住谷 哲,笠山宗正,立花 功:肝障害によりゲフィニチブが薬剤熱によりエロニチブが使用できなかったが,アフエニチブにより治療できた非小細胞性肺癌の症例,日生病院医学雑誌,45:84-88,2017年.

学会発表

1. 魚田晃史,大畔健太,宇都佳彦,古結敦士,住谷 哲,立花 功,笠山宗正,東山真里:ステロイド外用剤による続発性副腎皮質機能低下症患者におけるカテコラミン分泌障害,第90回日本内分泌学会学術総会,2017年4月,京都.
2. 大畔健太,住谷 哲,宇都佳彦,魚田晃史,石川那智,古結敦士,佐藤文三,立花 功,笠山宗正,横井一範,東山真里:角層下膿疱症(Sneddon-Wilkinson症候群)に合併したTSH/ACTH分泌低下症の一例,第90回日本内分泌学会学術総会,2017年4月,京都.
3. 笠山宗正,住谷 哲,魚田晃史,大畔健太,宇都佳彦,立花 功,佐藤文三:2型糖尿病の初回治療薬としてのメトホルミンの

長期有効性に関連する因子の検討,第60回日本糖尿病学会年次学術集会,2017年5月,名古屋.

4. 倉本訓子,福田志穂美,若原達哉,玉川雄一,内野高裕,天野精子,池田久美,吉田隆則,水口洋一,小瀬戸昌博,川上 学,住谷 哲,笠山宗正,青木義政,石橋みどり,古賀正史:血漿グリコアルブミンが偽低値を呈した原発性マクログロブリン血症の1例,第60回日本糖尿病学会年次学術集会,2017年5月,名古屋.
5. 魚田晃史,大畔健太,宇都佳彦,古結敦士,枝廣龍哉,西山祐輝,住谷 哲,立花 功,笠山宗正:糖尿病性多発神経障害(DPN)重症度は左室拡張能低下の独立した関連因子である,第60回日本糖尿病学会年次学術集会,2017年5月,名古屋.
6. 大畔健太,二宮隆介,田村慶朗,魚田晃史,石川那智,宇都佳彦,三木俊治,住谷 哲,小瀬戸昌博,佐藤文三,笠山宗正,立花 功:胸部レントゲンでの横隔膜挙上から気管分岐部を閉塞する中枢気道内腫瘍を診断し得た1例,第89回日本呼吸器学会近畿地方会,2017年7月,大阪.
7. 高島周志,平井 翠,小豆澤深雪,泉 由紀子,住谷 哲,藤岡滋典,奥野亜妃子,阪井理恵,中村秀次,佐藤文三:大腸腺腫と関連する因子の解析ー当センターの人間ドック受診者においてー,第58回日本人間ドック学会学術大会,2017年8月,大宮.
8. 立花 功,小瀬戸昌博,住谷 哲,田村慶朗:2型糖尿病合併COPDでは,胸部X線での肺過膨張を示さない,第41回大阪府医師会医学会総会,2017年11月,大阪.
9. 魚田晃史,角南ちえ子,出口暁子,大畔健太,宇都佳彦,立花 功,笠山宗正,青木保典,住谷 哲:メトホルミン投与後に著明な体重減少を認めた統合失調症合併2型糖尿病患者の1例,第54回日本糖尿病学会近畿地方会,2017年11月,大阪.
10. 大畔健太,宇都佳彦,石川那智,魚田晃史,佐藤文三,立花 功,笠山宗正,住谷 哲,小関万里:従来のスクリーニング基準を満たさなかったインスリンノーマの1例,第54回日本糖尿病学会近畿地方会,2017年11月,大阪.
11. 加藤更紗,大畔健太,魚田晃史,宇都佳彦,立花 功,笠山宗正,川上 学,福井辰成,住谷 哲:副腎皮質機能低下症に加えてアドレナリン分泌低下を認めた副腎原発悪性リンパ腫の1例,第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会,2017年11月,大阪.
12. 石川那智,魚田晃史,大畔健太,二宮隆介,宇都佳彦,田村慶朗,三木俊治,住谷 哲,小瀬戸昌博,立花 功:難治性中耳炎発症後に発熱を筋炎を認めANCA関連血管炎性中耳炎と診断した1例,第218回日本内科学会近畿地方会,2017年12月,大阪.
13. 魚田晃史,大畔健太,宇都佳彦,生田武蔵,立花 功,住谷 哲,笠山宗正:ACTH単独欠損症の臨床的特徴と血清コルチゾール値との関連,第28回日本間脳下垂体腫瘍学会,2018年2月,浜松.

研究会発表

1. 加藤更紗,大畔健太,魚田晃史,宇都佳彦,佐藤文三,住谷 哲,立花 功,笠山宗正:人間ドックの腹部超音波検査で両側副腎腫大を指摘された男性の1例,第11回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス(OEMCC),2017年6月,大阪.
2. 住谷 哲:認知症と糖尿病治療ー早期治療介入の重要性ー糖尿病専門医の立場から,あわぎ認知症病診連携懇話会,2017年6月,大阪.
3. 魚田晃史,大畔健太,宇都佳彦,生田武蔵,立花 功,笠山宗正,住谷 哲:糖尿病性多発神経障害(DPN)重症度(馬場試案2013)は左室拡張能低下の独立した関連因子である,平成29年度糖尿病性神経障害を考える会学術講演会,2017年9月,東京.
4. 住谷 哲:糖尿病治療薬の併用療法について,第10回あわぎクリニカルカンファレンス,2017年11月,大阪.
5. 出口暁子,角南ちえ子,高山由美子,住谷 哲:持続グルコース濃度測定器(FGM)を活用した,見える化栄養指導の試み,第22回大阪府栄養士会研究発表会,2018年3月,大阪.

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦

部長補佐：芳賀宣子（看護部）

有坂好史、村本 理、田中敏雄、八木洋輔、河田奈都子、

北田隆起、中村秀次（以上消化器内科）、

水野 均、生島裕文、山下晋也、原 譲次（以上消化器・一般外科）、

榎本知奈美（看護部）、瀧川奈央（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）、

南谷美樹（予防医学センター）、森本洋子（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器・一般外科とを有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。消化器内科、消化器・一般外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。また胆膵の専門家集団の参加により、全国最先端レベルのERCP、EUSを施行している。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設、日本胆道学会指導施設の役割を果たしていく。

1) 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）

超音波内視鏡（EUS）

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

超音波内視鏡（EUS）

2) 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

3) 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

2. 診療実績

上部胃内視鏡検査：3,512件

下部内視鏡検査：1,721件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：3,488件

下部内視鏡検査：90件

腎 臓 ・ 透 析 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴

副センター長：福井辰成

吉川秀人（循環器内科）、藤野佳彦（腎臓内科）、

湊のり子、金光俊行（以上泌尿器科）、

河村理香、高山由美子、田村千穂（以上看護部）、

池田久雄（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）、出口暁子（栄養管理室）、

山田国持（医事サービス部）

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理室などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。これまで、入院患者の血液透析を中心とした診療を行ってきたが、平成30年4月の新病院移転に向けて外来透析を開始した。新病院移転後は透析ベッド3床から20床へ増床するため、他施設での外来透析患者の入院対応など幅広く対応していく。

なお、平成30年4月から心臓血管外科医師も当センターのメンバーに加わり、ブラッドアクセスの造設・再建を積極的に行う。

2. 診療実績

透析導入患者 23名

シャント件数 19件

PTA件数 5件

3. 専門医・指導医など

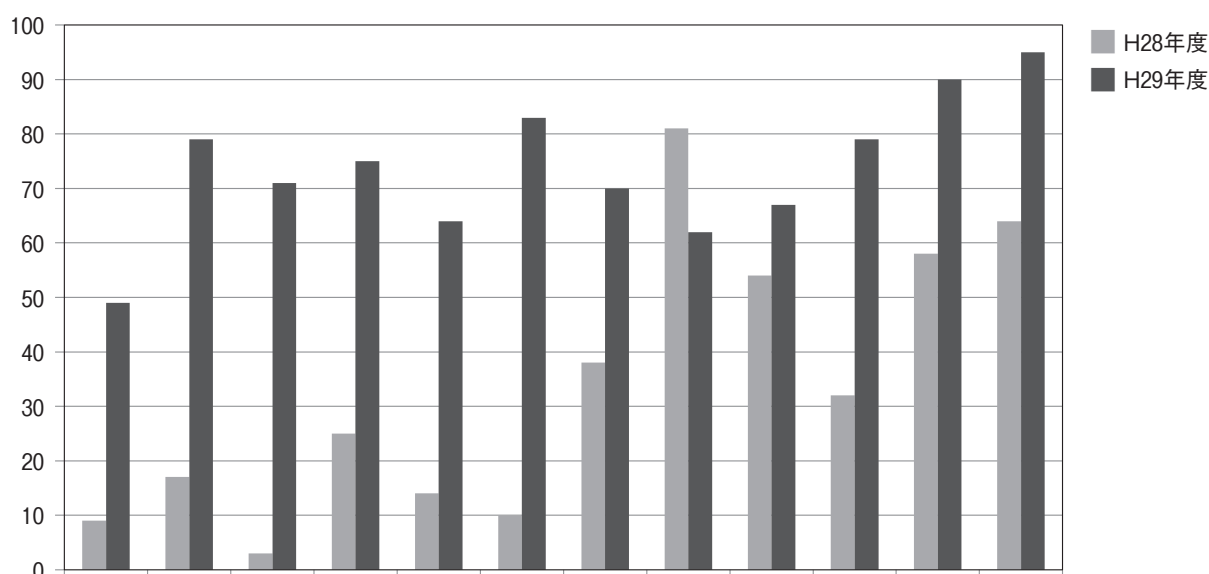
日本透析医学会専門医・指導医 1名

4. 業績

研究会発表

1. 宇津 貴：慢性腎臓病（CKD）の診療と指導のポイント、ニッセイ医学セミナーUpdate, 11月, 2016, 大阪。

図1 H29年度 月別血液透析延べ件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間累計
H28年度	9	17	3	25	14	10	38	81	54	32	58	64	405
H29年度	49	79	71	75	64	83	70	62	67	79	90	95	884

臨床研修部

スタッフ 部長：立花 功
部長代理：中川 厚

初期研修医：2年目 上森麻美、加藤更紗、飛田哲志、永井麻衣、守口怜那
1年目 井口智詠、木村優香、高島大幸、高森啓成、三毛麻子、
山川明希子、竹内聡礼

1. 活動内容

新研修制度の開始に伴い、平成17年度臨床研修部が創設された。各年度当院単独型での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすきがけ研修医が当院で研修を行う。平成29年度より部長が三木俊治より立花功に交代した。ローテート科の変更など、個々の研修医の要望に柔軟に対応している。

2. 実績

1) マッチング試験（平成29年8月10日）

男性16名 女性20名、計36名が受験した。

小論文テーマ「高度情報化社会における医療のあり方について」

募集定員5名マッチし、出身大学は大阪大学2名、奈良県立医科大学1名、兵庫医科大学2名であった。

2) 病院見学学生

男性56名、女性45名、計101名。

3) 病院説明会への参加

eレジフェア（平成29年7月2日インテックス大阪）

ブース訪問学生：6年生：4名、5年生：49名、
4年生以下：5名
合計58名

レジナビ（平成29年10月8日ATCホール）

ブース訪問学生：6年生：2名、5年生：51名、
4年生以下：5名
合計58名

近畿厚生局主催近畿地区臨床研修病院説明会
（平成30年2月17日大阪府立国際会議場）

ブース訪問学生：5年生15名、4年生以下3名
合計18名

大阪大学内科系関連病院内科部門合同説明会
（平成30年3月10日大阪大学医学部講義棟）

ブース訪問学生：17名

スタッフ 室長：川上 学
内野高裕（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

認定輸血検査技師である内野が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヶ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	2,412単位
自己血	88単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	355単位
③血漿交換療法におけるFFP	0単位
④アルブミン	2,069.2単位
濃厚血小板	7,770単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}) / \text{①} = 0.14 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RCC比} = \text{④} / \text{①} = 0.79 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 50単位、FFP 32単位、PC 50単位

3) 平成28年度における変更点

- ①従来より、緊急時に備えてA型（+）、O型（+）のRBC血の院内在庫を配置して来たが、B型（+）、AB型（+）RBC血の院内在庫を配置した。
- ②宗教上の理由で輸血を拒否する「エホバの証人」の信者に対してやむを得ず手術や処置をする場合には「輸血をしないことで起こった有害事象に関しては日生病院として責任を持たない」ことに関して文書で承諾を得る目的で、「輸血拒否と免責に関する証明書」を作成した。

4. その他

輸血教育講演会（年1回）

平成30年1月19日（金）に、「輸血を安全に実施するために」と題して、中央臨床検査部の内野高裕技師による輸血療法講演会を開催した。参加者は62名であった。

化 学 療 法 室

スタッフ 室 長：川上 学

大島千春（がん化学療法看護認定看護師）、國友実加、里井景子（以上看護部）

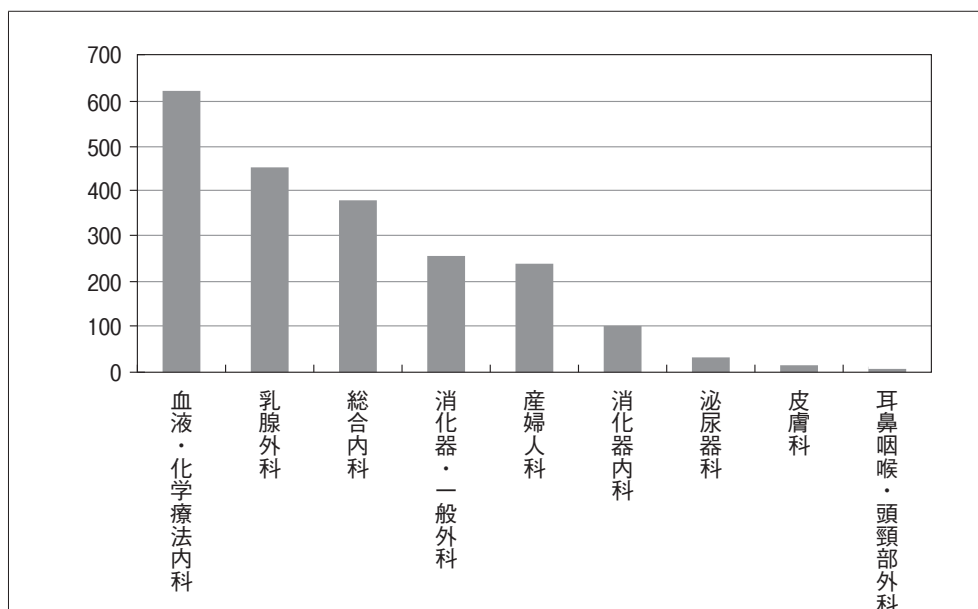
1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、抗がん作用を期待してのホルモン剤投与、骨転移に対するビスフォスホネート投与、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、消化器・一般外科、乳腺外科、産婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は、患者及び家族に副作用のセルフモニタリングを指導し、自宅で起こった副作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。

2. 診療実績

化学療法室利用者件数は、総数2,942件（前年度比－335）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は2,101件（前年度比－353）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、総合内科、皮膚科の集計には、関節リウマチや乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。また、ホルモン剤の投与は704件（前年度比－119）であった。

図1 平成29年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ 室 長：平林伸治

理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄吾、
白川 桂、安達幸恵、井手康裕、岸本 大、泉本亮二

作業療法士：阪本拓也

言語聴覚士：四釜淳子（非常勤）

1. 診療内容

各診療科からのリハビリ依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士、言語聴覚士が連携しながら最良のリハビリテーション医療を提供した。リハビリテーションの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者などを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。

運動器リハビリテーションは関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者が対象となり、平成29年度は10,266件の実績があった。

脳血管疾患等リハビリテーションは脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの患者が対象となり、3,354件の実績があった。

呼吸器リハビリテーションは肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者が対象となり、3,025件の実績があった。

がんリハビリテーションは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がんなどの患者に対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とする患者が対象となり、3,560件の実績があった。

心大血管疾患リハビリテーションは、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカー植え込み術などの患者に対し、運動耐容能の向上や運動習慣の習得を目標とする患者が対象となり、3,166件の実績があった。

廃用症候群リハビリテーションは、外科の開胸開腹手術、泌尿器科手術、婦人科手術後などの廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの患者が対象となり、3,131件の実績があった。

継続的なリハビリが提供できるように休日リハビリを実施し、早期加算対象患者を中心に、ベットサイドでの早期離床を促した。

地域連携としては、退院後の生活について不安を抱いている入院患者に対して退院前に自宅を訪問してきた。手すりなどの環境整備を確認したり、自助具の活用方法について指導を行った。退院後の生活においてADLなどの支障が出てきた場合訪問看護ステーション

を通じて訪問リハビリを実施し、在宅でのADL指導や運動方法を説明しQOLの向上に努めた。また、地域への情報発信として運動領域における講演を院内で行った。

予防領域においては、ウィークエンド糖尿病・メタボ精査入院などにおいて個々の患者に対する運動機能評価を行い、その結果をもとにオーダーメイドの運動指導を行った。

チーム医療においては、リハビリカンファレンスの定期的な開催や循環器内科部長回診・乳腺外科部長回診・整形外科部長回診やNST回診、糖尿病回診に同行したり、緩和ケアカンファレンスへの参加を行い、ADLを阻害している現象の把握や原因の追求を行った。また、糖尿病ふれあい教室での運動指導、女性骨盤底センターからの紹介に対する骨盤底筋体操の指導など、他職種との連携を図りながらリハビリの専門性を発揮した。言語聴覚士（非常勤）による言語機能訓練や摂食嚥下機能療法を開始し、口腔機能の改善や食種提案に向けて取り組んだ。

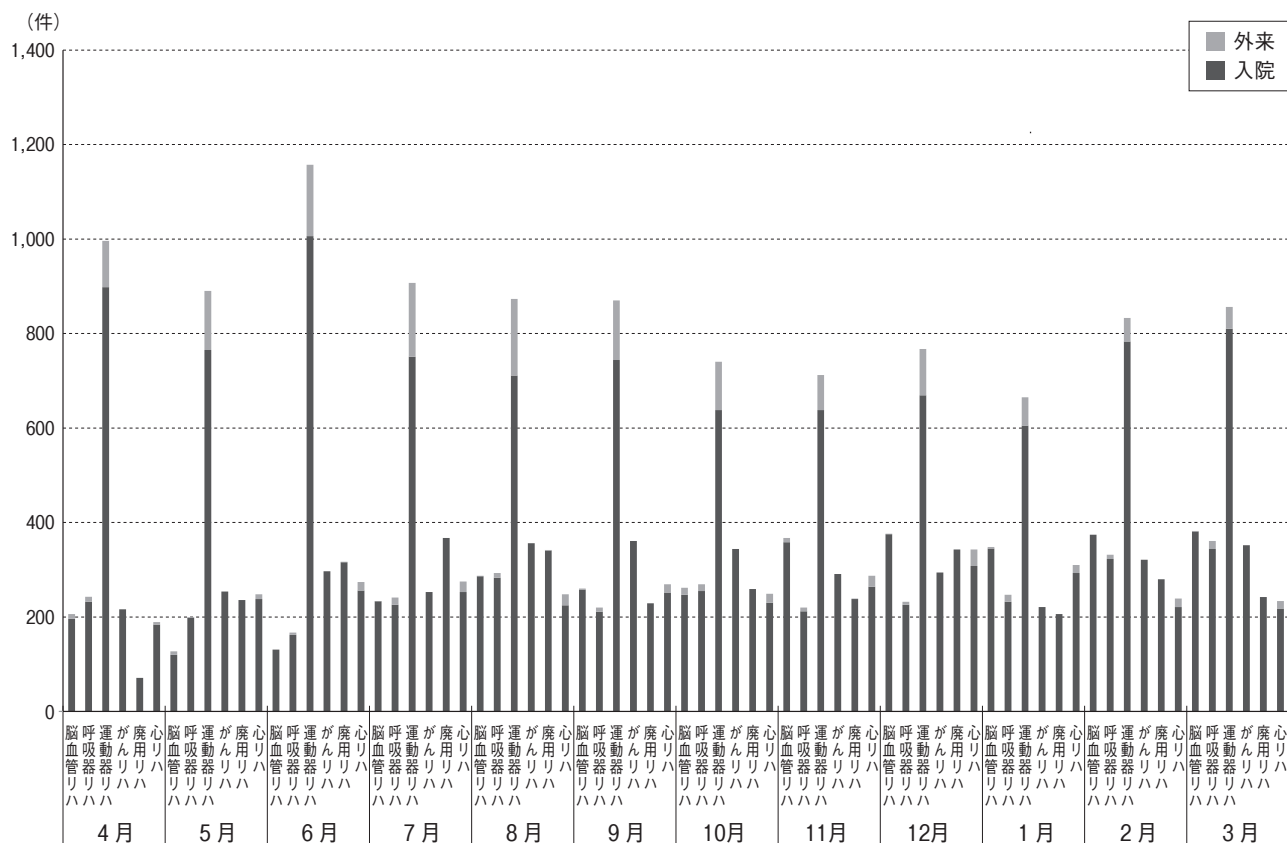
リハビリの質向上においては、院内での勉強会はさることながら院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、最新の情報を収集しその内容をスタッフ間で共有した。さらに心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士の資格を取得したり、関連学会に所属して最良の医療が臨床の中で活かせるよう努めた。学術活動においては、病院の特性を生かした症例を対象にデータを集め、リハビリ医療を向上させるために関連学会にて発表を行った。

リハビリ教育分野においては、リハビリテーション関連学科の大学や専門学校から実習生を積極的に受け入れ、教育しやすい環境を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

図1 平成29年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	196	232	898	216	71	184	120	198	765	254	236	238	131	162	1006	297	316	256
外来	10	11	98	0	0	5	7	2	125	0	0	10	0	5	151	0	1	18

	7月						8月						9月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	233	226	751	253	367	253	286	283	711	356	341	225	258	211	744	361	229	252
外来	1	15	156	0	0	22	1	10	162	0	1	23	2	9	126	0	0	17

	10月						11月						12月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	247	255	638	344	259	230	358	212	638	291	238	264	375	226	669	294	343	308
外来	15	14	102	0	0	19	9	8	74	0	1	23	1	6	98	0	0	35

	1月						2月						3月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	345	232	605	221	206	293	374	323	783	321	280	221	381	344	810	352	242	218
外来	3	15	60	0	0	17	0	9	50	0	0	18	1	17	46	0	0	16

中央手術管理部

スタッフ 部長：船渡孝郎 ※H30年4月～部長：前田 元
部長代理：水野均（消化器・一般外科）、花田留美（麻酔・緩和医療科）
医師：小関萬里（外科統括）、前田 元（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
毛利年一（整形外科）、西本知子（皮膚科）、金光俊行（泌尿器科）、
高山敬範（産婦人科）、藤田信哉（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、
藤原敏宏（形成再建外科）、谷井啓一（眼科）
看護師：木下園子、下山優子、二井千里
医療技能職：野村浩英（薬剤部）、三木和美（臨床工学室）
事務：三井田誠一、小林 力、寺野純一

1. 概要

中央手術管理部は手術室の効率的な運営等を目的として、平成27年4月に中央管理部門の一つとして新設され、現在に至っている。平成28年1月に呼吸器外科が新設され、また、平成29年4月には形成再建外科が皮膚科から独立した。8月からは眼科手術も再開された。これらの結果により平成29年度の手術件数は2,598例で、このうち全身麻酔症例数は1,677例と増加した。（前年度は手術件数2,462例、全身麻酔件数1,570例）

2. 診療内容

〈主たる業務〉

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枠等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施
- 3) 新病院に向けた手術室の方向性の検討

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日に「中央手術管理部定例会」を開催し、効率的な運営のために各診療科の実績や要望に応じて手術枠の変更を随時行っている。また、手術室で発生したインシデントの共有を行うことにより、更に安全な手術室運営を目指している。その他、各診療科の担当者により新規購入物品のプレゼンテーションを行うことにより、手術室内にある物品に対して共通の認識を持つための取り組みを行い、コスト削減、効率的な運用を行っている。

- 2) 昨年度より情報システム室との協働で「手術申込状況共有システム」を電子カルテ上で構築し、いつでも誰でもが手術申込状況を確認することができるようになっている。学会等で手術が入らない場合には手術枠の放出を行い、他の診療科が利用することによって効率的な運用を行っている。予定手術枠に対する占有率は、麻酔科関与ありのもので78～98%（平均89.4%）であった。
- 3) 「中央手術管理部運営規約」の改訂を行った。その中で、緊急手術の受入体制・手順の整理や、抗凝固薬の術前中止に関する手順等を作成した。また、50歳以上の患者に対しては術前に眼科受診をおこなない、隅角確認を行うことが決定された。この点に関して、電子カルテ上での診察申込システムを構築した。
- 4) 平成30年4月の新病院移転に向けて、具体的な準備を順次行った。新病院では手術室を現状の5室から7室に増やし、新しい診療科として脳神経外科と心臓血管外科が加わることとなった。これに伴い手術枠の見直しを行うとともに、スタッフの増員や医療機器の更新・追加購入等について話し合いを行った。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博
特任顧問：内藤博昭
医療技能部長・技師長：水口洋一
担当部長：浅野正宏

1. 組織体制

中央臨床検査部は今年度より臨床検査部門のみで構成し、臨床工学部門は別組織として新たに始動した。その臨床検査部門は下記の部門で編成され、効果的な臨床サポートに日々取り組んでいる。

検体Ⅰ部門【生化学、免疫、血液、凝固、(輸血)】

検体Ⅱ部門【細菌、病理、外来(一般)】

生理部門【超音波、循環器、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻咽喉科関連】

臨床検査部門では、スタッフ全員で宿日直体制と採血を担当し、さらにそれぞれの専門性を活かした業務を遂行している。また、各種チーム医療にも参画している。

2. 検査実績

質の高い検査結果を得るための精度管理、標準化へ意欲的に取り組み、日本医師会、大阪府医師会、日本臨床衛生検査技師会等の精度管理調査へ永年参加し続け、優秀な成績を収めている。また各種認定制度をも積極的取得を進めている。

検査報告については、院内検査は、原則リアルタイム測定・報告を図り、検体到着後30分以内(生化学、血液検査)を実践している。

輸血検査は輸血療法委員会と連携しながら、血液製剤管理から輸血業務までを迅速、かつ安全に行う輸血管理体制を敷いている。

なお、平成30年4月30日の新病院移転に向け、検査の体制、運用、計測機器、精度管理、検査方法等の見直ししながら、移転準備を進めている。

3. 業績

学会発表

1. 大嶽雄也：液状化細胞診(LBC)標本を用いた免疫細胞化学染色が診断に有用であった男性乳癌の一例,第58回日本臨床細胞学会総会, 5月, 2017. 大阪.
2. 倉本訓子：血漿GAが偽低値を示した原発性マクログロブリン血症の1例, 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2017. 名古屋.

研究会発表

1. 倉本訓子：糖尿病検査のビットホール～HbA1cの偽高値, GAの偽低値を体験して～, 大阪府臨床検査技師会 糖尿病定例勉強会, 6月, 2017. 大阪.
2. 浅野正宏：生化学・血液検査の採血から測定結果まで, ニッセイ医学セミナーUpdate, 3月, 2017. 大阪.

平成29年度 検体検査件数

検査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来検査	尿	3,000	2,995	3,065	3,462	3,008	3,039	3,186	3,105	3,225	3,196	2,985	3,442	37,708
	便	1,723	2,014	2,605	2,170	2,448	2,394	2,345	2,808	2,778	2,622	2,715	2,206	28,828
	迅速抗原	143	127	133	245	200	191	161	284	446	675	603	435	3,643
	計	4,866 (4,551)	5,136 (4,780)	5,803 (5,236)	5,877 (4,821)	5,656 (5,360)	5,624 (4,889)	5,692 (5,201)	6,197 (4,779)	6,449 (5,182)	6,493 (4,864)	6,303 (5,116)	6,083 (5,307)	70,179 (60,086)
化学検査	生化学	214,516	220,280	228,522	225,470	234,683	230,788	234,668	228,790	229,652	227,212	211,698	235,971	2,722,250
	輸血	256	237	293	297	171	183	299	212	218	188	215	244	2,813
	止血	3,265	3,058	3,284	3,507	3,734	3,499	3,995	3,846	3,701	3,661	3,382	3,664	42,596
	計	218,037 (209,508)	223,575 (202,981)	232,099 (223,425)	229,274 (211,286)	238,588 (224,631)	234,470 (219,333)	238,962 (219,903)	232,848 (212,721)	233,571 (217,551)	231,061 (218,815)	215,295 (208,792)	239,879 (229,619)	2,767,659 (2,598,565)
細菌検査	一般細菌	717	726	723	884	893	819	867	870	832	974	866	853	10,024
	抗酸菌	119	127	97	141	98	90	121	122	113	132	133	140	1,433
	迅速	78	49	109	65	86	62	60	55	62	39	42	64	771
	計	914 (1,035)	902 (964)	929 (1,037)	1,090 (986)	1,077 (1,081)	971 (964)	1,048 (1,100)	1,047 (912)	1,007 (1,034)	1,145 (970)	1,041 (862)	1,057 (993)	12,228 (11,938)
血液検査	一般検血	18,191	19,040	19,661	19,607	20,779	19,959	19,910	19,364	19,533	19,536	18,274	20,152	234,006
	その他	9	10	12	21	14	13	25	16	10	11	13	14	168
	計	18,200 (18,483)	19,050 (17,895)	19,673 (19,622)	19,628 (19,067)	20,793 (19,870)	19,972 (18,511)	19,935 (18,530)	19,380 (17,546)	19,543 (18,073)	19,547 (17,890)	18,287 (17,528)	20,166 (19,172)	234,174 (222,187)
合 計		242,017 (233,577)	248,663 (226,620)	258,504 (249,320)	255,869 (236,160)	266,114 (250,942)	261,037 (243,697)	265,637 (244,734)	259,472 (235,958)	260,570 (241,840)	258,246 (242,539)	240,926 (232,298)	267,185 (255,091)	3,084,240 (2,892,776)

(注) () 内は前年同月

平成29年度 生理検査件数

A. 心電図、肺機能、超音波等検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心電図	947	906	964	913	983	963	1,001	958	1,013	1,034	976	1,070	11,728
トレッドミル	11	12	15	18	28	19	25	28	11	14	12	13	206
負荷心筋シンチ	15	4	12	12	8	16	13	10	17	9	11	11	138
持続心電図	21	22	25	17	15	21	24	22	27	29	27	25	275
PWV/ABI	159	108	124	131	118	103	111	106	97	127	98	112	1,394
心エコー	268	289	292	284	319	294	306	278	308	320	320	332	3,610
腹部エコー	398	400	435	434	383	436	464	447	482	407	369	445	5,100
下肢エコー	54	68	89	82	85	82	72	91	72	84	96	81	956
その他エコー	156	132	178	191	157	161	171	168	159	145	144	185	1,947
脳波検査	24	19	24	26	21	23	20	20	27	24	18	28	274
筋電図その他	23	22	15	17	27	18	13	23	22	18	22	26	246
合計	2,076	1,982	2,173	2,125	2,144	2,136	2,220	2,151	2,235	2,211	2,093	2,328	25,874

B. 耳鼻咽喉科関連検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平衡機能検査	81	76	90	86	97	78	78	120	93	51	69	97	1,016
聴力機能検査	91	94	102	81	126	123	111	95	105	119	89	127	1,263
その他	0	0	0	0	2	0	2	0	0	8	0	1	13
計	172 (211)	170 (235)	192 (239)	167 (152)	225 (258)	201 (219)	191 (174)	215 (130)	198 (119)	178 (140)	158 (161)	225 (178)	2,292 (2,216)

[耳鼻咽喉・頭頸部外科]

(注) () 内は前年同月

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部 長：前田宗宏

担当部長：在津裕明（技師長）

石垣直也、村川靖弘、森本光雄、川畑孝司、長澤浩造、新谷泰正、
藤丸泰一、山田純子、中農智絵、伊泉希望、芝 瑞貴、清水理賀、
勘田雅浩、白石奈菜、矢野勝之

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT 2台（320列・16列）
MRI 1台（1.5T）
RI 2台
リニアック 1台
一般撮影 2台
X線TV 1台
乳房撮影 1台
骨塩定量 1台
アンギオ 1台
結石破碎 1台
ポータブル 2台
外科用イメージ 2台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	1名
健診マンモグラフィ認定技師	4名
核医学専門技師	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	2名
X線CT認定技師	1名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	11名

3. 診療実績（平成29年度 検査件数）

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	1,057	967	1,133	1,109	1,145	1,112	1,135	1,111	1,110	1,114	1,043	1,208	13,244
MRI	433	448	496	440	500	464	462	444	462	438	429	493	5,509
RI	44	48	57	59	73	78	73	62	76	63	56	68	747
単純X線	2,243	2,278	2,232	2,245	2,403	2,205	2,439	2,362	2,327	2,491	2,325	2,491	28,041
MMG	94	101	126	119	140	131	130	123	97	106	105	92	1,364
リニアック(新患)	10	9	15	9	9	15	12	13	9	9	4	8	122

スタッフ 栄養管理室長：宇津 貴

副 部 長：出口暁子

管 理 栄 養 士：松村寿美、坂本彩弥

*栄養サポートチーム(NST)：水野 均、大野典子、小山佐知子、田中敬子、片岡宏一郎、
千原亜紀子、出口暁子

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別食指導及び集団食事指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム(NST)を通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法についてのアドバイスを行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール(表1)

栄養指導室で入院個別食事指導および外来個別食事指導を、糖尿病・内分泌センターと同診察室で外来個別食事指導と集団食事指導を実施している。

2) 病棟体制(表2)

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

各診療科への食事指導依頼を行い件数増加に繋がった。

1) 外来個別食事指導の実績(表3)

糖尿病・内分泌センターでの指導件数を含む外来個別食事指導件数は、前年度に比して約27件/月増加した。

2) 入院個別食事指導の実績(表3)

入院個別食事指導件数は、前年度に比して約10件/月増加した。

3) 集団食事指導の実績(表3)

糖尿病教育入院などの患者を対象に実施した。前年度に比してやや減少した。

4) 診療科別個別指導の実績(表4)

前年度に比して腎臓内科、総合内科、循環器内科、消化器・一般外科の指導依頼が増加した。

5) 入院食事提供の実績(表5)

特別食の依頼は前年度より増加した。

6) NST活動実績(ラウンド回数：43回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	17	13	18	17	15	12	19	10	9	13	15	13	171

・主治医のほか病棟、医療スタッフからの依頼があり対応した。

・NST勉強会：平成30年3月23日
「経腸栄養食の種類と使い分け」

講師：テルモ株式会社(NST担当)

参加者：18名

7) その他の取り組み

癌化学療法治療者のQOL改善のために、昼食・夕食において特別選択食のH26年に導入を行なった。

*がん化学療法患者向け特別選択食の件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
食	250	179	154	157	50	100	113	91	220	182	95	131	1,722

8) 患者を対象とした活動

糖尿病・内分泌センター及び糖尿病患者会(錦会)と共同で実施した。

平成29年6月24日

平成29年度第1回ニッセイ市民健康セミナー

(糖尿病と腎臓病と透析治療について)

平成29年11月17日 ニッセイ糖尿病フェア

「栄養相談」

平成29年11月10日錦会総会及び糖尿病食試食会

(野菜カレーとサラダとデザート)

平成30年2月2日糖尿病ランチ&セミナー

26名参加(ヘルシー中華弁当)

9) イベント食の提供とメッセージカードの新設

・暦行事食に加え、食育イベント食を新規に提供した。

・季節に合わせて、食生活に関するメッセージを記したカードを、月3回配布した。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会 1名

日本静脈経腸栄養学会 1名

日本褥瘡学会 1名

日本栄養改善学会 1名

日本栄養士会 1名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士 1名

介護支援専門員 1名

調理師 1名

5. 業績

学会発表

1. 出口暁子, 大野典子, 小山佐知子, 田中敬子, 岩本真澄, 千原亜紀子, 片岡宏一郎, 水野 均: 喉頭癌の術後NST介入となり、ろみ経腸栄養剤を活用して食事摂取可能となった1例, 第9回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会, 2017年6月, 京都。

2. 魚田晃史, 角南ちえ子, 出口暁子, 大畔健太, 宇都佳彦, 立花功, 笠山宗正, 青木保典, 住谷 哲:メトホルミン投与後に著明な体重減少を認めた統合失調症合併2型糖尿病患者の1例, 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 2017年11月, 大阪.

研究会発表

1. 出口暁子:認知症と食事, H29年度第2回ニッセイ市民健康セミナー, 2017年8月, 大阪.
2. 出口暁子:低血糖を繰り返す1型糖尿病患者さんに管理栄養士として関わるーカーボカウント導入を試みて, 第10回糖尿病ライフセミナー, 2017年9月, 大阪.
3. 出口暁子:健康でそして健やかに生活するために食べる!, 日生

ニューソリューションH29年度健康セミナー, 2017年9月, 大阪.

4. 坂本彩弥:糖尿病患者対象料理教室調理指導「家族みんなで中華料理」, 第34回大阪糖尿病協会 顧問栄養士会, 2017年10月, 大阪.
5. 出口暁子:在宅における栄養管理について, 西区在宅医療・介護連携のための他食種連携研修会, 2017年10月, 大阪.
6. 出口暁子:学生・職員に対する, 外食や中食へのアドバイスと運動との関連, 2017年度 関西大学健康セミナー, 2017年11月, 大阪.
7. 出口暁子, 角南ちえ子, 高山由美子, 住谷 哲:持続グルコース濃度測定器(FGM)を活用した, 見える化栄養指導の試み, 第22回大阪府栄養士会研究発表会, 2018年3月, 大阪.

表1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
指導室	松村	出口	松村	坂本	出口
診察室	坂本	松村	坂本	出口	坂本 松村
糖尿病・内分泌 センター	出口	坂本	出口	松村	

表2 担当病棟

	3階	4階西	4階東	5階西	5階東	6階西	6階東
担当	松村	坂本	坂本	松村	出口	出口	出口

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
外来個別	79	80	83	79	83	96	87	91	93	107	88	99	1,065	89	2,060	79
DMセンター 外来個別	83	80	91	92	99	90	94	87	95	87	71	81	1,050	88	2,025	81
DM透析予防	33	25	28	27	23	24	27	27	19	27	29	26	315	26	598	28
入院個別	115	113	121	101	112	104	111	103	106	88	89	114	1,277	106	2,432	93
集団	13	8	11	11	12	8	10	16	14	9	6	12	130	11	250	9
合計	323	306	334	310	329	322	329	324	327	318	283	332	3,837	320	7,365	290

表4 疾患別個別栄養指導実績（集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
胃腸病	9	12	17	13	12	19	8	10	11	8	6	12	137	11.4	264	7.8
肝臓病	6	6	12	5	11	5	8	5	8	4	6	5	81	6.8	157	6.8
糖尿病	182	173	177	175	192	179	183	176	188	172	172	184	2,153	179.4	4,130	62.2
腎臓病	21	22	18	17	23	19	18	15	18	20	15	28	234	19.5	445	15.5
高血・心臓・ 高脂血症	82	78	92	78	72	78	86	90	76	97	67	84	980	81.7	1,882	68.8
肥満症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
術後食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.3
脾臓食	8	6	7	9	7	14	15	9	11	7	9	5	107	8.9	209	7.5
その他	2	1	0	2	0	0	1	3	1	1	2	2	15	1.3	28	1.8
計	310	298	323	299	317	314	319	308	313	309	277	320	3,707	308.9	7,115	171.8

表5 診療科別個別栄養指導実績（DMセンター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
循環器内科	31	44	44	39	36	39	33	38	32	37	38	31	442	36.8	385	32.1
消化器内科	20	18	29	15	24	21	24	18	23	17	13	22	244	20.3	213	17.8
総合内科	55	50	42	44	59	51	54	51	61	60	53	55	635	52.9	544	45.3
血液・ 化学療法内科	3	3	0	4	9	7	2	2	5	2	4	2	43	3.6	26	2.2
神経内科	3	9	6	8	4	5	3	7	2	1	4	10	62	5.2	56	4.7
腎臓内科	10	11	11	8	13	10	9	8	8	8	8	15	119	9.9	49	4.1
消化器・ 一般外科	13	14	10	13	8	19	11	11	14	12	13	8	146	12.2	148	12.3
呼吸器外科	1	1	2	2	0	0	1	1	0	0	0	2	10	0.8	—	—
乳腺外科	1	3	2	1	0	7	5	3	2	3	1	1	29	2.4	—	—
産婦人科	23	21	21	24	18	22	27	32	34	32	20	35	309	25.8	261	21.8
小児科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2	—	—
精神科・神経科	2	0	6	4	4	1	3	0	0	0	2	3	25	2.1	27	2.3
整形外科	4	3	6	3	3	3	3	5	2	1	7	2	42	3.5	50	4.2
皮膚科	13	10	15	10	10	12	10	11	9	14	10	16	140	11.7	132	11.0
泌尿器科	6	4	6	2	2	2	3	3	5	4	3	8	48	4.0	51	4.3
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	4	1	1	0	2	0	4	0	0	2	0	2	16	1.3	15	1.3
形成再建外科	1	1	1	1	2	0	2	3	1	0	0	0	12	1.0	—	—
救急診療科	3	0	1	2	1	1	3	1	0	2	1	1	16	11.3	—	—
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0.2	105	8.8
合計	194	193	204	180	195	200	198	194	199	195	177	213	2,342	195.2	2,063	171.9

表6 患者給食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
常食	7,732	6,598	7,327	8,023	8,260	7,767	7,645	7,568	6,946	6,419	7,252	7,963	89,500	7,458	83,353	6,946
軟菜食	4,820	5,204	4,437	4,623	3,830	4,314	3,769	4,231	4,130	4,417	4,663	5,110	53,548	4,462	58,337	4,861
特食	8,660	8,843	8,863	9,665	9,648	9,592	9,571	9,913	10,655	10,108	9,379	9,325	114,222	9,519	106,456	8,871
合計	21,212	20,645	20,627	22,311	21,738	21,673	20,985	21,712	21,731	20,944	21,294	22,398	257,270	21,439	248,146	20,678
調乳本数	1,514	966	1,472	2,136	2,026	1,948	1,146	1,598	1,784	1,940	1,918	1,900	20,348	1,696	28,108	2,342
特食加算率	41	43	43	43	44	44	46	46	49	48	44	42	44	44	43	43

薬 剤 部

スタッフ 部 長：野村浩英

副 部 長：足立充司

専門主任：池田久雄

主 任：古久保有希子

薬 剤 師：平田貴宏、宮麻紀子、清水奈央、六車裕一、千原亜紀子、田中由美子（～1月）、
辻 亜紀、森岡浩子、内藤 睦（5月～）、小寺由香（1月～）、辻 俊美、中野静香、
松元麻美（～2月）、北風晶子

1. 診療内容

当薬剤部は調剤、病棟業務を主とし、医薬品の適正使用、チーム医療へ参画に取り組んできた。昨年に引き続き1病棟に1薬剤師を配置し週20時間以上の病棟業務を行った。院内の医薬品について医薬品安全管理責任者を配置、職員への医薬品安全管理の講演や、医薬品安全管理ワーキングによる院内ラウンドや疑義照会の一元管理可能なデータベース化による可視化を行い、問題点の把握、改善ができる取組みを行った。注射薬の安全管理に対して、看護部と連携し、新たに鍵付き注射カートの運用を開始した。また最適使用推進ガイドラインの遵守確認、DIニュースの定期的な発行、糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などのチーム医療への参画により医薬品の適正使用を図った。

経済効果の取り組みとしてジェネリック（GE）薬品の導入を推進し数量ベースで80%の使用率を目標とした。GE占率は82～85%であった。平成30年度診療報酬改訂での後発医薬品使用体制加算1算定要件を満たすことを確認しスムーズな対応を図った。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請16レジメンの承認審査並びに登録、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製から、被曝・拡散防止など、安全で安心な薬物療法の更なる向上に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。平成29年度の薬品購入金額は、新規抗がん剤や生物学的製剤、C型肝炎治療薬など高額薬剤の使用もあり、対前年比115%、17,600万円の増額となった。

新病院では、アンプルピッカー（注射自動払い出しシステム）の導入により注射薬の保管管理強化や取り間違い防止など安全管理の強化や業務の効率化を図るとともに、病棟薬剤師による薬物療法への関与がより深化できる組織体制の構築を目指す。

医療外業務として薬学部学生の病院実務実習を受け入れた。期間・人数は、1期3ヶ月間に2～4名、3期で合計11名の受け入れ実績であった。

2. 業務体制

1) 人員配置

人員：薬剤師15名（パート3名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務7名、薬剤管理指導業務7名
DI（薬品情報室） 1名
臨床研究管理室（事務局） 1名
薬品管理 事務員 1名

2) 病棟体制

薬剤師7名を配置。
手術予定患者の入院前持参薬の確認を開始。薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数 168枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数 196枚/日
入院注射処方箋枚数 717枚/日
服薬指導件数 647件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数 259件/月

2) 院内学術活動（講演）

医療安全講演会・医薬品の安全管理講習会

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報） 12通
DSU（医薬品安全対策情報） 12通
新規採用薬情報 4通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会認定薬剤師 3名
がん薬物療法認定薬剤師 3名
感染制御認定薬剤師 1名
抗菌化学療法認定薬剤師 1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 1名
日本糖尿病療養指導士 3名
日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師 1名
認定実務実習指導薬剤師 4名

5. 業績

学会発表

1. 池田久雄, 平田貴宏, 足立充司, 古久保有希子, 森岡浩子, 大野典子, 小瀬戸昌博, 野村浩英: 日生病院における特定抗菌薬を複数回開始された患者の使用開始時の適正使用調査, 第27回日本医療薬学会年会, 2017年11月, 千葉.
2. 平田貴宏, 池田久雄, 足立充司, 野村浩英: 当院での腹腔内感染症における注射用メトロニダゾール及び併用薬の適正使用調査, 第27回日本医療薬学会年会, 2017年11月, 千葉.
3. 辻 亜紀, 足立充司, 宮 麻紀子, 六車裕一, 森岡浩子, 辻 俊美, 中野静香, 野村浩英: 抗がん剤調製時における閉鎖式器具全面使用導入に向けた取り組み, 第27回日本医療薬学会年会, 2017年11月, 千葉.
4. 北風晶子, 辰己純代, 飯田洋子, 田久保慎吾, 田中邦佳, 柳井美奈, 木村 健: リツキシマブ新投与法におけるinfusion reactionの発現率と発現因子, 第27回日本医療薬学会年会, 2017年11月, 千葉.
5. 宮 麻紀子, 足立充司, 野村浩英, 大畠千春, 川上 学, 西田幸弘: 外来がん化学療法患者への薬剤師指導の取り組みと課題, 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会, 2017年11月, 三重.
6. 大野典子, 池田久雄: 2014年, 2015年ICT活動と各診療科における広域抗菌薬投与回数と使用量の変化, 第33回日本環境感染学会総会・学術集会, 2018年2月, 東京.

薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	3,186	3,485	3,599	3,659	3,808	3,050	3,470	3,270	3,464	3,525	3,200	3,490	41,206	37,150
			件数	4,280	4,736	4,849	4,778	5,324	4,098	4,812	4,461	4,579	4,789	4,345	4,638	55,689	52,647
		1日当り	枚数	159	174	164	174	173	153	165	164	165	186	168	166	2,011	1,810
			件数	214	237	220	228	242	205	229	223	218	252	229	221	2,717	2,579
	入院	総数	枚数	5,588	5,672	5,860	6,047	6,209	5,605	5,877	6,039	6,282	6,360	5,785	6,077	71,401	64,892
			件数	10,657	11,604	11,116	11,466	11,718	11,135	11,356	11,438	11,852	12,122	11,385	11,672	137,521	120,855
		1日当り	枚数	186	183	195	195	207	187	190	201	203	205	207	196	2,355	2,134
			件数	355	374	371	370	378	371	366	381	382	391	407	377	4,523	3,986
注射	入院	総数	枚数	22,578	20,426	19,479	22,172	23,317	20,481	20,890	22,017	21,754	22,919	23,374	21,453	260,860	240,020
		1日当り	枚数	753	659	649	715	752	683	696	734	702	739	835	692	8,609	7,896

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定				692	674	749	735	729	680	653	632	566	563	490	599	7,762	8,549
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)				159	178	164	141	172	142	179	174	153	164	173	171	1,970	2,248
(入院化学療法)				104	60	107	80	94	84	102	99	127	91	82	103	1,133	1,178
TPN調製件数				9	49	6	0	7	4	0	32	4	8	15	1	135	117

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用		0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2
		外 用		2	3	2	2	1	0	0	0	1	0	1	0	12	3
		注 射		1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0
	入院	内 用		117	105	94	89	55	36	78	45	25	58	63	76	841	878
		外 用		24	34	44	26	23	13	13	20	11	17	14	10	249	329
		注 射		294	310	332	336	359	325	396	426	334	302	378	331	4,123	3,417

製剤室

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤		件数		86	72	197	215	98	71	76	66	80	159	84	34	1,238	3,238
無菌製剤		件数		116	148	77	73	91	145	120	99	151	71	115	64	1,270	1,714

[薬剤部]

臨床研究管理室

スタッフ 室 長：東山眞里

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子、水越由佳子（看護師）、

村崎由紀子（臨床検査技師）

事務局：瀧川奈央（薬剤師）（～9月）、宮 麻紀子（薬剤師）（8月～）、橋本由美（事務）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っており、各診療科へ治験受託可能な疾患を調査し治験依頼者（製薬会社）への打診を行いながら案件を受託している。病院HPには施設情報チェックリストを公開し、治験受託時から契約・治験開始までの治験依頼者との打ち合わせの業務の効率化に努めた。日常業務では、安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応を行っている。また、院内各部署との調整を工夫・改善しながら治験が滞りなく推進出来るよう行っている。

臨床研究管理室会議を1回/月開催し、運営等について協議している。

治験標準業務手順書、事務局マニュアル、CRC業務マニュアル、外部CRC対応マニュアルの改訂も行っている。

2. 活動実績

- 1) 治験審査委員会（IRB） 13回開催
倫理委員会 11回開催
- 2) 年間治験実施件数 20件（前年度からの継続実施13件、平成29年度新規受託7件）
- 3) 製造販売後調査 新規契約23件
- 4) 臨床研究 実施件数49件

年間治験実施件数は20件と、前年度と比べ1件増加した。平成25年からの5年間をみるとほぼ横ばいであり、安定した治験受託を続けている。臨床研究実施件数は前年と比べ36件と大幅に増加した。（図1）。臨床開発モニター（CRA）との対応時間は699.5時間と、前年度652.75時間と比べ増加した（図2）。これは治験受託件数が前年度に比べ治験実施件数が1件増加したためであると思われる。被験者対応人数が前年度794名から142名減少したのは。製造販売後調査のCRC受託案件が4件終了したためである。

平成29年度は、市立東大阪医療センター緩和ケア内科の進藤喜子先生を講師に招き、2月27日に「臨床倫理・概論 -みんなで考える-」というテーマで全職員対象の研修会を企画・運営した。

3. 認定

日本臨床薬理学会認定CRC 1名

図1 治験・臨床研究等実施状況

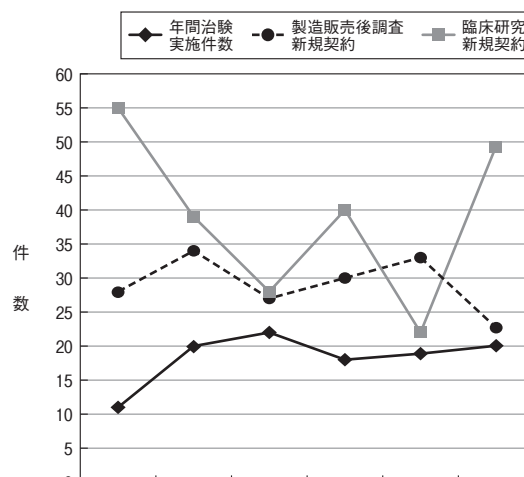
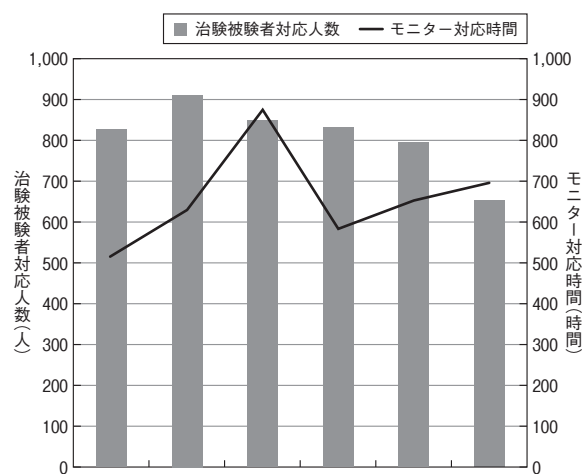


図2 治験被験者対応人数・モニター対応時間



年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
治験被験者対応人数	827	911	848	832	794	652
モニター対応時間	517	629.5	874.75	583.25	652.75	699.5

スタッフ 室 長：前田 元（特任副院長、呼吸器外科部長）
副室長：町田恵子（医療安全管理者、看護師）
近石克也（医事サービス部長）

1. 概要

平成28年2月機能評価受審を機に、医療安全管理マニュアルを全面改定し、平成29年11月にVTEマニュアルを追加した。

インシデント・アクシデントレポートの分析・情報共有は週単位で行い、医療安全ミーティングで報告した。また、オカレンスレポートシステムを開始した。さらに、多職種によるワーキング活動（医薬品・医療機器の安全管理）を行った。

2. 活動内容

平成29年度の目標と結果は、以下の3つである。

- 1) 医療安全マニュアルの見直し
VTEマニュアルを11月に追加した。
- 2) 医療安全行動の啓蒙
患者確認の方法に、患者自身に名乗っていただく安全行動が浸透するようポスター掲示を行った。
- 3) 医療安全管理者の育成
医療安全管理者のシャドウ研修を行った。看護部安全委員会で毎月事例検討を行った。これらにより看護管理者のリスクのとらえ方や医療安全管理に対する意識が高まった。

医療安全管理委員会では、機動性の高い委員会を目指し委員会メンバー数を減らし、下部組織として実働的な多職種ワーキンググループを4つ設置した。医療安全全般ワーキング、医薬品ワーキング、ME機器ワーキングに平成29年度から、転倒転落ワーキングを加えた。医薬品ワーキングでは、定期的なラウンドを行い、疑義照会の内容、件数を報告し情報の共有化を図った。また、注射薬カートを鍵付きに変更した。

週1回、医療安全ミーティングを実施した。ミーティングのメンバーは前田委員長、野村薬剤部長、近石部長、町田医療安全管理者で、週単位でのインシデント・アクシデントレポートの分析、事例の検討を行った。

さらに、合併症の報告促進を目指して、オカレンス報告システムを11月より導入した。報告実績は11月5件、12月0件、1月1件、2月0件、3月2件であった。

3. 医療安全研修

- 研修eラーニング
テーマ：「医療安全ケーススタディ～医療事故・紛争発生から解決まで～」
講 師：三宅坂総合法律事務所 伊藤亜矢子先生
10回開催 参加者総数 508名
（看護部294名、医師、コ・メディカル214名）
- WEB研修
平成29年11月21日（火）18：00～19：00
テーマ：「入院患者に対するリスクの低い不眠への対応」
講 師：市立札幌病院 精神医療センター
副医長 上村恵一先生
- 講演会
平成30年2月16日 17：20～18：20
1. テーマ：「わたしはこうして採血してます」
講 師：倉本訓子 中央臨床検査部
2. テーマ：「麻薬、毒薬、向精神薬の取り扱いについて」
講 師：足立充司 薬剤部
3. テーマ：「医用コンセント～電気から身を守るために～」
講 師：岡崎浩也 臨床工学室
4. テーマ：「当院医療安全事例についての共有」
講 師：前田 元 医療安全対策室
参加者183名、未受講者向けにDVDによる追加研修を実施した。

インシデント・アクシデント報告の推移
（平成27年～平成29年）

	薬 剤	転 倒 ・ 転 落	輸 血	治 療 ・ 処 置	ド レ ン ・ チ ュー ブ	検 査	M E 機 器	療 養 上 の 世 話	そ の 他	合 計
H27年	304	244	10	85	40	80	16	23	159	961
H28年	457	306	15	233	86	152	63	68	212	1,590
H29年	357	333	7	162	71	127	39	25	131	1,269

感 染 対 策 室

スタッフ 室 長：小瀬戸昌博（インфекションコントロールドクター）
薬 剤 師：池田久雄（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）
検査技師：小西美香（感染制御認定臨床微生物検査技師、認定臨床微生物検査技師）
看 護 師：大野典子（感染症看護専門看護師）

1. 活動内容

感染対策室では病院の理念に基づき最良の医療サービス、安全な医療の提供を目標に、日々感染症の予防につとめ、感染が発生した場合でも拡大を防止するよう活動している。また、適切な抗菌薬使用など感染症の診断治療の支援にも取り組んでいる。本年度も平成27年度から継続している薬剤耐性菌アクションプランにおける抗菌薬耐性菌の拡大防止に向けた取り組みに重点を置いて活動を行った。

具体的活動はICTカンファレンスを週1回開催し、感染症診療時の抗菌薬や検出微生物に関する情報を提供する。また、ICTラウンドを開催し（1回/週）、標準予防策や感染発生時の感染経路別予防策の実施状況の確認を行った。感染対策加算Ⅰ認定施設として他病院と連携し情報交換や感染発生時に相互に協力しあい、感染対策加算Ⅱ認定施設とも同様に支援を行っている。

今年度は新病院に移転直前の年度であり、新病院における施設設備、器具機材に対する発言や提言を行った。

2. 活動体制

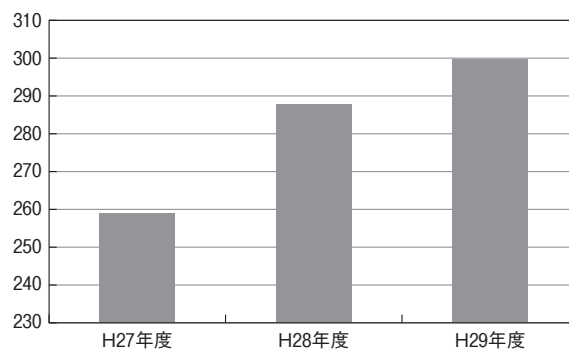
感染対策室には専従者が在籍するため、常時感染症診療や感染防止に関する相談を受け、医師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員などから構成するICTメンバーに連携し速やかに支援できる体制をとっている。また、看護部が組織する感染リンクナースは患者の最も近くで感染のリスクを評価し、異常時は感染対策室へ報告し速やかに支援が開始できる体制をとっている。

ICTや感染リンクナースでは対応が困難と判断した場合は、院内感染対策委員会の臨時開催や、特定の部門に限定した問題であれば当該部門を含めた拡大院内感染対策委員会を開催するなど組織として早急に対応できるような体制をとっている。

3. 活動実績

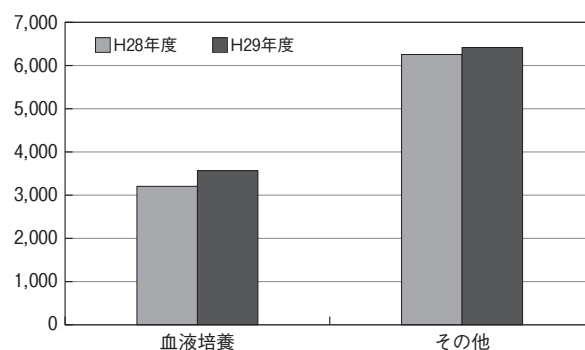
1) 感染症診療の支援

ICTの介入件数は300件（平均25件/月）であり、前年度と比較し月平均4件の増加となった。介入内容は届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定、感染対策に関すること等であった。



（図1）ICT介入件数

感染症診療において重要な使用となる微生物検査検体数は9,984検体（全材料）、血液培養検査は3,569検体でありともに前年度より増加した。



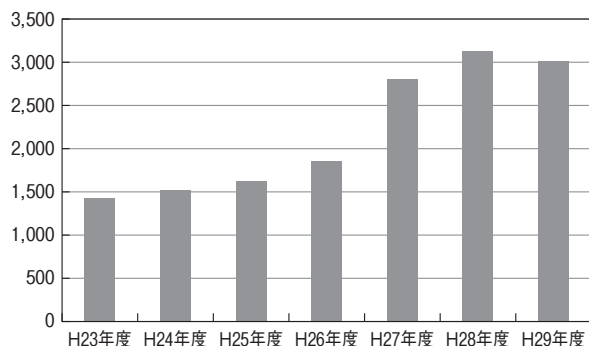
（図2）微生物検査検体数

1) 感染予防と発生時の対応

平成29年度は季節性インフルエンザが地域で流行し、当院でも一時感染者が増え院内感染と思われるアウトブレイクが発生したが、拡大することなく最小限にとどめることができた。

3) 標準予防策徹底への取り組み

手指衛生徹底への取り組みとして、感染リクナースと協同し各部署へ手指衛生材料の使用実績を情報提供した(図3)。しかし、昨年度はサーベイランス開始後初めて納入量が前年度を下回る結果となった。手指衛生の徹底は今後も継続して啓発を行っていきたい。



(図3) 擦式手指消毒剤年間購入量

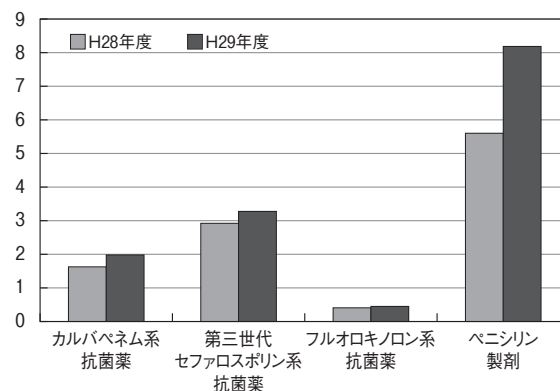
4) 地域連携施設における取り組み

感染対策加算Ⅱ取得の病院とは地域連携カンファレンスを開催(4回/年)開催し、感染対策加算Ⅰ取得の病院とは相互ラウンド1回/年を開始した。相互の感染対策を確認するよい機会になると評価を受けている。

5) 耐性菌検出抑制に対する取り組み

AMRに関するグローバルアクションプランへの取り組みを強化することを目的に当院のアンチバイオグラムをもとに平成28年度に作成した感染症診療院内ガイドラインを周知した。

抗菌薬の使用量は100床/1日あたりカルバペネム系抗菌薬は1.98g(昨年度1.63g)に増加、第三世代セファロスポリン系抗菌薬の使用量は3.30g(昨年度2.93g)に増加、フルオロキノロン系抗菌薬は0.45g(昨年度0.42g)へと増加した。しかし、一方でペニシリン製剤も8.22g(昨年度5.60g)へと大幅に増加した(図4)。



(図4) 100床/日あたり抗菌薬使用量

6) 職員教育

第34回院内感染対策教育講演/ICTからの発表

「アウトブレイク対策の実際」参加率99.1%

第35回院内感染対策教育講演/ICTからの発表

「感染性廃棄物と環境整備」参加率99.8%

第36回院内感染対策教育講演

「最近話題の感染症から－HIVと梅毒－」参加者71名

4. 業績

学会発表

- 大野典子, 池田久雄:2014年, 2015年ICT活動と各診療科における広域抗菌薬投与回数と使用量の変化, 第33回日本環境感染学会総会・学術集会, 2018年2月, 東京.

あ っ た か サ ポ ー ト セ ン タ ー

スタッフ センター長：船渡孝郎 ※ H30年4月～センター長：東山真里

部長：近石克也 担当部長：澤田康夫 副部長：本家裕子

(1) 地域医療サービスグループ

事務員：西岡千幸、岡部由利、森本洋子、高名礼子、中野侑子、渡辺喜代美、岩切綾子、飯田香（10月～）

(2) 入退院支援センター

センター長：前川明子 看護師：川瀬俊子、湯坂久美子（7月～）、小溝翔子（～8月）
事務員：小谷五月、上村亜友子

(3) 医療福祉相談グループ（入退院支援センター兼務）

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）、
（Medical Social Worker: MSW） 松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）、
福庭加奈（社会福祉士・精神保健福祉士）、
清水美紗（社会福祉士・介護支援専門員）

※患者様サポートスタッフ：松本満康、圓田久美子

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- 地域の医療機関からの診療・検査予約
- あったかサポートセンター経由の紹介患者受付
- 紹介患者の受診結果報告
- 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き
- 開放型病院登録医の共同診療時の対応
- 人間ドック、健診後受診患者および企業健診後受診患者の診療・検査予約、受付

h. 病院紹介冊子の作成

i. 地域医療NETWORK開設

2) サービス広報

- 医療機関向け診療案内の発行
- 登録医への診療日程案内・情報提供
- 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
- 市民健康セミナー等の開催、開催協力
- 地域医療機関等の情報収集・調査
- 院内イベント企画・開催、開催協力
- 図書・情報コーナーの管理

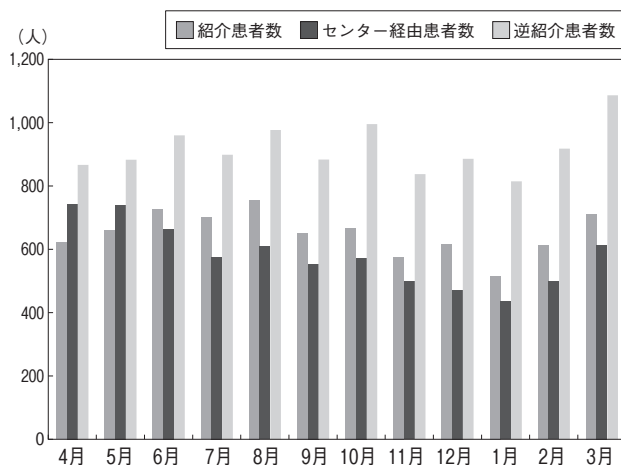
■ H29.4～H30.3

診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数
（年間）

科 別	紹介患者数※ （救急車搬入患者含む）	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科	304	332	764
消化器内科	637	595	784
総合内科	936	1,321	1,099
血液・化学療法内科	214	192	327
神経内科	159	161	237
腎臓内科	94	92	323
消化器・一般外科	81	66	251
呼吸器外科	15	15	49
乳腺外科	151	123	254
心臓血管外科	1	5	8
産婦人科	1,837	1,237	2,505
小児科	291	173	271
神経科・精神科	140	157	250
整形外科	326	245	679
皮膚科	508	393	689
泌尿器科	266	182	360
眼科	43	53	156
耳鼻咽喉・頭頸部外科	621	360	560
形成再建外科	155	78	151
放射線診断科	893	1,094	1,012
放射線治療科	8	11	14
麻酔・緩和医療科	12	16	15
リハビリテーション科		7	
救急診療センター	128	68	237
合計	7,820	6,976	10,995

※紹介患者数は初診算定数。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	622	661	728	701	756	652	668	576	617	515	612	712
センター経由患者数	744	740	664	575	609	553	573	499	472	436	498	613
逆紹介患者数	867	883	960	899	977	884	996	838	886	815	918	1,087

h. ボランティアの受付・調整

2. 入退院支援センターの活動内容

平成28年7月14日より入退院支援センターを開設し、2年目となる。入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的としている。

1) 業務内容

a. 医事部門・入院受付

- ①入院申し込み・入院当日の入院手続き
- ②無料低額診療事業等の紹介

b. 看護師

- ①病棟師長：入院時間調整
- ②病棟看護師：入院時基礎情報収集・SGAシート・退院支援スクリーニング
- ③外来看護師：術前オリエンテーション・クリニカルパスの説明

④退院支援専従看護師：退院調整

c. 薬剤師

- ①術前内服確認、医師指示による休薬指導

d. MSW

- ①退院調整
- ②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

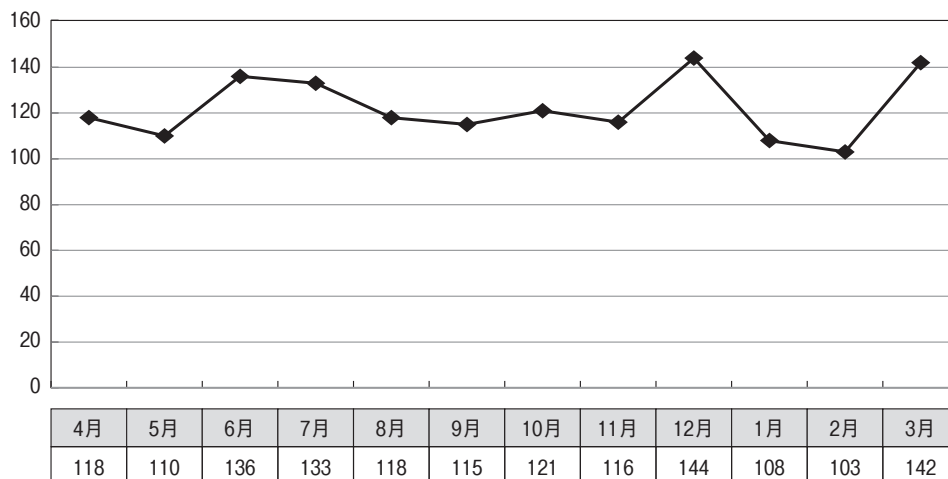
平成29年度の入退院支援センター看護師による介入件数は月平均353件（昨年度322.8件）であり、時間内入院実数の76.4%（昨年度70.9%）を占めた。また、要退院支援抽出数も昨年度を上回り、月平均42.2件（昨年度24.3件）であった。外来看護師によるオリエンテーション件数は月平均139.4件（昨年度109.3件）、薬剤師による術前服薬確認は月平均81.9件（昨年度65.6件）となり、全てにおいて昨年度を上回った。

退院支援加算算定件数は、退院支援専従看護師・MSWを中心に継続的に活動実施し、センター看護師、病棟看護師間の連携も密にとった結果、月平均122件（昨年度67.3件）の数値につながった。

■入退院支援センターの活動実績

月	時間内 入院実数 (8:30~17:00)	センター看護師					薬剤師	外来看護師
		予定分	予定外 (緊急)	介入件数	介入割合	要退院支援 抽出数	術前服薬確認	術前オリエン テーション
4月	456	233	99	332	72.8	16	89	117
5月	468	241	72	313	66.9	40	88	140
6月	520	292	81	373	71.7	61	65	135
7月	498	284	81	365	73.3	38	69	127
8月	539	305	72	377	70.0	43	88	139
9月	512	305	85	390	76.2	46	83	139
10月	463	286	70	356	76.9	51	78	147
11月	539	329	58	387	71.8	32	76	135
12月	517	249	39	288	55.7	53	77	133
1月	522	319	178			84	81	150
2月	455	274	133			52	95	150
3月	491	303	181			86	94	161
平均	498.3	285	95.8	353	70.6	42.2	81.9	139.4

平成29年度 退院支援加算算定数



3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

平成29年度は、総数11,540件（1日平均51.5件、月平均961.7件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成29年度の新規相談は3,160件（昨年は3,086件）であった。紹介経路別にみると、看護師（600件）、医師（437件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が35.8%（昨年は39.6%）を占め、本人（824件）と家族（682件）からの相談が47.7%（昨年は45.1%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選

定援助）が37.2%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（26.1%）、介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（16.6%）、受診・受療に関する問題調整（9.8%）となった。

2) 地域活動

- 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会へ参画による地域の高齢者施策等への貢献
- 西区在宅医療・介護連携推進会議等に参加し、地域の在宅医療の普及と医療・介護連携を推進
- 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、在宅生活を支援

■医療福祉相談グループ

〈相談取り扱い件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	94	96	87	70	127	162	72	41	76	86	82	73	1,066	1,206
消化器内科	89	54	46	47	50	56	57	36	40	33	38	37	583	748
総合内科	182	192	149	107	204	160	148	172	162	114	199	157	1,946	2,221
血液・化学療法内科	94	79	74	81	144	97	89	63	63	60	58	47	949	760
神経内科	88	70	89	71	106	71	67	98	77	28	78	77	920	996
腎臓内科	34	49	21	41	24	22	35	64	54	62	83	64	553	145
消化器・一般外科	26	7	21	26	26	34	7	9	28	32	20	33	269	399
呼吸器外科	1	0	0	4	2	7	4	1	0	0	0	0	19	14
乳腺外科	13	20	29	18	17	13	28	29	34	26	24	8	259	174
心臓血管外科	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	7	
産婦人科	45	39	61	88	109	33	43	52	31	18	19	21	559	366
小児科	12	34	43	17	44	21	42	62	29	25	47	16	392	369
神経科・精神科	38	20	45	38	57	40	27	22	25	20	21	28	381	378
整形外科	77	124	100	109	114	70	95	117	123	110	110	138	1,287	989
皮膚科	17	33	16	26	32	23	30	26	20	19	25	45	312	283
泌尿器科	19	18	14	26	29	23	32	12	15	15	13	24	240	305
眼科	1	3	2	2	13	7	4	4	4	4	6	3	53	43
耳鼻咽喉・頭頸部外科	19	24	17	38	27	18	15	12	22	7	7	7	213	250
形成再建外科	0	0	0	1	4	0	6	2	8	3	4	3	31	
放射線診断科	2	0	3	1	1	3	2	0	0	5	0	0	17	21
放射線治療科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
麻酔・緩和医療科	3	2	1	2	7	3	0	0	0	0	2	0	20	20
リハビリテーション科	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	2	7	
救急診療センター	32	58	41	53	68	23	97	61	58	78	88	72	729	501
その他	46	45	59	109	81	73	50	63	62	50	45	44	727	628
合計	932	967	919	980	1293	959	950	946	931	795	969	899	11,540	10,816

〈新規ケース紹介経路〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	29	26	1	40	20	0	51	17	4	69	17	0	104	13	4	57	14	3	41	14	1	49	20	0
家族	21	14	2	31	20	0	38	12	1	52	23	0	72	20	3	33	17	1	34	13	0	44	23	1
医師	13	22	0	24	26	0	29	20	0	11	21	0	14	18	0	16	19	0	16	16	0	21	12	1
看護師	6	39	0	11	44	0	10	41	0	13	45	0	11	48	0	12	32	0	13	43	0	8	33	0
その他院内職員	6	4	0	2	4	0	4	5	0	0	3	0	9	2	0	4	3	0	7	2	0	5	4	0
保健福祉関係機関	2	13	0	2	13	0	3	11	0	3	7	0	3	4	0	3	9	0	5	16	1	4	10	2
医療機関	6	1	0	4	2	0	7	3	0	10	3	1	5	4	0	10	2	0	6	6	2	7	0	0
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	13	13	0	13	3	0	6	4	0	9	6	0	8	7	1	14	3	0	8	5	0	7	6	1
その他	1	2	1	2	0	0	4	2	0	1	1	0	4	5	0	1	2	1	2	1	0	2	1	0
小計	97	134	4	129	132	0	152	115	5	169	126	1	231	121	8	150	102	5	134	116	4	147	109	5
総合計	235			261			272			296			360			257			254			261		

	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	45	12	0	43	12	3	48	12	2	35	16	2	611	193	20	519	197	10
家族	40	20	1	26	18	1	35	20	4	22	20	0	448	220	14	405	251	10
医師	24	11	0	15	24	0	12	14	0	16	22	0	211	225	1	157	167	0
看護師	10	47	0	6	43	1	7	37	0	6	34	0	113	486	1	148	666	3
その他院内職員	2	2	0	3	5	0	5	8	0	5	1	0	52	43	0	41	40	2
保健福祉関係機関	5	9	0	1	8	0	3	7	0	8	6	1	42	113	4	41	103	9
医療機関	6	0	0	5	1	1	9	0	2	5	3	1	80	25	7	51	28	5
福祉施設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	4	0	0
介護保険施設・事業所	11	7	0	9	7	0	12	7	0	10	6	0	120	74	2	110	82	1
その他	2	4	0	0	2	1	0	1	1	1	2	2	20	23	6	17	12	7
小計	146	112	1	108	120	7	131	106	9	108	110	6	1,702	1,403	55	1,493	1,546	47
総合計	259			235			246			224			3,160			3,086		

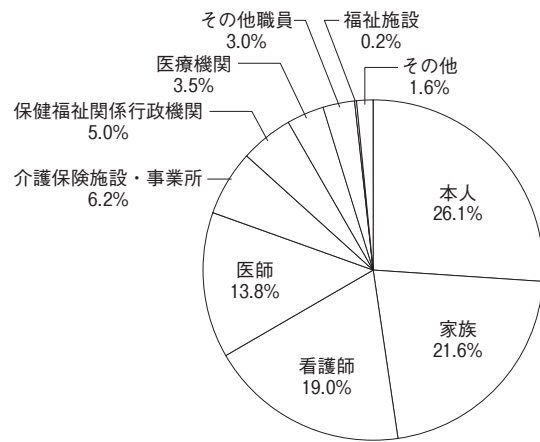
〈相談援助総件数（延べ数）〉

	H29年度	H28年度	H27年度	H26年度	H25年度	H24年度
循環器内科	1,066	1,206	1,072	740	917	1,526
消化器内科	583	748	739	924	715	397
総合内科	1,946	2,221	1,926	1,741	1,951	1,303
血液・化学療法内科	949	760	656	663	606	493
神経内科	920	996	881	1,039	665	※1
腎臓内科※2	553	145				
消化器・一般外科	269	399	262	364	286	573
呼吸器外科※3	19	14	1			
乳腺外科	259	174	118	41	118	50
心臓血管外科※4	7					
産婦人科	559	366	264	213	260	370
小児科	392	369	399	318	553	221
神経科・精神科	381	378	435	683	666	540
整形外科	1,287	989	1,036	978	934	1,078
皮膚科	312	283	215	182	229	184
泌尿器科	240	305	275	296	515	279
眼科	53	43	89	58	40	38
耳鼻咽喉・頭頸部外科	213	250	239	355	299	174
形成再建外科※4	31					
放射線診断科	17	21	10	10	12	4
放射線治療科※4	1					
麻酔・緩和医療科	20	20	1	3	8	26
リハビリテーション科※4	7					
救急診療センター	729	501	649	277	134	
不明・その他	727	628	605	557	453	225
合計	11,540	10,816	9,872	9,442	9,361	7,481

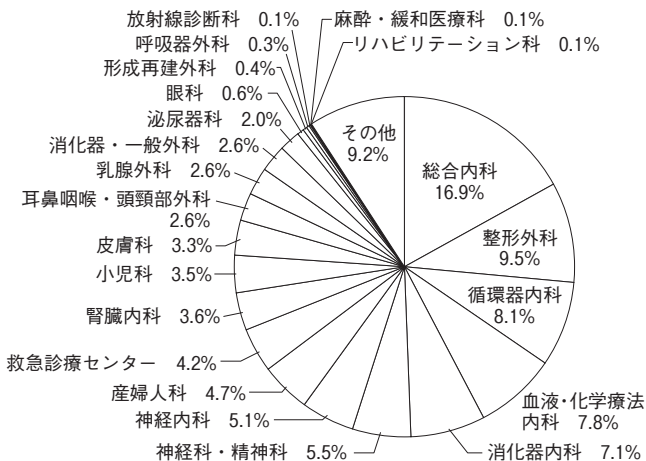
※1. H24年度の神経内科は循環器内科に含む

※2. H28年7月～ ※3. H27年1月～ ※4. H29年4月～

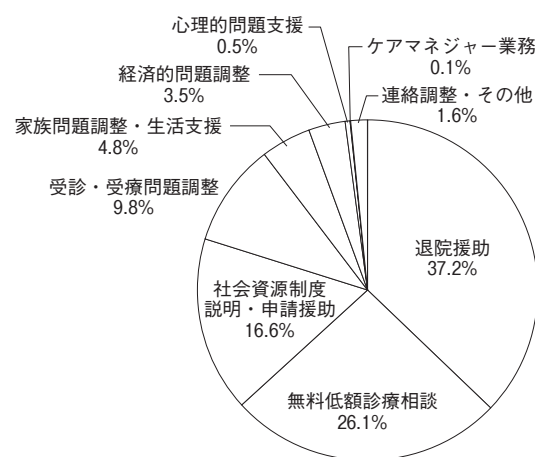
〈新規相談（紹介経路別）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



港 区	太田整形外科クリニック	太田 信彦
	大阪医院	大阪 正視
	やぎクリニック	八木 隆
	賀来医院	賀来 清高
	喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	岸医院	岸 良治
	溝口内科	溝口 理映子
	山田医院	山田 卓
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	社会福祉法人秀生会ザイオン診療所	中山 秀雄
	(医)尚信会 整形外科 河村医院	河村 禎人
	医療法人社団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教
	(医)銀杏会 常松診療所	常松 静也
	(医)隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	大塚医院	大塚 欣敏
	澤田内科クリニック	澤田 光孝
	かもめクリニック	木下 啓太
	かもめクリニック	石本 英之
	かもめクリニック	中濱 瑛太郎
大 正 区	歆義堂 小林医院	小林 紀男
	(医)光風会 江口医院	江口 隆
	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕
	寒川医院	寒川 通洋
	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行
	藤吉医院	藤吉 庸雅
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	横山医院	横山 正博
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	西平診療所	西平 守和
	北新会 藤原耳鼻咽喉科医院	藤原 隆行
	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦
	船井医院	船井 俊彦
	加納レディースクリニック	加納 英男
	金城外科脳神経外科	金城 康夫
	五味クリニック	五味 正裕
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	一ノ名医院	一ノ名 正
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫
	ひらいけ内科	平池 豊
	足立医院	足立 俊之
	本山診療所	本山 忠
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	山北内科クリニック	山北 哲也

大 正 区	山北内科クリニック	山北 直子
	中村医院	中村 義弥
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	(医)北村診療所	北村 彰英
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合 たいしょう生協診療所	鈴木 昇平
	よしむら整形外科	吉村 弘治
此 花 区	山北整形外科	山北 真也
	(医)奥見診療所	奥見 敏彦
	栗栖医院	栗栖 孝臣
	(医)小山医院	小山 貴子
	(医)小山医院	小山 高澄
	(医)木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	(医)板東医院	板東 博志
	松井クリニック	松井 清明
	(医)徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
浪 速 区	谷本医院	谷本 尚穂
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医)森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
	(医)良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	こじまクリニック	小島 研太郎
	井上医院	井上 宏之
	竹中医院	竹中 秀裕
浪 速 区	(医)徳田クリニック	徳田 修
	(医)徳田クリニック	徳田 好勇
	橋村医院	橋村 直隆
	(医)檜山診療所	桧山 寛市
	本田クリニック	本田 秀明
	(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	(医)菱川クリニック	菱川 秀夫
	沢井眼科	澤井 貞子
	佐久間医院	佐久間 靖博
	かねだクリニック	金田 高次
浪 速 区	小池クリニック	小池 洋志
	有田医院	有田 繁広
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	えびす診療所	久保田 泰弘
	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰仁会 森川クリニック	山口 貴也
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
	笹岡医院	笹岡 英明
浪 速 区	(医)理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	川田医院	川田 信哉
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	(医)岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	(医)瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博
	中村クリニック	山本 昌弘

福 島 区	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディースクリニック	猿渡 善治
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科	森山 穂積
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	衆山 泰明
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
	(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明
	野田診療所	小濱 譲次
西 淀 川 区	(医)成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	中村クリニック	中村 幸生
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	くまだ内科・小児科クリニック	木畑 正彦
	高岡診療所	高岡 均
住 之 江 区	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
	いせき整形外科	井石 聡
	(医)福田診療所	福田 弥一郎
中 央 区 (東)	東口クリニック	東口 等
	岡村クリニック	岡村 弘光
	中島クリニック	中島 静一
	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
	医療法人 桑江クリニック	桑江 秀樹
	(財)洪庵記念会産婦人科くりにいにおがた	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
	ながわ 中之島クリニック	中川 晶
	(医)西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健保組合 健康管理室	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	(財)大阪府結核予防会 相談診療所	増田 國次
	大林組大阪診療所	森島 豊彦
	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医)政明会 春次医院	春次 智三郎
	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
	トミタクリニック	富田 忠宏
	(医)ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
	(医)アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	(医)紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医)高折医院	高折 和男
	たがや内科	多賀谷 昌史
	本町 林クリニック	林 宏明
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
	山口あきこクリニック	山口 晶子

中 央 区 (東)	大織診療所	藤原 大美
	前久保クリニック	前久保 邦明
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
	浅田診療所	浅田 洋造
	ウィメンズクリニック本町	藤野 祐司
中 央 区 (南)	小川眼科	小川 憲治
	(医)今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
	大須賀内科	大須賀 康文
	小島クリニック	小島 昭重
	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	(医)田中小児科医院	田中 祥介
	寺内クリニック	寺内 陽
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
	益田クリニック	益田 元子
	(医)岩佐診療所	岩佐 真人
	(医)福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	ふじたクリニック	藤田 富雄
	(医)松本内科クリニック	松本 淳
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 謙一
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 潤
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 航
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
	安田クリニック	安田 光隆
旭 区	春木レディースクリニック	春木 篤
	寺内クリニック	寺内 勇
	河合皮フ科医院	河合 公子
	(医)東迎会 東迎クリニック	東迎 高意
	谷ロレディースクリニック	谷口 幸一
阿 倍 野 区	きむ医療連携クリニック	金 永進
	心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
	(医)山田医院	山田 洋
	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
	梅寄クリニック	梅寄 圭吾
生 野 区	医療法人清水会 森小路清水会クリニック	左古 昌蔵
	(医)湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医)柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
北 区	医療法人 トキワクリニック	柏木 宗憲
	岸田内科	岸田 泰弘
	(医)協同診療所	稲次 征人
	医療法人祐星会桃クリニック	後藤 克子
	鈴木クリニック	鈴木 隆男
北 区	(医)湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	(医)ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	小西統合医療内科	小西 康弘
北 区	北中レディースクリニック	北中 孝司

北 区	(医)裕弘会 堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	志村ウィメンズクリニック	志村 研太郎
	(医)三慧会 HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	(医)聖授会フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
	天神橋ゆかこレディースクリニック	頼 裕佳子
	(医)豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
	本出診療所	本出 肇
	田中内科	田中 裕也
	(有)阪神労働衛生コンサルタント 堂島サテライトオフィス	廣部 一彦
	江川メンタルクリニック(山本梅新診療所より変更)	江川 功
	天満SORAクリニック	森田 哲史
	中之島フェスティバルタワー・さくらクリニック	苗村 敏
住吉区	桂診療所	桂 勇人
城東区	(医)金井産婦人科 医療法人よつば会 クローバークリニック	金井 万里子 荒木 良守
天王寺区	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	(医)池田クリニック	池田 光慶
	小出内科神経科	小出 泰道
	東産婦人科 眼科	東 芳賢
	宮原レディースクリニック	宮原 義良
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎
西成区	(医)瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二
西成区	(医)純和会 竹本診療所	八木 純
	イワタ医院	岩田 以津子
東住吉区	医療法人ばばやクリニック	馬場谷 勝廣
	山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
東成区	にしかわクリニック	西河 潤
	古武診療所	古武 敏彦
	大谷透内科	大谷 透
	山崎診療所	連 美知子
	(医)いながきレディースクリニック	稲垣 実
	中山医院	津久井 幾奴子
	中山医院	津久井 伸一
東淀川区	タツミ医院	巽 壽一
平野区	元林産婦人科内科	元林 和彦
	日野レディースクリニック	日野 晃治
都島区	祐クリニック	道清 勉
淀川区	(医)医誠会 新大阪医誠会クリニック	横田 甚
	希咲クリニック	山分ネルソン祥興
	かわばたレディースクリニック	河端 良一
	なかにしキッズクリニック	中西 康詞

大阪府内

池田市	やまだクリニック	山田 祥晴
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
茨木市	大河内医院	大河内 寿一
	秋岡・西代医院	秋岡 壽
	(医)中尾内科クリニック	中尾 誠
	マキレディースクリニック	田中 善章
狭山市	たかはしクリニック	高橋 徹
柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
堺市	小野産婦人科	小野 晃範
	典子エンジェルクリニック	船越 典子
	清水レディースクリニック きららファミリークリニック	清水 千賀子 吉良 俊彦
吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
大東市	松下診療所	松下 和広
高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉
豊中市	(医)横野クリニック	横野 淑子
	(医)上宮医院	上宮 正直
	(医)直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
寝屋川市	森田医院	森田 真也
東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医)近藤医院	近藤 和秀
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
	西岡医院	西岡 良泰
	森産婦人科	森 政雄
藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
松原市	(医)平成会 平松産婦人科クリニック	平松 恵三
	きただ女性クリニック	北田 衣代
八尾市	(医)光仁幸会 西本産婦人科	西本 関男
	きくちレディースクリニック	菊池 知之
	萩原クリニック なかじまレディースクリニック	萩原 正久 中嶋 康雄

大阪府外

奈良県	(医)久産婦人科・内科	久 靖男
	(医)久産婦人科・内科	久 裕
	宇山内科クリニック	宇山 宏和
	田中泌尿器科医院	田中 雅登
兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
	黒田医院	黒田 昌男
	玉田クリニック	玉田 大介
	玉田クリニック	北村 哲宏

日生訪問看護ステーション

スタッフ 管 理 者：水上洋子（副看護部長、ケアプランセンター管理者）（保健師、介護支援専門員）
 常 勤 看 護 師：丸山洋子、酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、吉井好夏、小森奈緒子、渡部美沙、
 出口公志
 非常勤看護師：山内祐子、永田悦子、笹内 舞、久間田久美、巽 陽子、青木絵里子、小島加津代

1. 活動内容

「予防から治療、在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供する」地域医療支援病院併設の訪問看護ステーションとして、医療と介護の連携を強めた切れ目のない体制づくりに努め、効率的に質の高い訪問看護提供し、地域の人々の健康維持への貢献に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、認知症、精神疾患など重度化・多様化・複雑化するニーズに対応するために、訪問看護師と、訪問リハビリテーションが協働して自立機能の維持とQOLの向上に配慮した在宅療養の継続に努めた。

月平均利用者数は138名、月平均訪問件数は、990件（リハビリテーション29件）であった。（図1・2）

指示書を受けている医療機関は日生病院が月平均68名、他医療機関は70名であった。日生病院を主体としつつ、西区を中心とした「重点地域」において他の医療機関や居宅介護支援事業所と連携を取り、多職種と協働しながら医療・介護の拠点としての機能を発揮している。（図3・4）

在宅移行時には、入院前から退院後の在宅ケアまでの一連のプロセスが安心して安全な療養生活になるよう退院調整看護師及びMSWと連携しながら支援体制を強化するとともに、病院内看護師等に、在宅療養場面をイメージできるように助言するなど退院支援を行っている。また、在宅療養を継続する過程で利用者や家族が意思決定を迫られる場面や、指示の確認が必要な場合には必要時に受診同行を行うなどの援助により、住み慣れた地域で自分らしく生活ができるよう支援している。

安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制の充実を図り、在宅療養支援診療所との連携、日生

病院における救急外来の受け入れや後方支援病院の契約等により療養環境を整備した。24時間対応は約45%の利用者（月平均62.5名）が契約をしており、日生病院との後方支援契約は17名/年であった。また、在宅での看取りは15名/年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、12月30日～1月3日までは除く）

また状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、24時間対応体制または緊急時連絡体制の契約者には、事業所の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区（概ね事業所より、半径3km圏内）

3. 訪問看護の普及及び教育機関としての活動

地域包括ケアシステムの構築に向け、教育機能・住民啓発・多職種連携機能に尽力した。

1) 教育機能

- ①看護学生の在宅看護実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪保健福祉専門学校、大阪医専
- ②日生病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護ステーション実習
- ③大阪府訪問看護ステーション連絡会市西ブロック教育ステーションの実習協力

2) 住民啓発

- ①認知症高齢者等高齢者支援地域連携事業「認知症講演会」に参加

3) 多職種連携

- ①西区在宅医療連絡会、西区在宅医療介護多職種研修会、西区認知症等高齢者地域連携事業への参画による地域の高齢者施策への貢献
- ②西区医療・介護多職種連携の会を月1回開催

図1 保険種別割合

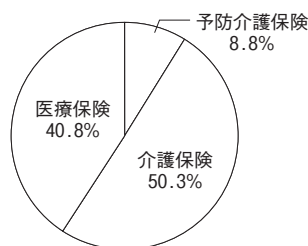


図2 要介度別利用者数
(n=87)

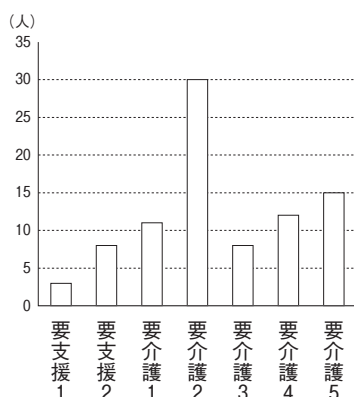


図3 日生病院診療科別指示書発行人数
(n=69)

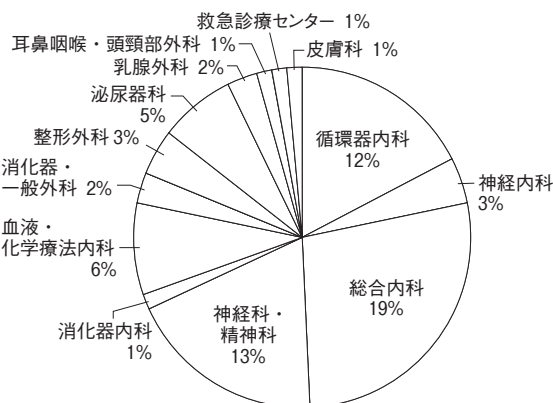
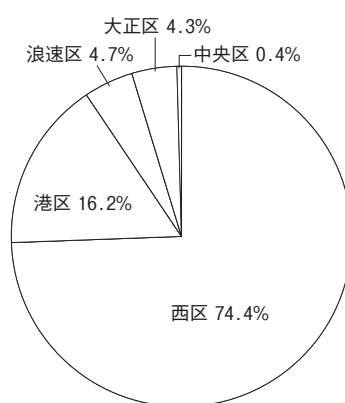


図4 利用者の住居地別割合



日生ケアプランセンター

スタッフ 管 理 者：水上洋子（副看護部長、訪問看護ステーション管理者）（保健師、介護支援専門員）
常勤スタッフ：本家裕子（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）
（あったかサポートセンター医療福祉相談グループ副部長）
松栄優子（社会福祉士、介護支援専門員）
（あったかサポートセンター医療福祉相談グループ）

地域医療支援病院併設の居宅介護支援事業所として、医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の医療機関や介護サービス提供機関との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重し、要介護状態の悪化の予防と維持改善を図るケアプランの立案を行っている。

1. 活動内容

①がん末期や長期入院患者の在宅復帰や医療依存度の高いケースを引き続き担当し、ケアプラン契約者は月平均1名でケアプラン立案件数は月平均1件であった。

新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

②入院から在宅療養へ円滑に移行できるよう、退院指導への関与や、「生活」を見据えた援助ができるよう病院看護師への退院支援の継続的な研修会を開催した。

③2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会への参加や、地域ケア会議、認知症高齢者の多職種連絡会への出席により、地域・施設内での情報の共有を図った。

看護部

スタッフ 看護部顧問：芦田享子
 看護部長：高鳥郁子
 副看護部長：中西三季、前川明子
 看護部調査役：町田恵子
 3階病棟看護師長：森 エミ
 4階西病棟看護師長：賀戸ひとみ
 5階西病棟看護師長：鈴木八枝子
 6階西病棟看護師長：神谷香里
 外来看護師長：岩本真澄

手術室看護師長：木下園子
 4階東病棟看護師長：田畑文子
 5階東病棟看護師長：酒井亜紀子
 6階東病棟看護師長：阿部恭子
 救急外来看護師長：久留明子

1. 看護部の理念

（公財）日本生命済生会の基本理念『済生利民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

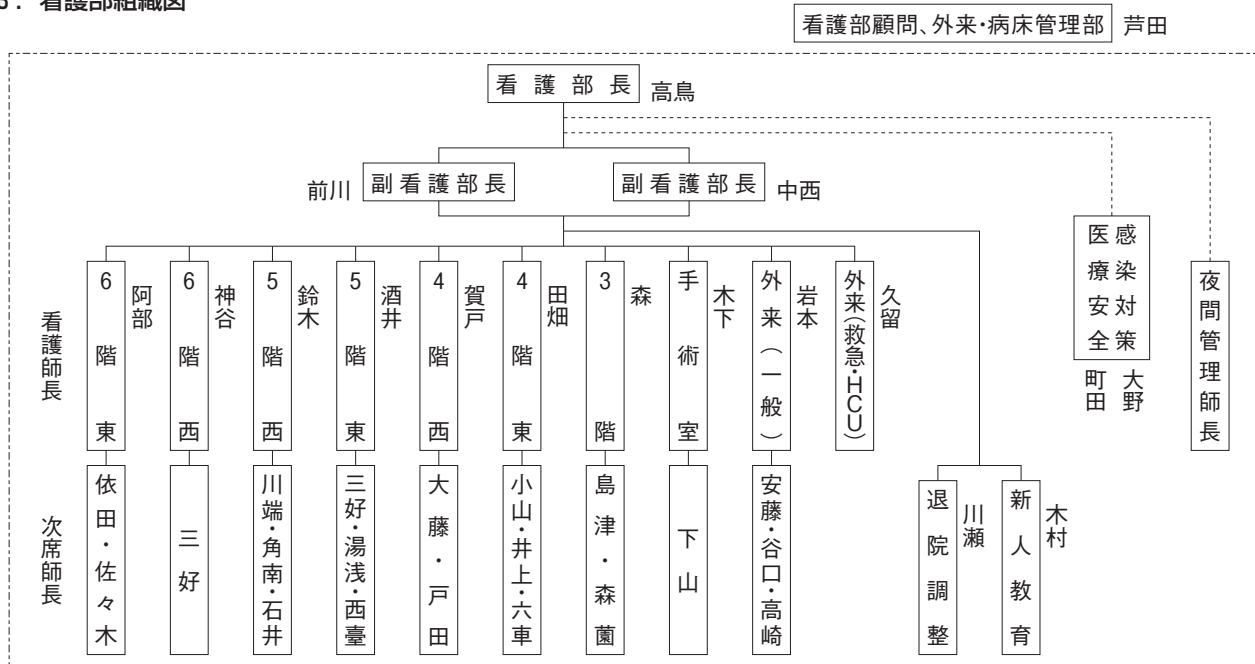
2. 看護部基本方針

- 1) 患者様の生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者様の生活環境を整え、安全で確実な看護を提

供します。

- 3) 患者様の視点に立って業務改善や効率化をはかり、個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研鑽に努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

3. 看護部組織図



4. 平成29年度看護部目標

平成29年度は、4つの目標を掲げ、看護部委員会、看護師長会、次席師長会が中心となって活動した。目標及び計画立案にあたっては、前年度の活動の振り返り後、病院・看護部を取り巻く環境の変化等を考慮した。スタッフへの周知のために、SWOTクロス分析を用いて整理した。特に新病院移転に向けて最後の1年であることを意識して目標を立案した。また、個々の目標の達成基準、責任者（委員会）を明確にし、計画立案、中間報告、期末報告を通して達成状況を共有し、目標達成に向けて取り組んだ。

- 1) 診療機能の拡大に対応する体制死人看護実践力向上を図る

- ①救急診療センター、HCU等の稼働に向けて体制を整備する
- ②看護業務マニュアルの整備により看護業務の標準化と管理能力の向上
- ③クリティカル領域（内視鏡、透析、心カテ等）の看護師教育プログラムを作成し適用する
- ④院内認定制度を活用、拡大し、看護実践力の向上を図る
- ⑤専門認定看護師の能力を活用した看護外来や看護実践をアピールし優秀な人材を確保する

- 2) チーム医療の一員として多職種と協働し地域に求められる医療を推進し病院運営に参画する
 - ①入退院支援センターの機能を充実させ効率的なベッドコントロールを行う
 - ②看護実践で算定できるケアの推進と施設基準上位取得を目指した環境整備
- 3) 患者の意思決定を支援し、患者中心の看護の提供により患者満足度を高める
 - ①カンファレンスの充実により患者中心の看護過程を展開するための環境を整備する
 - ②DiNQLデータ、退院時アンケートなど看護の質を表すデータを活用し改善活動を継続する
- 4) 多様な勤務形態の導入、PNSマインドの醸成、業務の標準化により働き続けられる職場環境を作る
 - ①超過勤務の改善、夜勤時間の見直しなど多様な勤務形態の検討と評価
 - ②固定チームナースング・ペア体制の推進とPNSマインドの醸成
 - ③5S活動の推進、徹底

5. 看護部の概要

施設基準：入院基本料7：1

看護体制：二交代制（夜勤時間15時間）

看護方式：固定チームナースング

継続受け持ち制（ペアナース制）

6. 看護職員数（平成29年4月1日現在）

看護師：291名

助産師：22名

看護助手：21名

7. 研修参加状況

- 1) 院内研修（別表）
- 2) 院外研修（別表）
 - ・大阪府看護協会短期研修会 18名

- 3) 学会発表 日本看護協会主催等 3名

8. 看護学生実習受け入れ

- ・大阪医専（4年課程） 50名
5月～3月（基礎・成人・老年看護学・統合）
- ・大阪保健福祉専門学校（3年課程） 25名
5月～7月（母性看護学）
5月～1月（成人看護学）
- ・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程） 24名
5月～3月（母性・成人看護学）
- ・甲南女子大学（4年課程） 70名
5月～1月（母性看護学・成人看護学・総合実習）
- ・梅花女子大学（4年課程） 33名
8月～9月（基礎看護学）
- ・森之宮医療大学（4年課程） 18名
4月～3月（母性看護学・主題実習）
- ・関西医療大学（4年課程） 10名
11月（母性看護学）
- ・四條畷学園大学 5名
9月（母性看護学）
- ・南大阪看護専門学校 15名
5月～9月（小児看護学）

9. 看護体験受入れ

- ・大阪府主催一日看護体験 高校生7名
- ・大阪府看護協会主催ふれあい看護体験 高校生2名

10. ニッセイ看護フェア

5月12日 60名参加

- ・身体測定、看護相談、アロマ・マッサージ、専門・認定看護師活動状況のポスター提示

11. ニッセイ看護研究会

- ・11月25日 55名参加（うち院外26名）

12. 病棟状況

部署	定床	平成29年度 患者数	病床利用率	平均在院日数	平成29年度 看護師配置数	勤務人員			平均夜勤回数
						深	日	準	
3階	60	43	71.1%	8.1	34 パ1	4	14	4	3.93
4西	60	46	76.7%	16.6	31 パ1	3	11	3	3.58
4東	51	41	80.5%	13.5	27	3	12	3	3.59
5西	44	38	86.9%	22	29	3	12	3	3.8
5東	49	41	83.1%	15.8	30 パ1	3	11	3	3.65
6西		42	78.7%	14.2	27	3	11	3	4.14
	小	10							
6東		27	62.8%	6.1	28 パ2	3	11	3	3.76
	小	7							
外来					35 パ20				
手術					20 パ1				
管理					11 パ1				
計	350	271	77.4%	12.5	272 パ27				3.77

13. 専門・認定看護師活動報告

1) 感染症看護専門看護師 大野典子

平成29年度は新病院移転に向け、感染対策の見直し整備に重点を置いた。専門看護師、感染担当看護師として相談280件、教育・指導240件、調整372件（延べ数）に介入し活動を行った。具体的な活動内容として、感染対策マニュアルの改訂や従来取り組むことが困難だった輸液ルートの変更等を行い、新病院における感染対策に関わる手洗い設備の検討、使用器具洗浄機の選択設置などに関わった。

また、今年度は臨床倫理チームを立ち上げ活動を開始し、10回の倫理カンファレンスを開催した。

<院内活動>

- ①感染リンクナースの会委員長
- ②広報委員会委員長
- ③研修講師 新人研修 感染管理
- ④看護研究指導
- ⑤感染対策委員会、安全衛生委員会、栄養給食委員会（NST）、倫理委員会（臨床倫理コンサルテーションチーム）、治験委員会

<院外活動>

- ①2014年、2015年ICT活動と各診療科における広域抗菌薬投与回数と使用量の変化、第33回日本環境感染学会総会・学術集会、2018年2月、東京（示説）
- ②厚生労働省行政推進調査事業補助金（エイズ対策政策研究事業）HIV感染症及びその合併症の課題を克服する事業（研究協力者）HIVサポートリーダー養成講習 講師
- ③大阪教育センター附属高校 HIV/AIDS予防教育 講師
- ④大阪市立東中学校 性感染症予防 講師
- ⑤大阪府看護協会短期研修 感染管理の基礎知識 講師
- ⑥大阪府看護協会短期研修 組織で取り組む感染管理 講師
- ⑦大阪医専 専攻授業（感染症看護）講師
- ⑧山梨県立大学大学院看護学研究科 感染看護学演習講師
- ⑨大学院CNSコース学生実習受け入れ（大阪府立大学大学院、山梨県立大学大学院、北里大学大学院）

2) がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

がんの告知の際に同席し支援する体制を構築し医師や外来看護師からの依頼増加、その結果がん患者指導管理料1算定は指導料がとれる3人の認定看護師で194件、がん患者指導管理料2算定は90件で昨年度より増加した。がん支援センターでは、がん看護相談（電話もしくは面談）を行っており、件数は76件であった。

緩和ケアチーム介入数は、166件で前年度より増加している。うち介入依頼の時期は診断から治療前

が16件、治療中46件、治療終了後が93件であった。

<院内活動>

- ①緩和ケアリンクナースの会
- ②研修講師
 - ・がん看護 アドバンスコース「がん患者の症状緩和」
 - ・院内研修 新人研修「がん看護」

<院外活動>

- ①平成29年9月 大阪府看護協会「がん症状緩和」講師
- ②卵巣癌寛解後の多彩な症状を精神疾患と診断したが脳転移であった2症例、第22回日本緩和医療学会学術大会、2017年6月、横浜（示説）
- ③第30回日本がん看護学会学術大会、2018年2月、幕張（一般参加）

3) 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子

糖尿病・内分泌センターにおいて、療養生活の支援、注射製剤使用患者指導、フットケア、透析予防指導を主に行っている。昨年度は外来患者のみでなく、入院患者へフットケア介入も始め、総受診患者数は昨年度1,436名から1,507名へと増加した。また、チームで行っている糖尿病ふれあい教室においても昨年度583名から660名へと多くの参加者を認めた。

<院内活動>

- ①糖尿病・内分泌センター運営委員会：不定期
- ②糖尿病チーム回診：1回/週
- ③新病院部長補佐業務研修講師
- ④研修講師
 - ・新人研修「インスリン」講師
 - ・糖尿病看護研修（全3回）講師

<院外活動>

- ①第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、2017年9月、福岡（一般参加）
- ②第54回日本糖尿病学会近畿地方会、2017年11月、大阪（一般参加）

4) 救急看護認定看護師 牧田佐和子

救急診療センターに所属し、救急来院した患者を迅速に病態把握して診察・処置・検査の介助を行い苦痛の緩和に努めている。また救急診療センターに来院する事は非日常であるため、患者や家族の精神的なケアも同時に行っている。病院内で起こった急変時には現場に駆けつけて、急変時処置・ケアがスムーズに行えるように病棟看護師と共に対応している。

呼吸ケアチーム（RST）の一員として早期抜管が出来るように集中治療室看護師と協同してケアを行っている。

<院内活動>

- ①救急・集中治療室検討委員会：2ヶ月に1回
- ②防災管理委員会：2ヶ月に1回
- ③ACLS委員会：月に1回

④救急リンクナース：月に1回

⑤RSTチーム

- ・人工呼吸器装着患者に対し装着後4日以内にチームラウンド
- ・毎月2回、勉強会開催

⑥第8回ニッセイ看護研究会 講師

⑦研修講師

- ・新人研修「フィジカルアセスメント」「BLS」講師
- ・2年目研修「ISBARCについて」講師

⑧各病棟にて月に1回のシミュレーション教育

<院外活動>

①看護協会主催 BLSインストラクター

②大阪市防災管理室 BLSインストラクター

③第82回日本循環器学会総会, 2018年3月, 大阪 (一般参加)

5) 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子

看護師特定行為研修を平成29年5月から平成30年3月まで受講し、「創傷管理関連」「腹腔ドレーン管理関連」「創傷ドレーン管理関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為区分を修了した。院内の活動では、褥瘡対策チームと連携して褥瘡対策を行い、褥瘡推定発生率は0.88%と昨年度より0.02%減少した。ストーマケアにおいては、当院でのストーマ造設術件数は11件あり、ストーマサイトマーキング、セルフケア獲得に向けた指導を行った。また、ストーマ外来にて退院後の継続した支援を延べ70件実施した。

<院内での活動>

①褥瘡対策委員会：不定期

②褥瘡リンクナースの会：月1回

③褥瘡回診：2週に1回

④NSTラウンド：週1回

⑤研修講師

- ・新人研修：「スキンケアの基礎 褥瘡の基礎知識と予防法」

6) 手術看護認定看護師 二井千里

術前ハイリスク患者や不安の強い患者、その他医師や他分野認定看護師から依頼のあった患者に対し、術前看護外来にて対応を行っている。昨年度は68件の実施であった。皮膚・神経障害ハイリスクに対する術前ポジショニング確認も必要時行っている。

日本手術看護学会近畿地区、体位固定セミナーファシリテーター

<院内活動>

①周術期リンクナースの会

②研修講師

- ・新人研修「採尿・尿検査・採血・血糖検査」

<院外活動>

①第37回日本静脈学会, 2017年6月, 徳島 (一般参加)

②第48回日本看護学会 急性期看護, 2017年9月, 岐阜 (一般参加)

③第39回日本手術医学会, 2017年10月, 東京 (一般参加)

④第31回日本手術看護学会, 2017年11月, 大阪 (一般参加)

6) 乳がん看護認定看護師 水越 梓

病棟看護師として勤務し、その中で入院中の乳がん患者の必要としているケアの実践・セルフケア支援を行っている。新病院レディース病棟の立ち上げ準備としてレディース病棟配属者に向けての勉強会を2回/年実施し乳がん看護に必要な知識の習得に努めた。がんの診断時に告知場面の同席し意思決定支援を行った。がん患者指導管理料1の算定は10件であった。乳がん以外のがん患者の子どもへのサポート支援にも取り組んだ。

<院内活動>

①緩和ケアリンクナースの会：月1回

<院外活動>

①With you 関西実行委員 (2017年9月～)

②第25回日本乳癌学会学術集会, 2017年7月, 福岡 (一般参加)

③第32回日本がん看護学会学術集会, 2018年2月, 幕張 (一般参加)

7) がん化学療法看護認定看護師 大島千春

化学療法室で勤務し、がん化学療法を受ける患者の症状マネジメントやセルフケア支援を実践している。また、新病院移転に向けて「がん化学療法曝露対策と投与管理マニュアル」の見直しと改定に取り組んだ。研修医を含めた医療スタッフへのCVポート勉強会を3回/年実施し、安全な投与管理に努めた。診断時の病名告知や治療方針変更の場面では、告知に同席しがん患者の精神的支援と意思決定支援を行った。がん患者指導管理料は137件/年と前年度より41件増加した。

<院内活動>

①化学療法運営委員会：不定期

②緩和ケアリンクナースの会：月1回

③がん治療センター部長補佐業務

④研修講師

- ・ニッセイ市民健康セミナー, 2018年2月
- ・新人研修「抗がん剤と曝露対策」
- ・がん看護ベーシックコース
- ・がん看護アドバンスコース

<院外活動>

①第22回関西がんチーム医療研究会, 2018年3月, 大阪 (口演)

②第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017年7月, 神戸 (一般参加)

③第32回日本がん看護学会学術集会, 2018年2月, 幕張 (一般参加)

14. 看護部委員会活動

1) 記録委員会委員長 鈴木八枝子

<平成29年度目標>

- ①看護基準計画の作成と評価
- ②電子カルテシステムの効率的な運用
- ③看護記録の適正化と院内教育への参画

<活動内容>

- ①看護基準に則った疾患別看護基準計画の追加を行い、年間で9事例のマスター登録を行った。さらに、各病棟での利用率を毎月の委員会で確認し、該当疾患での利用率は9割を超えた結果が得られた。
- ②中間サマリーのテンプレート化や既存のテンプレートの修正、産婦人科処置のテンプレート化、経過表の観察項目追加や疾患ごとのセット化を追加し、看護記録の効率化を進めた。
- ③記録監査率を毎月の委員会で把握し、病棟平均50.3%の結果で昨年より1.4%上昇している。部署ごとの格差は下半期少しは正したが、今後も各病棟が50%以上の目標としたい。
委員会の中では「転倒転落発生記録」「急変時記録」「看護診断ごとのSOAP記録」を実事例で取り上げ、正しい記載方法について検討した。院内研修は、新人看護師への基礎的な看護記録の知識と当院の電子カルテの操作について、また、10月には「看護過程・看護診断」について講義とグループワークを行った。3年目研修で6月に看護過程・看護診断について実事例を用いてグループワークを行い、現場では記録委員による個別な記録監査を通して記録の質向上に努めた。また、院内ラダー評価Ⅲ認定保留者に向けての補習として看護診断の講義と事例検討を行った。

2) 看護部経営改善委員会委員長 神谷香里

<平成29年度目標>

- ①行った看護ケア、医師の指示が確実にカルテ入力でき、平成29年度以降の看護必要度重症者評価が適切にできる
- ②看護師実践で算定できる認知症ケア加算、摂食機能療法について医事課と協力し、算定方法が周知できる

<活動内容>

- ①看護必要度重症者評価について各病棟で監査を行い、適切に評価できていない部分を修正した。一次評価を修正する必要があったものが4月43%から、11月には30%となった。
部署間での監査でもほぼ同様な結果となった。部署間の監査で各部署で認識の違いがあった免疫抑制剤の内服、整形外科の骨切り術について事例を挙げ、スコアリングの要点を解説し合い理解を深めた。
- ②看護師実践で算定できる加算の項目について算定条件を医事担当部長に解説していただいた。

6月：摂食機能療法について

8月：認知症ケア加算2について

摂食機能療法は4月0件、11月13件計上された。

10月より認知症ケア加算2の算定を開始し、10、11月で24件計上された。

3) 看護の質改善委員会委員長 阿部恭子

<平成29年度目標>

- ①退院時アンケート、DiNQLへの参加を継続し、看護の質の可視化及び看護の質改善に生かす。
- ②他職種連携強化のための看護業務量調査を行う。

<活動内容>

①退院時アンケートについて

平成27年6月から退院時アンケートを開始し、3年目となった。アンケート結果は毎月集計し、師長会及び委員会にて共有した。回収率、感謝のお言葉とご意見の数、項目毎の得点の推移（全7病棟・月別、病棟別）、感謝とご意見の内容（看護、環境・設備、清掃、食事、その他の項目に分類して集計）について集計した。1か月の回収数は283件～404件、回収率は66.1%～86.0%であった。1か月間の感謝・おほめの言葉は92～144件（28.2%～42.0%）、ご意見は38～77件（11.3～22.5%）であった。点数の高かった項目は「身だしなみがよい」「交替時に挨拶する」「わかりやすい説明」、低かった項目は、「看護師同士連絡できていた」「身体の状態を理解」「気持ちを理解」「知識・技術がある」であった。また、病棟間で点数に差が大きかった項目は「看護師同士連絡できていた」「気持ちを理解」「看護は継続して行われた」であった。看護に関するご意見については、各病棟でカンファレンスを開催し、看護の質の改善につなげるように働きかけた。また、2月から全病棟にてウオーキングカンファレンスを開始し、看護師同士の情報の共有、継続した看護につながるように努めている。環境・設備、清掃、食事、その他の項目については、昨年度から引き続き、病院管理診療会議のメンバー及び栄養課長へ報告し、連携した。毎月のアンケート結果は患者向けに各病棟及び各フロアの掲示板に掲示した。

②看護の質評価に関するデータの明確化

平成27年度から日本看護協会主催のDiNQLへ参加している。当院において発生数の多い「転倒転落発生率」「誤薬発生率」について、DiNQLに参加している当院と同規模の急性期病院412病院と比較すると、当院におけるいずれの発生率も高かった。今後も、発生率を低下させるための取り組みが必要である。その他のデータ収集・入力には十分には出来ておらず、可視化・共有・分析には至っていない。今後の課題とする。

③看護業務量についての調査

平成29年6月21日（水）8：30から28日（水）8：

30までの終日、看護師の薬剤（内服薬）に関する業務量調査を行った。日勤帯、夜勤帯の看護師一人あたりの薬剤業務量を曜日別、病棟ごとに調査した。5階東病棟が最も薬剤に関する看護師一人当たりの業務量が多かった。今後は、看護本来のベッドサイドケアの時間を確保できるように、医療安全委員会とも連携し、薬剤師との薬剤業務に関する協働について検討することが必要である。

4) 看護業務基準・手順委員会委員長 森 エミ

＜平成29年度目標＞

- ①看護業務基準・手順の修正、周知、遵守
- ②基準・手順の利用実態と遵守率の調査と評価

＜活動内容＞

①基準・手順の修正、周知、遵守について

昨年に引き続き、看護基準・手順の全体を、内容の適切性、用語の統一、看護ケアが評価できるものになっているかという視点で見直した。また新病院での編成に向けて、各病棟固有のローカルルールをなくし、看護手順を遵守することで、質の高い看護を提供できるように努めた。新たに「低出生体重児」「新生児黄疸」「新生児期」「手術前看護（全身麻酔を受ける患児）」「手術後看護（全身麻酔を受ける患児）」「異所性妊娠」「胎状奇胎」などの看護基準も作成し、記録委員と協力し看護基準計画の作成まで行うことができた。そして「搬送用人工呼吸器」「人工呼吸器の加湿器」「ブラッドアクセスのロック」「プリックテスト」等の看護手順を作成し、治療処置に伴う看護の充実を図った。

②利用実態と遵守率の調査と評価

本年度はアンケート調査を行うことができなかったが、委員・師長を通して新たな基準・手順の周知を図り、入院時・侵襲の高い処置時・未経験処置時・後輩指導時には必ず確認するよう働きかけた。

5) 現任教育委員会委員長 木下園子

＜平成29年度目標＞

- ①各部署間の連携協働を促進し、クリニカルリーダーⅢの認定者を増やす。
- ②新病院に向けて新たな院内認定の為の情報収集と計画立案を実施する。
- ③効果的なOJTを推進するための方策を検討する。

＜活動内容＞

①院内研修

「経年別・役割別研修」として10コース（新人、2年目、3年目、4年目、5年目、臨地実習指導者、プリセプター、管理者、中途採用者、看護助手）、および「領域別研修」として8コース（糖尿病看護、感染看護、がん看護ベーシック、がん看護アドバンス、循環器看護、救急看護、女性骨盤底、地域連携）の合計18コースを企画運営した。

②院外研修

看護協会や各学会等主催の専門性の高い研修や学会の紹介・諸手続き支援を通し、院外研修や関連学会への参加を促進した。また、看護部活動の充実を図る目的で、看護部のリーダー層（師長・次席・委員会メンバー等）を対象に「ファーストレベル」「認知症」等の院外研修への参加を企画し、諸手続き支援を行った。研修後は看護師長会、次席会、各委員会、各看護単位で伝達会をもち、知識・情報を共有した。

15. 業績

学会発表

1. 小山佐知子:卵巣癌寛解後の多彩な症状を精神疾患と診断したが脳転移であった2症例, 第22回日本緩和医療学会学術大会, 2017年6月, 神奈川.
2. 小幡麻衣, 尾野沙希, 松井結花, 木下園子:兵庫県立大学 看護学部教授 小西美和子:緊急手術に携わる手術室看護師の判断と行動, 第31回日本手術看護学会, 2017年11月, 大阪.
3. 宮地貴巳, 久井貴美子, 寺川 梓, 依田恵美, 阿部恭子:仕事を持つ高齢初産婦が妊娠期から産褥期にかけて抱く感情, 第5回大阪府看護学会, 2017年12月, 大阪.
4. 宮本浩樹, 久井貴美子, 田中千登勢, 三浦あゆみ, 成澤裕子, 酒井亜紀子:当院のクリニカルパス導入への取り組みの紹介, 第18回日本クリティカルパス学会, 2017年12月, 大阪.

研究会発表

1. 牧田佐和子:バイタルサインから急変を見抜く!～五感も使ってフィジカルアセスメントをしよう～, 第9回ニッセイ看護研究会, 2017年11月, 大阪.
2. 豊田浩子, 秋山 麗, 東 景子, 川上奈緒美, 三好由希子, 神谷香里:消化管疾患で絶食となった高齢患者への看護介入, 第5回大阪府看護協会, 2017年12月, 大阪.
3. 立花 功, 大島千春:肺がん～早くみつめて治療～がん治療の副作用対策と症状緩和, ニッセイ市民健康セミナー, 2018年2月, 大阪.
4. 大島千春:【事例報告】若年性乳癌患者ががん告知から危機を回避するまでの経過, 第22回関西チーム医療研究会, 2018年3月, 大阪.

H29年度 看護部継続教育実績（院内）

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
新人	4月3日(月) 4月4日(火)	オリエンテーション 医療安全、看護記録、電子カルテの操作 接遇・身だしなみ 看護部教育関 他	32人
	4月5日(水)	感染指針 感染予防 感染経路防止対策	32人
	4月6日(木)	看護基準・手順 新人教育について	32人
	4月7日(金)	看護技術「採血」安全な薬剤管理	32人
	4月10日(月) 4月11日(火)	宿泊研修「医療倫理」「チーム医療とコミュニケーション」他	32人
	4月12日(水) 4月13日(木)	看護技術「注射」「与薬」「浣腸・排便」「移乗・移送」他 部署別オリエンテーション	32人

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
新人	4月14日(金)	チーム作り研修について 「ファイザー接遇」	32人
	4月17日(月) 4月18日(火)	チーム作り研修	31人
	4月28日(金)	情報収集の方法の実際 医療ガス 阿倍野防災センター訓練(院外)	31人
	5月17日(水)	酸素療法 吸引・吸入の技術、導尿・膀胱留置カテーテル挿入、1ヶ月振り返り	32人
	5月30日(火)	スキンケア・褥瘡予防、重症度・医療・看護必要度	31人
	6月14日(水)	インスリン療法と看護、輸液ポンプ・シリンジポンプ、医療安全①	32人
	6月28日(水)	心電図の見方、アラーム対応	32人
	7月5日(水)	フィジカルアセスメントの基礎、BLS、救急薬品 3ヶ月振り返り	32人
	9月15日(金)	恐れずに多重課題に取り組もう、ベッドサイドの看護倫理 ストレス・マネジメント 6ヶ月振り返り	30人
	10月11日(水)	麻薬の取り扱い、看護危篤・看護過程、医療安全② 輸血時の看護	29人
	11月7日(水)	基礎から学ぶ人工呼吸器管理 人工呼吸装着中の看護 人工呼吸器の取り扱い	26人
	12月13日(水)	がん看護の基礎 抗がん剤の曝露予防と対策	23人
	2月7日(水)	1年の振り返り	22人
2年目	5月24日(水)	メンバーシップ	19人
	7月6日(水)	フィジカルアセスメント	19人
	9月20日(水)	わかりやすく相手に伝える手法 I-SBAR-C	19人
	11月13日(月)	危険を予知し、環境調整しよう! KYT	18人
	1月10日(水)	看護過程、事例発表	17人
3年目	5月10日(水)	職場における自己の役割と責任 リーダーシップ	14人
	6月7日(水)	事例を用いた看護課程の理解	14人
	10月18日(水)	個性のある排泄ケアを学ぶ	14人
	11月22日(水)	看護過程の展開、事例発表会	12人
	12月11日(月)	後輩指導に必要なコミュニケーションスキル	12人
4年目 5年目	7月19日(水)	QC活動 説明	18人
	9月6日(水)	QC活動 活動発表会	17人
	12月14日(木)	ディベート	16人
5年目	6月8日(木)	病棟看護師が行う退院支援	11人
	8月 平日	退院支援(在宅研修)	11人
プリセプター の会	3月29日(水)	プリセプター制度 オリエンテーション	16人

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
プリセプター の会	6月22日(水)	第1回 交流会	24人
	10月4日(木)	プリセプター、サポートナース 合同報告会	26人
	1月23日(火)	プリセプターを経験しての学び 発表	19人
臨地実習 指導者	7月25日(火)	指導者って何だろう 臨地実習の原理と実際、指導者の役割	9人
	8月16日(水)	現代の若者気質とコミュニケーション 事例を通しての効果的な指導	8人
	12月20日(水)	指導観 発表	9人
糖尿病 看護	7月26日(水)	慢性疾患患者の特徴・行動変容について	19人
	9月19日(火)	糖尿病の薬物療法支援	22人
	12月20日(水)	注射剤の指導のコツ	16人
がん看護 (ベーシック)	6月21日(水)	がん医療と薬理	40人
	7月12日(水)	がんの疫学・がんの発生機序と要因・がんの診断と治療について	27人
がん看護 (アドバンス)	9月13日(火)	各病期における患者の心理・病状説明における看護師の役割	20人
	10月13日(金)	がん患者を持つ家族への支援	19人
	11月15日(水)	がん化学療法の副作用による、症状を抱えながら生活する患者の支援	17人
看護研究	4月7日(金)	看護研究の基礎、進め方 本年度のサポートについて	28人
	6月3日(土)	テーマの絞り込み	38人
	7月15日(土)	看護研究計画書発表会	60人
	11月18日(土)	分析について	30人
	1月27日(土)	看護研究発表会	99人
看護助手 e-ラーニング	5月8日(月)または 5月22日(月)	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 医療チームとしての看護補助業務の理解	20人
	6月12日(月)または 6月26日(月)	感染予防 ME機器保管室の利用方法	19人
	7月10日(月)または 7月24日(月)	患者・家族のかかわり方ー接遇・マナーー	20人
	8月14日(月) 8月28日(月)	医療安全ー事故防止の基本的心構え 事故発生時の対応、KYTトレーニング	20人
	10月16日(月)または 10月30日(月)	守秘義務・個人情報の保護 看護補助者のための倫理関わり方	20人
	11月13日(月)または 11月27日(月)	環境整備ー環境整備・ベッドメイキング、移動のお世話	21人
	1月15日(月)または 1月29日(月)	看護助手オリエンテーション(業務内容)の説明	22人
	7月28日(金)	7:1を維持し、ムリ・ムダのない勤務時間管理	39人
管理者 研修			

H29年度 看護部継続教育実施状況(院外)

研修会名	日程	内容	参加者
大阪府看護協会	5月	がん患者の意思決定への支援	鄭恩愛
大阪府看護協会	5月	入門編～看護研究に取り組んでみよう	北里香子 森本美菜
大阪府看護協会	6月	看護のための教育学	木下園子 湯阪久美子 山下智美
大阪府看護協会	7月	感染管理の基礎知識	柘谷恵麗
大阪府看護協会	8月	急変を防ぐ観察と看護のポイント①	中村由佳
大阪府看護協会	8月	実践に活かせるモニタリング解説、産科医療保障制度を読み解く	溝辺由美 和田仁美 金原瑞希 寺川 梓 宮地貴巳
大阪府看護協会	9月	急変を防ぐ観察と看護のポイント②	中村由佳 新部里美 河村里香
大阪府看護協会	9月	災害看護における初期活動支援活動①	河村里香
大阪府看護協会	10月	災害看護における初期医療支援活動②	中村由佳
大阪府看護協会	10月	ストーマ・瘻孔のスキンケア	柘谷恵麗
大阪府看護協会	10月	がんと放射線療法を受ける患者の看護	鄭恩愛
大阪府看護協会 インターネット 配信研修	10月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	酒井亜紀子 石井弘美
大阪府看護協会	11月	新人看護職員研修責任者フォローアップ研修	神谷香里
大阪府看護協会	11月	患者・家族のメンタルサポート	三好優子
大阪府看護協会	11月	第4回看護研修トピックス 「医療事故調査制度の概要と大阪府医師会の取り組み～支援体制に現状と課題」	高鳥郁子 中西三季 森 エミ
大阪府看護協会	1月	高齢者のエンドオブライフケア①	湯峯理恵
大阪府看護協会	2月	第6回看護研修トピックス 「医療・看護場面で使う英会話～看護英語コミュニケーション研修～」	小谷口早苗

看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修名	参加者
大阪府看護協会	8月24日 ～9月1日 9月19日 ～9月29日 10月16日 ～10月31日	認定看護管理者教育課程 第2回「ファーストレベル」	島津庸子
大阪府看護協会	11月8日 ～11月17日 12月4日 ～12月20日 1月9日 ～1月19日	認定看護管理者教育課程 第3回「ファーストレベル」	森蘭祐子
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	9月8日 10月13日 11月10日 12月8日	看護師に対する緩和ケア研修会	小谷口早苗 村上弘子
大阪府看護協会	1月24日 2月14日 2月28日	2017年度 認知力対応力向上研修	源 真子 木村由美

スタッフ センター長：中村秀次

副センター長：湯川雅彦

予防医療部担当部長：住谷 哲

常勤医師：泉 由紀子、高島周志、藤岡滋典（特任顧問）、河面 聡、平井 翠

佐藤文三（特別顧問）、船渡孝郎（顧問）、尾上昌世（産婦人科）（～9月）

1. 診療内容

人間ドック受診者総数は13,285名に達し、対前年度582名増と引き続き大きな伸びを示した（表1）。定期健診受診者も36,181名と前年度より1,674名増と着実に増加した。健診受診後のフォロー強化に取り組み、1か月後フォロー体制を確立するとともに、3か月フォローのデータベース化を開始した。また、治療精検必要症例に対して、人間ドック受診当日に日生病院への紹介予約を積極的に行うとともに、夕刻診療へも積極的に誘導し、日生病院全診療科への紹介数は3,180名となった。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、内視鏡検査、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、放射線技師、生理検査技師による専門的検査を行うようにしている。また人間ドックの午前3診体制を週2日実施するとともに、協会けんぽを対象とした午後健診を週3日実施した。更に、繁忙期の人間ドック運営体制を強化し、土曜日2診運営を月一回実施するとともに、6～12月は平日3診運営を原則週3回に増やし、需要増に対応した。胃カメラの旺盛なニーズに対して、内視鏡センターとの連携を強化し、病院での検査枠を拡大するとともに、鎮静下内視鏡・経鼻内視鏡増にも対応した。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制、月2回のレディースデイ2診体制を維持し、9～10月には午後の女性健診（乳房、子宮）も実施した。また、ハッピーマンデーの休日ドックを年2回、1月と9月に実施した。メンタルヘルスサポート事業では、ストレスチェック義務化の2年目として、産業医受託企業を中心に33社、1万名弱のストレスチェックを実施し、解析報告した。新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図るとともに、精神科医師によるコンサルテーションも実施しメンタルサポート体制をより充実させ、産業医も含めてストレスチェックの実績は着実に積みあがっている。また、人間ドック、健診結果を分析した「健康経営サポート情報」の主要な産業医受託企業への提供も始めている。一方、受診者アンケートを毎日実施し、結果を毎週検討して、受診者の声を積極的に反映させるようにして、接遇の改善と待ち時間の短縮など受診当日の運営体制の改良を随時行い、CSの向上に常に努めている。受診者のリピート率の向上を目指しており、29年度は人間ドックで81.8%まで上昇した。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として17施設、入所者約1,612名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式

による無料乳がん検診を引き続き実施し、28名の方が受診された。巡回健診の対応を強化するため胸部デジタル検診車を29年1月より導入し、年度を通して胸部X線のデジタル化を実施した。

学会活動として人間ドック学会に1題発表した。更に、各医師が専門領域の学会（消化器病学会、肝臓学会、糖尿病学会、内分泌学会等）でも発表した。

29年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で11.4%、53.5%であり、昨年度より1.5～2.4%低下した。年代別、性別の要治療（D1）率、要精密検査（D2）率を表2に示す。要治療率は男性より女性でやや高い傾向であり40歳未満では7.5%であるが、40歳以上では13%以上となるも、50歳代では10～12%と低下した。40歳代の女性では要治療率が最高の13.7%を示した。要精密検査率では男性では40歳以下では41.9%であったが、50歳以上では50%を超え、60歳以上で63.9%に達した。女性ではD2率は40歳未満でもほぼ50%となり、年齢とともに上昇するも、50歳以上では男性より低値を示し、60歳以上でも57.5%であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop5すべてが生活習慣病であり、1位は高血圧で22.0%であり、糖尿病は5位の約10%であった。一方、女性では、Top3はやはり生活習慣病であり、1位は高コレステロール血症で16.6%であり、高血圧は2位となり、4位に貧血が入り、糖尿病は5位で3.5%であった。高尿酸血症は男性で10.3%を示したが、女性では少なかった。飲酒の影響と思われる。要精密検査では、眼科疾患が男性で1位22.5%、女性で2位15.3%であり、肝機能異常が男性では2位16.1%であった。女性では、潜血尿が大部分を占める腎尿路系が19.5%で1位となり、婦人科疾患、乳腺疾患が3位、5位を占め、女性特有の疾患の異常は23.8%で約1/4に認められた。便潜血陽性は男性が3位、女性が4位で11～13%であり、呼吸器疾患は男性で5位（5%）に入った。

精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は37名（0.28%）であった。胃がん9例、大腸がん9例、乳がん6例、膵がん4例、悪性リンパ腫2例、肺がん、肝がん、食道がん、腎がん、膀胱がん、前立腺がん、腹膜がん各1例であった。D1、D2判定者で健診精査内科および日生病院各診療科に紹介した人間ドック受診者の内訳を表4に示す。各専門診療科の協力により健診精査内科受診者（153名）は著名に減少し、各診療科の受診者数は増加した。消化器内科、眼科、総合内科、産婦人科、循環器内科、乳腺外科、泌尿器科が上位を占めた。院外も含めた再検率は30.6%と、昨年よりわずかに低下した。精密検査

の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、要治療要精密検査者の病院受診率の向上が喫緊の課題である。

2. 業績
論文・著書

1. Nagano H, Obi S, Hatano E, Kaneko S, Kanai F, Omata M, Tsuji A, Itamoto T, Yamamoto K, Tanaka M, Kubo S, Hirata K, Nakamura H, Tomimaru Y, Yamanaka T, Kojima S, Monden M: Multicenter, randomized, controlled trial of S-1 monotherapy versus S-1 and interferon- α combination therapy for hepatocellular carcinoma with extrahepatic metastases, *Hepatol Res*, 717-726, 2018年.

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	H29年度	対前年	備考
定期健康診断	36,181人	105%	
人間ドック (日帰り)	7,442人	105%	標準コースの 人間ドック
人間ドック (生活習慣病)	5,756人	105%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	96人	74%	
人間ドック 合計	13,294人	105%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目 (D1)					
	男		女		受診者数	全体
39歳以下	7.5%	25人	7.5%	28人	373人	7.5% 53人
40～49歳	12.6%	135人	13.7%	165人	1,201人	13.2% 300人
50～59歳	10.5%	142人	13.4%	163人	1,215人	11.9% 305人
60歳以上	8.9%	86人	11.5%	83人	720人	10.0% 169人
総計	10.4%	388人	12.5%	439人	3,509人	11.4% 827人

	要治療項目 (D2)					
	男		女		受診者数	全体
39歳以下	41.9%	140人	49.9%	186人	373人	46.1% 326人
40～49歳	45.5%	487人	52.8%	634人	1,201人	49.4% 1,121人
50～59歳	54.4%	735人	53.8%	654人	1,215人	54.1% 1,389人
60歳以上	63.9%	617人	57.5%	414人	720人	61.2% 1,031人
総計	53.2%	1,979人	53.8%	1,888人	3,509人	53.5% 3,867人

※健診システム(タック)より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密検査)を抽出
％は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100
総計の％は性別総計数/全受診者数*100

学会発表

1. 高島周志, 平井 翠, 小豆澤深雪, 泉 由紀子, 住谷 哲, 藤岡 滋典, 奥野亜紀子, 阪井理恵, 中村秀次, 佐藤文三: 大腸腺腫と関連する因子の解析～当センターの人間ドック受診者において～, 第58回日本人間ドック学会学術大会, 2017年8月, 大宮.

研究会発表

1. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新治療とこれからの病診連携, 港区医師会 学術講演会, 2017年4月, 大阪.
2. 中村秀次: 肝硬変の合併症マネジメント, 西宮市医師会 学術講演会, 2017年6月, 西宮.
3. 中村秀次: C型肝炎治療の現況と今後～病診連携をふまえて～, あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 2017年10月, 大阪.
4. 中村秀次: 肝硬変の合併症の治療～栄養療法も含めて～, 西部大阪肝疾患地域連携会 市民公開講座, 2017年11月, 大阪.

表3 性別による要治療・要精密検査の上位5項目
(日帰り人間ドック受診者)

男性 要治療項目 (D1)			男性 要精密検査項目 (D2)		
1	高血圧	22.0% 819人	1	眼科疾患	22.5% 845人
2	高コレステロール血症	16.9% 630人	2	肝機能疾患	16.1% 611人
3	高中性脂肪	13.0% 484人	3	大腸疾患	11.6% 441人
4	高尿酸	10.3% 384人	4	腎・尿路疾患	8.9% 330人
5	糖尿病	9.9% 368人	5	呼吸器疾患	5.0% 176人

女性 要治療項目 (D1)			女性 要精密検査項目 (D2)		
1	高コレステロール血症	16.6% 542人	1	腎・尿路疾患	19.5% 618人
2	高血圧	10.1% 330人	2	眼科疾患	15.3% 498人
3	高中性脂肪	9.9% 320人	3	婦人科疾患	14.9% 347人
4	血液疾患	4.3% 139人	4	大腸疾患	13.4% 338人
5	糖尿病	3.5% 114人	5	乳房疾患	8.9% 275人

※各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
要治療・要精密検査検査項目は治療中Eを含む
％は各検査要治療受診者数/各検査受診者数*100 　％は各検査要精密受診者数/各検査受診者数*100

表4 要治療・要精密検査判定者の紹介状
(運営会議資料より抜粋)

有所見者数 4,923人、再検査確認数 1,504人、再検率 30.6%

消化器内科	615人	産婦人科	114人
消化器内視鏡センター	29人	循環器内科	99人
眼科	286人	乳腺外科	98人
総合内科	269人	泌尿器科	79人
健診精査内科	153人	腎臓内科	41人

表5 平成28年度 人間ドック・協会けんぽリピート率

	前年リピート数	リピート率
人間ドック(日帰り)	6,086人	81.8%
協会けんぽ(生活習慣病)	4,080人	70.9%

※リピート率は前年リピート数/人間ドック(協会けんぽ)総受診者数*100

1. 日本医師会生涯教育講座カリキュラム

〈消化器内科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月31日	15時00分～17時00分	生理検査室	腹部エコーの標準抽出法 (ハンズオンセミナー)	有坂好史 (消化器内科)

〈放射線診断科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
11月2日	15時30分～16時30分	読影室	胸部画像診断 単純X線とCT	前田宗宏 牧 大介 (放射線診断科)

〈形成再建外科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
11月9日	14時00分～15時00分	別館4階 役員会議室	日常診療に役立つ外傷の初期対応	藤原敏宏 (形成再建外科)

2. ニッセイ医学セミナーUpdate

日 程	テ ー マ	講 師		参加人数
5月12日	認知症の医療：今できること	認知症疾患医療センター 準備室 特任顧問	森 悦郎	151名
6月2日	偶然発見された胆・膵病変の取り扱い	消化器内科 部長	有坂好史	99名
7月7日	外傷初期診療と災害医療 －これまでの経験を振り返って－	救急診療センター センター長	岸 正司	77名
8月4日	リハビリテーション医師の治療する 四肢痙縮について	リハビリテーション科 部長	平林伸治	70名
9月1日	高精度放射線治療	放射線治療科 部長代行	丸岡真太郎	84名
10月6日	知っておきたい整形外科疾患の 初期対応	整形外科 部長	毛利年一	97名
11月10日	形成外科が取り扱う疾患	形成再建外科 部長代行	藤原敏宏	65名
12月1日	急性冠症候群 初期対応に ちょっと自信を持ってみる	循環器内科 副部長	谷川 淳	93名
1月12日	甲状腺眼症の症状と治療	眼科 部長代行	谷井啓一	56名
2月2日	エビデンスに基づいた 2型糖尿病の薬物療法	糖尿病・内分泌センター センター長代行	住谷 哲	52名
3月2日	生化学・血液検査の採血から 測定結果まで	医療技能部 担当部長	浅野正宏	50名

3. 1年目研修医オリエンテーション

日 程	依頼項目	講 師
4月1日	大阪府医師会ウェルカムパーティー	大阪府医師会
4月3日	研修医の就業規則、入会書類説明、その他	総務人事G
	説示	笠山院長
	4月オリエンテーション説明	臨床研修部長 立花副院長
	入会式・オリエンテーション	三好事務長、総務人事G
	研修プログラム説明	臨床研修部長 立花副院長
4月5日	院内感染対策指針など	感染症看護専門看護師 大野専門部長
4月6日	ローテーション決定、その他	臨床研修部長 立花副院長
	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 町田調査役
	災害・防災について	看護部 前川副看護部長、総務人事G
4月7日	静脈血採取、血糖測定など	看護部
	クリティカルパス	クリティカルパス委員会
4月11日	電子カルテ基本操作	情報システムG
4月12日	リハビリ依頼について	リハビリテーション科
	造影CT検査	放射線診断科 前田部長
	レセプト、医療費など	医事サービス部 村上担当部長
	栄養指導	栄養管理室 出口副部長
4月13日	病診連携	あったかサポートセンター 澤田担当部長
	薬剤処方	薬剤部
	医療生活相談室の利用について	医療福祉相談G 本家副部長
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療録管理委員会 浅野部長・宮本課長
4月14日	死亡診断書、剖検、CPC	病理診断科 城光寺部長代行
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
	生理機能検査、心エコーの基礎	
	腹部超音波検査など	
	細菌検査、病理検査室	
4月20日	抗菌薬適正使用	中央臨床検査部 小瀬戸部長
4月26日	時間外診療について	循環器内科 中川担当部長
4月27日	救急診療	救急診療センター 岸センター長

4. 実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
総合内科	大阪大学	6月5日～6月16日	2名
		6月19日～6月30日	1名
		7月24日～7月28日	2名
血液・化学療法内科		7月3日～7月14日	1名
神経科・精神科		9月19日～9月29日	1名
		9月11日～9月14日	4名
皮膚科		9月25日	3名
		10月16日	3名
泌尿器科		9月4日～9月8日	1名
総合内科		兵庫医科大学	4月3日～4月28日
血液・化学療法内科	2月13日～2月23日		1名
形成再建外科	3月12日～3月23日		1名
	2月13日～2月23日		1名
循環器内科	大阪医科大学	4月3日～4月28日	1名
神経内科		5月8日～6月2日	1名
麻酔・緩和医療科	大阪府医師会 (救急救命士気管挿管実習)	11月1日～12月29日	1名
リハビリテーション室	大阪リハビリテーション専門学校	4月10日～4月28日	1名
	白鳳短期大学	4月10日～6月2日	1名
		1月15日～2月9日	1名
	大阪医専	5月29日～7月22日	1名
		11月20日～12月16日	1名
	履正社医療スポーツ専門学校	6月5日～7月28日	1名
		9月11日～9月15日	1名
	大阪保健医療大学	1月29日～2月17日	1名
	阪奈中央リハビリテーション専門学校	2月19日～3月9日	1名
関西医療学園専門学校	2月26日～3月17日	1名	
中央臨床検査部	大阪医療技術学園専門学校	4月4日～9月7日	1名
	関西医療大学	10月16日～12月15日	2名
中央放射線部	大阪行岡医療専門学校	6月1日～7月31日	4名
	大阪物療大学	9月1日～10月31日	4名
		9月25日～12月8日	2名
栄養管理室	大手前栄養製菓学院専門学校	8月3日～8月9日	2名
		8月21日～8月25日	2名
	相愛大学	11月6日～11月17日	2名
	大手前大学	1月22日～1月26日	2名
		1月29日～2月2日	2名
		2月5日～2月9日	2名

部門	学校名	期間	人数
薬剤部	京都薬科大学	5月8日～7月23日	2名
	摂南大学	5月8日～7月23日	1名
	武庫川女子大学	5月8日～7月23日	1名
		9月4日～11月19日	1名
		1月9日～3月26日	1名
	近畿大学	9月4日～11月19日	1名
	神戸学院大学	9月4日～11月19日	1名
	神戸薬科大学	9月4日～11月19日	1名
	大阪大谷大学	1月9日～3月26日	1名
	大阪薬科大学	1月9日～3月26日	1名
看護部	大阪府病院協会看護専門学校	5月8日～7月28日	15名
		1月29日～2月16日	5名
	森ノ宮医療大学	4月17日～4月28日	4名
		10月16日～10月20日	5名
		12月18日～12月22日	5名
		2月19日～2月23日	5名
	大阪保健福祉専門学校	5月9日～5月24日	5名
		6月6日～6月21日	5名
		6月27日～7月12日	5名
		1月15日～1月31日	5名
	南大阪看護専門学校	5月11日～9月13日	14名
	北里大学	5月29日～6月2日	1名
	大阪府立大学	6月12日～7月6日	1名
	甲南女子大学	6月5日～6月15日	6名
		6月19日～8月25日	1名
		8月7日～10月6日	1名
		9月5日～2月15日	54名
		8月7日～9月15日	1名
		10月4、10月6日	1名
	梅花女子大学	8月22日～9月4日	18名
		9月5日～9月11日	18名
	四條畷学園	9月19日～9月27日	5名
	山梨県立大学	9月4日～9月8日	1名
		9月11日～9月15日	1名
		12月4日～12月8日	2名
	関西医療大学	10月31日～11月8日	5名
		11月14日～11月22日	5名
	神戸市看護大学	11月1日	1名

5. 講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月11日	総合評価加算に関する講習会 「高齢者総合評価制度について」 神経内科 副部長 佐藤智彦	医事サービス部	別館講堂
6月30日 7月11日	保険診療に関する講習会 「適時調査における指摘事項、注意事項について」	医事サービス部	別館講堂
7月14日 ～9月29日 13回	第34回感染対策委員会教育講演会 ・ICTメンバーからの発表 ・DVD「アウトブレイク対策の実際」 京大病院 一山 智	感染対策委員会	別館講堂
7月14日 ～9月29日 13回	第35回感染対策委員会教育講演会 ・ICTメンバーからの発表 ・DVD「感染性廃棄物と環境整備」 市立堺病院 藤本卓司	感染対策委員会	別館講堂
8月10日	接遇研修会 「サービスの向上と患者満足－最初の一步の大切さ－」 (株)ソラスト 接遇アドバイザー 佐野則子	看護部 日新会 教育委員会 総務人事G	別館講堂
8月14日	人権研修会 「今日におけるさまざまな人権問題を学ぶ」 企業人権協サポートセンター長 芝本正明	教育委員会 総務人事G	別館講堂
10月16日～ 6回	医療安全研修 「医療事故・紛争発生から解決まで」 e-ラーニング 三宅坂総合法律事務所 伊藤亜矢子	医療安全管理委員会	別館講堂
11月29日、30日	血液培養の消毒方法の説明会	感染対策室 細菌検査室	別館講堂
12月7日	人事評価研修会 「人事評価について」 事務局長 金尾文隆	教育委員会 総務人事G	別館講堂
12月12日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」 「医療用ガスの取り扱い方」 エア・ウォーター防災株式会社 株式会社 馬場酸素 岩谷産業 株式会社	医療ガス安全管理委員会	別館講堂
12月26日	保険診療に関する講演会 「H30年度診療報酬改定について」	医事サービス部	別館講堂
1月19日	輸血療法講演会 「輸血を安全に実施するために」 中央臨床検査部 内野高裕	輸血療法委員会	別館講堂
1月27日	I 第38回 看護研究発表会 ①「整形外科術後の深部静脈血栓症予防に対する看護介入」 4 西病棟 松本綾香 ②「持続点滴治療を要する患児への看護介入の視点」 6 階西病棟 下田里奈 ③「災害時動けるリーダーになる為に－熟練看護師へのインタビューを通して見えてきたこと－」 外来 水越由佳子 ④「意識下で手術を受ける認知症高齢者への関わり」 手術室 下山優子 ⑤「急性期、長期入院・自宅での介護が困難な患者が混在する病棟の看護師が抱えるジレンマの調査」 5 階東病棟 山大路友香 ⑥「助産師が外国人妊産褥婦との関わりで感じた困難とその対処」 6 階東病棟 金原瑞希 ⑦「プリセプターが抱える問題を明らかにする現状調査」 3 階病棟 景山志帆 ⑧「標準看護計画を活かした誤嚥性肺炎患者への介入」 4 階東病棟 平谷友理	看護部	別館講堂

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
1月27日	⑨「病棟薬剤勤務についての看護師と薬剤部の認識の違い」 5階西病棟 北 理香子 Ⅱ 専門・認定看護師実践報告会 Ⅲ 看護部委員会活動報告	看護部	別館講堂
2月16日	医療安全研修 ①「私はこうして採血しています －安全な採血ワンポイントレッスン－」 中央臨床検査部 倉本訓子 ②「麻薬、毒薬、向精神薬の取り扱いについて」 薬剤部 足立充司 ③「医用コンセント－電気から身を守るために－」 臨床工学室 岡崎浩也 ④「当院医療安全事例についての共有」 医療安全対策室 室長 前田 元	医療安全管理委員会	別館講堂
2月27日	倫理委員会講演会 「臨床倫理・概論－みんなで考える－」 市立東大阪医療センター 緩和ケア内科 主席部長 進藤喜予	倫理委員会 教育委員会	別館講堂
3月1日	研修医発表会 1年目研修医症例報告会	臨床研修部	別館講堂
3月8日	研修医発表会 2年目研修医臨床研究発表会	臨床研修部	別館講堂
3月27日	保険診療に関する講習会 「H30年度診療報酬改定説明会」	医事サービス部	別館講堂

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
4月13日	あわぎ気管支喘息 医・薬連携勉強会 Ⅰ 講演 ①「気管支喘息の治療について」 総合内科 副部長 田村慶朗 ②「吸入指導の実際」 総合内科 宮武明彦	総合内科 あったかサポートセンター	リーガ ロイヤル ホテル
5月23日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第1回） 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日生病院 ・日生病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	日生病院 別館講堂等
6月8日	あわぎ呼吸器疾患 病診連携懇話会 Ⅰ 教育講演 「喘息開業医としての26年」 総合内科 宮武明彦 Ⅱ 特別講演 「COPDの病態の理解と治療」 兵庫医科大学 内科学講座 呼吸器科 主任教授 木島貴志	総合内科 あったかサポートセンター	リーガ ロイヤル NCB
5月18日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 Ⅰ 講演 「困っていませんか？たくさんの薬」 ソーク薬局 村井 扶 Ⅱ 実習 正しい吸入薬の使い方、嚥下ゼリーの服薬等	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
6月15日	あわぎ喘息治療薬 医・薬連携勉強会 Ⅰ 講演 「喘息患者に対する吸入導入について」 総合内科 宮武明彦 Ⅱ 実習 吸入器を用いた吸入指導	総合内科 あったかサポートセンター	別館4F 役員会議室

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
6月15日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 Ⅰ 講演 「自分たちのカラダを見直そう！」 ATC 増本克規 Ⅱ 実習 呼吸法、姿勢	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
6月17日	第6回 あわぎ産婦人科 病診連携懇話会 演題「当院における病診連携パスについて」 Ⅰ 講演 ①「子宮内膜症」 産婦人科 医長 尾上昌世 ②「子宮頸部異形成」 産婦人科 副部長 尾崎公章 Ⅱ 特別講演 「女性の加齢と妊孕性の低下」 金井産婦人科 顧問 青野敏博	産婦人科 あったかサポートセンター	別館講堂
6月29日	あわぎ認知症 病診連携懇話会 演題「認知症と糖尿病治療－早期治療介入の重要性－」 Ⅰ 講演 ①「精神科医の立場から」 神経科・精神科 木藤友実子 ②「糖尿病専門医の立場から」 糖尿病・内分泌センター長代行 住谷 哲 Ⅱ 特別講演 「認知症医学入門」 特任顧問 森 悦朗	神経科・精神科 糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	ANA クラウンプラザ ホテル大阪
7月11日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第2回） 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日生病院 ・大阪掖済会病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	大阪 掖済会病院
7月13日	あわぎ喘息治療薬 医・薬連携勉強会 講演「喘息患者に対する吸入指導についてpart2」 総合内科 宮武明彦	総合内科 あったかサポートセンター	別館4F 役員会議室
7月22日	第18回 あわぎフォーラム 病診連携学術講演会 Ⅰ 講演 ①「膵嚢胞と膵IPMN」 消化器内科 部長 有坂好史 ②「高齢者の整形外科手術」 整形外科 部長 毛利年一 Ⅱ 特別講演 「すべての医師が女性のミカタ（味方）になるための 女性のミカタ（診方）」 大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教室 教授 木村 正	あったかサポートセンター	日本生命 本店東館
8月3日	あわぎ消化器外科 病診連携懇話会 Ⅰ 一般公演 「大腸癌における腹腔鏡下術について」 消化器・一般外科 主任部長 水野 均 Ⅱ 特別講演 「がんと漢方」 静仁会静内病院 院長 井齋偉矢	消化器・一般外科 あったかサポートセンター	別館講堂
8月17日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 講演「言語聴覚士がお伝えする安全に食べる方法 (part2)！」 言語聴覚士 中野 伸也	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
8月20日	日生ICLSコース	ACLS委員会	別館講堂他

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
8月24日	あわぎ神経精神医学 病診連携カンファレンス Ⅰ 講演 「認知症診療における画像診断の位置」 特任顧問 森 悦朗 Ⅱ 特別講演 「認知症の画像診断－最新的话题を含めて－」 近畿大学医学部附属病院 早期認知症センター 教授 石井一成 Ⅲ 閉会の辞 －認知症検査における連携について－ 放射線診断科 部長 前田宗宏	神経科・精神科 あったかサポートセンター	ヴィアール 大阪
9月2日	あわぎ呼吸器 病診連携懇話会 Ⅰ 講演 ①「COPD診療について」 日新会病院 呼吸器専門医 廣岡亜矢 ②「腎臓と呼吸器の深い関係について」 腎臓内科 部長 宇津 貴 Ⅱ 特別講演 「COPDと糖尿病」 副院長 立花 功	総合内科 腎臓内科 あったかサポートセンター	リーガ ロイヤル ホテル
9月21日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 「高齢者の皮膚トラブルについて」 なかむら皮膚科 院長 中村敏明	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
10月5日	あわぎ呼吸器 病診連携セミナー Ⅰ 一般講演 「当院における気管支喘息患者の呼気NOの臨床的検討」 総合内科 副医長 二宮隆介 Ⅱ 特別講演 「病院で診る喘息・実地医家で診る喘息、 その垣根は小さくなってきました」 市立岸和田市民病院 呼吸器内科 部長 京都大学 呼吸器内科 臨床教授 加藤元一	総合内科 あったかサポートセンター	ヴィアール 大阪
10月17日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第3回） 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日生病院 ・合同カンファレンス 各病院の手指消毒剤の使用状況 ・職種別分科会	感染対策委員会	日生病院 別館講堂等
10月19日	あわぎ糖尿病セミナー Ⅰ 一般講演 「糖尿病網膜症の診断と治療」 眼科 部長代行 谷井啓一 Ⅱ 特別講演 「新しい配合溶解インスリンは、混合型インスリンと は何がどう違うのか？」 東邦大学 医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野 教授 弘世貴久	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	別館講堂
10月21日	あわぎ肝疾患 病診連携懇話会 講演 ①「B型肝炎治療の最前線」 消化器内科 副部長 村本 理 ②「C型肝炎治療の現況と今後－病診連携をふまえて－」 ニッセイ予防医学センター長 中村秀次	消化器内科 あったかサポートセンター	ホテル大阪 ベイトワ－
10月26日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 「在宅における栄養管理について」 栄養管理室 副部長 出口暁子	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
11月11日	第10回あわぎクリニカルカンファレンス I クリニカルカンファレンス ①「冠動脈主幹部に冠動脈瘤？ を認めた心筋梗塞患者について」 循環器内科 長谷川仁美 ②「肝外突出型肝腫瘍の症例について」 消化器内科 副医長 北田隆起 ③「原因不明の発熱をくり返し紹介された症例について」 総合内科 石川那智 ④「血小板減少を来した症例について」 血液・化学療法内科 副部長 中江吉希 ⑤「再発性神経梅毒について」 神経内科 部長 浅野彰彦 ⑥「発熱・蛋白尿にて紹介された症例について」 腎臓内科 部長 宇津 貴 II 講演 ①「糖尿病治療薬の併用について」 糖尿病・内分泌センター長代行 住谷 哲 ②「フレイル高齢者心疾患患者の管理」 循環器内科 部長 岡部太一	循環器内科 消化器内科 総合内科 血液・化学療法内科 神経内科 腎臓内科 糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	リーガ ロイヤル ホテル大阪
11月16日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 「美味しく食べ続けるために ー知っておきたい口の機能（ドライマウス編）ー」 平成歯科クリニック 小谷泰子	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
11月25日	第8回 ニッセイ看護研究会 「バイタルサインから患者の状態を見抜く！ ー五感も使ってフィジカルアセスメントしようー」 救急看護認定看護師 牧田佐和子	看護部	別館講堂
12月2日	あわぎ消化器合同病診連携会 講演 ①「慢性便秘診療ガイドラインと今後の便秘治療」 消化器内科 副部長 田中敏雄 ②「大腸癌に対する腹腔鏡手術」 消化器・一般外科 主任部長 水野 均	消化器内科 消化器・一般外科 あったかサポートセンター	ホテル大阪 ベイタワー
12月7日	感染防止委員会 野江病院・日生病院 ICT相互ラウンド ・野江病院ICTによる日生病院のラウンド	野江・日生病院 感染対策委員会	日生病院
12月14日	感染防止委員会 野江病院・日生病院 ICT相互ラウンド ・日生病院ICTによる野江病院のラウンド	野江・日生病院 感染対策委員会	野江病院
12月21日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 I 講義 「転倒に対する知識と対応方法」 かなえるリハビリ訪問看護ステーション 理学療法士 福原康平 II 実演 転倒時の対処方法、床からの介助方法など	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
1月18日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 講義・実演 「骨盤底トレーニングの重要性と実践」 本城整形外科 理学療法士 久保多喜子	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂
2月4日	第3回日生病院JMECC 日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会	ACLS委員会	別館講堂
2月15日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 講義 「褥瘡のケアと予防」 副院長 東山真里 形成再建外科 部長代行 藤原敏宏	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
2月20日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（4回） 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日生病院 ・第36回 院内感染対策教育講演 「最近話題の感染症から－HIVと梅毒－」 中央臨床検査部 部長 小瀬戸昌博 感染症看護専門看護師 大野典子 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	院内感染対策委員会	別館講堂等
3月1日	あわぎPET－FDGセミナー Ⅰ 一般公演 「ダ・ヴィンチを用いた前立腺がん手術的治療」 泌尿器科 部長 福井辰成 Ⅱ 特別講演 「PET検査の臨床応用－有用性と留意点－」 大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座 教授 下瀬川恵久	泌尿器科 あったかサポートセンター	ヴィアール 大阪
3月15日	西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 講義 「腰痛治療－ペインクリニックの活用－」 曲淵ペインクリニック 院長 曲淵達雄	訪問看護ステーション あったかサポートセンター	別館講堂

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月12日	ニッセイ看護フェア ・身体測定（身長、体重、血圧、体脂肪等） ・アロマ ・認定・専門看護師イベント ポスター展示 活動報告 ・パンフレット・資料展示 ・看護協会グッズ配布	看護部	1F玄関 ホール
6月24日	平成29年度 第1回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：腎臓病と糖尿病について 第1部 ①「糖尿病・腎臓病を予防して生き生き健康長寿」 腎臓内科部長 兼 腎臓・透析センター長 宇津 貴 ②「腎臓の働きとくすりの調節」 薬剤師 乾 有希子 第2部 「アマチュア落語」 桂文喬主催落語研究会のみなさん	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	別館講堂
8月26日	平成29年度 第2回 ニッセイ市民健康セミナー 講演 ①「認知症の正しい知識について」 物忘れ外来・脳機能障害外来 特任顧問 森 悦朗 ②「認知症と食事」 栄養管理室 副部長 出口暁子	神経科・精神科 栄養管理室 あったかサポートセンター	別館講堂
7月28日、 8月4日	ニッセイ夏休みこども医療体験2017 ・見学体験：看護部、リハビリテーション室、予防医学センター 中央臨床検査部、中央放射線部、薬剤部 ・実習：内視鏡下手術、あかちゃん沐浴、AED等		院内各部
10月18・19日 (花乃井中学校) 11月16・17日 (堀江中学校)	花乃井中学校及び堀江中学校からの職場体験学習 ・佐藤名誉院長実習 ・病院見学：栄養管理室、情報システム室、 中央臨床検査部、中央放射線部 ・実習：薬剤部、診療情報管理室、リハビリテーション室	看護部 総務人事G 福祉事業部	院内各部

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
10月21日	平成29年度 第3回 ニッセイ市民健康セミナー Ⅰ 「老化とめまい・ふらつきのはなし」 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 藤田信哉 Ⅱ 「眼瞼下垂症 ーまぶたが開けにくく、見にくくありませんか？ー」 形成再建外科 部長代行 藤原敏宏	耳鼻咽喉・頭頸部外科 形成再建外科 あったかサポートセンター	別館講堂
11月10日	第17回 ニッセイいい皮膚の日 Ⅰ ミニコンサート Ⅱ 講演 ①「痒い！何とかしたいじんましん」 高田洋子 医師 ②「身近な皮膚のトラブル予防」 丸岡 綾 看護師 ③「テープの話」 大藤 弘美 看護師 ④「傷の対処」 藤原敏宏 形成再建外科部長代行 Ⅲ お肌についての医療相談	皮膚科 形成再建外科 看護部 あったかサポートセンター	1F外来 ホール 2F外来 ホール
11月17日	ニッセイ糖尿病フェア テーマ：糖尿病と血管の気になる関係 ・血糖値・HbA1c測定 看護師 ・血管年齢測定 検査技師 ・筋肉量・握力測定 理学療法士 ・栄養相談 管理栄養士 ・服薬相談 薬剤師 ・医師相談 医師	糖尿病・内分泌センター	1F玄関 ホール
12月9日	平成29年度 第4回 ニッセイ市民健康セミナー 講演 ①「下肢人工関節について」 整形外科 部長 毛利年一 ②「関節を痛めた時のリハビリ」 リハビリテーション室 理学療法士 片岡宏一郎	整形外科 リハビリテーション室 あったかサポートセンター	別館講堂
2月2日	ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー Ⅰ 昼食会 「ヘルシー中華弁当を試食してみよう」 Ⅱ 講演会 ①「この時期に気をつけたいこと」 糖尿病・内分泌センター部長補佐 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子 ②「糖尿病の最近の話題」 糖尿病・内分泌センター長代行 糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲	糖尿病・内分泌センター	別館講堂
2月3日	よくわかる乳がんセミナー 「よくわかる乳がんセミナー ーもっと知っておきたい乳がんのことー」 乳腺外科 部長 西田幸弘	乳腺外科 予防医学センター	ホテル阪急 インター ナショナル
2月17日	平成29年度 第5回 ニッセイ市民健康セミナー 講演 ①「肺がんー早く見つけて治療ー」 副院長 立花 功 ②「肺がん治療の副作用対策と症状緩和」 がん化学療法看護認定看護師 大畠千春	総合内科 看護部 あったかサポートセンター	別館講堂

6. 日生医学賞・日生医学奨励賞

日生医学賞

該当者なし

日生医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
産婦人科	矢野悠子 (医師)	当院における後期高齢者（75歳以上）に対する産婦人科腹腔鏡下手術の検討
中央臨床検査部	若原達哉 (臨床検査技師)	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）迅速定量測定試薬「ラビッドチップ®H-FABP」の基礎的検討

7. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師/出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	9月3日(日) 10:00～17:00	藤田真祐子	小児科担当
	中央急病診療所	7月1日(土) 準夜 15:00～22:00	谷川 淳	内科担当
	中央急病診療所	3月13日(火) 深夜 22:00～翌2:00	宇都佳彦	内科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	4・6・12・2月 第3水曜日 13:30～	池原千衣子	
		毎月第4水曜日 13:30～	池原千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	7月5日(水) 13:45～	藤田信哉	
		12月6日(水) 13:45～	藤田信哉	
BCG接種	西区保健福祉センター	5・7・8・10・ 11・1月第4金曜日 13:15～	藤田真祐子	問診担当
		3月第4金曜日 13:15～	赤木幹弘	
大阪西地域産業保健 センター 労働健康相談	西区医師会 会議室	5月17日(水) 14:00～	三木俊治	産業医による小規模事業所の労働健康相談
西区民まつり 「健康のつどい」	西区民センター	10月15日(日) 9:00～15:00	笠山宗正	医師会の健康相談コーナー等
第1回学術講演会 特別講演 「痒みを伴う皮膚疾患 の診断と治療」	リーガロイヤルホテル	6月16日(土) 16:00～18:00	東山真里	西区医師会主催の学術講演会
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	3月3日(土) 13:30～15:30	木藤友実子	「認知症等高齢者支援地域連携事業」の市民対象の講演会

8. ボランティアについて

(概要)

- ・平成13年にボランティア導入
 - ・メンバー：15名
 - ・活動内容：初診、再診手続き、車椅子患者様介助・移送、診察・検査等場所の案内、図書管理、手話通訳、入院患者様の補助（買い物代行・お洗濯等）、ものづくり体験講師 等
 - ・新病院の新設に向け、ボランティアの活動を「素晴らしい病院」づくりの強力なパートナーとして位置づけ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域に貢献する病院としていくために、ボランティア制度・運営について見直しを図り、新たな活動内容の検討も含めた体制整備を進めている。
- ボランティアは患者様の身近な存在であり、職員だけでは行き届かない患者様サービスのサポート、心遣い、気遣いを形にした「あったかサポート」の実現の為、これからも患者様サービスの向上の一助として努めていく。

	主な内容
4 月	・ ボランティア保険加入（年度更新）
5 月	・ 日本病院ボランティア協会「H29年定例研修会」 ・ ボランティア協会活動時間集計報告（1 月～4 月）
8 月	・ ボランティア茶話会開催（8 / 4）
9 月	・ ボランティア協会活動時間集計報告（5 月～8 月）
10月	・ 新規ボランティア受入れ（1 名）
11月	・ インフルエンザ予防接種（任意） ・ 健康診断（任意）
12月	・ 日生病院ボランティア総会（12 / 1）
1 月	・ 新規ボランティア受入れ（2 名） ・ ボランティア協会活動時間集計報告（9 月～12月）
3 月	・ 病院ボランティア研修会「病院ボランティアの諸問題とその解決策をさぐる」

9. 院内行事

〈平成29年〉

4月3日	・新入職員入会式（原則各月第1水曜日）
4月3日	・進発式
4月19日	・CS・ES進発
4月25日	・CPC（4月25日、6月30日、7月4・28日、9月29日、10月24・27日、11月28日、12月1日、2月9日、3月9日）
5月8日	・監査法人トーマツによる会計監査（5月8～19日、12月5～7日、3月6～9日）
5月8日	・COOLBIZ（～9月30日）
5月12日	・ニッセイ看護フェア
5月12日	・ニッセイ医学セミナーUpdate（～3月2日迄全11回）
5月19日	・近畿厚生局適時調査
5月23日	・感染防止対策病院連携合同カンファレンス（5月23日、7月11日、10月17日、2月20日）
5月30日	・定時理事会
6月8日	・相愛大学音楽学部とのコラボレーションイベント「歌に合わせて身体を動かそう！」
6月8日	・あわぎ呼吸器疾患病診連携懇話会
6月15日	・西区在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会（～3月15日迄全11回）
6月17日	・あわぎ産婦人科病診連携懇話会
6月20日	・定時評議員会
6月20日	・理事会・評議員会報告会
6月20日	・日生病院地域医療支援運営委員会（6月20日、9月19日、12月19日、3月20日）
6月24日	・ニッセイ市民健康セミナー（6月24日、8月26日、10月21日、12月9日、2月17日）
6月29日	・あわぎ認知症病診連携懇話会
6月30日	・日生稲荷神社・日生白玉神社神事（稲荷祭）
6月30日	・保険診療に関する講習会（6月30日、7月11日、12月26日）
7月7日	・あったか七夕コンサート
7月14日	・院内感染対策教育研修会（7月14・18・21日、8月7・10・14・15日、9月4・12・29日）
7月22日	・あわぎフォーラム（特別講師：大阪大学大学院医学系研究科 木村正教授）
7月22日	・開放型病院運営委員会
7月22日	・開放型病院登録医総会
7月28日	・ニッセイ夏休みこども医療体験2017（7月28日、8月4日）
8月1日	・消防・防災訓練（8月1日、12月5日）
8月3日	・あわぎ消化器外科病診連携懇話会
8月10日	・接遇研修会
8月14日	・人権研修会
8月20日	・無料乳がん検診
8月20日	・日生病院ICLSコース
8月24日	・あわぎ神経精神医学病診連携カンファレンス
9月2日	・あわぎ呼吸器病診連携懇話会
9月18日	・祝日診療（9月18日、1月8日）
10月5日	・あわぎ呼吸器病診連携セミナー
10月18日	・花乃井中学校からの職場体験学習（～10月19日）
10月19日	・あわぎ糖尿病セミナー
10月20日	・下期進発式、日生医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月21日	・あったか神無月コンサート
10月21日	・あわぎ肝疾患病診連携懇話会
11月8日	・篤志解剖者慰霊祭
11月10日	・ニッセイいい皮膚の日
11月10日	・糖尿病患者友の会「錦会」総会
11月11日	・あわぎクリニカルカンファレンス
11月16日	・堀江中学校からの職場体験学習（～11月17日）
11月16日	・ボウリング大会（11月16・21日）
11月17日	・ニッセイ糖尿病フェア

11月21日	・医療安全教育講演会（11月21日、2月16日）
11月25日	・ニッセイ看護研究会
12月2日	・あわぎ消化器合同病診連携会
12月5日	・新病院イングリッシュガーデンの樹木名プレート作成
12月7日	・感染防止対策相互評価ラウンド（12月7・14日）
12月7日	・人事評価研修会
12月11日	・医療安全研修会（12月11・12・14・15・20日）
12月12日	・医療ガスの安全な取扱研修会
12月15日	・ニッセイあったかクリスマスコンサート
12月18日	・竣工式
12月22日	・大阪市保健所立入検査

〈平成30年〉

1月4日	・新年互礼会
1月19日	・輸血療法講演会
1月27日	・看護研究発表会
1月30日	・認知症ケア研修会
2月2日	・ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー
2月3日	・よくわかる乳がんセミナー
2月4日	・JMECC
2月10日	・外来リハーサル
2月20日	・院内感染対策教育講演会
2月24日	・移送リハーサル
2月27日	・倫理委員会講演会
3月1日	・1年目研修医症例報告会
3月8日	・2年目研修医臨床研究発表会
3月17日	・総合リハーサル
3月20日	・臨時評議員会、定時理事会
3月23日	・NST勉強会
3月27日	・診療報酬改定説明会

糖尿病教室 火～金曜日

母乳外来 月～水曜日・金曜日

マタニティービクス 毎週/火曜日・木曜日

アフタービクス

ベビービクス

マタニティーヨガ

両親学級 毎週/土曜日

大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会	2回/年
	患者交流会	4回/年
	会報発行	4回/年
	幹事会	毎月

糖尿病患者友の会「錦会」	総会	1回/年
	患者懇談会	随時
	ランチセミナー	1回/年
	大阪DMウォークラリー	1回/年

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院 年 報

公第 6 卷（通算第17卷） 平成31年 2 月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 年報WG
発 行 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
住 所 〒550-0006 大阪市西区江之子島 2 丁目 1 番54号
T E L 06 (6443) 3446（代表）
U R L <https://www.nissay-hp.or.jp/>